きべりはむし

第 48 巻　第 1 号

2025

NPO 法人こどもとむしの会

兵庫県のカミキリムシの記録（2012 ～ 2024）

小西和夫 [1)]

1．はじめに

中学時代，理科クラブの甲虫仲間と初の遠征に行き，山中の大杉の根元にネブトクワガタを見つけた．

図鑑の中の憧れの虫がそこに生きて動いている．体の奥底から湧き上がる喜びとともに，この時の光景は深く心に刻まれた．

成人して後，仕事で得た充実感や初めて槍や剣に登頂した時の達成感とは異質の，心と体の芯が震えるような原初的な感動体験は，震災を経て鮮やかに想い起こされるようになる．

定年後は，色や形が変化に富むカミキリの採集を始めようと思い定めた．

ただ中途半端な標本を遺して始末に困る事態を避けるため，採取個体は撮影後に放ち，写真データを記録することとした．

当初の西宮周辺から三田，丹波篠山市へ，またキノコ観察で訪れた兎和野高原に魅せられて通いだし，文献を頼りに西播磨や但馬地方の各産地にも赴いた．

この間，昔から憧れていたカミキリが，あの「ネブト」体験を何度も味わわせてくれた．

2．兵庫県のカミキリムシの記録

「兵庫県のカミキリムシ」(2001) 以降の採集記録は少なく，小椋隆「但馬地方のカミキリムシⅠ，Ⅱ」(2019, 2023) 以外にまとまった記録の発表がない．

当初は兎和野産のカミキリリストを考えていたが，県中南部や阪神間の記録も少ないので，兵庫県全体のリストを作成することにした．写真を撮り始めた 2012 年から 2024 年にかけて確認できたカミキリムシは 230 種になる．

「兵庫県のカミキリムシ」には 293 種が収録されているが，ツマグロハナとヤツボシハナを別種としているため現時点では 292 種．小椋が県内初記録の 3 種 (エゾトラ，フトキクスイモドキ，キイロメダカ) 及び未収録の 1 種 (クロルリハナ) を報告しており，筆者が本誌で報告した 6 種 (ヤツボシシロ，ハラアカコブ，チャイロチビヒラタ，ジュウモンジニセリンゴ，ミセンヒメハナ，コウヤホソハナ) に，未収録の 1 種 (ミヤマドウボソ) を合わせると兵庫県産のカミキリムシは 303 種．「日本産カミキリムシ大図鑑 II」(2023) では 300 種を超える 8 県が紹介されており，兵庫県の記録は全国で 9 番目となる．

3．兵庫県産地の概要と略称

兵庫県は北と南が日本海と瀬戸内海に面し，西の県境に扇の山 - 氷ノ山 - 三室山へと続く 1300 ～ 1500m 級の脊梁山脈，隣には瀞川山 - 鉢伏山，三川山 - 蘓武岳 - 妙見山と 1000m 級の各山稜が連なる．

また但馬東部には東床尾山や青倉山等を擁し，西播磨の音水・赤西渓谷や丹波篠山市の虚空蔵山，三田市の有馬富士など，いずれの産地も複雑な地形と豊かで多様な植生に恵まれている．

県北部は対馬暖流が久斗山系の山塊に接岸し，城山園地や御崎・三尾地区の沿岸部ではタブノキとナナカマドが共生，南方系や山地系の種などが共存する特異なファウナを形成する．

最高峰の氷ノ山周辺はブナの原生林や亜高山帯の植物が見られ，山地系の特産種が生息するほか，瀬戸内海に面する阪神間では南方系の種や移入種なども散見される．

[産地の略称]　(北から順に番号を付す)

①　御崎　　香美町香住区余部から御崎地区を経て新温泉町浜坂三尾地区に至る御崎・三尾林道

②　城山　　新温泉町城山園地，対馬暖流の影響が顕著

③　奈佐　　豊岡市目坂の奈佐森林公園

④　蘓武　　広域基幹林道の蘓武・三川線のうち耀山から蘓武岳を経て豊岡市目坂万劫までの蘓武線，香美町香住区隼人まで伸びる三川線の小城地区 (ブナ原生林) 付近までの区間

⑤　相岡　　香美町村岡区相岡地区，相大池公園から但馬大仏周辺まで

⑥　上山　　新温泉町上山高原，霧ケ滝から扇ノ山小ヅッコ登山口周辺まで

[1)] Kazuo KONISHI　兵庫県西宮市

⑦　畑ケ平　　新温泉町から畑ケ平高原までの県道 103 号線
⑧　兎和野　　香美町村岡区瀞川平に広がる兎和野高原，瀞川林道の一部を含む
⑨　東床尾山　朝来市和田山町糸井渓谷から東床尾山
⑩　ハチ北　　香美町ハチ北高原，スキー場周辺
⑪　鉢伏　　養父市鉢伏高原，丹戸，大久保含む
⑫　小代峠　　香美町小代区から小代峠付近までの国道 482 号線
⑬　琴弾峠　　養父市八鹿町八木から大屋町宮垣へ抜ける琴弾トンネルの旧道，琴弾峠を経由
⑭　加保坂峠　養父市大原町関宮から加保坂峠までの県道 714 号線
⑮　氷ノ山　　広域基幹林道氷ノ山線，氷ノ山の山麓を周る養父市福定から国道 29 号線に至る林道
⑯　横行　　養父市大屋町横行から横行渓谷沿いに氷ノ山林道に至る横行林道
⑰　若杉峠　　養父市大屋町若杉から若杉峠周辺に至る若杉高原，県道 48 号線
⑱　青倉山　　朝来市多々良木ダムから青倉神社，黒川ダムに至る林道，青倉黒川線
⑲　三室山　　宍粟市三室高原から大通峠までの林道
⑳　音水　　宍粟市波賀町音水渓谷及び音水湖周辺
㉑　赤西　　宍粟市波賀町赤西渓谷
㉒　虚空蔵山　丹波篠山市陶の郷付近の虚空蔵山山麓，窯用の薪の製造・保管地含む
㉓　有馬富士　三田市有馬富士公園
㉔　盤滝　　西宮市越水社家郷山の盤滝から山口町船坂に抜ける盤滝トンネルの旧道，甲山高校も含む
㉕　甲山　　西宮市甲山町の兵庫県立甲山森林公園
㉖　北山　　西宮市甲陽園から北山町にわたる北山公園

4．リストの記載方針について

・種の配列や学名，和名の表記は「日本産カミキリムシ」(2007) に準拠するが，近年種と亜種間の変更が多いため「日本産カミキリムシ大図鑑Ⅰ，Ⅱ」(むし社) 及び「日本のヒメハナカミキリ」(むし社)，「日本列島の甲虫全種目録 (2024 年版)」[https://japanesebeetles.jimdofree．com/] を参考にした．ただし和名の「名義タイプ亜種 (基亜種)」は省略．

・「兵庫県のカミキリムシ」(2001) に未記載の種は番号に☆を付した．(8 種)

・兎和野高原は重点的に訪れた産地であり，兎和野で確認された種は番号に*を付した．(146 種)

(＊兎和野高原のカミキリムシリストを兼ねるため)

・産地は，上記の産地番号と略称を用いて記載するが，これ以外は住所や名称を記載．

・各種，種名の後に採集時の所感を記した．

・コンビニの灯に来ていた種の産地表記は，コンビニの住所の後に CVS と記載．

・原則として成虫を野外で確認したのを記載したが，別途本誌で報告した種等，一部は産地に (材) として記載．

・一度に複数頭以上が得られた場合，一部の個体だけを写真で記録するため，個体数を記載した種でも実際はより多くの個体を確認している場合が多い．

・県内各所で毎年普通に見られる種は，兎和野以外の産地の記録を省略する予定だったが，池田大氏の助言により写真データのある産地の記録をすべて記載．

・ただし多年にわたり確認している普通種は，産地毎に原則として最近 3 年程度の日付の記載に留めた．

・一度に数十頭が網に入るような普通種では，近年は写真撮影をしない場合があり，記録漏れもある．

・また上記のように常に多数が確認される場合は，個体数の記載を省略．

・リスト上の雌雄表記は，全個体を記録していないこと，写真での判別が難しい種が多いことから省略．

・写真データでの同定に難があり，種名を確定できない記録は未収録．

・標本を作成していないこともあり，同定の参考のためすべての種の写真を巻末に掲載．

5．兵庫県のカミキリリスト（230 種）

ホソカミキリムシ科

1*．ホソカミキリ *Distenia gracilis gracilis* (Blessig, 1872)

各種伐採木の他，コンビニの灯．兎和野ではクマシデの生葉から数頭を得た．

①御崎，1ex. 3. Ⅵ. 2024．④蘓武，1ex. 23. Ⅶ. 2021．⑤相岡，1ex. 16. Ⅶ. 2020．⑧兎和野，1ex. 15. Ⅶ. 2019；2exs. 12. Ⅶ. 2018．養父市万久里 CVS，1ex. 12. Ⅶ. 2021；1ex. 6. Ⅶ. 2019．⑮氷ノ山，1ex. 4. Ⅸ. 2012．㉕甲山，1ex. 28. Ⅶ. 2016

カミキリムシ科
ノコギリカミキリ亜科

2．ウスバカミキリ *Aegosoma sinicum sinicum* White, 1853

古木の樹幹，コンビニの灯．香櫨園では枯死した松の根株から羽脱した個体が多数地上を徘徊．

①御崎，1ex. 2. Ⅷ. 2021．養父市万久里 CVS，1ex. 3. Ⅷ. 2017；1ex. 4. Ⅷ. 2017．西宮市香櫨園，19. Ⅶ. 2014

3．ノコギリカミキリ *Prionus insularis insularis* Motschulsky, 1857

低山から山地まで，路上を歩行する個体が多い．

⑥上山, 1ex. 3. Ⅷ. 2020．⑮氷ノ山, 1ex. 8. Ⅷ. 2022;2exs．4. Ⅷ. 2020．㉕甲山，2exs．28. Ⅶ. 2016；1ex. 15. Ⅶ. 2014；1ex. 2. Ⅷ. 2013

4．コバネカミキリ　*Psephactus remiger remiger* Harold, 1879

早朝，山道脇のタンナサワフタギの花．少ない．

④蘓武，1ex. 23. Ⅶ. 2021

クロカミキリ亜科

5*．クロカミキリ　*Spondylis buprestoides* (Linnaeus, 1758)

マツ等の伐採木やコンビニの灯．近年減少か．

⑧兎和野，1ex. 23. Ⅷ. 2015．養父市万久里 CVS，1ex. 11. Ⅶ. 2021．三田市東本庄 CVS，1ex. 17. Ⅶ. 2024

6*．サビカミキリ　*Arhopalus coreanus* (Sharp, 1905)

マツ等の伐採木やコンビニの灯に普通．

⑧兎和野，1ex. 11. Ⅶ. 2021．養父市万久里 CVS，1ex. 10. Ⅶ. 2013

7*．ツシマムナクボカミキリ　*Cephalallus unicolor unicolor* (Gahan, 1906)

マツ等の伐採木やコンビニの灯に普通．

⑧兎和野，1ex. 25. Ⅵ. 2018；1ex. 13. Ⅶ. 2019．養父市万久里 CVS，1ex. 8. Ⅶ. 2024；1ex. 12. Ⅶ. 2021；1ex. 7. Ⅶ. 2018．養父市八鹿高柳 CVS，1ex. 11. Ⅶ. 2016．⑬琴弾峠，1ex. 2. Ⅶ. 2021．⑰若杉峠，1ex. 29. Ⅶ. 2014．⑲三室山，1ex. 17. Ⅶ. 2023

8．ケブカマルクビカミキリ　*Atimia okayamensis* Hayashi, 1972

ネズの健常木の生葉．産地は阪神間に限定．少ない．

三木山森林公園, 1ex. 1. Ⅳ. 2024. ㉕甲山 (仁川町), 1ex. 11. Ⅳ. 2024

ハナカミキリ亜科

9．ムナコブハナカミキリ　*Xenophyrama purpureum* Bates, 1884

山地のノリウツギの生葉．産地は限定．少ない．

⑪鉢伏 (丹戸)，1ex. 12. Ⅵ. 2024

10*．フタコブルリハナカミキリ　*Japanocorus coeruleipennis* (Bates, 1873)

山地のガマズミ，ミズキ等の花．やや少ない．

⑧兎和野，1ex. 14. Ⅵ. 2021；1ex. 27. Ⅵ. 2020；1ex. 25. Ⅴ. 2015．⑪鉢伏，1ex. 29. Ⅵ. 2015．⑯横行，1ex. 25. Ⅵ. 2019

11．テツイロハナカミキリ　*Encyclops olivacea* Bates, 1884

山地のカマツカ，ミズキ等の花．やや少ない．

④蘓武，1ex. 22. Ⅴ. 2022；1ex. 9. Ⅵ. 2022．⑦畑ケ平，2exs．30. Ⅴ. 2021．⑮氷ノ山, 1ex. 22. Ⅴ. 2023;1ex. 24. Ⅴ. 2022；1ex. 26. Ⅴ. 2021；1ex. 1. Ⅵ. 2021

12．フタスジカタビロハナカミキリ　*Brachyta bifasciata japonica* (Matsushita, 1933)

山地のヤマシャクヤクの花．産地は限定．少ない．

ヤマシャクヤクの群生地に通って 3 年目に満開の花に遭遇．中を一つひとつ覗いていく時のワクワク感と美しい本種を見つけた時の感動は格別．

⑨東床尾山，1ex. 26. Ⅳ. 2016

13*．カラカネハナカミキリ　*Gaurotes doris* Bates, 1884

山地の各種の花に普通．但馬は紫色の個体が多い．

④蘓武，2exs. 9. Ⅴ. 2024；2exs. 22. Ⅴ. 2022；1ex. 31. Ⅴ. 2021．⑤相岡 1ex. 10. Ⅵ. 2022．⑦畑ケ平，1ex. 11. Ⅶ. 2022；1ex. 30. Ⅴ. 2021．⑧兎和野，1ex. 2. Ⅴ. 2023；2exs. 18. Ⅵ. 2023；1ex. 17. Ⅵ. 2022；1ex. 24. Ⅵ. 2021；1ex. 21. Ⅵ. 2020．⑩ハチ北，1ex. 2. Ⅶ. 2021．⑪鉢伏，1ex. 29. Ⅵ. 2015．⑪小代峠, 2exs. 7. Ⅶ. 2019．⑮氷ノ山, 1ex. 22. Ⅴ. 2023；1ex. 24. Ⅴ. 2022；1ex. 26. Ⅴ. 2021．⑳音水，1ex. 23. Ⅶ. 2014

14．クビアカハナカミキリ　*Gaurotes atripennis* Matsushita, 1933

マツ林付近のミズキ等の花．

⑱青倉山，1ex. 18. Ⅵ. 2018．㉓有馬富士，1ex. 29. Ⅴ. 2014

15*．キバネニセハムシハナカミキリ　*Lemula decipiens* Bates, 1884

低山から山地まで，カエデ等の花に最も普通．

①御崎，3. Ⅴ. 2021．④蘓武，9. Ⅵ. 2022．⑧兎和野，3. Ⅴ. 2022；22. Ⅴ. 2016；25. Ⅴ. 2015．⑨東床尾山，2. Ⅴ. 2017；8. Ⅴ. 2017．⑮氷ノ山，22. Ⅴ. 2019；24. Ⅴ. 2018．⑱青倉山, 9. Ⅴ. 2017．㉒虚空蔵山, 20. Ⅴ. 2015．㉓有馬富士，29. Ⅳ. 2020；13. Ⅴ. 2016；29. Ⅴ. 2014．三木山森林公園，15. Ⅳ. 2021．㉔盤滝，22. Ⅳ. 2021；17. Ⅳ. 2020；3. Ⅴ. 2019；8. Ⅴ. 2019．㉕甲山，15. Ⅳ. 2016；23. Ⅳ. 2014

16*．ピックニセハムシハナカミキリ　*Lemula rufithorax* Pic, 1901

山地のカエデ等の花にやや普通．

④蘓武, 1ex. 31. Ⅴ. 2021．⑧兎和野, 1ex. 9. Ⅴ. 2024;2exs. 2. Ⅴ. 2023；1ex. 4. Ⅴ. 2021．⑨東床尾山，1ex. 2. Ⅴ. 2017；1ex. 8. Ⅴ. 2017；2exs. 26. Ⅳ. 2016．⑩ハチ北，1ex. 4. Ⅴ.

2021．⑮氷ノ山，1ex. 14. Ⅴ. 2020；2exs. 22. Ⅴ. 2019；1ex. 24. Ⅴ 2018

17*．アカイロニセハムシハナカミキリ *Lemula nishimurai* Seki, 1944

山地のカエデ等の花にやや普通.

④蘓武，1ex. 22. Ⅴ. 2022；2exs. 9. Ⅵ. 2022；2exs. 7. Ⅵ. 2020．⑥上山，1ex. 6. Ⅵ. 2020．⑦畑ケ平，1ex. 30. Ⅴ. 2021．⑧兎和野，1ex. 3. Ⅴ. 2022；2exs. 4. Ⅴ. 2021；1ex. 13. Ⅴ. 2020．⑩ハチ北，1ex. 4. Ⅴ. 2021．⑮氷ノ山，1ex. 15. Ⅴ. 2024；1ex. 22. Ⅴ. 2023；1ex. 24. Ⅴ. 2022

18*．ヒナルリハナカミキリ *Dinoptera minuta* (Gebler, 1832)

低山から山地まで，カエデ等の花に最も普通.

④蘓武，9. Ⅴ. 2024．⑥上山，16. Ⅵ. 2022．⑦畑ケ平，30. Ⅴ. 2021．⑧兎和野，2. Ⅴ. 2023；3. Ⅴ. 2022；4. Ⅴ. 2021．⑨東床尾山，2. Ⅴ. 2017；26. Ⅳ. 2016．⑮氷ノ山，15. Ⅴ. 2024；22. Ⅴ. 2023；24. Ⅴ. 2022．⑱青倉山，9. Ⅴ. 2017．㉓有馬富士，15. Ⅴ. 2021；29. Ⅳ. 2020．㉔盤滝，22. Ⅳ. 2021；17. Ⅳ. 2020；3. Ⅴ. 2019．㉕甲山，15. Ⅳ. 2016

19．シコクヒメコブハナカミキリ *Pseudosieversia shikokensis* Hayashi, 1959

山地のカツラ大木のヒコバエ葉上に静止．カツラ付近のナナカマドの生葉．産地は限定的．少ない.

⑫小代峠，1ex. 7. Ⅶ. 2019．⑯横行，1ex. 25. Ⅵ. 2019

20*．ナガバヒメハナカミキリ *Pseudopidonia signifera* (Bates, 1884)

低山から山地まで，ガマズミやミズキ等の花に普通.

①御崎，1ex. 1. Ⅴ. 2023；1ex. 4. Ⅴ. 2022；1ex. 23. Ⅴ. 2022；2exs. 3. Ⅴ. 2021．久斗山南西麓，1ex. 8. Ⅴ. 2020．④蘓武，3exs. 9. Ⅵ. 2022；2exs. 7. Ⅵ. 2020；1ex. 26. Ⅴ. 2015．⑥上山，2exs. 16. Ⅵ. 2022；2exs. 6. Ⅵ. 2020；1ex. 6. Ⅶ. 2019．⑦畑ケ平，1ex. 30. Ⅴ. 2021．⑧兎和野，2exs. 13. Ⅴ. 2020；1ex. 5. Ⅵ. 2020；1ex. 24. Ⅴ. 2019；1ex. 21. Ⅵ. 2019；2exs. 22. Ⅴ. 2016．⑨東床尾山，1ex. 19. Ⅴ. 2014．⑪鉢伏，2exs. 29. Ⅵ. 2015．⑮氷ノ山，2exs. 24. Ⅴ. 2022；1ex. 26. Ⅴ. 2021；1ex. 1. Ⅵ. 2021；2exs. 28. Ⅴ. 2020．⑯横行，1ex. 25. Ⅵ. 2019．⑱青倉山，2exs. 9. Ⅴ. 2017．㉑赤西，1ex. 30. Ⅴ. 2012．㉓有馬富士，1ex. 14. Ⅵ. 2016．㉔盤滝，1ex. 12. Ⅴ. 2017

21*．キベリクロヒメハナカミキリ *Pseudopidonia discoidalis* Pic, 1901

山地のガマズミやミズキ等の花．氷ノ山に多い.

④蘓武，1ex. 22. Ⅴ. 2022．⑦畑ケ平，1ex. 30. Ⅴ 2021．⑧兎和野，1ex. 18. Ⅵ. 2023；2exs. 23. Ⅴ. 2019；1ex. 24. Ⅴ. 2019．⑮氷ノ山，2exs. 22. Ⅴ. 2023；2exs. 26. Ⅴ. 2021；2exs. 1. Ⅵ. 2021；1ex. 14. Ⅴ. 2020；2exs. 28. Ⅴ. 2020．㉓有馬富士，1ex. 14. Ⅴ. 2016

22*．ヤノヒメハナカミキリ *Pseudopidonia chairo* (Tamanuki, 1943)

（旧和名：フトエリマキヒメハナカミキリ）

山地のミズキやゴトウヅル等の花．やや少ない.

④蘓武，1ex. 31. Ⅴ. 2021．⑥上山，1ex. 16. Ⅵ. 2022．⑦畑ケ平，1ex. 11. Ⅶ. 2022．⑧兎和野，1ex. 16. Ⅴ. 2024；1ex. 18. Ⅵ. 2023；1ex. 31. Ⅴ. 2021．⑩ハチ北，1ex. 22. Ⅵ. 2020．⑪鉢伏，1ex. 24. Ⅵ. 2024．⑮氷ノ山，1ex. 17. Ⅶ. 2024；1ex. 22. Ⅴ. 2023

☆23．ミセンヒメハナカミキリ *Pseudopidonia misenia* S. et A. Saito, 1992

林道沿いのウワミズザクラの花．県内では氷ノ山に産地が限定.

⑮氷ノ山，1ex. 24. Ⅴ. 2018

24*．オオヒメハナカミキリ *Pseudopidonia grallatrix* (Bates, 1884)

山地のミズキやゴトウヅル等の花に普通.

②城山，1ex. 3. Ⅵ. 2024．④蘓武，1ex. 12. Ⅵ. 2024；2exs. 31. Ⅴ. 2021；1ex. 7. Ⅵ. 2020．⑤相岡，1ex. 13. Ⅵ. 2024．⑥上山，3exs. 16. Ⅵ. 2022；1ex. 6. Ⅵ. 2020．⑦畑ケ平，1ex. 10. Ⅶ. 2022；1ex. 11. Ⅶ. 2022．⑧兎和野，1ex. 18. Ⅵ. 2023；1ex. 5. Ⅵ. 2020；1ex. 23. Ⅵ. 2020；1ex. 15. Ⅶ. 2019．⑪鉢伏，1ex. 12. Ⅵ. 2024；1ex. 24. Ⅵ. 2024；1ex. 8. Ⅶ. 2024；1ex. 29. Ⅵ. 2015．⑫小代峠，2exs. 7. Ⅶ. 2019；1ex. 12. Ⅶ. 2014．⑭加保坂峠，1ex. 3. Ⅶ. 2023．⑮氷ノ山，1ex. 7. Ⅶ. 2024；1ex. 17. Ⅶ. 2024；1ex. 22. Ⅴ. 2023；2exs. 24. Ⅴ. 2022

25．マツシタヒメハナカミキリ *Pseudopidonia matsushitai matsushitai* Ohbayashi, 1958

山地のミズキやゴトウヅル等の花．やや少ない.

⑥上山，1ex. 16. Ⅵ. 2022；2exs. 6. Ⅶ. 2019．⑮氷ノ山，1ex. 17. Ⅵ. 2017

26*．チャイロヒメハナカミキリ *Mumon aegrota aegrota* (Bates, 1884)

低山から山地まで，各種の花に最も普通.

①御崎，1. Ⅴ. 2023；4. Ⅴ. 2022；3. Ⅴ. 2021；25. Ⅴ. 2021．②城山，29. Ⅴ. 2020．久斗山南西麓，8. Ⅴ. 2020．④蘓武，22. Ⅴ. 2022；9. Ⅵ. 2022；26. Ⅴ. 2015．⑤相岡，6. Ⅵ. 2020．⑥上山，7. Ⅴ. 2020；6. Ⅶ. 2019．⑦畑ケ平，30. Ⅴ. 2021．⑧兎和野，13. Ⅴ. 2020；15. Ⅴ. 2020；

5. Ⅵ. 2020；23. Ⅴ. 2019；5. Ⅶ. 2019；24. Ⅴ. 2019；15. Ⅶ. 2019；22. Ⅴ. 2016；23. Ⅴ 2016. ⑨東床尾山，8. Ⅴ. 2017；8. Ⅴ. 2015. ⑩ハチ北，22. Ⅵ. 2020. ⑪鉢伏，5. Ⅶ. 2019；29. Ⅵ. 2015. ⑮氷ノ山，22. Ⅴ. 2023；26. Ⅴ. 2021；28. Ⅴ. 2020. ⑯横行，26. Ⅵ. 2019. ⑱青倉山，9. Ⅴ. 2017. ㉒虚空蔵山，2. Ⅴ. 2020；12. Ⅴ. 2018；20. Ⅴ. 2015. ㉓有馬富士，28. Ⅴ. 2022；29. Ⅳ. 2020；13. Ⅴ. 2016

27*. フタオビノミハナカミキリ *Omphalodera flaviventris* (Bates, 1884)

低山から山地まで，カマツカやイワガラミ等各種の花に最も普通.

①御崎，1. Ⅴ. 2023；3. Ⅴ. 2021. 久斗山南西麓，8. Ⅴ. 2020. ④蘓武，26. Ⅴ. 2015. ⑥上山，6. Ⅶ. 2019. ⑧兎和野，22. Ⅴ. 2016;23. Ⅴ. 2016;25. Ⅴ. 2015. ⑨東床尾山，2. Ⅴ. 2017；8. Ⅴ. 2017；26. Ⅳ. 2016；8. Ⅴ. 2015. ⑫小代峠，7. Ⅶ. 2019. ⑮氷ノ山，22. Ⅴ. 2023；24. Ⅴ. 2022；26. Ⅴ. 2021. ⑰若杉峠，4. Ⅵ. 2016. ⑱青倉山，9. Ⅴ. 2017. 三田市上本庄，20. Ⅴ. 2018. ㉔盤滝，8. Ⅴ. 2019；22. Ⅳ. 2018；30. Ⅳ. 2018；10. Ⅴ. 2014. 六甲山，13. Ⅴ. 2012

28*. ミワヒメハナカミキリ *Cryptopidonia miwai* (Matsushita, 1933)

山地のガマズミ等の花にやや普通.

①御崎，1ex. 4. Ⅴ. 2022；1ex. 3. Ⅴ. 2021；1ex. 25. Ⅴ. 2021；1ex. 29. Ⅴ. 2020. 久斗山南西麓，2exs. 8. Ⅴ. 2020. ④蘓武，1ex. 9. Ⅴ. 2024；1ex. 22. Ⅴ. 2022；2exs. 9. Ⅵ. 2022；1ex. 31. Ⅴ. 2021. ⑤相岡，1ex. 16. Ⅴ. 2024. ⑦畑ケ平，30. Ⅴ. 2021. ⑧兎和野，1ex. 5. Ⅵ. 2020；1ex. 15. Ⅶ. 2019；2exs. 22. Ⅴ. 2016；1ex. 23. Ⅴ. 2016. ⑮氷ノ山，1ex. 15. Ⅴ. 2024；2exs. 22. Ⅴ. 2023；1ex. 18. Ⅵ. 2022. ⑯横行，1ex. 25. Ⅵ. 2019

29*. トサヒメハナカミキリ *Cryptopidonia approximata* Kuboki, 1977

山地のガマズミやクリ等の花．やや少ない.

①御崎，1ex. 4. Ⅴ. 2022；1ex. 25. Ⅴ. 2021. ④ 1ex. 蘓武，22. Ⅴ. 2022；1ex. 7. Ⅵ. 2020. ⑥上山，1ex. 6. Ⅵ. 2020. ⑧兎和野，1ex. 25. Ⅴ. 2015. ⑮氷ノ山，4exs. 28. Ⅴ. 2020. ⑰若杉峠，1ex. 4. Ⅵ. 2016

30. ムネアカヨコモンヒメハナカミキリ近畿北域亜種 *Cryptopidonia masakii dealbata* Kuboki, 1981
（旧和名：シラユキヒメハナカミキリ）

山地のミズキやゴトウヅル等の花．やや少ない.

⑦畑ケ平，1ex. 30. Ⅴ. 2021. ⑮氷ノ山，2exs. 26. Ⅴ. 2021；1ex. 1. Ⅵ. 2021；1ex. 22. Ⅴ 2019. ⑰若杉峠，1ex. 4. Ⅵ. 2016

31*. カグヤヒメハナカミキリ *Cryptopidonia kaguyahime* Kuboki, 2020
（旧和名：ニセヨコモンヒメハナカミキリ）

山地の各種の花に普通.

①御崎，1ex. 23. Ⅴ. 2022. ④蘓武，2exs. 9. Ⅵ. 2022;1ex. 7. Ⅵ，2020；⑦畑ケ平，1ex. 11. Ⅶ. 2022. ⑧兎和野，1ex. 15. Ⅴ. 2020；2exs. 23. Ⅴ. 2016. ⑨東床尾山，1ex. 8. Ⅴ. 2015. ⑩ハチ北，1ex. 4. Ⅵ. 2024. ⑪鉢伏，1ex. 24. Ⅵ. 2024. ⑫小代峠，1ex. 7. Ⅶ. 2019. ⑮氷ノ山，5exs. 18. Ⅵ. 2022；3exs. 26. Ⅴ. 2021；3exs. 1. Ⅵ. 2021；4exs. 28. Ⅴ. 2020. ⑯横行，1ex. 19. Ⅶ. 2016. ⑰若杉峠，2exs. 4. Ⅵ. 2016

32*. セスジヒメハナカミキリ *Cryptopidonia amentata amentata* (Bates, 1884)

低山から山地まで，各種の花に普通.

①御崎，1ex. 3. Ⅴ. 2021. ④蘓武，3exs. 22. Ⅴ. 2022;2exs. 9. Ⅵ. 2022. ⑥上山，1ex. 16. Ⅵ. 2022；1ex. 7. Ⅴ. 2020. ⑧兎和野，1ex. 2. Ⅴ. 2023；2exs. 3. Ⅴ. 2022；1ex. 10. Ⅵ. 2022；2exs. 4. Ⅴ. 2021. ⑨東床尾山，2exs. 2. Ⅴ. 2017；4exs. 8. Ⅴ. 2017. 1ex. 26. Ⅳ. 2016；1ex. 19. Ⅴ. 2014. ⑮氷ノ山，1ex. 24. Ⅴ. 2022；1ex. 26. Ⅴ. 2021；1ex. 14. Ⅴ. 2020；2exs. 28. Ⅴ. 2020. ⑯横行，1ex. 25. Ⅵ. 2019. ⑰若杉峠，1ex. 4. Ⅵ. 2016. ⑱青倉山，3exs. 9. Ⅴ. 2017；1ex. 19. Ⅵ. 2017. ㉒虚空蔵山，1ex. 12. Ⅴ. 2018. ㉓有馬富士，1ex. 15. Ⅴ. 2021；1ex. 29. Ⅳ. 2020；1ex. 13. Ⅴ. 2016. ㉔盤滝，1ex. 22. Ⅳ. 2021；1ex. 17. Ⅳ. 2020；2exs. 3. Ⅴ. 2019；1ex. 8. Ⅴ. 2019. ㉕甲山，2exs. 15. Ⅳ. 2016

33*. チビハナカミキリ *Alosterna chalybeella* (Bates, 1884)

山地のカエデやウワミズザクラ等の花．産地はやや限定的.

⑦畑ケ平，3exs. 30. Ⅴ. 2021. ⑧兎和野，1ex. 2. Ⅴ. 2023；1ex. 4. Ⅴ. 2021；1ex. 23. Ⅴ. 2019. ⑨東床尾山，1ex. 2. Ⅴ. 2017. ⑮氷ノ山，1ex. 15. Ⅴ. 2024；1ex. 22. Ⅴ. 2023；1ex. 26. Ⅴ. 2021. ⑱青倉山，1ex. 19. Ⅴ. 2017

34*. チャボハナカミキリ *Pseudalosterna elegantula misella* (Bates, 1884)

山地の各種の花に普通.

①御崎，1ex. 9. Ⅵ. 2022. ④蘓武，1ex. 12. Ⅶ. 2022；1ex. 23. Ⅶ. 2021；1ex. 12. Ⅶ. 2014. ⑤相岡，1ex. 3. Ⅶ. 2021. ⑥上山，1ex. 16. Ⅵ. 2022；1ex. 6. Ⅶ. 2019. ⑦畑ケ平，1ex. 10. Ⅶ. 2022. ⑧兎和野，1ex. 21. Ⅵ. 2019；1ex. 15. Ⅶ. 2019. 仏ノ尾林道，1ex. 2. Ⅶ. 2013. ⑪鉢伏，1ex. 24. Ⅵ. 2021；1ex. 5. Ⅶ. 2019；1ex. 30. Ⅵ. 2015. ⑫小代峠，1ex. 12. Ⅶ. 2014. ⑭加保坂峠，1ex. 3. Ⅶ. 2023. ⑮氷ノ山，2exs. 22. Ⅶ. 2014. ⑯横行，1ex. 19. Ⅶ. 2016. ⑰若杉峠，1ex. 17. Ⅶ. 2024；1ex. 18. Ⅶ. 2016. ⑱青倉山，1ex.

19. Ⅵ. 2017. ⑲三室山，1ex. 17. Ⅶ. 2023

35 *. ミヤマルリハナカミキリ *Kanekoa azumensis* (Matsushita & Tamanuki, 1942)

山地のカエデやミズキ等の花．やや少ない．

④蘓武，2exs. 22. Ⅴ. 2022；1ex. 31. Ⅴ. 2022．⑧兎和野，1ex. 2. Ⅴ. 2023；1ex. 3. Ⅴ. 2022；1ex. 4. Ⅴ. 2021．⑮氷ノ山，2exs. 22. Ⅴ. 2023；1ex. 24. Ⅴ. 2022；1ex. 26. Ⅴ. 2021

36 *. ミヤマクロハナカミキリ *Anoploderomorpha excavata* (Bates, 1884)

山地のゴトウヅルやノリウツギ等の花．やや少ない．

①御崎，1ex. 29. Ⅴ. 2020．⑧兎和野，2exs. 18. Ⅶ. 2023；1ex. 23. Ⅵ. 2022；1ex. 14. Ⅵ. 2021；4exs. 24. Ⅵ. 2021；1ex. 5. Ⅵ. 2020；1ex. 17. Ⅶ. 2020．⑪鉢伏，2exs. 8. Ⅶ. 2024．⑮氷ノ山，1ex. 17. Ⅶ. 2024；1ex. 4. Ⅷ. 2020；2exs. 29. Ⅶ. 2019．⑱青倉山，1ex. 19. Ⅵ. 2017

☆ 37. クロルリハナカミキリ *Anoploderomorpha monticola* Nakane, 1955

山地のノリウツギやリョウブ等の花．やや少ない．

⑥上山，1ex. 6. Ⅶ. 2019．⑩ハチ北，1ex. 26. Ⅵ. 2021；2exs. 11. Ⅶ. 2021．⑪鉢伏，3exs. 5. Ⅶ. 2019．⑫小代峠，1ex. 28. Ⅶ. 2019；1ex. 12. Ⅶ. 2014

38 *. ヘリウスハナカミキリ *Pyrrhona laeticolor laeticolor* Bates, 1884

山地のガマズミやミズキ等の花．少ない．

④蘓武，1ex. 7. Ⅵ. 2020．兎和野，1ex. 23. Ⅴ. 2016

39 *. キヌツヤハナカミキリ *Corennys sericata* Bates, 1884

山地のノリウツギやナナカマド等の花．やや少ない．

⑧兎和野，1ex. 18. Ⅵ. 2023；1ex. 4. Ⅶ. 2023；1ex. 23. Ⅵ. 2020；2exs. 17. Ⅶ. 2020；1ex. 5. Ⅶ. 2019；4exs. 15. Ⅶ. 2019．⑮氷ノ山，1ex. 7. Ⅶ. 2024；1ex. 17. Ⅶ. 2024；1ex. 29. Ⅶ. 2019

40 *. マルガタハナカミキリ *Pachytodes cometes* (Bates, 1884)

山地のノリウツギやリョウブ等の花に普通．

④蘓武，1ex. 12. Ⅶ. 2022；2exs. 4. Ⅷ. 2020；1ex. 5. Ⅷ. 2017；1ex. 9. Ⅶ. 2013．⑤相岡，1ex. 3. Ⅶ. 2021．⑦畑ケ平，1ex. 11. Ⅶ. 2022．⑧兎和野，1ex. 11. Ⅶ. 2022；1ex. 21. Ⅶ. 2021；1ex. 16. Ⅶ. 2020；1ex. 17. Ⅶ. 2020．⑫小代峠，1ex. 28. Ⅶ. 2019．⑮氷ノ山，1ex. 8. Ⅷ. 2022；1ex. 4. Ⅷ. 2020；1ex. 29. Ⅶ. 2019．⑯横行，2exs. 19. Ⅶ. 2016．⑰若杉峠，2exs. 18. Ⅶ. 2016；2exs. 29. Ⅶ. 2014．⑲三室山，1ex. 17. Ⅶ. 2023．⑳音水，1ex. 23. Ⅶ. 2014

41 *. ツヤケシハナカミキリ *Anastrangalia scotodes* (Bates, 1873)

低山から山地まで，カマツカやクリ等の花に普通．

④蘓武，1ex. 9. Ⅵ. 2022；2exs. 31. Ⅴ. 2021；1ex. 7. Ⅵ. 2020．⑥上山，1ex. 6. Ⅵ. 2020．⑧兎和野，1ex. 10. Ⅵ. 2022；1ex. 17. Ⅵ. 2022；1ex. 31. Ⅴ. 2021；2exs. 14. Ⅵ. 2021；1ex. 11. Ⅶ. 2021；3exs. 5. Ⅵ. 2020；1ex. 21. Ⅵ. 2020．㉓有馬富士，2exs. 10. Ⅴ. 2022；2exs. 15. Ⅴ. 2021；2exs. 13. Ⅴ. 2016．宝塚市赤子谷，1ex. 16. Ⅴ. 2014．㉔盤滝，1ex. 16. Ⅴ. 2017；1ex. 26. Ⅵ. 2017；1ex. 15. Ⅴ. 2016．㉕甲山，2exs. 21. Ⅴ. 2013

42 *. アカハナカミキリ *Aredolpona succedanea* (Lewis, 1879)

低山から山地まで，リョウブ等の花やマツ等の伐採木に普通．

④蘓武，2exs. 4. Ⅷ. 2017．⑥上山，1ex. 26. Ⅶ. 2024．⑧兎和野，1ex. 21. Ⅶ. 2021；1ex. 3. Ⅷ. 2017；1ex. 11. Ⅶ. 2016．⑰若杉峠，1ex. 18. Ⅶ. 2016；1ex. 29. Ⅶ. 2014．㉓有馬富士，2exs. 21. Ⅶ. 2015；1ex. 30. Ⅶ. 2013．㉕甲山，1ex. 2. Ⅷ. 2013；1ex. 6. Ⅶ. 2012．神戸市森林公園，1ex. 20. Ⅶ. 2014

43 *. ヒメアカハナカミキリ *Brachyleptura pyrrha* (Bates, 1884)

山地のノリウツギの花．やや少ない．

⑧兎和野，1ex. 17. Ⅵ. 2018；1ex. 8. Ⅶ. 2013；1ex. 10. Ⅶ. 2013．⑩ハチ北，1ex. 11. Ⅶ. 2021．⑪鉢伏，1ex. 24. Ⅵ. 2024；1ex. 29. Ⅵ. 2015．⑳音水，1ex. 23. Ⅶ. 2014

44 *. ムネアカクロハナカミキリ *Leptura dimorpha* Bates, 1873

平地から山地まで，ガマズミ等の花に普通．

①御崎，1ex. 10. Ⅴ. 2024．久斗山南西麓，1ex，8. Ⅴ. 2020．③奈佐，1ex. 31. Ⅴ. 2021．④蘓武，2exs. 22. Ⅴ. 2022；2exs. 31. Ⅴ. 2021．⑥上山，1ex. 16. Ⅵ. 2022．⑧兎和野，3exs. 10. Ⅵ. 2022；1ex. 31. Ⅴ. 2021；1ex. 14. Ⅵ. 2021；1ex. 13. Ⅴ. 2020；2exs. 5. Ⅵ. 2020．⑨東床尾山，1ex. 2. Ⅴ. 2017．⑩ハチ北，1ex. 17. Ⅵ. 2022；1ex. 26. Ⅵ. 2021．⑪鉢伏，1ex. 24. Ⅵ. 2024．⑮氷ノ山，3exs. 1. Ⅶ. 2013

45 *. ヤツボシハナカミキリ本州以南亜種 *Leptura mimica modicenotata* Pic, 1901

低山から山地まで，伐採木やクリやガマズミ等の花に普通．

①御崎，1ex. 10. Ⅴ. 2024；1ex. 1. Ⅴ. 2023；1ex. 29. Ⅴ. 2020．②城山，1ex. 30. Ⅴ. 2020．④蘓武，2exs. 31. Ⅴ. 2021；1ex. 23. Ⅶ. 2021；1ex. 26. Ⅴ. 2015；2exs. 9. Ⅶ.

2013．⑥上山，2exs. 16. Ⅵ. 2022．⑦畑ケ平，1ex. 11. Ⅶ. 2022．⑧兎和野，1ex. 18. Ⅵ. 20223；1ex. 11. Ⅶ. 2022；1ex. 14. Ⅵ. 2021．⑩ハチ北，1ex. 22. Ⅵ. 2020．⑪鉢伏，1ex. 29. Ⅵ. 2015．⑫小代峠，1ex. 12. Ⅶ. 2014．⑮氷ノ山，2exs. 29. Ⅶ. 2019．⑳音水，1ex. 23. Ⅶ. 2014．㉒虚空蔵山，1ex. 12. Ⅴ. 2018；2exs. 6. Ⅵ. 2016；3exs. 20. Ⅴ. 2015．㉓有馬富士, 1ex. 10. Ⅴ. 2022;1ex. 15. Ⅴ. 2021;2exs. 13. Ⅵ. 2016．宝塚市赤子谷, 1ex. 16. Ⅴ. 2014．㉕甲山, 1ex. 21. Ⅴ. 2013；1ex. 7. Ⅵ. 2013.

46*．ヨツスジハナカミキリ　*Leptura ochraceofasciata ochraceofasciata* (Motschulsky, 1861)

山地のノリウツギやリョウブ等の花に最も普通.

①御崎，10. Ⅶ. 2022；2. Ⅷ. 2021．④蘓武，4. Ⅷ. 2017；5. Ⅷ. 2017；30. Ⅵ. 2015．⑤相岡，3. Ⅶ. 2021；16. Ⅶ. 2020．⑥上山，3. Ⅷ. 2020．⑦畑ケ平，11. Ⅶ. 2022．⑧兎和野，11. Ⅶ. 2021；21. Ⅶ. 2021；16. Ⅶ. 2020；5. Ⅶ. 2019；15. Ⅶ. 2019．⑪鉢伏，5. Ⅶ. 2019；29. Ⅵ. 2015．⑫小代峠, 28. Ⅶ. 2019．⑭加保坂峠, 3. Ⅶ. 2023．⑮氷ノ山, 8. Ⅷ. 2022；7. Ⅸ. 2021；4. Ⅷ. 2020．⑯横行，19. Ⅶ. 2016．⑰若杉峠，25. Ⅵ. 2018；18. Ⅶ. 2016；29. Ⅶ. 2014．⑲三室山，18. Ⅶ. 2024；17. Ⅶ. 2023

47*．ハネビロハナカミキリ　*Leptura latipennis* (Matsushita, 1933)

山地のノリウツギやゴトウヅルの花．少ない.

④蘓武，1ex. 31. Ⅴ. 2021．⑧兎和野，2exs. 17. Ⅵ. 2018

48*．カタキハナカミキリ　*Pedostrangalia femoralis* (Motschulsky, 1860)

山地のミズキ等の花．やや少ない.

④蘓武，1ex. 22. Ⅴ. 2022；2exs. 31. Ⅴ. 2021．⑧兎和野，1ex. 24. Ⅴ. 2019；1ex. 23. Ⅴ. 2016

49*．フタスジハナカミキリ　*Nakanea vicaria* (Bates, 1884)

山地のノリウツギやリョウブ等の花．産地はやや限定的．生息地には多い.

⑧兎和野，1ex. 12. Ⅶ. 2018．⑯横行，3exs. 19. Ⅶ. 2016．⑰若杉峠，17. Ⅶ. 2024；18. Ⅶ. 2024；4exs. 29. Ⅶ. 2014．⑲三室山，18. Ⅶ. 2024

50．クロオオハナカミキリ　*Macroleptura thoracica obscurissima* (Pic, 1900)

山地の立枯れの樹幹．少ない.

④蘓武，1ex. 9. Ⅶ. 2013

51*．オオヨツスジハナカミキリ　*Macroleptura regalis* (Bates, 1884)

山地のノリウツギやカラスザンショウの花．生息地では普通.

①御崎，1ex. 2. Ⅷ. 2021．④蘓武，1ex. 4. Ⅷ. 2017．⑤相岡，1ex. 22. Ⅶ. 2021．⑥上山，1ex. 3. Ⅷ. 2020．⑧兎和野，2exs. 21. Ⅶ. 2021；3exs. 3. Ⅷ. 2017；1ex. 11. Ⅶ. 2016．⑰若杉峠，1ex. 18. Ⅶ. 2024；4exs. 29. Ⅶ. 2014

52*．カエデノヘリグロハナカミキリ　*Eustrangalis distenioides* Bates, 1884

山地のカエデやウワミズザクラの花．サワフタギの立枯れに飛来．やや少ない.

⑧兎和野，2exs. 4. Ⅴ. 2021．⑮氷ノ山 2exs. 15. Ⅴ. 2024；2exs. 24. Ⅴ. 2022；2exs. 26. Ⅴ. 2021

53*．ヒゲジロハナカミキリ　*Japanostrangalia dentatipennis* (Pic, 1901)

山地のノリウツギやクマノミズキ等の花．やや少ない.

④蘓武，1ex. 5. Ⅷ. 2017．⑧兎和野，1ex. 21. Ⅵ. 2020；2exs. 17. Ⅶ. 2020；1ex. 21. Ⅵ. 2019；1ex. 15. Ⅶ. 2019；17. Ⅵ. 2018；2exs. 12. Ⅶ. 2018．⑩ハチ北，1ex. 22. Ⅵ. 2020．⑮氷ノ山，1ex. 7. Ⅶ. 2024；1ex. 4. Ⅷ. 2020；3exs. 29. Ⅶ. 2019．⑰若杉峠，3exs. 17. Ⅶ. 2024．⑲三室山，1ex. 18. Ⅶ. 2024；1ex. 17. Ⅶ. 2023．⑳音水，1ex. 23. Ⅶ. 2014

54*．アオバホソハナカミキリ本土亜種　*Strangalomorpha tenuis aenescens* Bates, 1884

山地のガマズミやミズキ等の花に普通.

①御崎，1ex. 10. Ⅴ. 2014；1ex. 4. Ⅴ. 2022．新温泉町久斗山, 2exs. 8. Ⅴ. 2020．④蘓武, 1ex. 22. Ⅴ. 2022;1ex. 31. Ⅴ. 2021；3exs. 7. Ⅵ. 2020．⑥上山，1ex. 6. Ⅶ. 2019．⑦畑ケ平，1ex. 16. Ⅵ. 2022；1ex. 30. Ⅴ. 2021．⑧兎和野，1ex. 14. Ⅵ. 2021;1ex. 13. Ⅴ. 2020;1ex. 23. Ⅴ. 2019．⑮氷ノ山, 1ex. 22. Ⅴ. 2023；1ex. 24. Ⅴ. 2022；2exs. 26. Ⅴ. 2021；1ex. 1. Ⅵ. 2021

☆55．コウヤホソハナカミキリ　*Strangalia koyaensis* Matsushita, 1933

山地のノリウツギの花．産地は限定.

⑲三室山，1ex. 18. Ⅶ. 2024

56．ジャコウホソハナカミキリ　*Mimostrangalia dulcis* (Bates, 1884)

カマツカやミズキ等の花．産地は限定.

㉒虚空蔵山，1ex. 22. Ⅴ. 2021;1ex. 9. Ⅵ. 2017;3exs. 20. Ⅴ. 2015

57*．ニョウホウホソハナカミキリ *Parastrangalis lesnei* (Pic, 1901)

山地のノリウツギやミズキ等の花．産地はやや限定的．

⑧兎和野，1ex. 12. Ⅶ. 2018．⑬琴弾峠，1ex. 3. Ⅶ. 2023．⑯横行，1ex. 7. Ⅶ. 2024．⑰若杉峠，1ex. 7. Ⅶ. 2024．⑱青倉山，1ex. 18. Ⅵ. 2018．⑳音水，1ex. 23. Ⅶ. 2014

58*．タテジマホソハナカミキリ *Parastrangalis shikokensis* (Matsushitq, 1935)

山地のクリやノリウツギ等の花に普通．

②城山，2exs. 25. Ⅵ. 2021．④蘓武，1ex. 9. Ⅵ. 2022；3exs. 23. Ⅶ. 2021；1ex. 5. Ⅷ. 2017．⑥上山，1ex. 16. Ⅵ. 2022；1ex. 3. Ⅷ. 2020．⑦畑ケ平，1ex. 10. Ⅶ. 2022；1ex. 11. Ⅶ. 2022．⑧兎和野，1ex. 18. Ⅶ. 2023；1ex. 21. Ⅵ. 2020；1ex. 16. Ⅶ. 2020；1ex. 17. Ⅶ. 2020；1ex. 21. Ⅵ. 2019．⑩ハチ北，2exs. 26. Ⅵ. 2021；1ex. 2. Ⅶ. 2021．⑪鉢伏，1ex. 8. Ⅶ. 2024；2exs. 26. Ⅵ. 2015．⑫小代峠，2exs. 28. Ⅶ. 2019；1ex. 12. Ⅶ. 2014．⑮氷ノ山，1ex. 29. Ⅶ. 2019；1ex. 22. Ⅶ. 2014．⑯横行，1ex. 19. Ⅶ. 2016．⑰若杉峠，1ex. 18. Ⅶ. 2016；3exs. 29. Ⅶ. 2014．⑱青倉山，2exs. 18. Ⅵ. 2018；1ex. 19. Ⅵ. 2017．⑲三室山，3exs. 17. Ⅶ. 2023．⑳音水，1ex. 23. Ⅶ. 2014

59*．ニンフホソハナカミキリ *Parastrangalis nymphula* (Bates, 1884)

低山から山地まで，ショウマ等，日陰の各種の花に最も普通．

①御崎，1ex. 19. Ⅵ. 2023；1ex. 25. Ⅴ，2021；1ex. 14. Ⅵ. 2021；1ex. 29. Ⅴ. 2020．④蘓武，2exs. 12. Ⅶ. 2022；1ex. 31. Ⅴ. 2021；2exs. 23. Ⅶ. 2021；2exs. 7. Ⅵ. 2020．⑤相岡，2exs. 3. Ⅶ. 2021．⑥上山，2exs. 16. Ⅵ. 2022；2exs. 3. Ⅷ. 2020；7exs. 6. Ⅶ. 2019．⑦畑ケ平，1ex. 10. Ⅶ. 2022；2exs. 11. Ⅶ. 2022．⑧兎和野，3exs. 18. Ⅵ. 2023；1ex. 31. Ⅴ. 2021；1ex. 14. Ⅶ. 2021；1ex. 24. Ⅶ. 2021；1ex. 5. Ⅵ 2020；2exs. 23. Ⅵ. 2020；1ex. 16. Ⅶ. 2020；3exs. 17. Ⅶ. 2020．⑩ハチ北，2exs. 11. Ⅶ. 2022；1ex. 11. Ⅶ. 2021；1ex. 21. Ⅶ. 2021；1ex. 22. Ⅵ. 2020．⑪鉢伏，2exs. 29. Ⅵ. 2015．⑫小代峠，3exs. 7. Ⅶ. 2019；1ex. 28. Ⅶ. 2019．⑬琴弾峠，1ex. 3. Ⅶ. 2023．⑭加保坂峠，2exs. 3. Ⅶ. 2023．⑮氷ノ山，3exs. 4. Ⅷ. 2020；1ex. 29. Ⅶ. 2019；1ex. 19. Ⅶ. 2016．⑯横行，1ex. 25. Ⅵ. 2019；4exs. 19. Ⅶ. 2016．⑰若杉峠，1ex. 25. Ⅵ. 2018；1ex. 18. Ⅶ. 2016；1ex. 13. Ⅶ. 2014；4exs. 29. Ⅶ. 2014．⑱青倉山，1ex. 18. Ⅵ. 2018．⑲三室山，3exs. 17. Ⅶ. 2023．⑳音水，1ex. 23. Ⅶ. 2014．㉒虚空蔵山，1ex. 15. Ⅴ. 2018；2exs. 20. Ⅴ. 2015．三田市上本庄，1ex. 20. Ⅴ. 2018．㉓有馬富士，1ex. 28. Ⅴ. 2022

60*．ミヤマホソハナカミキリ *Idiostrangalia contracta* (Bates, 1884)

山地のミズキやノリウツギ等の花に普通．

①御崎，1ex. 10. Ⅶ. 2022．②城山，1ex. 14. Ⅵ. 2021．④蘓武，1ex. 12. Ⅶ. 2022；1ex. 23. Ⅶ. 2021；2exs. 5. Ⅷ. 2017．⑥上山，2exs. 16. Ⅵ. 2022；6exs. 6. Ⅶ. 2019．⑦畑ケ平，3exs. 11. Ⅶ. 2022．⑧兎和野，1ex. 4. Ⅶ. 2023；1ex. 23. Ⅵ. 2022；3exs. 24. Ⅵ. 2021；1ex. 3. Ⅶ. 2021．仏ノ尾林道，3exs. 2. Ⅶ. 2013．⑩ハチ北，2exs. 11. Ⅶ. 2022；2exs. 26. Ⅵ. 2021；2exs. 2. Ⅶ. 2021．⑪鉢伏，1ex. 24. Ⅵ. 2021；4exs. 5. Ⅶ. 2019；4exs. 29. Ⅵ. 2015．⑫小代峠，1ex. 7. Ⅶ. 2019；1ex. 28. Ⅶ. 2019．⑬琴弾峠，1ex. 3. Ⅶ. 2023．⑭加保坂峠，2exs. 3. Ⅶ. 2023．⑮氷ノ山，5exs. 4. Ⅷ. 2020；2exs. 29. Ⅶ. 2019；1ex. 19. Ⅶ. 2016．⑯横行，4exs. 19. Ⅶ. 2016．⑰若杉峠，1ex. 7. Ⅶ. 2024；2exs. 25. Ⅵ. 2018；5exs. 18. Ⅶ. 2016．⑱青倉山，4exs. 18. Ⅵ. 2018；1ex. 19. Ⅵ. 2017．⑲三室山，5exs. 17. Ⅶ. 2023．⑳音水，1ex. 23. Ⅶ. 2014．㉒虚空蔵山，1ex. 23. Ⅴ. 2024；3exs. 22. Ⅴ. 2021

61．ハコネホソハナカミキリ *Idiostrangalia hakonensis* (Matsusita, 1933)

クマノミズキやノリウツギ等の花．やや少ない．

④蘓武，1ex. 12. Ⅵ. 2024．⑥上山，1ex. 6. Ⅶ. 2019．⑪鉢伏，2exs. 5. Ⅶ. 2019．⑭加保坂峠，1ex. 3. Ⅶ. 2023；1ex. 24. Ⅵ. 2022．⑮氷ノ山，1ex. 29. Ⅶ. 2019；1ex. 22. Ⅶ. 2014；1ex. 1. Ⅶ. 2013．㉔盤滝，1ex. 26. Ⅵ. 2017

62*．ホソハナカミキリ *Leptostrangalia hosohana* (Ohbayashi, 1952)

ミズキやノリウツギ等の花．やや少ない．

⑤相岡，1ex. 3. Ⅶ. 2021．⑧兎和野，1ex. 4. Ⅶ. 2023．⑮氷ノ山，1ex. 29. Ⅶ. 2019；1ex. 22. Ⅶ. 2014．⑰若杉峠，1ex. 13. Ⅶ. 2014．㉒虚空蔵山，1ex. 22. Ⅴ. 2021

ホソコバネカミキリ亜科

63．オオホソコバネカミキリ *Necydalis solida* Bates, 1884

山地のブナの立枯れに飛来．少ない．

⑮氷ノ山，1ex. 4. Ⅷ. 2020

カミキリ亜科

64．ミヤマカミキリ *Massicus raddei* (Blessig, 1872)

低地のコンビニの灯．

養父市八鹿高柳 CVS, 1ex. 9. Ⅶ. 2013．三田市加茂 CVS, 1ex. 5. Ⅶ. 2019；1ex. 28. Ⅶ. 2014

65．キマダラミヤマカミキリ *Aeolesthes chrysothrix chrysothrix* (Bates, 1873)

キャンプ場の灯火に飛来.
㉕甲山，1ex. 28. Ⅶ. 2016；1ex. 15. Ⅵ. 2014

66*. アオスジカミキリ *Xystrocera globosa* (Olivier, 1795)
山地のネムノキの立枯れの他，コンビニの灯に普通.
①御崎，1ex. 9. Ⅵ. 2022．⑧兎和野，1ex. 4. Ⅷ. 2020；1ex. 6. Ⅶ. 2019；1ex. 13. Ⅶ. 2018．養父市八鹿高柳 CVS，1ex. 23. Ⅵ. 2022；2exs. 10. Ⅶ. 2013．養父市万久里 CVS，1ex. 24. Ⅵ. 2024；1ex. 24. Ⅵ. 2022；1ex. 15. Ⅵ. 2021；1ex. 12. Ⅶ. 2021．⑮氷ノ山 1ex. 22. Ⅶ. 2014；1ex. 1. Ⅶ. 2013

67. ベーツヤサカミキリ *Leptoxenus ibidiiformis* Bates, 1877
山地のガマズミやクリ等の花．少ない.
①御崎，1ex. 1. Ⅴ. 2023．②城山，1ex. 29. Ⅴ. 2020．⑤相岡，1ex. 6. Ⅵ. 2020

68*. トビイロカミキリ *Allotraeus sphaerioninus* Bates, 1877
山地のヤブデマリやガマズミ等の花に普通.
①御崎，1ex. 10. Ⅵ. 2024；2exs. 1. Ⅴ. 2023；1ex. 23. Ⅴ. 2022．②城山，1ex. 29. Ⅴ. 2020．⑦畑ケ平，1ex. 30. Ⅴ. 2021．⑧兎和野，2exs. 14. Ⅵ. 2021；2exs. 5. Ⅵ. 2020；1ex. 23. Ⅴ. 2019；1ex. 24. Ⅴ. 2019．⑩ハチ北，1ex. 2. Ⅶ. 2021

69*. アメイロカミキリ *Stenodryas clavigera clavigera* Bates, 1873
低山から山地までクリやガマズミ等の花に普通.
①御崎，1ex. 19. Ⅵ. 2023；1ex. 9. Ⅵ. 2022；2exs. 10. Ⅶ. 2022；1ex. 25. Ⅵ. 2021．②城山，1ex. 14. Ⅵ. 2021．⑧兎和野，1ex. 14. Ⅵ. 2021；1ex. 26. Ⅵ. 2021．養父市万久里 CVS，1ex. 15. Ⅵ. 2021．⑬琴弾峠，1ex. 2. Ⅶ. 2021．⑰若杉峠，1ex. 17. Ⅶ. 2024．⑲三室山，2exs. 17. Ⅶ. 2023．㉒虚空蔵山，1ex. 9. Ⅵ. 2017；1ex. 6. Ⅵ. 2016；2exs. 14. Ⅵ. 2016．㉓有馬富士，1ex. 3. Ⅵ. 2022．㉔盤滝，2exs. 26. Ⅵ. 2017．神戸市布引滝，1ex. 23. Ⅴ. 2020

70. ヨコヤマヒメカミキリ *Ceresium holophaeum* Bates, 1873
伐採枝や粗朶．コンビニの灯．やや少ない.
①御崎，1ex. 25. Ⅶ. 2024；4exs. 10. Ⅶ. 2022．養父市万久里 CVS，1ex. 25. Ⅵ. 2024

71. テツイロヒメカミキリ *Ceresium sinicum* White, 1855
伐採枝や粗朶．施設の灯火．やや少ない.
①御崎，1ex. 22. Ⅶ. 2021；1ex. 2. Ⅷ. 2021．㉖北山，1ex. 16. Ⅵ. 2024

72. カッコウメダカカミキリ *Stenhomalus cleroides* Bates, 1873
伐採枝や粗朶，枯蔓．やや少ない.
①御崎，1ex. 25. Ⅴ. 2021．⑬琴弾峠，1ex. 15. Ⅴ. 2024

73. タイワンメダカカミキリ *Stenhomalus taiwanus* Matsushita, 1933
アケビの枯蔓．コンビニの灯．北山では籠用に採取したアケビの枯蔓から 2 年間で多数羽脱.
①御崎，1ex. 10. Ⅶ. 2022．養父市万久里 CVS，1ex. 25. Ⅵ. 2024．㉕甲山，1ex. 25. Ⅵ. 2013．㉖北山 (材)，5exs. 20 ～ 21. Ⅴ. 2024；3exs. 30. Ⅶ. 2023；4exs. 15 ～ 19. Ⅸ. 2023

74. トワダムモンメダカカミキリ *Stenhomalus japonicus* Pic, 1904
山地のガマズミ等の花．やや少ない.
① 御 崎，1ex. 3. Ⅵ. 2024；1ex. 1. Ⅴ. 2023；1ex. 4. Ⅴ. 2022．⑮氷ノ山，1ex. 22. Ⅴ. 2019

75. タカオメダカカミキリ *Stenhomalus takaosanus* Ohbayashi, 1958
山地のウワミズザクラの花．やや少ない.
⑮氷ノ山，2exs. 15. Ⅴ. 2024；1ex. 28. Ⅴ. 2020

76*. ナカネアメイロカミキリ *Obrium nakanei* Ohbayashi, 1959
山地のハリギリの樹幹．少ない.
⑧兎和野，1ex. 21. Ⅵ. 2020

77. サドチビアメイロカミキリ本土亜種 *Obrium obscuripenne takakuwai* Niisato, 2006
山地のミズキやゴトウヅル，ツルウメモドキの花．少ない.
①御崎, 2exs. 14. Ⅵ. 2021；1ex. 25. Ⅵ. 2021．⑤相岡, 2exs. 6. Ⅵ. 2020．⑪鉢伏，1ex. 12. Ⅵ. 2024

78*. スネケブカヒロコバネカミキリ *Merionoeda hirsuta* (Mitino & Nishimura, 1936)
山地のノリウツギやカラスザンショウ等の花．生息地には多い.
①御崎，1ex. 25. Ⅶ. 2024；2exs. 10. Ⅶ. 2022；1ex. 25. Ⅵ. 2021；3exs. 22. Ⅶ. 2021；1ex. 2. Ⅷ. 2021．④蘓武, 2exs. Ⅶ. 2022；2exs. 4. Ⅷ. 2017．⑤相岡, 1ex. 22. Ⅶ. 2021．⑧兎和野, 1ex. 8. Ⅶ. 2024；1ex. 3. Ⅷ. 2017；2exs. 11. Ⅶ. 2016．⑩ハチ北，1ex. 21. Ⅶ. 2021．⑫小代峠，1ex. 28. Ⅶ. 2019．⑭加保坂峠，2exs. 9. Ⅶ. 2024．⑮氷ノ山，1ex. 17. Ⅶ. 2024

79*．ホソツヤヒゲナガコバネカミキリ　*Molorchus nitida nitida* Obika, 1973

山地のカエデ等の花．少ない．

⑧兎和野，1ex. 4. Ⅴ. 2021．⑮氷ノ山，1ex. 22. Ⅴ. 2019

80*．コジマヒゲナガコバネカミキリ　*Molorchus kojimai* Matsushita, 1939

低山から山地まで，カエデ等の花に普通．

①御崎, 1ex. 1. Ⅴ. 2023;3exs. 29. Ⅴ. 2020．②城山, 2exs. 7. Ⅴ. 2020．④蘓武，3exs. 22. Ⅴ. 2022．⑦畑ケ平，1ex. 30. Ⅴ. 2021．⑧兎和野，1ex. 4. Ⅴ. 2021；1ex. 5. Ⅵ. 2020；1ex. 24. Ⅴ. 2019．⑮氷ノ山，2exs. 15. Ⅴ. 2024；1ex. 1. Ⅵ. 2021；3exs. 28. Ⅴ. 2020．㉒虚空蔵山，3exs. 2. Ⅴ. 2020．㉓有馬富士，1ex. 10. Ⅴ. 2022；2exs. 29. Ⅳ. 2020．三木山森林公園，1ex. 15. Ⅳ. 2021．㉔盤滝，2exs. 22. Ⅳ. 2021；3exs. 3. Ⅴ. 2019；2exs. 22. Ⅳ. 2018；1ex. 12. Ⅴ. 2018

81．クロサワヒメコバネカミキリ　*Epania septemtrionalis* Hayashi, 1950

山地のクマノミズキの枯枝．産地は限定．少ない．

⑪鉢伏，2exs. 8. Ⅶ. 2024．

82．ヤマトチビコバネカミキリ本土亜種　*Leptepania minuta japonica* (Hayashi, 1948)

クリの枯枝．産地は限定．少ない．

㉒虚空蔵山，1ex. 9. Ⅵ. 2017．

83．クビアカモモブトホソカミキリ　*Kurarua rhopalophoroides rhopalophoroides* Hayashi, 1951

ガマズミやミズキ等の花．産地は限定．少ない．嵐山のコジイの花では，クローンらしい華奢で小さな個体が一網毎に数十頭も入り興ざめ．県内産は体も大きく印象が異なる．

④蘓武，1ex. 7. Ⅵ. 2020．㉒虚空蔵山，1ex. 22. Ⅴ. 2021．

84*．ホタルカミキリ　*Dere thoracica* White, 1855

低山から山地まで，各種広葉樹の伐採木や枯木を多数徘徊．

①御崎，1. Ⅴ. 2023；19. Ⅵ. 2023；4. Ⅴ. 2022；3. Ⅴ. 2021；22. Ⅶ. 2021．⑧兎和野，4. Ⅴ. 2021；14. Ⅵ. 2021；13. Ⅴ. 2020；23. Ⅴ. 2015．⑪鉢伏，29. Ⅵ. 2015．⑮氷ノ山，11. Ⅵ. 2012．㉒虚空蔵山，2. Ⅴ. 2020；15. Ⅴ. 2018；9. Ⅵ. 2017．三田市上本庄，20. Ⅴ. 2018．有馬富士，13. Ⅴ. 2016；13. Ⅴ. 2015；29. Ⅴ. 2014．㉔盤滝，16. Ⅴ. 2017；3. Ⅴ. 2014．神戸市藍那，22. Ⅴ. 2013

85*．トラフホソバネカミキリ　*Thranius variegatus variegatus* Bates, 1873

沿岸部や山地の道路脇の葉上に静止．少ない．

①御崎，2exs. 19. Ⅵ. 2023．⑧兎和野，1ex. 3. Ⅶ. 2021

86*．クスベニカミキリ　*Pyrestes nipponicus* Hayashi, 1987

山地のノリウツギやリョウブの花．やや少ない．

①御崎, 2exs. 2. Ⅷ. 2021．④蘓武, 1ex. 23. Ⅶ. 2021;2exs. 4. Ⅷ. 2017；1ex. 9. Ⅶ. 2013．⑤相岡，1ex. 22. Ⅶ. 2021．⑧兎和野，1ex. 15. Ⅶ. 2019；1ex. 3. Ⅷ. 2017；1ex. 30. Ⅵ. 2013；1ex. 8. Ⅶ. 2013．⑩ハチ北，1ex. 2. Ⅶ. 2021．⑪鉢伏，1ex. 30. Ⅵ. 2015．⑬琴弾峠，1ex. 15. Ⅵ. 2021．⑮氷ノ山，1ex. 29. Ⅶ. 2019．⑲三室山，2exs. 17. Ⅶ. 2023

87*．ルリボシカミキリ　*Rosalia batesi* Harold, 1877

山地の伐採木や立枯れ．山中にハッとするような深い青色が目を惹く．やや少ない．

①御崎, 1ex. 25. Ⅶ. 2024;1ex. 10. Ⅶ. 2022．④蘓武, 2exs. 4. Ⅷ. 2017．⑧兎和野, 3exs. 3. Ⅷ. 2017．⑫小代峠, 1ex. 28. Ⅶ. 2019

88*．ベニカミキリ　*Purpuricenus temminckii* (Guerin-Meneville, 1844)

平地から山地までの竹林，クリの花等に普通．

①御崎，1ex. 29. Ⅴ. 2020．③奈佐，1ex. 23. Ⅴ. 2022．④蘓武，1ex. 2. Ⅶ. 2013；1ex. 9. Ⅶ. 2013．⑧兎和野，1ex. 23. Ⅴ. 2019；1ex. 5. Ⅶ. 2019；1ex. 17. Ⅵ. 2018；1ex. 18. Ⅵ. 2017．⑨東床尾山，1ex. 8. Ⅴ. 2017．⑩ハチ北，1ex. 4. Ⅴ. 2021．㉒虚空蔵山，1ex. 22. Ⅴ. 2021；1ex. 2. Ⅴ. 2020；1ex. 14. Ⅵ. 2016．宝塚市赤子谷，2exs. 16. Ⅴ. 2014．㉔盤滝，1ex. 28. Ⅳ. 2015；1ex. 10. Ⅵ. 2015．㉕甲山，1ex. 21. Ⅴ. 2013；1ex. 7. Ⅵ. 2013；1ex. 17. Ⅴ. 2012．神戸市藍那，1ex. 22. Ⅴ. 2013．

89．オオアオカミキリ　*Chloridolum thaliodes* Bates, 1884

山地のサワグルミの枝葉に飛来．産地は限定的．少ない．

㉑赤西，1ex. 24. Ⅷ. 2015．

90*．ミドリカミキリ　*Chloridolum viride* (Thomson, 1864)

低山から山地まで，各種の花や伐採木に普通．

神鍋高原，2exs. 11. Ⅵ. 2012．⑧兎和野，1ex. 15. Ⅴ. 2020；1ex. 21. Ⅵ. 2020；1ex. 23. Ⅴ. 2019；1ex. 21. Ⅵ. 2019；1ex. 17. Ⅵ. 2018．⑩ハチ北，1ex. 11. Ⅶ. 2022．⑰若杉峠，1ex. 17. Ⅶ. 2024．㉒虚空蔵山，1ex. 22. Ⅴ. 2021；1ex. 28. Ⅵ. 2021；2exs. 6. Ⅵ. 2016；1ex. 20. Ⅴ. 2015．㉓有馬富士，1ex. 10. Ⅴ. 2022；1ex. 13. Ⅴ. 2016；1ex. 13. Ⅴ. 2015．㉔盤滝，1ex. 12. Ⅴ. 2018；1ex. 12. Ⅴ. 2017；1ex. 16. Ⅴ. 2017；1ex. 10. Ⅵ. 2015．㉕甲山，1ex. 2. Ⅴ. 2014；3exs. 21. Ⅴ. 2013；2exs. 5. Ⅵ. 2013；1ex. 7. Ⅵ. 2013；1ex. 4. Ⅴ. 2012

91 *. アオカミキリ *Schwarzerium quadricollis quadricollis* (Bates, 1884)
早朝，山地のノリウツギ等の花．やや少ない．
④蘓武，1ex. 9. Ⅶ. 2013．⑥上山，1ex. 26. Ⅶ. 2024．⑧兎和野，1ex. 5. Ⅶ. 2019；1ex. 8. Ⅶ. 2013；1ex. 10. Ⅶ. 2013．⑩ハチ北，1ex. 3. Ⅶ. 2021；1ex. 11. Ⅶ. 2021．㉒虚空蔵山，1ex. 28. Ⅵ. 2021

92 *. ヒメスギカミキリ *Callidiellum rufipenne* (Motschulsky, 1862)
スギの伐採木や立枯れに普通．
④蘓武，2exs. 22. Ⅴ. 2022．⑧兎和野，1ex. 22. Ⅴ. 2016．⑨東床尾山，1ex. 2. Ⅴ. 2017．㉕甲山，1ex. 21. Ⅴ. 2013；1ex. 7. Ⅵ. 2013

93 *. チャイロホソヒラタカミキリ *Phymatodes testaceus* (Linnaeus, 1758)
各種伐採木や薪．やや少ない．
⑧兎和野，1ex. 17. Ⅵ. 2022．㉒虚空蔵山，1ex. 20. Ⅴ. 2015

☆ 94. チャイロチビヒラタカミキリ *Phymatodes infasciatus infasciatus* (Pic, 1935)
伐採木にからまるブドウ属の枯蔓．少ない．
①御崎，2exs. 25. Ⅴ. 2021．①御崎 (材)，18ex. 25. Ⅳ～ 9. Ⅴ. 2022

95. アカネカミキリ *Phymatodes maaki viarius* Danilevsky, 1988
山地のヤマブドウの蔓．やや少ない．
①御崎，1ex. 3. Ⅴ. 2021．④蘓武，1ex. 7. Ⅵ. 2020．⑥上山，1ex. 16. Ⅵ. 2022．⑮氷ノ山，1ex. 22. Ⅴ. 2023；1ex. 17. Ⅵ. 2017．宝塚市赤子谷，1ex. 16. Ⅴ. 2014

96 *. シロオビチビヒラタカミキリ *Phymatodes albicinctum* Bates, 1873
山地のアケビ等の枯蔓にやや普通．
①御崎，1ex. 10. Ⅴ. 2024；1ex. 3. Ⅴ. 2021．①御崎 (材)，6exs. 29 ～ 30. Ⅲ. 2022．②城山，1ex. 7. Ⅴ. 2020．④蘓武，1ex. 22. Ⅴ. 2022；1ex. 7. Ⅵ. 2020；1ex. 26. Ⅴ. 2015．⑧兎和野，1ex. 23. Ⅴ. 2016．⑮氷ノ山，1ex. 22. Ⅴ. 2023；1ex. 24. Ⅴ. 2022

97 *. トラフカミキリ本土亜種 *Xyloclytus chinensis kurosawai* Fujita, 2010
山地のヤマグワの樹に飛来．少ない．クワの栽培地が減り，近年減少か．
⑧兎和野，1ex. 17. Ⅶ. 2012

98. ヤノトラカミキリ *Xylotrechus yanoi* Gressitt, 1934
エノキの伐採木や立枯れ．産地はやや限定的．
②城山 , 2exs. 25. Ⅶ. 2024

99. クビアカトラカミキリ *Xylotrechus rufilius rufilus* Bates, 1884
各種の新鮮な伐採木に多数の個体が徘徊．産地はやや限定的．
①御崎，19. Ⅵ. 2023；14. Ⅵ. 2021．㉒虚空蔵山，22. Ⅴ. 2021；6. Ⅵ. 2016；14. Ⅵ. 2016；19. Ⅶ. 2016

100 *. ニイジマトラカミキリ *Xylotrechus emaciatus* Bates, 1884
各種の伐採枝や粗朶にやや普通．
④蘓武，3exs. 4. Ⅷ. 2017；1ex. 9. Ⅶ. 2013．⑧兎和野，1ex. 4. Ⅶ. 2023；1ex. 26. Ⅵ. 2021；1ex. 21. Ⅶ. 2021；1ex. 16. Ⅶ. 2020．⑫小代峠，1ex. 12. Ⅶ. 2014．⑭加保坂峠，1ex. 9. Ⅶ. 2024．⑰若杉峠，1ex. 29. Ⅶ. 2014．㉑赤西，1ex. 8. Ⅸ. 2014

101. ブドウトラカミキリ *Xylotrechus pyrrhoderus* Bates, 1873
山地のヤマブドウの生葉．やや少ない．
①御崎，1ex. 2. Ⅷ. 2021．⑮氷ノ山，1ex. 4. Ⅸ. 2012；1ex. 5. Ⅸ. 2012

102 *. ウスイロトラカミキリ *Xylotrechus cuneipennis* (Kraatz, 1879)
山地の各種の伐採木や倒木にやや普通．
④蘓武，1ex. 23. Ⅶ. 2021；3exs. 4. Ⅷ. 2017；2exs. 2. Ⅶ. 2013；2exs. 9. Ⅶ. 2013．⑧兎和野，1ex. 16. Ⅶ. 2020；1ex. 12. Ⅶ. 2018；3exs. 3. Ⅷ. 2017．⑩ハチ北，1ex. 11. Ⅶ. 2022；1ex. 11. Ⅶ. 2021

103. ズマルトラカミキリ *Xylotrechus lautus* (Matsushita, 1933)
各種伐採木や粗朶．沿岸部に多い．
①御崎，3exs. 10. Ⅴ. 2024；2exs. 1. Ⅴ. 2023；1ex. 4. Ⅴ. 2022；1ex. 23. Ⅴ. 2022．②城山, 1ex. 3. Ⅴ. 2021；1ex. 25. Ⅴ. 2021；1ex. 7. Ⅴ. 2020．三田市上本庄，1ex. 20. Ⅴ. 2018

104. アカネトラカミキリ *Brachyclytus singularis* Kraatz, 1879
山地のミズキ等の花．やや少ない．
④蘓武，3exs. 31. Ⅴ. 2021；1ex. 7. Ⅵ. 2020．⑮氷ノ山，1ex. 28. Ⅴ. 2020；1ex. 22. Ⅴ. 2019；1ex. 24. Ⅴ. 2016．㉔盤滝，1ex. 3. Ⅴ. 2019

105*．キスジトラカミキリ　*Cyrtoclytus caproides* (Bates, 1873)

各種の花のほか，伐採木に普通.

④蘓武，1ex. 9. Ⅵ. 2022；1ex. 5. Ⅷ. 2017．⑧兎和野，1ex. 21. Ⅵ. 2020；1ex. 17. Ⅶ. 2020；1ex. 21. Ⅵ. 2019；4exs. 17. Ⅵ. 2018．⑩ハチ北，2exs. 11. Ⅶ. 2021．⑮氷ノ山，1ex. 22. Ⅶ. 2014．⑯横行，1ex. 19. Ⅶ. 2016．⑰若杉峠，1ex. 25. Ⅵ. 2018；2exs. 29. Ⅶ. 2014．⑳音水，2exs. 23. Ⅶ. 2014．㉒虚空蔵山，1ex. 6. Ⅵ. 2016；1ex. 14. Ⅵ. 2016．㉓有馬富士，1ex. 4. Ⅵ. 2013；1ex. 2. Ⅶ. 2012

106*．シラケトラカミキリ　*Clytus melaenus* Bates, 1884

各種の花や伐採木．阪神間は多い.

④蘓武，1ex. 30. Ⅵ. 2015．⑧兎和野，1ex. 14. Ⅵ. 2021；1ex. 11. Ⅶ. 2016．㉒虚空蔵山，1ex. 22. Ⅴ. 2021；1ex. 9. Ⅵ. 2017；1ex. 6. Ⅵ. 2016．㉓有馬富士，1ex. 28. Ⅴ. 2022；1ex. 15. Ⅴ. 2021；1ex. 13. Ⅴ. 2016．宝塚市赤子谷，1ex. 16. Ⅴ. 2014．㉔盤滝，1ex. 8. Ⅴ. 2019．㉕甲山，1ex. 7. Ⅴ. 2017；1ex. 20. Ⅴ. 2016；1ex. 5. Ⅵ. 2013

107*．キンケトラカミキリ　*Clytus auripilis* Bates, 1884

山地のミズキ等の花．やや少ない.

①御崎，3exs. 3. Ⅴ. 2021；1ex. 29. Ⅴ. 2020．②城山，1ex. 10. Ⅴ. 2024．⑧兎和野，2exs. 23. Ⅴ. 2019；1ex. 24. Ⅴ. 2019．⑮氷ノ山，1ex. 24. Ⅴ. 2022；1ex. 26. Ⅴ. 2021

108．ヨコヤマトラカミキリ　*Epiclytus yokoyamai* (Kano, 1933)

クリやミズキ等の花．少ない．一度に複数頭が網に入ることがない.

④蘓武，1ex. 31. Ⅴ. 2021．⑮氷ノ山，1ex. 1. Ⅵ. 2021．㉒虚空蔵山，1ex. 20. Ⅴ. 2015．㉓有馬富士，1ex. 16. Ⅴ. 2012

109*．エグリトラカミキリ　*Humeromaculatus japonicus* (Chevrolat, 1863)

低山から山地まで各種の花や伐採木に普通.

①御崎，1ex. 19. Ⅵ. 2023．④蘓武，1ex. 9. Ⅵ. 2022；2exs. 4. Ⅷ. 2017；1ex. 2. Ⅶ. 2013；1ex. 9. Ⅶ. 2013．⑥上山，1ex. 26. Ⅶ. 2024．⑧兎和野，1ex. 14. Ⅵ. 2024；2exs. 10. Ⅵ. 2022；1ex. 17. Ⅵ. 2022；2exs. 14. Ⅵ. 2021．⑩ハチ北，1ex. 11. Ⅶ. 2022.；1ex. 3. Ⅶ. 2021；1ex. 11. Ⅶ. 2021；1ex. 22. Ⅵ. 2020．⑪鉢伏，2exs. 29. Ⅵ. 2015．⑰若杉峠，1ex. 17. Ⅶ. 2024；1ex. 25. Ⅵ. 2018；1ex. 18. Ⅶ. 2016．⑲三室山，1ex. 17. Ⅶ. 2023．⑳音水，2exs. 23. Ⅶ. 2014．㉒虚空蔵山，1ex. 28. Ⅵ. 2021；2exs. 9. Ⅵ. 2017；4exs. 6. Ⅵ. 2016．㉓有馬富士，1ex. 28. Ⅴ. 2022；1ex. 13. Ⅴ. 2016；2exs. 29. Ⅴ. 2014．㉔盤滝，2exs. 26. Ⅵ. 2017．㉕甲山，1ex. 28. Ⅴ. 2018；1ex. 13. Ⅵ. 2015；2exs. 5. Ⅵ. 2013；1ex. 25. Ⅵ. 2013；1ex. 7. Ⅶ. 2013

110．ヨツスジトラカミキリ　*Chorophorus quinquefasciatus quinquefasciatus* (Castelnau et Gory, 1841)

各種の花や伐採木．但馬沿岸部や阪神間に多い.

①御崎，1ex. 25. Ⅶ. 2024；2exs. 10. Ⅶ. 2022；1ex. 22. Ⅶ. 2021；3exs. 2. Ⅷ. 2021．㉕甲山，1ex. 28. Ⅶ. 2013．㉖北山，1ex. 14. Ⅶ. 2023

111．タケトラカミキリ　*Chlorophorus annularis* (Fabricius, 1787)

コンビニの灯．少ない．農業や生活資材として竹を備蓄する習慣が廃れ，里山からも減少か.

丹波市丹波口 CVS，1ex. 21. Ⅶ. 2014

112*．フタオビミドリトラカミキリ　*Chlorophorus muscosus muscosus* (Bates, 1873)

各種の花や伐採枝に普通．南方系だが沿岸部から内陸の山地まで広く分布.

①御崎，2exs. 10. Ⅶ. 2022；1ex. 25. Ⅵ. 2021；1ex. 22. Ⅶ. 2021；1ex. 2. Ⅷ. 2021．②城山，1ex. 25. Ⅵ. 2021．④蘓武，1ex. 12. Ⅶ. 2022；2exs. 9. Ⅶ. 2013．⑤相岡，1ex. 16. Ⅶ. 2020．⑧兎和野，2exs. 11. Ⅶ. 2014；1ex. 30. Ⅵ. 2013；1ex. 10. Ⅶ. 2013．⑩ハチ北，1ex. 2. Ⅶ. 2021．⑫小代峠，1ex. 28. Ⅶ. 2019．⑬琴弾峠，1ex. 15. Ⅵ. 2021；1ex. 2. Ⅶ. 2021．⑭加保坂峠，1ex. 9. Ⅶ. 2024；1ex. 3. Ⅶ. 2023．⑮氷ノ山，1ex. 29. Ⅶ. 2019；2exs. 22. Ⅶ. 2014．⑯横行，1ex. 19. Ⅶ. 2016；1ex. 23. Ⅷ. 2015．⑰若杉峠，1ex. 7. Ⅶ. 2024；4exs. 18. Ⅶ. 2016．⑳音水，1ex. 6. Ⅸ. 2021．㉑赤西，1ex. 5. Ⅸ. 2015．㉒虚空蔵山，2exs. 28. Ⅵ. 2021；1ex. 14. Ⅵ. 2016

113．トウキョウトラカミキリ　*Chlorophorus yedoensis* (Kano, 1933)

山地のミズキの花．少ない．一掬いで数十頭が網に入るトゲヒゲトラカミキリに混じって，一頭のみ動きが緩慢な本種を見出す.

⑮氷ノ山，1ex. 24. Ⅴ. 2016

114．ホソトラカミキリ　*Rhaphuma xenisca* (Bates, 1884)

ミズキやノリウツギ等の花．トゲヒゲトラカミキリに混じって得られる．やや少ない.

①御崎，1ex. 19. Ⅵ. 2023；1ex. 10. Ⅶ. 2022．④蘓武，1ex. 9. Ⅶ. 2013．⑥上山，1ex. 7. Ⅴ. 2020．⑧ 1ex. 14. Ⅵ. 2024；1ex. 26. Ⅵ. 2021；1ex. 15. Ⅶ. 2019．⑪鉢伏，1ex. 8. Ⅶ. 2024．⑮，氷ノ山，1ex. 18. Ⅵ. 2022；1ex. 29. Ⅶ. 2019；

1ex. 19. Ⅶ. 2016．⑰若杉峠，1ex. 17. Ⅶ. 2024；1ex. 29. Ⅶ. 2014．⑱青倉山，1ex. 18. Ⅵ. 2018．⑳音水，2exs. 23. Ⅶ. 2014．㉒虚空蔵山，1ex. 23. Ⅴ. 2024；2exs. 28. Ⅵ. 2021；1ex. 9. Ⅵ. 2017．㉓有馬富士，1ex. 21. Ⅶ. 2015

115*．ヒメクロトラカミキリ *Rhaphuma diminuta diminuta* (Bates, 1874)

低山から山地までカエデ等の花に最も普通.

①御崎，3. Ⅴ. 2021；29. Ⅴ. 2020．②城山，10. Ⅴ. 2024；14. Ⅵ. 2021．③奈佐，23. Ⅴ. 2022．⑧兎和野，2. Ⅴ. 2023；3. Ⅴ. 2022；10. Ⅵ. 2022；15. Ⅴ. 2020；17. Ⅶ. 2020．⑨東床尾山，2. Ⅴ. 2017．⑮氷ノ山，18. Ⅵ. 2022；26. Ⅴ. 2021；1. Ⅶ. 2013．⑱青倉山, 9. Ⅴ. 2017．㉒虚空蔵山, 2. Ⅴ. 2020．㉓有馬富士，29. Ⅳ. 2020；13. Ⅴ. 2016．三木山森林公園，15. Ⅳ. 2021．㉔盤滝，22. Ⅳ. 2021；17. Ⅳ. 2020；3. Ⅴ. 2019；8. Ⅴ. 2019．㉕甲山，19. Ⅳ. 2017；11. Ⅳ. 2016；15. Ⅳ. 2016；23. Ⅳ. 2014．神戸市藍那, 23. Ⅳ. 2013

116*．カンボウトラカミキリ本土亜種 *Rhabdoclytus acutivittis inscriptus* (Bates, 1884)

山地のゴトウヅルやシナノキ等の花．やや少ない.

⑦畑ケ平，1ex. 11. Ⅶ. 2022．⑧兎和野，1ex. 18. Ⅶ. 2023．⑮氷ノ山，1ex. 15. Ⅴ. 2024

117*．キイロトラカミキリ *Grammographus notabilis notabilis* (Pascoe, 1862)

低山から山地まで各種の花や伐採木に普通．伐採木上に多数，徘徊.

①御崎，1ex. 23. Ⅴ. 2022；1ex. 3. Ⅴ. 2021；1ex. 25. Ⅴ. 2021；1ex. 29. Ⅴ. 2020．④蘓武, 1ex. 9. Ⅵ. 2022．⑧兎和野, 1ex. 10. Ⅵ. 2022；1ex. 14. Ⅵ. 2021；1ex. 23. Ⅴ. 2019；2exs. 21. Ⅵ. 2019；1ex. 5. Ⅶ. 2019．⑪鉢伏，1ex. 30. Ⅵ. 2015．㉒虚空蔵山，2exs. 6. Ⅵ. 2016；1ex. 14. Ⅵ. 2016；1ex. 20. Ⅴ. 2015．㉔盤滝，1ex. 15. Ⅴ. 2016

118*．トゲヒゲトラカミキリ *Demonax transilis* Bates, 1884

低山から山地まで各種の花や伐採木に最も普通．トラカミキリの最優占種.

④蘓武，5. Ⅷ. 2017；2. Ⅶ. 2013；9. Ⅶ. 2013．⑧兎和野，4. Ⅴ. 2021；23. Ⅴ. 2019；25. Ⅵ. 2018．⑨東床尾山，8. Ⅴ. 2017；8. Ⅴ. 2015；19. Ⅴ. 2014．⑪鉢伏，29. Ⅵ. 2015．⑮氷ノ山，22. Ⅴ. 2019；24. Ⅴ. 2018；17. Ⅵ. 2017．⑯横行，19. Ⅶ. 2016．⑰若杉峠，18. Ⅶ. 2016．⑱青倉山，9. Ⅴ. 2017；19. Ⅵ. 2017．⑳音水，23. Ⅶ. 2014．㉑赤西，30. Ⅴ. 2012．㉒虚空蔵山，15. Ⅴ. 2018；20. Ⅴ. 2015．㉓有馬富士，29. Ⅳ. 2020；13. Ⅴ. 2016；13. Ⅴ. 2015．三木山森林公園，15. Ⅳ. 2021．㉔盤滝，22. Ⅳ. 2021；22. Ⅳ. 2018；30. Ⅳ. 2018；12. Ⅴ. 2017；26. Ⅵ. 2017．㉕甲山，15. Ⅳ. 2016；23. Ⅳ. 2014；4. Ⅴ. 2012．六甲山，13. Ⅴ. 2012

119*．シロトラカミキリ *Paraclytus excultus* Bates, 1884

山地のカエデやウワミズザクラ，ミズキ等の花に普通.

④蘓武，1ex. 22. Ⅴ. 2022；1ex. 9. Ⅵ. 2022；1ex. 31. Ⅴ. 2021；1ex. 7. Ⅵ. 2020．⑥上山，1ex. 7. Ⅴ. 2020．⑦畑ケ平，1ex. 30. Ⅴ. 2021．⑧兎和野，1ex. 4. Ⅴ. 2021；1ex. 14. Ⅵ. 2021；1ex. 15. Ⅴ. 2020；1ex. 22. Ⅴ. 2016；1ex. 23. Ⅴ. 2016．⑮氷ノ山，1ex. 24. Ⅴ. 2022；1ex. 26. Ⅴ. 2021；1ex. 14. Ⅴ. 2020；1ex. 28. Ⅴ. 2020

120*．スギノアカネトラカミキリ *Anaglyptus subfasciatus* Pic, 1906

スギ林の近くのカエデやミズキ等の花にやや普通.

①御崎，2exs. 1. Ⅴ. 2023．④蘓武，1ex. 9. Ⅵ. 2022；2exs. 31. Ⅴ. 2021．⑤相岡，1ex. 16. Ⅴ. 2024．⑧兎和野，1ex. 2. Ⅴ. 2023；3exs. 24. Ⅵ. 2021；1ex. 21. Ⅵ. 2020．⑨東床尾山，1ex. 8. Ⅴ. 2015．⑩ハチ北，1ex. 4. Ⅴ. 2021；1ex. 26. Ⅵ. 2021．⑫小代峠，1ex. 7. Ⅶ. 2019．⑬琴弾峠，2exs. 15. Ⅴ. 2024．⑮氷ノ山，1ex. 24. Ⅴ. 2022；1ex. 18. Ⅵ. 2022；2exs. 26. Ⅴ. 2021；3exs. 1. Ⅵ. 2021；1ex. 19. Ⅶ. 2016．⑯横行，1ex. 25. Ⅵ. 2019；1ex. 19. Ⅶ. 2016．⑰若杉峠，1ex. 18. Ⅶ. 2024．㉒虚空蔵山，1ex. 2. Ⅴ. 2020；1ex. 20. Ⅴ. 2015

121*．トガリバアカネトラカミキリ *Anaglyptus niponensis* Bates, 1884

山地のカエデやミズキ等の花．やや少ない.

①御崎，1ex. 19. Ⅵ. 2023；1ex. 3. Ⅴ. 2021；1ex. 29. Ⅴ. 2020．④蘓武，1ex. 2. Ⅵ. 2024．⑦畑ケ平，1ex. 10. Ⅶ. 2022．⑧兎和野，1ex. 27. Ⅴ. 2013．⑮氷ノ山，1ex. 26. Ⅴ. 2021

122*．マツシタトラカミキリ *Anaglyptus matsushitai* Hayashi, 1955

山地のミズキやノリウツギ等の花にやや普通.

④蘓武, 1ex. 9. Ⅴ. 2024；1ex. 2. Ⅶ. 2013．⑥上山, 1ex. 30. Ⅶ. 2019．⑧兎和野，3exs. 10. Ⅵ. 2022；5exs. 5. Ⅵ. 2020；1ex. 16. Ⅶ. 2020；4exs. 23. Ⅴ. 2019．⑩ハチ北，1ex. 21. Ⅶ. 2021．⑪鉢伏，1ex. 24. Ⅵ. 2024；1ex. 8. Ⅶ. 2024．⑮氷ノ山, 1ex. 28. Ⅴ. 2020；1ex. 29. Ⅶ. 2019．⑯横行, 1ex. 19. Ⅶ. 2016

123．アカジマトラカミキリ *Akajimatora bellus* (Matsumura et Matsushita, 1933)

山地のケヤキ古木群付近のイタドリの花．産地は限定．少ない．各地のケヤキを訪ね歩いて３年目，イタドリの白い花に鮮やかな赤い虫影を見出した時は手も心も震えた．
⑮氷ノ山, 1ex. 7. Ⅸ. 2021．㉑赤西, 2exs. 10. Ⅸ. 2023；1ex. 5. Ⅸ. 2015

フトカミキリ亜科

124*．シロオビゴマフカミキリ　*Falsomesosella gracilior* (Bates, 1884)
低山から山地まで各種の伐採枝や粗朶に普通．
①御崎，1ex. 10. Ⅴ. 2024；1ex. 3. Ⅵ. 2024；3exs. 19. Ⅵ. 2023；2exs. 4. Ⅴ. 2022；3exs. 23. Ⅴ. 2022；1ex. 9. Ⅵ. 2022；1ex. 10. Ⅶ. 2022．②城山, 1ex. 3. Ⅴ. 2022；1ex. 3. Ⅴ. 2021；1ex. 14. Ⅵ. 2021；1ex. 29. Ⅴ. 2020. ④蘓武, 1ex. 9. Ⅶ. 2013．⑧兎和野，1ex. 17. Ⅵ. 2018；2exs. 17. Ⅶ. 2012．仏ノ尾林道，1ex. 2. Ⅶ. 2013．⑮氷ノ山，1ex. 29. Ⅶ. 2019；1ex. 22. Ⅶ. 2014．㉓有馬富士，2exs. 13. Ⅴ. 2015

125*．ゴマフカミキリ　*Mesosa japonica* Bates, 1873
各種の伐採木や太い枯蔓に普通．
①御崎，1ex. 1. Ⅴ. 2023；1ex. 4. Ⅴ. 2022；1ex. 3. Ⅴ. 2021；1ex. 25. Ⅴ. 2021．②城山，2exs. 7. Ⅴ. 2020．④蘓武，1ex. 9. Ⅵ. 2022；1ex. 2. Ⅶ. 2013．神鍋高原，2exs. 11. Ⅵ. 2012．⑧兎和野，1ex. 21. Ⅵ. 2019；1ex. 12. Ⅵ. 2017；1ex. 25. Ⅴ. 2015．㉒虚空蔵山，1ex. 22. Ⅴ. 2021；2exs. 20. Ⅴ. 2015．㉓有馬富士，1ex. 28. Ⅴ. 2013；1ex. 4. Ⅵ. 2013

126．チャゴマフカミキリ　*Mesosa perplexa* Pascoe, 1858
阪神間への移入種．産地は限定．公園のフジ棚の蔓．
南芦屋浜，1ex. 27. Ⅵ. 2024

127．カタシロゴマフカミキリ　*Mesosa hirsuta hirsuta* Bates, 1884
山地の各種の伐採木．やや少ない．
①御崎，3exs. 2. Ⅷ. 2021．⑤相岡，1ex. 22. Ⅶ. 2021

128*．ナガゴマフカミキリ　*Mesosa longipennis* Bates, 1873
低山から山地まで，各種の伐採木に普通．
①御崎，1ex. 19. Ⅵ. 2023．④蘓武，1ex. 23. Ⅶ. 2021；1ex. 9. Ⅶ. 2013．⑤相岡，1ex. 3. Ⅶ. 2021．⑧兎和野，1ex. 4. Ⅶ. 2023；1ex. 11. Ⅶ. 2021；1ex. 21. Ⅶ. 2021；1ex. 21. Ⅵ. 2020．⑬琴弾峠，1ex. 12. Ⅶ. 2021．⑮氷ノ山，1ex. 22. Ⅶ. 2014．㉕甲山，1ex. 15. Ⅶ. 2014；1ex. 30. Ⅵ. 2012

129*．タテスジゴマフカミキリ　*Mesosa senilis* Bates, 1884
山地の各種の伐採木 (兎和野ではナナカマドから羽脱)．やや少ない．
④蘓武，1ex. 2. Ⅶ. 2013．⑧兎和野 (材)，1ex. 9. Ⅹ. 2022．⑩ハチ北，1ex. 23. Ⅵ. 2022．㉒虚空蔵山，1ex. 20. Ⅴ. 2015

130．シナノクロフカミキリ　*Asaperda agapanthina agapanthina* Bates, 1873
山地の伐採木や枯枝．やや少ない．
⑥上山，1ex. 6. Ⅶ. 2019．⑦畑ケ平，1ex. 13. Ⅵ. 2024．⑩ハチ北，1ex. 22. Ⅵ. 2020

131*．キクスイモドキカミキリ　*Asaperda rufipes rufipes* Bates, 1873
低山から山地まで，各種の伐採木，枯枝に普通．
①御崎，1ex. 10. Ⅴ. 2024；1ex. 3. Ⅵ. 2024；1ex. 4. Ⅴ. 2022；1ex. 23. Ⅴ. 2022；3exs. 29. Ⅴ. 2020．②城山，1ex. 19. Ⅵ. 2023；1ex. 7. Ⅴ. 2020；2exs. 29. Ⅴ. 2020；1ex. 30. Ⅴ. 2020．③奈佐, 2exs. 31. Ⅴ. 2021．④蘓武, 1ex. 7. Ⅵ. 2020；1ex. 26. Ⅴ. 2015. ⑤相岡, 1ex. 10. Ⅵ. 2022；1ex. 6. Ⅵ. 2020．⑥上山, 1ex. 16. Ⅵ. 2022；2exs. 6. Ⅶ. 2019．⑧兎和野, 1ex. 18. Ⅵ. 2023；1ex. 23. Ⅵ. 2022；1ex. 21. Ⅵ. 2020；2exs. 23. Ⅵ. 2020．⑩ハチ北，1ex. 17. Ⅵ. 2022．⑪鉢伏，1ex. 12. Ⅵ. 2024．⑮氷ノ山，1ex. 22. Ⅴ. 2023；2exs. 26. Ⅴ. 2021；2exs. 28. Ⅴ. 2020．㉓有馬富士，1ex. 28. Ⅴ. 2022；1ex. 13. Ⅵ. 2022；2exs. 13. Ⅴ. 2015；1ex. 28. Ⅴ. 2013．三木山森林公園，1ex. 15. Ⅳ. 2021．㉔盤滝，1ex. 21. Ⅴ. 2024；2exs. 30. Ⅳ. 2018；1ex. 26. Ⅵ. 2017．㉕甲山，1ex. 5. Ⅵ. 2013；1ex. 7. Ⅵ. 2013

132*．コブスジサビカミキリ　*Atimura japonica* Bates, 1873
低山から山地まで各種の伐採枝や枯蔓に普通．
①御崎，2exs. 3. Ⅵ. 2024；1ex. 1. Ⅴ. 2023；1ex. 4. Ⅴ. 2022；1ex. 23. Ⅴ. 2022．②城山，1ex. 3. Ⅴ. 2021；1ex. 14. Ⅵ. 2021；1ex. 2. Ⅷ. 2021；3exs. 7. Ⅴ. 2020；1ex. 29. Ⅴ. 2020．⑤相岡，1ex. 6. Ⅵ. 2020．⑧兎和野，1ex. 3. Ⅴ. 2022；1ex. 17. Ⅵ. 2022；1ex. 15. Ⅴ. 2020；2exs. 18. Ⅵ. 2017．⑭加保坂峠, 1ex. 24. Ⅵ. 2022．⑮氷ノ山, 1ex. 26. Ⅴ. 2021．㉔盤滝，1ex. 30. Ⅳ. 2018；1ex. 12. Ⅴ. 2017

133．クビジロカミキリ　*Xylariopsis mimica* Bates, 1884
山地のオオツルウメモドキの蔓．少ない．
ツルウメモドキを見れば掬っていたが，オオツルウメモドキから得た．枯淡の味わいを極めた渋い色調と，脚先から触覚の端まで一部の隙もない擬態の見事さに脱帽．
⑬琴弾峠 , 1ex. 13. Ⅵ. 2024；⑮氷ノ山 , 1ex. 7. Ⅶ. 2024

134. ヒシカミキリ　*Microlera ptinoides* Bates, 1873
低山の枯蔓．産地は限定的．
三田市上本庄，1ex. 20. Ⅴ. 2018．㉔盤滝，1ex. 21. Ⅴ. 2024；1ex. 14. Ⅴ. 2021；1ex. 18. Ⅵ. 2021；1ex. 30. Ⅳ. 2018；1ex. 12. Ⅴ. 2018

135*. クリチビカミキリ　*Sybra kuri* Ohbayashi et Hayashi, 1962
山地のクリ等の花や枯枝．やや少ない．
①御崎，1ex. 9. Ⅵ. 2022；1ex. 25. Ⅵ. 2021．④蘓武，1ex. 9. Ⅵ. 2022．⑤相岡，1ex. 16. Ⅴ. 2024．⑧兎和野，1ex. 17. Ⅵ. 2018；1ex. 13. Ⅶ. 2018．㉒虚空蔵山，1ex. 28. Ⅵ. 2021

136*. シロオビチビカミキリ　*Sybra subfasciata subfasciata* (Bates, 1884)
低山から山地まで各種の伐採枝や粗朶，枯蔓に普通．
②城山，1ex. 3. Ⅵ. 2024．久斗山南西麓，1ex. 8. Ⅴ. 2020．③奈佐，1ex. 13. Ⅵ. 2024；2exs. 23. Ⅴ. 2022．④蘓武，1ex. 9. Ⅶ. 2013．⑤相岡，1ex. 22. Ⅶ. 2021．⑥上山，1ex. 9. Ⅷ. 2022；1ex. 30. Ⅶ. 2019．⑧兎和野，1ex. 4. Ⅶ. 2023；1ex. 21. Ⅶ. 2021；1ex. 13. Ⅶ. 2018．⑪鉢伏，2exs. 8. Ⅶ. 2024．⑫小代峠，1ex. 28. Ⅶ. 2019．⑭加保坂峠，1ex. 3. Ⅶ. 2023．⑮氷ノ山，2exs. 7. Ⅶ. 2024；1ex. 29. Ⅶ. 2019；2exs. 22. Ⅶ. 2014．⑰若杉峠，1ex. 18. Ⅶ. 2016；1ex. 29. Ⅶ. 2014．⑲三室山，2exs. 17. Ⅶ. 2023．㉖北山 (材)，1ex. 20. Ⅴ. 2024

137*. タテジマカミキリ　*Aulaconotus pachypezoides* Thomson, 1864
山地のハリギリ , タラノキの樹幹．やや少ない．
②城山 , 1ex. 25. Ⅵ. 2021．⑧兎和野 , 1ex. 11. Ⅶ. 2014

138*. ハスオビヒゲナガカミキリ　*Cleptometopus bimaculatus* (Bates, 1873)
低山から山地まで各種の伐採木や枯枝．やや少ない．
②城山, 1ex. 25. Ⅵ. 2021．⑧兎和野, 1ex. 4. Ⅶ. 2023．㉕甲山, 1ex. 24. Ⅵ. 2013

139*. ドウボソカミキリ　*Pseudocalamobius japonicus* (Bates, 1873)
山地の各種の伐採枝や枯枝，枯蔓．やや少ない．
①御崎，1ex. 4. Ⅴ. 2022；2exs. 29. Ⅴ. 2020．④蘓武，1ex. 7. Ⅵ. 2020．⑤相岡，1ex. 13. Ⅵ. 2024．⑧兎和野，1ex. 9. Ⅴ. 2024；2exs. 13. Ⅴ. 2020

140*. ミヤマドウボソカミキリ　*Pseudocalamobius montanus* Hayashi, 1951
山地のゴトウヅルの枯枝や各種の伐採枝．やや少ない．
④蘓武，1ex. 22. Ⅴ. 2022．⑧兎和野，1ex. 5. Ⅵ. 2020；1ex. 29. Ⅵ. 2015．⑩ハチ北，1ex. 2. Ⅶ. 2021．⑪鉢伏，1ex. 24. Ⅵ. 2021．⑫小代峠，1ex. 7. Ⅶ. 2019．⑮氷ノ山，1ex. 18. Ⅵ. 2022

141. シロスジドウボソカミキリ　*Pothyne annulata annulata* Breuning, 1942
枯枝や枯蔓．産地は沿岸部に限定．少ない．
②城山，1ex. 19. Ⅵ. 2023

142. ニイジマチビカミキリ　*Egesina* (*Niijimaia*) *bifasciana bifasciana* (Matsushita, 1933)
低山から山地まで各種の枯枝や伐採枝，粗朶に普通．
①御崎，3exs. 3. Ⅵ. 2024；1ex. 19. Ⅵ. 2023；1ex. 10. Ⅶ. 2022．②城山，2exs. 19. Ⅵ. 2023；2exs. 14. Ⅵ. 2021；2exs. 25. Ⅵ. 2021；1ex. 30. Ⅴ. 2020．⑤相岡，2exs. 10. Ⅵ. 2022；1ex. 3. Ⅶ. 2021．⑩ハチ北，2exs. 4. Ⅵ. 2024．⑬琴弾峠，1ex. 13. Ⅵ. 2024；1ex. 18. Ⅵ. 2022；1ex. 2. Ⅶ. 2021．㉒虚空蔵山，1ex. 9. Ⅵ. 2017．㉓有馬富士，1ex. 9. Ⅵ. 2020；1ex. 9. Ⅶ. 2018

143*. ヒメナガサビカミキリ　*Pterolophia leiopodina* (Bates, 1873)
低山から山地まで各種の伐採枝や枯枝，粗朶に普通．
①御崎，1ex. 10. Ⅴ. 2024；1ex. 1. Ⅴ. 2023；4exs. 23. Ⅴ. 2022；1ex. 9. Ⅵ. 2022；1ex. 10. Ⅶ. 2022．②城山，1ex. 3. Ⅵ. 2024．④蘓武，1ex. 2. Ⅵ. 2024；1ex. 9. Ⅵ. 2022．⑥上山，1ex. 30. Ⅶ. 2019．⑦畑ケ平，1ex. 16. Ⅵ. 2022．⑧兎和野，2exs. 18. Ⅵ. 2023；1ex. 23. Ⅵ. 2022；1ex. 5. Ⅵ. 2020；1ex. 21. Ⅵ. 2020．⑪鉢伏，1ex. 12. Ⅵ. 2024；1ex. 24. Ⅵ. 2024；1ex. 8. Ⅶ. 2024；2exs. 29. Ⅵ. 2015．⑬琴弾峠，1ex. 3. Ⅶ. 2023；1ex. 18. Ⅵ. 2022．⑭加保坂峠，1ex. 24. Ⅵ. 2022．⑮氷ノ山，1ex. 7. Ⅶ. 2024；1ex. 26. Ⅴ. 2021；1ex. 1. Ⅵ. 2021．三田市上本庄，1ex. 19. Ⅶ. 2020；3exs. 20. Ⅴ. 2018．㉓有馬富士，1ex. 3. Ⅵ. 2022；1ex. 13. Ⅴ. 2016；1ex. 13. Ⅴ. 2015；1ex. 21. Ⅶ. 2015．㉔盤滝，1ex. 18. Ⅵ. 2021；2exs. 12. Ⅴ. 2018；1ex. 16. Ⅴ. 2017

144*. アトジロサビカミキリ　*Pterolophia zonata* (Bates, 1873)
低山から山地まで各種の伐採枝や枯枝，粗朶に普通．
①御崎，1ex. 23. Ⅴ. 2022；1ex. 9. Ⅵ. 2022；1ex. 10. Ⅶ. 2022；1ex. 14. Ⅵ. 2021；1ex. 25. Ⅵ. 2021；1ex. 29. Ⅴ. 2020．②城山, 1ex. 10. Ⅴ. 2024；1ex. 3. Ⅵ. 2024；1ex. 19. Ⅵ. 2023；1ex. 23. Ⅴ. 2022．④蘓武，1ex. 9. Ⅵ. 2022；2exs. 12. Ⅶ. 2014．⑤相岡，1ex. 16. Ⅶ. 2020．⑥上山，1ex. 6. Ⅵ. 2020．⑦畑ケ平，1ex. 16. Ⅵ. 2022．⑧兎和野，1ex. 18. Ⅶ. 2023；1ex. 17. Ⅵ. 2022；1ex. 11. Ⅶ. 2021．⑩ハチ北，1ex. 20. Ⅵ. 2023．⑪鉢伏，1ex. 12. Ⅵ. 2024．⑮氷ノ

山，1ex. 26. Ⅴ. 2021．⑱青倉山，1ex. 9. Ⅴ. 2017．㉑赤西，1ex. 30. Ⅴ. 2012．三田市上本庄，1ex. 20. Ⅴ. 2018．㉓有馬富士，1ex. 28. Ⅴ. 2022；1ex. 9. Ⅵ. 2020；2exs. 13. Ⅴ. 2016．㉔盤滝，1ex. 18. Ⅵ. 2021；1ex. 26. Ⅵ. 2017；1ex. 10. Ⅵ. 2015．㉕甲山，1ex. 5. Ⅵ. 2013；1ex. 25. Ⅵ. 2013

145 *．クリサビカミキリ *Pterolophia castaneivora* Ohbayashi et Hayashi, 1962

山地の伐採枝や枯枝．やや少ない．

③奈佐，1ex. 31. Ⅴ. 2021．④蘓武，1ex. 12. Ⅵ. 2024．⑧兎和野，1ex. 14. Ⅵ. 2021；1ex. 17. Ⅵ. 2018；1ex. 12. Ⅶ. 2018；1ex. 13. Ⅶ. 2018；1ex. 3. Ⅷ. 2017．⑪鉢伏，1ex. 12. Ⅵ. 2024

146 *．エゾサビカミキリ *Pterolophia tsurugiana* (Matsushita, 1934)

山地の伐採枝や枯枝，枯蔓．やや少ない．

⑦畑ケ平，1ex. 11. Ⅶ. 2022．⑧兎和野，1ex. 18. Ⅵ. 2023；1ex. 27. Ⅴ. 2013．⑭加保坂峠，1ex. 3. Ⅶ. 2023．⑮氷ノ山，1ex. 7. Ⅶ. 2024

147 *．トガリシロオビサビカミキリ *Pterolophia caudata caudata* (Bates, 1873)

低山から山地まで各種の伐採枝や枯枝，枯蔓に普通．

①御崎，1ex. 19. Ⅵ. 2023；1ex. 23. Ⅴ. 2022；1ex. 9. Ⅵ. 2022；1ex. 14. Ⅵ. 2021；1ex. 25. Ⅵ. 2021；1ex. 22. Ⅶ. 2021．1ex. 2. Ⅷ. 2021．②城山，1ex. 10. Ⅶ. 2022；1ex. 14. Ⅵ. 2021；1ex. 2. Ⅷ. 2021．⑤相岡，1ex. 16. Ⅶ. 2020．⑦畑ケ平，1ex. 11. Ⅶ. 2022；1ex. 16. Ⅵ. 2022．⑧兎和野，1ex. 16. Ⅶ. 2020；1ex. 5. Ⅶ. 2019；1ex. 17. Ⅵ. 2018；1ex. 12. Ⅶ. 2018．⑫小代峠，1ex. 28. Ⅶ. 2019．⑭加保坂峠，1ex. 3. Ⅶ. 2023．⑮氷ノ山，1ex. 22. Ⅶ. 2014．⑰若杉峠，1ex. 18. Ⅶ. 2016；1ex. 29. Ⅶ. 2014．㉑赤西，1ex. 8. Ⅸ. 2014．㉓有馬富士，1ex. 4. Ⅵ. 2013；1ex. 30. Ⅶ. 2013；1ex. 2. Ⅶ. 2012．淡路島先山，1ex. 19. Ⅷ. 2022；1ex. 20. Ⅷ. 2022

148 *．アトモンサビカミキリ *Pterolophia granulata* (Motschulsky, 1866)

低山から山地まで各種の伐採木や枯枝，枯蔓に普通．

①御崎，2exs. 4. Ⅴ. 2022；1ex. 14. Ⅵ. 2021．②城山，1ex. 3. Ⅴ. 2022；3exs. 7. Ⅴ. 2020；1ex. 29. Ⅴ. 2020．③奈佐，1ex. 31. Ⅴ. 2021．④蘓武，1ex. 31. Ⅴ. 2021．⑤相岡，1ex. 6. Ⅵ. 2020．⑦畑ケ平，1ex. 30. Ⅴ. 2021．⑧兎和野，2exs. 13. Ⅴ. 2020；2exs. 5. Ⅵ. 2020；1ex. 21. Ⅵ. 2019；1ex. 5. Ⅶ. 2019；1ex. 15. Ⅶ. 2019；1ex. 25. Ⅵ. 2018；1ex. 13. Ⅶ. 2018．仏ノ尾林道，1ex. 2. Ⅶ. 2013．⑨東床尾山，1ex. 8. Ⅴ. 2017．⑭加保坂峠，1ex. 24. Ⅵ. 2022．⑮氷ノ山，1ex. 4. Ⅸ. 2012．㉒虚空蔵山，1ex. 20. Ⅴ. 2015．三田市上本庄，1ex. 20. Ⅴ. 2018．㉓有馬富士，1ex. 13. Ⅴ. 2015；1ex. 29. Ⅴ. 2014．㉔盤滝，1ex. 21. Ⅴ. 2024．㉕甲山，1ex. 17. Ⅵ. 2014；1ex. 21. Ⅴ. 2013

149 *．ナカジロサビカミキリ *Pterolophia* (*Ale*) *jugosa jugosa* (Bates, 1973)

低山から山地まで各種の伐採枝や枯枝，枯蔓にやや普通．

④蘓武，1ex. 31. Ⅴ. 2021；1ex. 2. Ⅶ. 2013；1ex. 9. Ⅶ. 2013．⑧兎和野，1ex. 17. Ⅵ. 2018；4exs. 11. Ⅶ. 2014．三田市上本庄，1ex. 20. Ⅴ. 2018．㉓有馬富士，1ex. 9. Ⅵ. 2020；1ex. 13. Ⅴ. 2016；3exs. 13. Ⅴ. 2015

150 *．ワモンサビカミキリ *Pterolophia* (*Hylobrotus*) *annulata* (Chevrolat, 1845)

低山から山地まで各種の伐採枝や枯枝，枯蔓にやや普通．

①御崎，1ex. 1. Ⅴ. 2023．②城山，2exs. 14. Ⅵ. 2021；1ex. 29. Ⅴ. 2020．⑧兎和野，1ex. 12. Ⅵ. 2017．⑬琴弾峠，1ex. 15. Ⅵ. 2021．㉒虚空蔵山，1ex. 23. Ⅴ. 2024．三田市上本庄，1ex. 19. Ⅶ. 2020．㉓有馬富士，2exs. 13. Ⅴ. 2015；1ex. 28. Ⅴ. 2013．㉔盤滝，1ex. 15. Ⅴ. 2016

151 *．クワサビカミキリ *Mesosella simiola* Bates, 1884

山地の各種の伐採枝や枯枝．やや少ない．

⑧兎和野，1ex. 16. Ⅴ. 2024；1ex. 27. Ⅴ. 2013；1ex. 30. Ⅵ. 2013．⑩ハチ北，1ex. 11. Ⅶ. 2021．㉒虚空蔵山，1ex. 9. Ⅵ. 2017

152．ハイイロヤハズカミキリ *Niphona furcata* (Bates, 1873)

ササ，タケ林付近の枯木．やや少ない．

②城山，1ex. 14. Ⅵ. 2021

153．ツチイロフトヒゲカミキリ *Dolophrades terrenus* Bates, 1884

アオキの枯落葉．産地は局所的．少ない．

淡路島先山，2exs. 19. Ⅷ. 2022

154 *．セダカコブヤハズカミキリ中国地方東部亜種 *Parechthistatus gibber daisen* Miyake et Tsuji, 1980

山地の落下した枯枝や枯葉の中．路上を歩行．上山高原ではタマゴタケの傘の裏に潜む．やや少ない．

④蘓武，1ex. 9. Ⅵ. 2022；1ex. 12. Ⅶ. 2014．⑥上山，1ex. 9. Ⅷ. 2022．⑧兎和野，1ex. 21. Ⅵ. 2020；1ex. 16. Ⅶ. 2020．⑮氷ノ山，1ex. 4. Ⅸ. 2012．⑰若杉峠，1ex. 4. Ⅵ. 2016

155．マヤサンコブヤハズカミキリ *Parechthistatus* (*Mesechthistatus*) *furcifer furcifer* (Bates, 1884)

山地の落下したホオノキの枯葉．産地は限定．少ない．

③奈佐，1ex. 21. X．2024

156 *．イタヤカミキリ　*Mecynippus pubicornis* Bates, 1884

山地のイタヤカエデ等の生葉．やや少ない．

⑧兎和野，1ex. 25. Ⅵ. 2018．⑩ハチ北，1ex. 21. Ⅶ. 2021

157．ヒゲナガカミキリ　*Monochamus grandis* Waterhouse, 1881

山地で夜間，宿の灯火に飛来．少ない．

⑰若杉峠，1ex. 6. Ⅸ. 2021

158 *．ヒメヒゲナガカミキリ　*Monochamus subfasciatus subfasciatus* (Bates, 1873)

低山から山地まで各種の伐採木や枯枝等に普通．

①御崎，1ex. 19. Ⅵ. 2023；1ex. 9. Ⅵ. 2022；2exs. 10. Ⅶ. 2022；1ex. 14. Ⅵ. 2021；1ex. 2. Ⅷ. 2021；1ex. 29. Ⅴ. 2020. ②城山, 1ex. 3. Ⅵ. 2024；1ex. 19. Ⅵ. 2023；1ex. 25. Ⅴ. 2021．④蘓武，2exs. 4. Ⅷ. 2017；1ex. 2. Ⅶ. 2013；1ex. 9. Ⅶ，2013．⑥上山，1ex. 6. Ⅶ. 2019．⑧兎和野，1ex. 17. Ⅵ. 2022；1ex. 21. Ⅶ. 2021；1ex. 26. Ⅳ. 2020；1ex. 23. Ⅵ. 2020；1ex. 16. Ⅶ. 2020．⑩ハチ北, 1ex. 17. Ⅵ. 2022．⑪鉢伏, 1ex. 29. Ⅵ. 2015．⑫小代峠，2exs. 7. Ⅶ. 2019；1ex. 12. Ⅶ. 2014．⑮氷ノ山，1ex. 19. Ⅶ. 2016；2exs. 1. Ⅶ. 2013；1ex. 5. Ⅸ. 2012．⑯横行, 1ex. 19. Ⅶ. 2016．㉓有馬富士, 1ex. 13. Ⅵ. 2022

159 *．ゴマダラカミキリ　*Anoplophora malasiaca* (Thomson, 1865)

柑橘類やクワ等の生木に普通．コンビニの灯にも．

②城山，1ex. 10. Ⅶ. 2022．⑧兎和野，1ex. 11. Ⅶ. 2016；1ex. 28. Ⅶ. 2014．養父市万久里 CVS，1ex. 24. Ⅵ. 2022．㉑赤西，1ex. 8. Ⅸ. 2014．㉓有馬富士，1ex. 21. Ⅶ. 2015；1ex. 30. Ⅶ. 2013；1ex. 2. Ⅶ. 2012．㉕甲山，1ex. 1. Ⅷ. 2013．㉖北山，1ex. 19. Ⅶ. 2024；1ex. 14. Ⅶ. 2023

160 *．センノキカミキリ　*Acalolepta luxuriosa luxuriosa* (Bates, 1873)

山地のタラノキの生木に普通．

①御崎，1ex. 2. Ⅷ. 2021．⑧兎和野，1ex. 14. Ⅵ. 2024；1ex. 17. Ⅵ. 2018；2exs. 13. 3. Ⅶ. 2018；2exs. Ⅷ. 2017．⑩ハチ北，1ex. 2. Ⅶ. 2021．⑪鉢伏，1ex. 29. Ⅵ. 2015．⑫小代峠，1ex. 28. Ⅶ. 2019．⑮氷ノ山，1ex. 22. Ⅶ. 2014

161 *．ビロウドカミキリ　*Acalolepta fraudatrix fraudatrix* (Bates, 1873)

低山から山地まで各種の伐採木や枯枝にやや普通．コンビニの灯．

①御崎, 1ex. 25. Ⅶ. 2024．④蘓武, 2exs. 12. Ⅶ. 2014；1ex. 9. Ⅶ. 2013．⑥上山，1ex. 9. Ⅷ. 2022；1ex. 6. Ⅶ. 2019．⑧兎和野，1ex. 16. Ⅶ. 2020；1ex. 17. Ⅶ. 2020；1ex. 11. Ⅶ. 2016；1ex. 23. Ⅷ. 2015．⑩ハチ北，1ex. 2. Ⅶ. 2021．養父市万久里 CVS，1ex. 24. Ⅵ. 2022．⑰若杉峠，1ex. 13. Ⅶ. 2014．㉓有馬富士，1ex. 13. Ⅵ. 2022．淡路島先山，1ex. 19. Ⅷ. 2022

162 *．ニセビロウドカミキリ　*Acalolepta sejuncta sejuncta* (Bates, 1873)

低山から山地まで各種の伐採木や枯枝にやや普通．

④蘓武，1ex. 9. Ⅶ. 2013．⑥上山，1ex. 6. Ⅶ. 2019．⑧兎和野，1ex. 18. Ⅶ. 2023；1ex. 16. Ⅶ. 2020；1ex. 11. Ⅶ. 2016．⑩ハチ北，1ex. 2. Ⅶ. 2021；1ex. 11. Ⅶ. 2021．⑭加保坂峠，1ex. 3. Ⅶ. 2023．⑮氷ノ山，1ex. 7. Ⅶ. 2024；17. Ⅶ. 2024；1ex. 22. Ⅶ. 2014．⑯横行，1ex. 19. Ⅶ. 2016．⑳音水，1ex. 23. Ⅶ. 2014．㉓有馬富士，1ex. 9. Ⅶ. 2018．㉔盤滝，1ex. 18. Ⅵ. 2021；1ex. 26. Ⅵ. 2017．淡路島先山，2exs. 19. Ⅷ. 2022；1ex. 20. Ⅷ. 2022

163 *．ヤハズカミキリ　*Uraecha bimaculata bimaculata* Thomson, 1864

山地の各種の伐採木や枯枝にやや普通．

①御崎，1ex. 25. Ⅵ. 2021；1ex. 22. Ⅶ. 2021．②城山，1ex. 14. Ⅵ. 2021．③奈佐，1ex. 25. Ⅵ，2024．④蘓武，1ex. 2. Ⅶ. 2013．⑤相岡，1ex. 3. Ⅶ. 2021．⑧兎和野，1ex. 16. Ⅶ. 2020；2exs. 17. Ⅶ. 2020；1ex. 13. Ⅶ. 2018；1ex. 11. Ⅶ. 2014．仏ノ尾林道，1ex. 2. Ⅶ. 2013．⑩ハチ北，1ex. 21. Ⅵ. 2019．⑮氷ノ山，2exs. 4. Ⅸ. 2012．⑰若杉峠，1ex. 18. Ⅶ. 2016

164 *．キボシカミキリ　*Psacothea hilaris hilaris* (Pascoe, 1857)

低山から山地までヤマグワの生葉に普通．

①御崎，1ex. 3. Ⅵ. 2024；1ex. 14. Ⅵ. 2021．②城山，1ex. 19. Ⅵ. 2023；1ex. 10. Ⅶ. 2022．⑤相岡，1ex. 3. Ⅶ. 2021．⑧兎和野，1ex. 23. Ⅵ. 2022；1ex. 15. Ⅶ. 2019；2exs. 8. Ⅶ. 2013．⑩ハチ北，1ex. 11. Ⅶ. 2021；1ex. 21. Ⅵ. 2019．⑪鉢伏，1ex. 5. Ⅶ. 2019．⑬琴弾峠，1ex. 3. Ⅶ. 2023；1ex. 8. Ⅷ. 2022．⑮氷ノ山，1ex. 1. Ⅶ. 2013；1ex. 4. Ⅸ. 2012．⑰若杉峠，1ex. 18. Ⅶ. 2016．㉑赤西，1ex. 24. Ⅷ. 2015．㉓有馬富士，1ex. 4. Ⅵ. 2013．㉕甲山，1ex. 23. Ⅶ. 2013．尼崎市猪名川公園，1ex. 7. Ⅶ. 2022

165．ホシベニカミキリ　*Eupromus ruber* (Dalman, 1817)

但馬沿岸部のタブノキの生木．六甲アイランドは植栽されたタブノキから発生．産地は限定．

①御崎，3exs. 29. Ⅴ. 2020．②城山，1ex. 29. Ⅴ. 2020．六甲アイランド，2exs. 28. Ⅴ. 2014

166 *．チャボヒゲナガカミキリ　*Xenicotela pardalina* (Bates, 1884)

山地の各種の伐採木や枯枝．やや少ない．

①御崎，2exs. 3. Ⅵ. 2024；1ex. 23. Ⅴ. 2022；1ex. 9. Ⅵ. 2022．⑧兎和野，1ex. 18. Ⅵ. 2017

167 *．クワカミキリ　*Apriona japonica* Thomson, 1878

山地のヤマグワの生葉．近年やや減少か．

②城山，1ex. 10. Ⅶ. 2022．⑧兎和野，1ex. 18. Ⅶ. 2023；1ex. 28. Ⅶ. 2014. ⑮氷ノ山, 1ex. 10. Ⅸ. 2013. ⑯横行, 1ex. 7. Ⅶ. 2024

168 *．シロスジカミキリ　*Batocera lineolata* Chevrolat, 1852

低山から山地まで．夜間，灯火に飛来．コンビニの灯．

⑧兎和野，1ex. 11. Ⅶ. 2021；1ex. 11. Ⅶ. 2014．養父市万久里 CVS，1ex. 6. Ⅶ. 2019．宝塚市桜の園，1ex. 25. Ⅴ. 2012

169．ヒゲナガゴマフカミキリ　*Palimna liturata liturata* (Bates, 1884)

山地の倒木や枯木. やや少ない. 木肌に溶け込む保護色が美しい.

④蘓武，1ex. 23. Ⅶ. 2021；1ex. 12. Ⅶ. 2014．⑮氷ノ山，1ex. 29. Ⅶ. 2019

☆ 170．ハラアカコブカミキリ　*Moechotypa diphysis* (Pascoe, 1871)

山地の各種の伐採木や倒木上を多数徘徊．路上を歩行．

かつての対馬特産種が，九州から本州を東進してすでに但馬に定着．

①御崎，1ex. 10. Ⅴ. 2024；1ex. 3. Ⅵ. 2024；2exs. 1. Ⅴ. 2023；1ex. 19. Ⅵ. 2023；1ex. 4. Ⅴ. 2022；2exs. 23. Ⅴ. 2022；2exs. 9. Ⅵ. 2022；2exs. 10. Ⅶ. 2022．④蘓武，1ex. 12. Ⅵ. 2024；2exs. 22. Ⅴ. 2022；4exs. 9. Ⅵ. 2022．⑥上山，1ex. 16. Ⅵ. 2022.

171 *．タカサゴシロカミキリ　*Olenecamptus formosanus* Pic, 1914

ノグルミの生葉．やや少ない．近縁の北方系の次種と同所的に分布．

⑤相岡，1ex. 22. Ⅶ. 2021；2exs. 16. Ⅶ. 2020．⑧兎和野，1ex. 4. Ⅶ. 2023；1ex. 24. Ⅵ. 2021

☆ 172 *．ヤツボシシロカミキリ　*Olenecamptus octopustulatus* (Motschulsky, 1873)

山地のツシマナナカマド (バラ科) 生葉．産地は局所的．少ない．

⑧兎和野，1ex. 14. Ⅵ. 2024；1ex. 20. Ⅵ. 2023；2exs. 4. Ⅶ. 2023；1ex. 17. Ⅵ. 2022；1ex. 11. Ⅶ. 2022；1ex. 14. Ⅵ. 2021；2exs. 24. Ⅵ. 2021；2exs. 26. Ⅵ. 2021；2exs. 2. Ⅶ. 2021；2exs. 3. Ⅶ. 2021；2exs. 11. Ⅶ. 2021；3exs. 21. Ⅶ. 2021；5exs. 27. Ⅵ. 2020；2exs. 16. Ⅶ. 2020

173．ムネホシシロカミキリ　*Olenecamptus clarus clarus* Pascoe, 1859

山地のヤマグワの生葉．産地は限定．やや少ない．コンビニの灯にも．

養父市万久里 CVS，1ex. 8. Ⅶ. 2024．⑬琴弾峠，1ex. 24. Ⅵ. 2024；2exs. 18. Ⅵ. 2022；2exs. 15. Ⅵ. 2021；1ex. 12. Ⅶ. 2021

174．オオシロカミキリ　*Olenecamptus cretaceus cretaceus* Bates, 1873

ムクノキの生葉．産地は限定．少ない．本州のシロカミキリ族は狭い地域でも生息か．

尼崎市猪名川公園，1ex. 7. Ⅶ. 2022

175．エゾナガヒゲカミキリ　*Hirtaeschopalaea nubila* (Matsushita, 1933)

山地のニガキの生木，枯枝．少ない．美妙な色調と特異なフォルム，気配をも消す徹底した擬死のポーズ，造化の妙を極めた絶品．

①御崎，1ex. 3. Ⅵ. 2024．⑭加保坂峠，1ex. 4. Ⅶ. 2023

176 *．セミスジコブヒゲカミキリ　*Rhodopina lewisii lewisii* (Bates, 1873)

低山から山地までのエゴノキタケ等の菌が付いた腐朽木や枯木．北山ではエゴノキタケを後食．

①御崎，1ex. 19. Ⅵ. 2023；2exs. 9. Ⅵ. 2022；1ex. 22. Ⅶ. 2021．②城山，1ex. 29. Ⅴ. 2020．③奈佐，1ex. 13. Ⅵ. 2024．⑤相岡，1ex. 6. Ⅵ. 2020．⑧兎和野，1ex. 5. Ⅶ. 2019；1ex. 25. Ⅵ. 2018；1ex. 8. Ⅶ. 2013．⑪鉢伏，1ex. 24. Ⅵ. 2024．⑫小代峠, 1ex. 12. Ⅶ. 2014．⑮氷ノ山, 1ex. 7. Ⅶ. 2024．⑲三室山，1ex. 18. Ⅶ. 2024；1ex. 17. Ⅶ. 2023．㉓有馬富士，1ex. 13. Ⅵ. 2022；1ex. 9. Ⅶ. 2018．㉖北山，1ex. 15. Ⅵ. 2015

177 *．ヒトオビアラゲカミキリ　*Rhopaloscelis unifasciatus* Blessig, 1873

低山から山地までアカメガシワ等の枯木や各種伐採枝，枯蔓に普通．

①御崎，1ex. 10. Ⅴ. 2024；1ex. Ⅴ. 2023；1ex. 4. Ⅴ. 2022；1ex. 23. Ⅴ. 2022. ②城山, 1ex. 3. Ⅴ. 2021；1ex. 25. Ⅴ. 2021；1ex. 30. Ⅴ. 2020．③奈佐，1ex. 23. Ⅴ. 2022．④蘓武，1ex. 22. Ⅴ. 2022；2exs. 26. Ⅴ. 2015．⑧兎和野，1ex. 18. Ⅵ. 2023；1ex. 3. Ⅴ. 2022；1ex. 17. Ⅵ. 2022；1ex. 13. Ⅴ. 2020．⑩ハチ北，1ex. 17. Ⅵ. 2022．⑭加保坂峠，1ex. 3. Ⅶ. 2023．⑮氷ノ山，1ex. 7. Ⅶ. 2024；1ex. 26. Ⅴ. 2021；

1ex. 28. Ⅴ. 2020. ㉒虚空蔵山，1ex. 15. Ⅴ. 2018；1ex. 6. Ⅵ. 2016. 三田市上本庄，1ex. 20. Ⅴ. 2018. ㉓有馬富士，1ex. 28. Ⅴ. 2022；1ex. 15. Ⅴ. 2021；1ex. 9. Ⅶ. 2018. ㉔盤滝，1ex. 12. Ⅴ. 2018；1ex. 12. Ⅴ. 2017. ㉕甲山，1ex. 17. Ⅵ. 2015；1ex. 22. Ⅵ. 2013

178*. フタモンアラゲカミキリ *Rhopaloscelis maculatus* Bates, 1877

山地の伐採枝や枯枝にやや普通.

①御崎 (材)，1ex. 10. Ⅴ. 2022. ③奈佐，1ex. 13. Ⅵ. 2024. ⑦畑ケ平，1ex. 11. Ⅶ. 2022. ⑧兎和野，1ex. 4. Ⅶ. 2023；1ex. 18. Ⅶ. 2023；1ex. 24. Ⅵ. 2021；1ex. 21. Ⅵ. 2020. ⑩ハチ北，1ex. 2. Ⅶ. 2021. ⑪鉢伏，1ex. 24. Ⅵ. 2024. ⑫小代峠，1ex. 7. Ⅶ. 2019. ⑮氷ノ山，1ex. 7. Ⅶ. 2024. ⑲三室山，1ex. 17. Ⅶ. 2023. ㉒虚空蔵山，1ex. 9. Ⅵ. 2017

179*. フタオビアラゲカミキリ *Arhopaloscelis bifasciatus* (Kraatz, 1879)

低山から山地まで伐採木や枯枝にやや普通.

① 御崎，1ex. 3. Ⅵ. 2024；2exs. 19. Ⅵ. 2023；1ex. 23. Ⅴ. 2022. ②城山，1ex. 3. Ⅵ. 2024. ④蘇武，1ex. 23. Ⅶ. 2021；1ex. 9. Ⅶ. 2013. ⑥上山，1ex. 16. Ⅵ. 2022；3exs. 6. Ⅶ. 2019. ⑧兎和野，1ex. 18. Ⅵ. 2023；1ex. 18. Ⅶ. 2023；1ex. 25. Ⅵ. 2018；1ex. 12. Ⅶ. 2018. ⑩ハチ北，1ex. 11. Ⅶ. 2021. ⑪鉢伏，2exs. 12. Ⅵ. 2024；1ex. 24. Ⅵ. 2024. ⑭加保坂峠，1ex. 3. Ⅶ. 2023. ⑮氷ノ山，1ex. 7. Ⅶ. 2024；1ex. 29. Ⅶ. 2019；1ex. 22. Ⅶ. 2014. ⑲三室山，3exs. 17. Ⅶ. 2017. 三田市上本庄，1ex. 20. Ⅴ. 2018. ㉓有馬富士，1ex. 4. Ⅵ. 2013

180. ジュウジクロカミキリ *Clytosemia pulchra* Bates, 1884

山地のオニグルミの枯枝．産地は限定的．少ない.

③奈佐，2exs. 23. Ⅴ. 2022；2exs. 31. Ⅴ. 2021

181. クモノスモンサビカミキリ *Graphidessa venata venata* Bates, 1884

山地の伐採木や枯枝．やや少ない.

③奈佐，1ex. 13. Ⅵ. 2024. ④蘇武，2exs. 26. Ⅴ. 2015. ⑥上山，1ex. 6. Ⅶ. 2019. ⑦畑ケ平，2exs. 30. Ⅴ. 2021. ⑪鉢伏，1ex. 8. Ⅶ. 2024. ⑫小代峠，1ex. 7. Ⅶ. 2019；1ex. 28. Ⅶ. 2019. ⑮氷ノ山，2exs. 22. Ⅴ. 2023；1ex. 22. Ⅴ. 2019

182*. カッコウカミキリ *Miccolamia cleroides* Bates, 1884

山地の各種の枯枝や枯蔓，粗朶．やや少ない.

⑧兎和野，2exs. 18. Ⅵ. 2023. ⑮氷ノ山，1ex. 26. Ⅴ. 2021

183. ミヤマチビコブカミキリ *Miccolamia* (*Isomiccolamia*) *glabricula glabricula* Bates, 1884

山地の枯枝や粗朶．やや少ない.

① 御崎，1ex. 10. Ⅴ. 2024. ④蘇武，1ex. 12. Ⅵ. 2024；2exs. 31. Ⅴ. 2021；1ex. 26. Ⅴ. 2015. ⑪鉢伏，2exs. 12. Ⅵ. 2024；1ex. 24. Ⅵ. 2024. ⑮氷ノ山，1ex. 7. Ⅶ. 2024；1ex. 17. Ⅶ. 2024；1ex. 22. Ⅴ. 2023；2exs. 26. Ⅴ. 2021

184*. ハイイロツツクビカミキリ *Cylindilla grisescens* Bates, 1884

山地のツルウメモドキ等の枯蔓や枯枝．やや少ない.

⑧兎和野，1ex. 17. Ⅵ. 2018. ⑭加保坂峠，1ex. 14. Ⅵ. 2024. ⑮氷ノ山，1ex. 28. Ⅴ. 2020；1ex. 22. Ⅴ. 2019；1ex. 17. Ⅵ. 2017

185*. ドイカミキリ *Mimectatina divaricata divaricata* (Bates, 1884)

山地の各種の枯枝や伐採枝に普通.

① 御崎，1ex. 10. Ⅴ. 2024. ③奈佐，1ex. 23. Ⅴ. 2022；2exs. 31. Ⅴ. 2021. ④蘇武，1ex. 9. Ⅴ. 2024；3exs. 22. Ⅴ. 2022；1ex. 31. Ⅴ. 2021. ⑥上山，4exs. 6. Ⅶ. 2019. ⑦畑ケ平，2exs. 30. Ⅴ. 2021. ⑧兎和野，1ex. 18. Ⅵ. 2023；1ex. 10. Ⅵ. 2022；1ex. 23. Ⅵ. 2022；2exs. 13. Ⅴ. 2020；2exs. 5. Ⅵ. 2020. ⑭加保坂峠，1ex. 3. Ⅶ. 2023；1ex. 24. Ⅵ. 2022. ⑮氷ノ山，1ex. 15. Ⅴ. 2024；1ex. 17. Ⅶ. 2024；1ex. 22. Ⅴ. 2023；2exs. 26. Ⅴ. 2021. ⑯横行，1ex. 25. Ⅵ. 2019. ㉓有馬富士，1ex. 13. Ⅴ. 2015

186*. ホソヒゲケブカカミキリ *Eupogoniopsis tenuicornis* (Bates, 1884)

山地の伐採枝や枯枝．少ない.

⑧兎和野，1ex. 18. Ⅵ. 2023；1ex. 17. Ⅵ. 2018；1ex. 25. Ⅵ. 2018. ⑲三室山，1ex. 17. Ⅶ. 2023

187. イボタサビカミキリ *Sophronica obrioides* (Bates, 1873)

各種の生木に絡まり繁茂したテイカカズラの生葉．産地は沿岸部にやや限定.

②城山，1ex. 23. Ⅴ. 2022；1ex. 14. Ⅵ. 2021；1ex. 29. Ⅴ. 2020. ㉔盤滝，1ex. 18. Ⅵ. 2021. ㉕甲山，1ex. 2. Ⅷ. 2013

188. キバネアラゲカミキリ *Anaesthetobrium luteipenne* Pic, 1923

山地のヤマグワの枯枝や生葉．生息地は限定的．やや少ない.

②城山，1ex. 10. Ⅶ. 2022. ⑤相岡，1ex. 16. Ⅶ. 2020. ⑬琴弾峠，2exs. 13. Ⅵ. 2024；1ex. 24. Ⅵ. 2024；1ex. 20. Ⅵ. 2023；2exs. 3. Ⅶ. 2023；1ex. 8. Ⅷ. 2022

189. キイロアラゲカミキリ *Penthides rufoflavus* (Hayashi, 1957)
山地のカラスザンショウの生葉．産地は限定．少ない．
⑯横行，1ex. 17. Ⅶ. 2024

190*. クリイロチビケブカカミキリ *Terinaea atrofusca* Bates, 1884
山地のシナノキ等の枯枝や伐採枝．やや少ない．
⑥上山，1ex. 6. Ⅶ. 2019．⑧兎和野，1ex. 15. Ⅶ. 2019；1ex. 12. Ⅶ. 2018．⑩ハチ北，1ex. 17. Ⅵ. 2022．⑭加保坂峠，1ex. 3. Ⅶ. 2023．⑲三室山，1ex. 17. Ⅶ. 2023

191*. ネジロカミキリ *Pogonocherus seminiveus* Bates, 1873
低山から山地までタラノキの枯枝．やや少ない．
⑧兎和野，1ex. 25. Ⅴ. 2015．㉓有馬富士，1ex. 13. Ⅴ. 2015

192. ゴイシモモブトカミキリ *Callapoecus guttatus* Bates, 1884
山地の各種の伐採木や枯枝．少ない．
⑪鉢伏，1ex. 8. Ⅶ. 2024

193. ナカバヤシモモブトカミキリ *Leiopus guttatus* Bates, 1873
低山のアカマツの枯枝．やや少ない．
⑬琴弾峠，2exs. 13. Ⅵ. 2024．㉓有馬富士，1ex. 4. Ⅵ. 2013

194*. ゴマダラモモブトカミキリ *Leiopus stillatus* (Bates, 1884)
山地の各種の伐採木や枯枝にやや普通．
③奈佐，1ex. 31. Ⅴ. 2021．⑧兎和野，1ex. 21. Ⅵ. 2020；1ex. 21. Ⅵ. 2019；1ex. 5. Ⅶ. 2019；2exs. 17. Ⅵ. 2018．⑩ハチ北，1ex. 14. Ⅵ. 2024．⑪鉢伏，3exs. 12. Ⅵ. 2024；1ex. 29. Ⅵ. 2015．⑮氷ノ山，1ex. 15. Ⅴ. 2024

195*. トゲバカミキリ *Rondibilis saperdina* (Bates, 1884)
山地の伐採枝や枯枝，粗朶にやや普通．
④蘓武，1ex. 9. Ⅶ. 2013．⑥上山，1ex. 26. Ⅶ. 2024．⑧兎和野，1ex. 29. Ⅵ. 2015．⑪鉢伏，1ex. 8. Ⅶ. 2024；1ex. 29. Ⅵ. 2015．⑮氷ノ山，1ex. 7. Ⅶ. 2024；1ex. 6. Ⅸ. 2021；1ex. 22. Ⅶ. 2014

196. ホウノキトゲバカミキリ *Rondibilis sapporensis* (Matsushita, 1933)
山地のホウノキの枯枝．やや少ない．
⑬琴弾峠，1ex. 24. Ⅵ. 2024；1ex. 2. Ⅶ. 2021．⑭加保坂峠，1ex. 9. Ⅶ. 2024

197*. キッコウモンケシカミキリ *Exocentrus testudineus* Matsushita, 1931
山地の伐採枝や枯枝，粗朶にやや普通．
①御崎，1ex. 3. Ⅵ. 2024．④蘓武，1ex. 23. Ⅶ. 2021；1ex. 30. Ⅵ. 2015．⑥上山，1ex. 6. Ⅶ. 2019．⑧兎和野，1ex. 18. Ⅵ. 2023；1ex. 24. Ⅵ. 2021；1ex. 21. Ⅵ. 2019．⑪鉢伏，1ex. 24. Ⅵ. 2024；2exs. 8. Ⅶ. 2024．⑫小代峠，1ex. 7. Ⅶ. 2019．⑮氷ノ山，1ex. 7. Ⅶ. 2024；1ex. 1. Ⅶ. 2013

197-2. ブナケシカミキリ *Exocentrus* sp.
山地のブナ帯の枯枝．永幡 (1994)(1996)(2014) が不明種として報告しているが，「兵庫県のカミキリムシ」には該当する種の記載がないとして未記載．
⑮氷ノ山，1ex. 17. Ⅶ. 2024

198*. ガロアケシカミキリ *Exocentrus galloisi* Matsushita, 1933
低山から山地まで各種の伐採枝や枯枝，枯蔓にやや普通．
①御崎，1ex. 25. Ⅶ. 2024；1ex. 22. Ⅶ. 2021．③奈佐，1ex. 13. Ⅵ. 2024．④蘓武，1ex. 8. Ⅶ. 2024；2exs. 9. Ⅶ. 2013．⑤相岡 1ex. 22. Ⅶ. 2021．神鍋高原，1ex. 25. Ⅵ. 2024．⑧兎和野，1ex. 17. Ⅵ. 2022；1ex. 17. Ⅵ. 2018；1ex. 12. Ⅶ. 2018；1ex. 11. Ⅶ. 2016．⑬琴弾峠，2exs. 3. Ⅶ. 2023；1ex. 15. Ⅵ. 2021；1ex. 2. Ⅶ. 2021．⑯横行，1ex. 7. Ⅶ. 2024．⑰若杉峠，1ex. 18. Ⅶ. 2016．㉒虚空蔵山，1ex. 14. Ⅵ. 2016．㉓有馬富士，1ex. 9. Ⅵ. 2020；1ex. 9. Ⅶ. 2018

199*. アトモンマルケシカミキリ *Exocentrus lineatus* Bates, 1873
低山から山地まで各種の伐採枝や枯枝，枯蔓にやや普通．
①御崎，1ex. 3. Ⅵ. 2024；3exs. 19. Ⅵ. 2023；4exs. 9. Ⅵ. 2022．②城山，1ex. 2. Ⅷ. 2021．⑧兎和野，1ex. 11. Ⅶ. 2021；1ex. 21. Ⅶ. 2021；1ex. 5. Ⅶ. 2019；1ex. 15. Ⅶ. 2019；1ex. 13. Ⅶ. 2018．⑪鉢伏，1ex. 8. Ⅶ. 2024．⑬琴弾峠，2exs. 24. Ⅵ. 2024；1ex. 9. Ⅶ. 2024；1ex. 3. Ⅶ. 2023．⑮氷ノ山，1ex. 22. Ⅶ. 2014．⑲三室山，2exs. 17. Ⅶ. 2023．三田市上本庄，1ex. 19. Ⅶ. 2020．㉓有馬富士，1ex. 9. Ⅶ. 2018．㉕甲山，1ex. 9. Ⅶ. 2014；1ex. 25. Ⅵ. 2013

200. クモガタケシカミキリ *Exocentrus fasciolatus* Bates, 1873
山地の各種の伐採枝や枯枝にやや普通．
①御崎，2exs. 19. Ⅵ. 2023；1ex. 9. Ⅵ. 2022；4exs. 10. Ⅶ. 2022；1ex. 14. Ⅵ. 2021；2exs. 25. Ⅵ. 2021；2exs. 22. Ⅶ. 2021；4exs. 2. Ⅷ. 2021．②城山，1ex. 14. Ⅵ. 2021．⑤相岡，1ex. 22. Ⅶ. 2021；1ex. 16. Ⅶ. 2020．⑬琴弾峠，1ex. 24. Ⅵ. 2024；2exs. 3. Ⅶ. 2023；1ex. 12. Ⅶ. 2021．⑭加保坂峠，1ex. 3. Ⅶ. 2023

201 *. シラオビゴマフケシカミキリ *Exocentrus guttulatus guttulatus* Bates, 1873

低山から山地まで各種の伐採木や枯枝，枯蔓に普通.

① 御崎，2exs. 9. Ⅵ. 2022；1ex. 25. Ⅵ. 2021. ④ 蘓武，2exs. 30. Ⅵ. 2015；1ex. 9. Ⅶ. 2013. 神鍋高原，1ex. 25. Ⅵ. 2024. ⑧兎和野，2exs. 4. Ⅶ. 2023；1ex. 5. Ⅶ. 2019；15. Ⅶ. 2019；1ex. 17. Ⅵ. 2018；3exs. 12. Ⅶ. 2018. ⑪鉢伏，1ex. 8. Ⅶ. 2024. 養父市万久里 CVS，1ex. 8. Ⅶ. 2024. ⑬琴弾峠，1ex. 3. Ⅶ. 2023. 三田市上本庄，1ex. 19. Ⅶ. 2020. ㉓有馬富士，1ex. 9. Ⅵ. 2020

202. ケシカミキリ *Sciades* (*Miaenia*) *tonsus* (Bates, 1873)

山地の各種の伐採木や枯枝，枯蔓，粗朶．やや少ない.

①御崎，1ex. 3. Ⅵ. 2024；1ex. 19. Ⅵ. 2023；1ex. 10. Ⅶ. 2022；4exs. 14. Ⅵ. 2021；1ex. 25. Ⅵ. 2021. ⑬琴弾峠，1ex. 24. Ⅵ. 2024；1ex. 3. Ⅶ. 2023

203. ヤツメカミキリ *Eutetrapha ocelota* (Bates, 1873)

低山から山地までサクラの生木や各種の伐採木等．やや少ない．サクラに着生する浅葱色のウメノキゴケの美妙な色調に溶け込む純和風の美麗種.

②城山，1ex. 14. Ⅵ. 2021. ⑩ハチ北，1ex. 22. Ⅵ. 2020. ⑪鉢伏，1ex. 24. Ⅵ. 2024. ⑬琴弾峠，1ex. 18. Ⅵ. 2022. ⑰若杉峠，1ex. 19. Ⅶ. 2016. ㉕甲山，1ex. 6. Ⅴ. 2024；1ex. 5. Ⅵ. 2013. 神戸森林植物園，1ex. 15. Ⅵ. 2012

204 *. ハンノアオカミキリ *Eutetrapha chrysochloris chrysochloris* (Bates, 1879)

山地のハルニレやシナノキの生葉．やや少ない．メタリックの青色が鮮やかな洋風の美麗種.

⑧ 兎和野，1ex. 28. Ⅶ. 2014. ⑩ハチ北，3exs. 10. Ⅵ. 2022；1ex. 17. Ⅵ. 2022；1ex. 23. Ⅵ. 2022；1ex. 2. Ⅶ. 2021；1ex. 3. Ⅶ. 2021；2exs. 11. Ⅶ. 2021；1ex. 22. Ⅵ. 2020. ⑪鉢伏，1ex. 8. Ⅶ. 2024. ⑭加保坂峠，1ex. 3. Ⅶ. 2023. ⑮氷ノ山，1ex. 7. Ⅶ. 2024；1ex. 17. Ⅶ. 2024；1ex. 18. Ⅵ. 2022；1ex. 26. Ⅴ. 2021

205. フチグロヤツボシカミキリ *Pareutetrapha eximia* (Bates, 1884)

山地のホオノキの生葉．やや少ない

①御崎，1ex. 14. Ⅵ. 2021. ⑦畑ケ平，1ex. 11. Ⅶ. 2022. ⑱青倉山，1ex. 19. Ⅵ. 2017

206 *. ニセシラホシカミキリ *Pareutetrapha simulans* (Bates, 1873)

山地のゴトウヅル等の生葉．やや少ない.

④蘓武，1ex. 12. Ⅵ. 2024；1ex. 12. Ⅶ. 2014. ⑧兎和野，1ex. 18. Ⅵ. 2023；1ex. 5. Ⅶ. 2019；1ex. 30. Ⅵ. 2013；3exs. 8. Ⅶ. 2013. ⑪鉢伏，2exs. 29. Ⅵ. 2015. ⑮氷ノ山，1ex. 17. Ⅶ. 2024

207. ハンノキカミキリ *Cagosima sanguinolenta* Thomson, 1864

甲山公園に植栽されたハンノキより発生．少ない.

㉕甲山，1ex. 3. Ⅵ. 2022；1ex. 20. Ⅴ. 2016；1ex. 26. Ⅴ. 2014；1ex. 21. Ⅴ. 2013

208 *. ラミーカミキリ *Paraglenea fortunei* (Saunders, 1853)

低山から山地までカラムシ等の生葉に普通.

②城山，1ex. 14. Ⅵ. 2021. ⑧兎和野，1ex. 23. Ⅵ. 2020；1ex. 17. Ⅵ. 2018；1ex. 12. Ⅶ. 2018；1ex. 28. Ⅵ. 2015. 仏ノ尾林道 1ex. 2. Ⅶ. 2013. ⑩ハチ北，1ex. 20. Ⅵ. 2023；1ex. 23. Ⅵ. 2022. ⑪鉢伏，1ex. 30. Ⅵ. 2015. 養父市万久里 CVS，1ex. 14. Ⅵ. 2024. ⑮氷ノ山，1ex. 17. Ⅶ. 2024. 神戸市藍那，1ex. 6. Ⅵ. 2012

209. ヒゲナガヒメルリカミキリ *Praolia citrinipes citrinipes* Bates, 1884

山地のダンコウバイの生葉．産地は限定的．少ない.

⑭加保坂峠，1ex. 14. Ⅵ. 2024；2exs. 3. Ⅶ. 2023

210 *. キモンカミキリ *Menesia sulphurata* (Gebler, 1825)

山地のサワグルミの生葉．各種の伐採枝や枯枝に普通.

⑦畑ケ平，1ex. 13. Ⅵ. 2024；1ex. 10. Ⅶ. 2022；1ex. 11. Ⅶ. 2022. ⑧兎和野，1ex. 15. Ⅶ. 2019；1ex. 17. Ⅵ. 2018. ⑪鉢伏，1ex. 12. Ⅵ. 2024. ⑭加保坂峠，1ex. 3. Ⅶ. 2023. ⑮氷ノ山，3exs. 26. Ⅴ. 2021. ⑲三室山，1ex. 17. Ⅶ. 2023

211. オニグルミノキモンカミキリ *Menesia flavotecta* Heyden, 1886

山地のオニグルミの生葉．後食痕のある樹に多数集まる.

①御崎，1ex. 19. Ⅵ. 2023. ③奈佐，1ex. 13. Ⅵ. 2024. ④蘓武，1ex. 9. Ⅵ. 2022. ⑤相岡，1ex. 3. Ⅶ. 2021. ⑭加保坂峠，1ex. 3. Ⅶ. 2023. ⑮氷ノ山，1ex. 1. Ⅶ. 2013

212 *. ジュウニキボシカミキリ *Paramenesia theaphia* (Bates, 1884)

山地のハリギリの生葉．やや少ない.

②城山，1ex. 25. Ⅶ. 2024；1ex. 10. Ⅶ. 2022. ④蘓武，1ex. 8. Ⅶ. 2024. ⑧兎和野，1ex. 4. Ⅶ. 2023；1ex. 17. Ⅶ. 2020. ⑫小代峠，1ex. 28. Ⅶ. 2019

213*．イッシキキモンカミキリ　*Glenea centroguttata* Fairmaire, 1897

山地のヤマグワの生葉．やや少ない．食樹のヌルデ近くのヤマグワに後食痕が多数みられる．

⑤相岡，1ex. 22. Ⅶ. 2021．⑧兎和野，2exs. 18. Ⅶ. 2023；1ex. 21. Ⅶ. 2021；1ex. 16. Ⅶ. 2020．⑫小代峠，1ex. 28. Ⅶ. 2019．⑬琴弾峠，1ex. 9. Ⅶ. 2024．⑮氷ノ山，1ex. 8. Ⅷ. 2022；2exs. 22. Ⅶ. 2014．⑰若杉峠，1ex. 29. Ⅶ. 2014．⑳音水．1ex. 6. Ⅸ. 2021

214*．シラホシカミキリ　*Glenea relicta relicta* Pascoe, 1868

低山から山地までアジサイや各種広葉樹等の生葉にやや普通．

①御崎，1ex. 25. Ⅵ. 2021．④蘓武，1ex. 12. Ⅶ. 2022；1ex. 30. Ⅵ. 2015；1ex. 9. Ⅶ. 2013．⑥上山，1ex. 16. Ⅵ. 2022．⑦畑ケ平，1ex. 11. Ⅶ. 2022．⑧兎和野，1ex. 10. Ⅳ. 2020；1ex. 21. Ⅵ. 2020；1ex. 23. Ⅵ. 2020；1ex. 27. Ⅵ. 2020；1ex. 17. Ⅶ. 2020；1ex. 18. Ⅵ. 2017．⑪鉢伏，1ex. 8. Ⅶ. 2024．⑫小代峠，1ex. 28. Ⅶ. 2019．⑭加保坂峠，1ex. 3. Ⅶ. 2023．⑮氷ノ山，1ex. 22. Ⅴ. 2023；1ex. 8. Ⅷ. 2022；1ex. 22. Ⅶ. 2014. ⑰若杉峠, 1ex. 29. Ⅶ. 2014. ㉑赤西, 1ex. 24. Ⅷ. 2015．㉓有馬富士，1ex. 9. Ⅵ. 2020

215*．シラホシキクスイカミキリ　*Eumecocera gleneoides* (Gressitt, 1935)

山地のハルニレやシナノキの生葉に普通．

①御崎，1ex. 3. Ⅵ. 2024．⑤相岡，1ex. 10. Ⅵ. 2022．⑦畑ケ平，1ex. 13. Ⅵ. 2024．⑧兎和野，2exs. 16. Ⅴ. 2024；1ex. 20. Ⅵ. 2023；1ex. 18. Ⅶ. 2023；1ex. 11. Ⅶ. 2022．⑩ハチ北，2exs. 4. Ⅵ. 2024；1ex. 14. Ⅵ. 2024；1ex. 20. Ⅵ. 2023；3exs. 10. Ⅵ. 2022；3exs. 17. Ⅵ. 2022；1ex. 23. Ⅵ. 2022．⑪鉢伏，2exs. 24. Ⅵ. 2024；1ex. 8. Ⅶ. 2024．⑮氷ノ山，1ex. 17. Ⅶ. 2024；1ex. 22. Ⅴ. 2023．⑳音水，1ex. 23. Ⅶ. 2014

216．セミスジニセリンゴカミキリ　*Eumecocera trivittata* (Breuning, 1947)

山地のハルニレの生葉や各種の倒木 , 伐採木．やや少ない．

⑩ハチ北，2exs. 14. Ⅵ. 2024；1ex. 17. Ⅵ. 2022；1ex. 11. Ⅶ. 2021．⑪鉢伏，1ex. 12. Ⅵ. 2024；1ex. 24. Ⅵ. 2024．⑭加保坂峠，1ex. 24. Ⅵ. 2022．⑮氷ノ山，1ex. 24. Ⅴ. 2022．⑰若杉峠，1ex. 4. Ⅵ. 2016

☆217．ジュウモンジニセリンゴカミキリ　*Eumecocera minamii* Makihara, 1984

山地のハルニレの生葉．少ない．

⑩ハチ北，1ex. 4. Ⅵ，2024；1ex. 20. Ⅵ. 2023；1ex. 10. Ⅵ. 2022；1ex. 11. Ⅶ. 2021．⑮氷ノ山，1ex. 24. Ⅴ. 2022

218*．ヒゲナガシラホシカミキリ　*Eumecocera argyrosticta* (Bates, 1884)

山地のシナノキの生葉や枯枝．やや少ない．

⑧兎和野，1ex. 18. Ⅶ. 2023；1ex. 11. Ⅶ. 2022．⑩ハチ北，1ex. 2. Ⅶ. 2021．⑮氷ノ山，1ex. 24. Ⅴ. 2022；2exs. 18. Ⅵ. 2022；1ex. 24. Ⅴ. 2016

219*．クロニセリンゴカミキリ　*Eumecocera unicolor* (Kano, 1933)

山地のシナノキやハルニレの生葉に普通．

④蘓武，1ex. 22. Ⅴ. 2022．⑦畑ケ平，2exs. 13. Ⅵ. 2024．⑧兎和野，1ex. 16. Ⅴ. 2024；1ex. 14. Ⅵ. 2024；1ex. 4. Ⅶ. 2023．⑩ハチ北，1ex. 10. Ⅵ. 2022；1ex. 4. Ⅴ. 2021；1ex. 26. Ⅵ. 2021．⑪鉢伏，3exs. 24. Ⅵ. 2024；1ex. 8. Ⅶ. 2024．⑭加保坂峠，1ex. 3. Ⅶ. 2023．⑮氷ノ山，2exs. 15. Ⅴ. 2024；1ex. 17. Ⅶ. 2024；4exs. 24. Ⅴ. 2022；2exs. 18. Ⅵ. 2022；1ex. 17. Ⅵ. 2017

220*．チチブニセリンゴカミキリ　*Niponostenostola niponensis niponensis* (Pic, 1901)

山地のハルニレやシナノキの生葉．少ない．

⑧兎和野，2exs. 18. Ⅵ. 2023．⑩ハチ北，1ex. 3. Ⅶ. 2021．⑮氷ノ山，1ex. 24. Ⅴ. 2022；1ex. 18. Ⅵ. 2022

221．キクスイカミキリ　*Phytoecia rufiventris* Gautier, 1870

低山のヨモギの生葉．

㉕甲山，1ex. 18. Ⅴ. 2014

222*．ヨツキボシカミキリ　*Epiglenea comes comes* Bates, 1884

低山から山地まで，ヌルデや各種の伐採枝，枯枝に普通．

④蘓武，1ex. 9. Ⅵ. 2022；1ex. 12. Ⅶ. 2014；1ex. 2. Ⅶ. 2013；1ex. 9. Ⅶ. 2013．⑦畑ケ平，1ex. 10. Ⅶ. 2022；1ex. 16. Ⅵ. 2022．⑧兎和野，1ex. 17. Ⅵ. 2022；1ex. 5. Ⅵ. 2020；1ex. 21. Ⅵ. 2020；1ex. 21. Ⅵ. 2019；1ex. 5. Ⅶ. 2019．仏ノ尾林道，1ex. 2. Ⅶ. 2013．⑩ハチ北，1ex. 22. Ⅵ. 2020；1ex. 21. Ⅶ. 2019．⑮氷ノ山，1ex. 7. Ⅶ. 2024；1ex. 26. Ⅴ. 2021；1ex. 17. Ⅵ. 2017．㉒虚空蔵山，1ex. 9. Ⅵ. 2017．㉓有馬富士，1ex. 9. Ⅵ. 2020；1ex. 28. Ⅴ. 2013；1ex. 30. Ⅶ. 2013；1ex. 2. Ⅶ. 2012．㉕甲山，1ex. 8. Ⅵ. 2012．神戸市藍那，1ex. 22. Ⅴ. 2013

223*．ヘリグロリンゴカミキリ　*Nupserha marginella marginella* (Bates, 1873)

山地の林縁や道路脇の下草．やや少ない．

⑧兎和野，2exs. 17. Ⅵ. 2018；1ex. 11. Ⅶ. 2016；2exs. 30. Ⅵ. 2013；1ex. 8. Ⅶ. 2013．仏ノ尾林道, 1ex. 2. Ⅶ. 2013．⑪鉢伏,

1ex. 29. Ⅵ. 2015

224＊．ヒメリンゴカミキリ　*Oberea hebescens* Bates, 1873

山地のタブノキやクロモジ等の生葉や周辺の下草．やや少ない．

①御崎, 1ex. 29. Ⅴ. 2020．②城山, 2exs. 3. Ⅴ. 2021．⑥上山, 1ex. 16. Ⅵ. 2022．⑧兎和野，2exs. 21. Ⅵ. 2020；1ex. 27. Ⅴ. 2013

225＊．リンゴカミキリ　*Oberea japonica* (Thunberg, 1787)

低山から山地までサクラ等の生葉に普通．

②城山, 1ex. 2. Ⅷ. 2021．④蘓武, 1ex. 9. Ⅶ. 2013．⑧兎和野, 1ex. 11. Ⅶ. 2021；1ex. 18. Ⅵ. 2017；1ex. 30. Ⅵ. 2013．㉕甲山，1ex. 1. Ⅷ. 2014．神戸市藍那，1ex. 6. Ⅵ. 2012

226＊．ソボリンゴカミキリ　*Oberea sobosana* Ohbayashi, 1956

低山から山地までツツジ等の生葉や林縁の下草．やや少ない．

⑧兎和野，1ex. 11. Ⅶ. 2021．㉕甲山，1ex. 8. Ⅵ. 2012．神戸森林植物園，1ex. 15. Ⅵ. 2012

227．ニセリンゴカミキリ　*Oberea mixta* Bates, 1873

低山から山地までスイカズラの生葉や周辺の下草．やや少ない．

仏ノ尾林道，1ex. 2. Ⅶ. 2013．㉓有馬富士，2exs. 4. Ⅵ. 2013

228＊．ホソキリンゴカミキリ　*Oberea infranigrescens* Breuning, 1960

山地のハギやヌルデ等の生葉や林縁の下草．やや少ない．

④蘓武，1ex. 30. Ⅵ. 2015；1ex. 9. Ⅶ. 2013．⑧兎和野，1ex. 10. Ⅵ. 2022.

229．ホソツツリンゴカミキリ　O*berea nigriventris nigriventris* Bates, 1873

山地のイケマの生葉．少ない．

⑪鉢伏，2exs. 5. Ⅶ. 2019．⑭加保坂峠，1ex. 3. Ⅶ. 2023．⑮氷ノ山，2exs. 22. Ⅶ. 2014．⑳音水，1ex. 23. Ⅶ. 2014

230．ルリカミキリ　*Bacchisa fortunei japonica* (Gahan, 1901)

低山から山地までナナカマドやカナメモチ等バラ科の樹の生葉にやや普通．

⑫小代峠，1ex. 7. Ⅶ. 2019．㉓有馬富士，1ex. 9. Ⅵ. 2021

7．おわりに

今回のリスト作成にあたり，改めてすべての写真データを閲した．記録されていたのは，私の前に現れてくれたカミキリ達が，その場所に生きていた時間の記憶である．一期一会の出会いの瞬間，私もまた，そこに共に生きている確かな実感を得ることができた．

これからも，新たな出会いを求めて，残りの人生，可能な限りフィールドに赴きたいと思う．

末尾ながら，今回のリストをまとめるにあたり，池田大氏に収録方針や記載方法等についてご指導，ご助言をいただいたことに厚く御礼申し上げます．

参考文献

大林延夫・新里達也，2007．日本産カミキリムシ

小椋隆，2019．兵庫県但馬地方のカミキリムシ．ゆらぎあ，(37)：23-36

小椋隆，2023．兵庫県但馬地方のカミキリムシⅡ．ゆらぎあ (41)：3-13

窪木幹夫, 2024. 日本のヒメハナカミキリ. むし社, 東京. 168pp.

小西和夫，2018．ヤツボシシロカミキリ，兵庫県に産す．きべりはむし，41(1)：15-16

小西和夫，2019．ヤツボシシロカミキリ，その後．きべりはむし，42(2)：44-46

小西和夫，2021．ヤツボシシロカミキリ，その後 (2)．きべりはむし，44(1)：71-77

小西和夫，2022a．ハラアカコブカミキリ北但馬に定着か．きべりはむし，44(2)：46

小西和夫，2022b．北但馬でチャイロチビヒラタカミキリを確認．きべりはむし，44(2)：46-47

小西和夫，2022c．ヤツボシシロカミキリ，その後 (3)．きべりはむし，45(1)：66-72

小西和夫，2022d．チャイロチビヒラタカミキリ，その後．きべりはむし，45(2)：71

小西和夫, 2022e．但馬のハラアカコブカミキリ (続報)．きべりはむし，45(2)：72

小西和夫，2024．ケブカマルクビカミキリを西宮市で確認．きべりはむし，47(1)：65-66

小西和夫，2024．カミキリムシ 4 種 (サドチビアメイロ，ジュウモンジニセリンゴ，ミセンヒメハナ，コウヤホソハナ) の兵庫県内の記録．きべりはむし，47(2)：50-51

鈴木茂，2024．日本列島の甲虫全種目録 (2024 年版)．[https://japanesebeetles．jimdofree．com/] (参照 2025 年 2 月 1 日)

永幡嘉之, 1994. 但馬のカミキリムシ. IRATSUME, (18)：16-42

永幡嘉之，1996．但馬のカミキリムシ第 3 報．IRATSUME，(20)：46-55

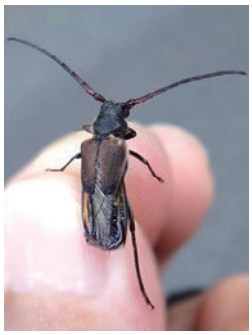
永幡嘉之, 2014．いわゆる「ブナケシカミキリ」について．

月刊むし，(520)：27-29
廣田嘉正・三木三徳・八木正道，2001．兵庫県のカミキリムシ．自費出版，104pp.
藤田宏・平山洋人・秋山勝巳，2018．日本産カミキリムシ大図鑑Ⅰ．むし社，東京．408pp.
藤田宏・平山洋人・秋山勝巳，2023．日本産カミキリムシ大図鑑Ⅱ．むし社，東京．407pp.


1. ホソカミキリ
(2019.7.06)


2. ウスバカミキリ
(2017.8.04)

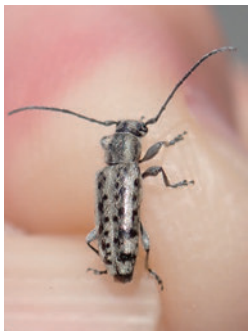

3. ノコギリカミキリ
(2020.8.04)


4. コバネカミキリ
(2021.7.23)


5. クロカミキリ
(2024.7.17)


6. サビカミキリ
(2013.7.10)


7. ツシマムナクボカミキリ
(2016.7.11)

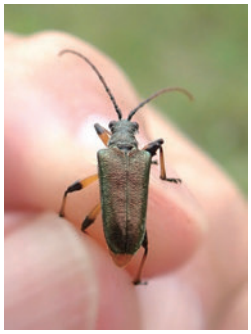

8. ケブカマルクビカミキリ
(2024.4.11)

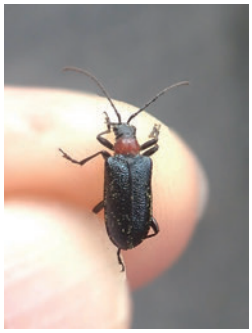

9. ムナコブハナカミキリ
(2024.6.12)


10. フタコブルリハナカミキリ
(2020.6.27)


11. テツイロハナカミキリ
(2021.5.26)


12. フタスジカタビロハナカミキリ　(2016.4.26)


13. カラカネハナカミキリ
(2021.7.02)


14. クビアカハナカミキリ
(2018.6.18)


15. キバネニセハムシハナカミキリ　(2019.5.22)

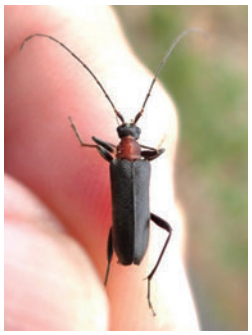

16. ピックニセハムシハナカミキリ　(2016.4.26)

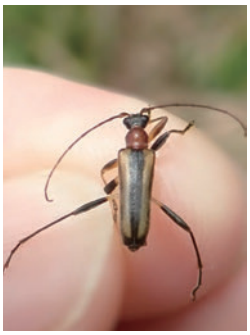

17. アカイロニセハムシハナカミキリ　(2021.5.04)


18. ヒナルリハナカミキリ
(2021.5.30)


19. シコクヒメコブハナカミキリ　(2019.6.25)

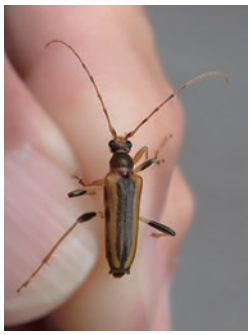

20. ナガバヒメハナカミキリ
(2022.5.24)


21. キベリクロヒメハナカミキリ♀　(2023.5.22)


21. キベリクロヒメハナカミキリ♂　(2021.5.26)

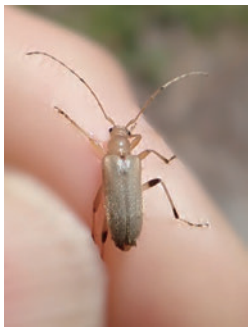

22. ヤノヒメハナカミキリ
(2022.6.16)


23. ミセンヒメハナカミキリ
(2018.5.24)

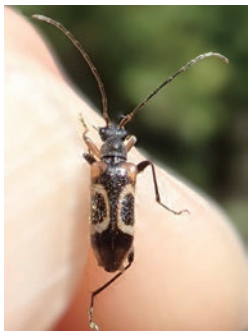

24. オオヒメハナカミキリ
(2022.6.16)

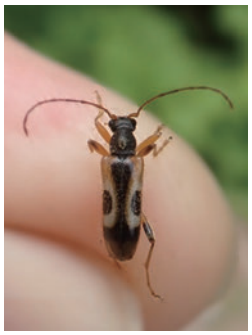

25. マツシタヒメハナカミキリ♀ (2017.6.17)


25. マツシタヒメハナカミキリ♂ (2019.7.06)

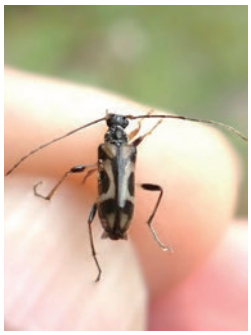

26. チャイロヒメハナカミキリ (2019.5.23)


27. フタオビノミハナカミキリ (2023.5.01)


28. ミワヒメハナカミキリ (2020.5.29)

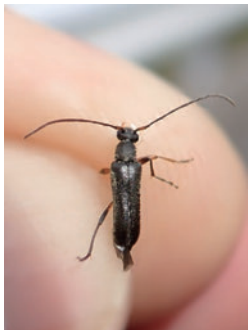

29. トサヒメハナカミキリ (2020.6.06)


30. ムネアカヨコモンヒメハナカミキリ (2021.5.26)


31. カグヤヒメハナカミキリ♀ (2022.6.18)


31. カグヤヒメハナカミキリ♂ (2021.6.01)


32. セスジヒメハナカミキリ (2022.5.22)

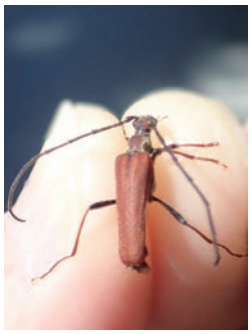

33. チビハナカミキリ (2023.5.22)


34. チャボハナカミキリ (2023.7.17)


35. ミヤマルリハナカミキリ (2022.5.24)

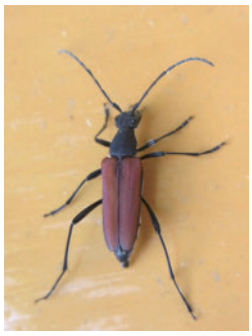

36. ミヤマクロハナカミキリ (2021.6.24)


37. クロルリハナカミキリ (2019.7.06)

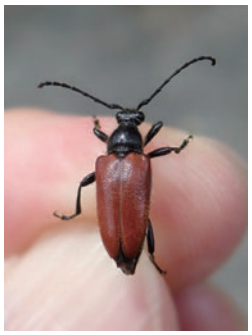

38. ヘリウスハナカミキリ (2020.6.07)


39. キヌツヤハナカミキリ (2023.7.04)


40. マルガタハナカミキリ (2022.7.12)

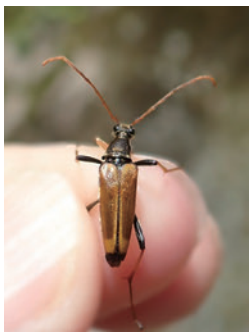

41. ツヤケシハナカミキリ♀ (2013.5.21)

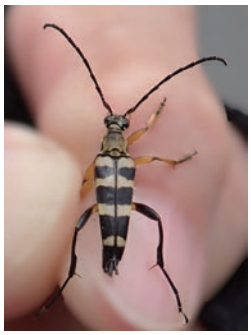

42. アカハナカミキリ (2024.7.26)


43. ヒメアカハナカミキリ (2024.6.24)

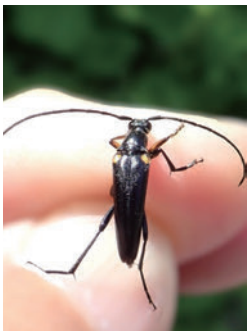

44. ムネアカクロハナカミキリ♀ (2021.5.31)


44. ムネアカクロハナカミキリ♂ (2022.6.16)

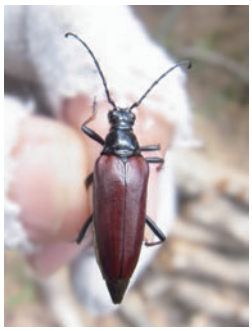

45. ヤツボシハナカミキリ (2024.5.10)


46. ヨツスジハナカミキリ (2023.7.03)


47. ハネビロハナカミキリ
(2021.5.31)


48. カタキハナカミキリ
(2019.5.24)


49. フタスジハナカミキリ
(2018.7.12)

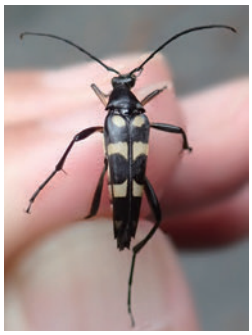

50. クロオオハナカミキリ
(2013.7.09)


51. オオヨツスジハナカミキリ
(2021.7.21)

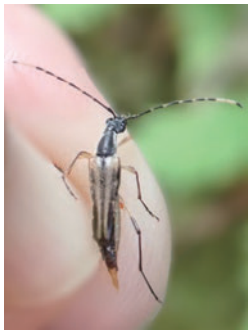

52. カエデノヘリグロハナカミキリ (2024.5.15)

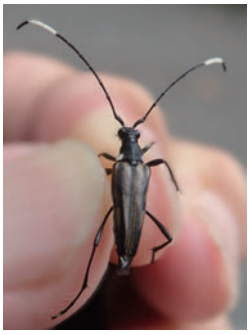

53. ヒゲジロハナカミキリ
(2024.7.17)


54. アオバホソハナカミキリ
(2021.5.31)


55. コウヤホソハナカミキリ
(2024.7.18)


56. ジャコウホソハナカミキリ
(2017.6.09)


57. ニョウホウホソハナカミキリ
(2024.7.07)


58. タテジマホソハナカミキリ
(2023.7.18)


59. ニンフホソハナカミキリ
(2021.7.03)


60. ミヤマホソハナカミキリ
(2023.7.17)


61. ハコネホソハナカミキリ
(2019.7.06)


62. ホソハナカミキリ
(2021.7.03)


63. オオホソコバネカミキリ
(2020.8.04)

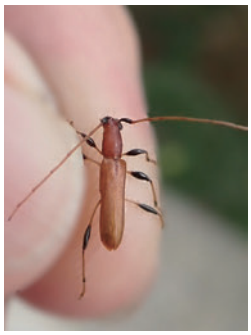

64. ミヤマカミキリ
(2019.7.05)


65. キマダラミヤマカミキリ
(2014.6.15)


66. アオスジカミキリ
(2014.7.22)

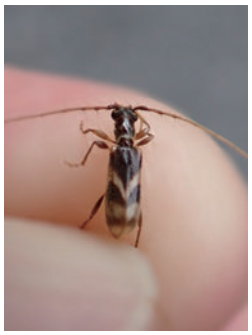

67. ベーツヤサカミキリ
(2020.5.29)

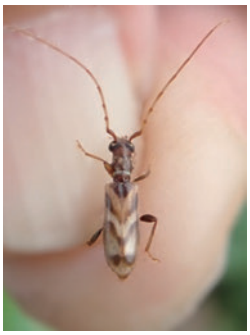

68. トビイロカミキリ
(2023.5.01)


69. アメイロカミキリ
(2022.7.10)


70. ヨコヤマヒメカミキリ
(2024.7.25)


71. テツイロヒメカミキリ
(2024.6.16)


72. カッコウメダカカミキリ
(2024.5.15)


73. タイワンメダカカミキリ
(2022.7.10)


74. トワダムモンメダカカミキリ
(2022.5.04)


75. タカオメダカカミキリ
(2024.5.15)

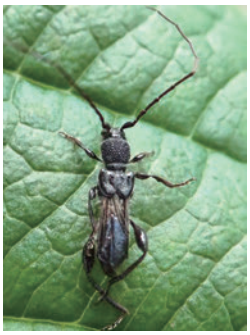

76. ナカネアメイロカミキリ
(2020.6.21)


77. サドチビアメイロカミキリ
(2020.6.06)


78. スネケブカヒロコバネ
カミキリ　(2024.7.08)

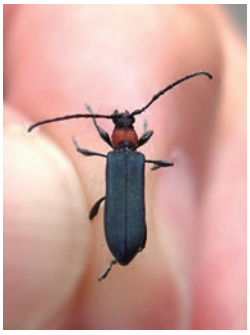

79. ホソツヤヒゲナガコバネ
カミキリ　(2021.5.04)


80. コジマヒゲナガコバネ
カミキリ　(2019.5.03)


81. クロサワヒメコバネ
カミキリ　(2024.7.08)


82. ヤマトチビコバネカミキリ
(2017.6.09)


83. クビアカモモブトホソ
カミキリ　(2020.6.07)


84. ホタルカミキリ
(2023.6.19)


85. トラフホソバネカミキリ
(2023.6.19)


86. クスベニカミキリ
(2023.7.17)


87. ルリボしカミキリ
(2024.7.25)


88. ベニカミキリ
(2013.5.22)


89. オオアオカミキリ
(2015.8.24)


90. ミドリカミキリ
(2013.5.21)


91. アオカミキリ
(2021.7.11)


92. ヒメスギカミキリ
(2022.5.22)

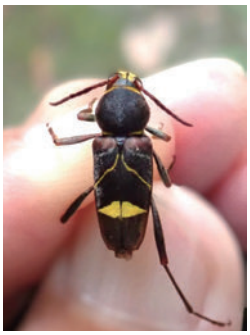

93. チャイロホソヒラタカミキリ
(2015.5.20)


94. チャイロチビヒラタカミキリ
(2022.5.25)


95. アカネカミキリ
(2022.6.16)


96. シロオビチビヒラタカミキリ
(2022.5.22)


97. トラフカミキリ
(2012.7.17)


98. ヤノトラカミキリ
(2024.7.25)

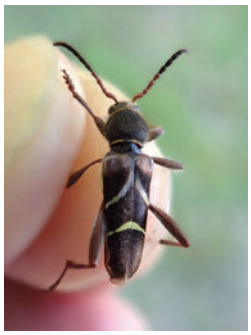

99. クビアカトラカミキリ
(2021.5.22)


100. ニイジマトラカミキリ
(2021.7.21)


101. ブドウトラカミキリ
(2021.8.02)

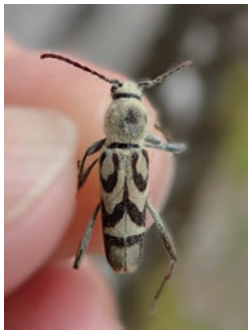

102. ウスイロトラカミキリ
(2017.8.04)


103. ズマルトラカミキリ
(2021.5.25)

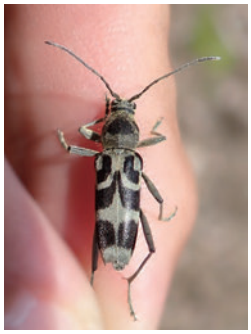

104. アカネトラカミキリ
(2020.5.28)

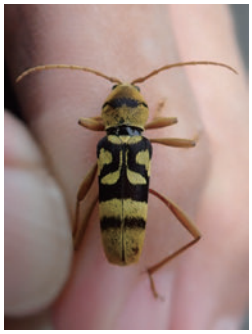

105. キスジトラカミキリ
(2020.7.17)


106. シラケトラカミキリ
(20225.28)


107. キンケトラカミキリ
(2021.5.26)


108. ヨコヤマトラカミキリ
(2021.5.31)

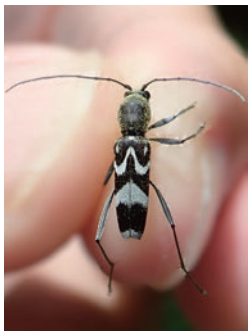

109. エグリトラカミキリ
(2022.6.17)

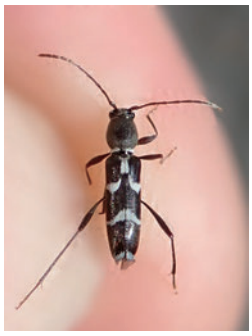

110. ヨツスジトラカミキリ
(2022.7.10)


111. タケトラカミキリ
(2014.7.21)

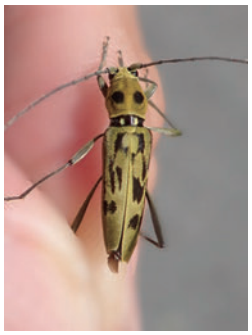

112. フタオビミドリトラカミキリ (2024.7.07)


113. トウキョウトラカミキリ
(2016.5.24)

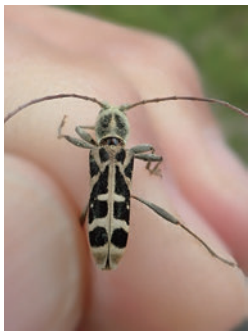

114. ホソトラカミキリ
(2021.6.28)


115. ヒメクロトラカミキリ
(2021.4.22)

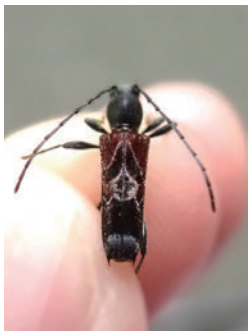

116. カンボウトラカミキリ
(2024.5.15)


117. キイロトラカミキリ
[上翅左右異形] (2022.6.09)

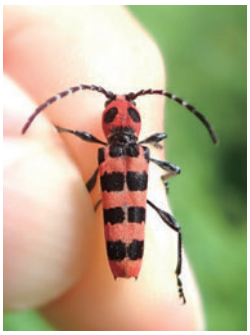

118. トゲヒゲトラカミキリ
(2018.5.24)


119. シロトラカミキリ
(2020.5.15)


120. スギノアカネトラカミキリ
(2020.6.21)

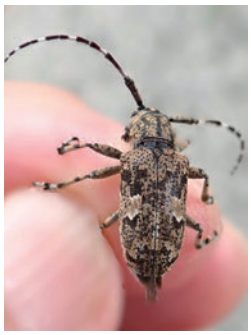

121. トガリバアカネトラカミキリ (2023.6.19)


122. マツシタトラカミキリ
(2022.6.10)

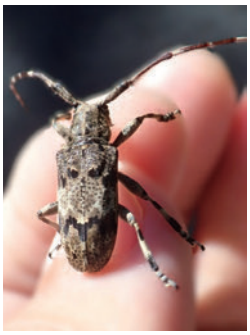

123. アカジマトラカミキリ
(2021.9.07)


124. シロオビゴマフカミキリ
(2024.6.03)


125. ゴマフカミキリ
(2020.5.07)


126. チャゴマフカミキリ
(2024.6.27)


127. カタシロゴマフカミキリ
(2021.8.02)

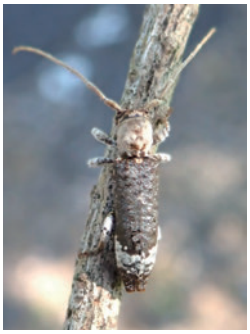

128. ナガゴマフカミキリ
(2020.6.21)


129. タテスジゴマフカミキリ
(2022.6.23)


130. シナノクロフカミキリ
(2020.6.22)


131. キクスイモドキカミキリ
(2024.6.03)


132. コブスジサビカミキリ
(2020.5.15)


133. クビシロカミキリ
(2024.6.13)


134. ヒシカミキリ
(2018.5.12)


135. クリチビカミキリ
(2022.6.09)


136. シロオビチビカミキリ
(2024.7.07)


137. タテジマカミキリ
(2021.6.25)


138. ハスオビヒゲナガカミキリ
(2023.7.04)


139. ドウボソカミキリ
(2020.5.13)


140. ミヤマドウボソカミキリ
(2022.5.22)


141. シロスジドウボソカミキリ
(2023.6.19)

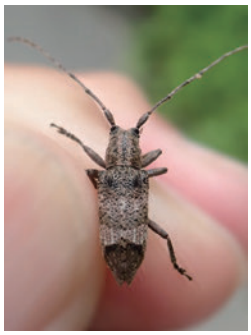

142. ニイジマチビカミキリ
(2023.6.19)


143. ヒメナガサビカミキリ
(2024.6.12)


144. アトジロサビカミキリ
(2020.6.09)


145. クリサビカミキリ
(2021.5.31)


146. エゾサビカミキリ
(2024.7.07)

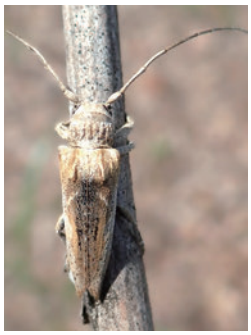

147. トガリシロオビサビカミキリ　(2023.7.03)


148. アトモンサビカミキリ
(2015.5.13)


149. ナカジロサビカミキリ
(2020.6.09)

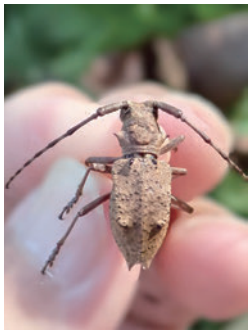

150. ワモンサビカミキリ
(2020.5.29)


151. クワサビカミキリ
(2017.6.09)


152. ハイイロヤハズカミキリ
(2021.6.14)


153. ツチイロフトヒゲカミキリ
(2022.8.19)


154. セダカコブヤハズカミキリ
(2020.6.21)


155. マヤサンコブヤハズカミキリ　(2024.10.21)


156. イタヤカミキリ
(2021.7.21)


158. ヒメヒゲナガカミキリ
(2015.6.29)

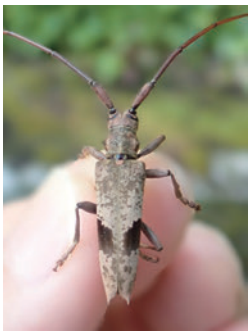

157. ヒゲナガカミキリ
(2021.9.06)


159. ゴマダラカミキリ
(2013.8.01)


160. センノキカミキリ
(2024.6.14)

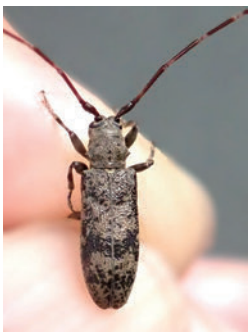

161. ビロウドカミキリ
(2022.6.24)


162. ニセビロウドカミキリ
(2023.7.18)


163. ヤハズカミキリ
(2020.7.17)


164. キボシカミキリ
(2022.7.10)


165. ホシベニカミキリ
(2020.5.29)

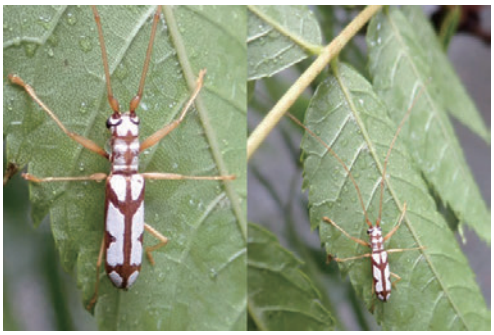

166. チャボヒゲナガカミキリ
(2024.6.03)

167．クワカミキリ
(2023.7.18)

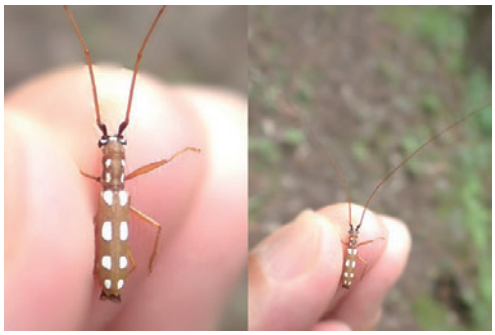
168．シロスジカミキリ
(2019.7.06)

169．ヒゲナガゴマフカミキリ
(2019.7.29)

170．ハラアカコブカミキリ
(2022.6.16)

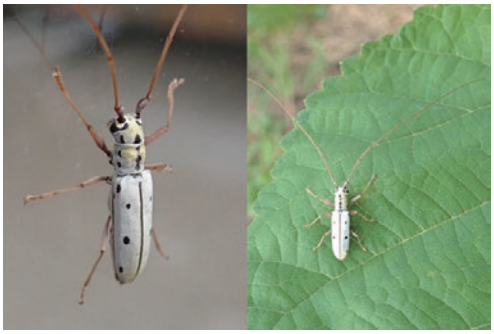


171．タカサゴシロカミキリ
(2020.7.16)

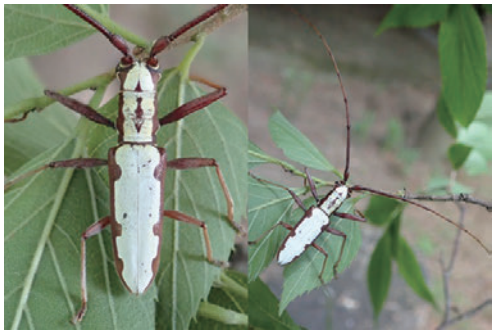


172．ヤツボシシロカミキリ
(2020.6.27)

177．ヒトオビアラゲカミキリ
(2020.5.28)



173．ムネホシシロカミキリ
(2024.7.08)



174．オオシロカミキリ
(2022.7.07)

178．フタモンアラゲカミキリ
(2024.6.24)

175．エゾナガヒゲカミキリ
(2023.7.04,2024.6.03)

176．セミスジコブヒゲカミキリ♂
(2018.6.25)

179．フタオビアラゲカミキリ
(2023.7.18)

180．ジュウジクロカミキリ
(2022.5.23)

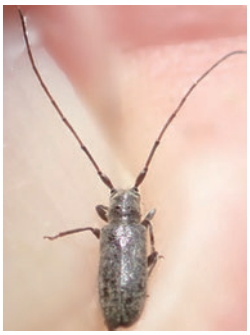
181．クモノスモンサビカミキリ
(2024.6.13)

182．カッコウカミキリ
(2021.5.26)

183．ミヤマチビコブカミキリ
(2024.5.10)

184．ハイイロツツクビカミキリ
(2018.6.17)


185. ドイカミキリ
(2024.5.10)


186. ホソヒゲケブカカミキリ
(2023.7.17)


187. イボタサビカミキリ
(2020.5.29)


188. キバネアラゲカミキリ
(2023.6.20)


189. キイロアラゲカミキリ
(2024.7.17)


190. クリイロチビケブカ
カミキリ (2018.7.12)


191. ネジロカミキリ
(2015.5.25)


192. ゴイシモモブトカミキリ
(2024.7.08)


193. ナカバヤシモモブト
カミキリ (20246.13)


194. ゴマダラモモブトカミキリ
(2018.6.17)


195. トゲバカミキリ
(2024.7.08)


196. ホウノキトゲバカミキリ
(2024.7.09)


197. キッコウモンケシカミキリ
(2024.6.24)


197-b. ブナケシカミキリ [仮称]
(2024.7.17)


198. ガロアケシカミキリ
(2022.6.17)

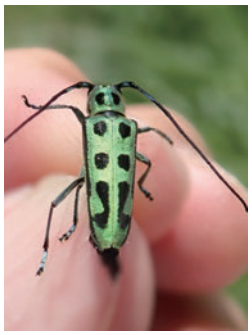

199. アトモンマルケシカミキリ
(2023.7.03)


200. クモガタケシカミキリ
(2021.6.25)


201. シラオビゴマフケシ
カミキリ (2022.6.09)

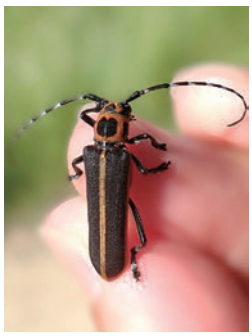

202. ケシカミキリ
(2021.6.25)


203. ヤツメカミキリ
(2022.6.18)


204. ハンノアオカミキリ
(2022.6.10)


205. フチグロヤツボシカミキリ
(2021.6.14)


206. ニセシラホシカミキリ
(2024.7.17)


207. ハンノキカミキリ
(2022.6.03)

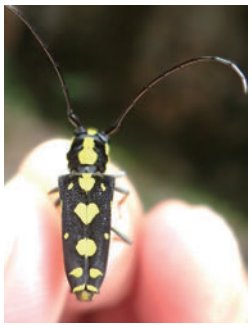

208. ラミーカミキリ
(2015.6.28)


209. ヒゲナガヒメルリカミキリ
(2024.6.14)


210. キモンカミキリ
(2022.7.11)


211. オニグルミノキモン
カミキリ　(2023.7.03)


212. ジュウニキボシカミキリ
(2022.7.10)


213. イッシキキモンカミキリ
(2021.9.06)


214. シラホシカミキリ
(2020.7.17)


215. シラホシキクスイカミキリ
♀　(2022.6.10)


215. シラホシキクスイカミキリ
♂　(2024.6.24)


216. セミスジニセリンゴ
カミキリ　(2022.6.17)


217. ジュウモンジニセリンゴ
カミキリ　(2023.6.20)


218. ヒゲナガシラホシカミキリ
♀　(2022.6.18)


218. ヒゲナガシラホシカミキリ
♂　(2023.7.18)


219. クロニセリンゴカミキリ
(2024.6.14)

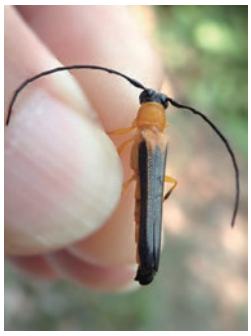

220. チチブニセリンゴカミキリ
(2022.5.24)


221. キクスイカミキリ
(2014.5.18)


222. ヨツキボシカミキリ
(2017.6.09)


223. ヘリグロリンゴカミキリ
(2016.7.11)


224. ヒメリンゴカミキリ
(2021.5.03)


225. リンゴカミキリ
(2021.8.02)


226. ソボリンゴカミキリ
(2012.6.15)


227. ニセリンゴカミキリ
(2013.6.04)


228. ホソキリンゴカミキリ
(2022.6.10)


229. ホソツツリンゴカミキリ
(2023.7.03)


230. ルリカミキリ
(2021.6.09)

姫路市南部における甲虫類の追加記録

檀野将平 [1)]

1．はじめに

2019 年より筆者は，自宅のある姫路市南部において甲虫相の調査を行ってきた．この調査の一環として，2019 年から 2021 年の甲虫類の記録は,「きべりはむし」第 45 巻第 1 号（檀野 , 2022a）にて報告している．本報では，その後の 2022 年から 2024 年の期間に確認した甲虫類の追加記録を報告する．

2．調査地域について

今回の調査では，新たに以下の 2 地点を調査地に追加した．

1. **四郷町明田地区**：仁寿山の東に位置する農村地域で，北原や兼田に比べ規模の大きい田畑が残されている．
2. **市川河口**：市川河口付近は堤防が整備され，大部分がコンクリートブロックで固められているが葦が茂る河川敷もわずかに残されている．

3．目録

目録作成にあたって，種の和名・学名は日本列島の甲虫全種目録 (2024 年版)［https://japanesebeetles.jimdofree.com/］に従った．採集者情報・産地は前報同様いずれも筆者本人，兵庫県姫路市であるため目録への記載は省略している．

目録に記載している番号は前回報告及び兵庫県初記録種として報告した 3 種（「きべりはむし」第 45 巻第 2 号および第 46 巻第 2 号掲載）(檀野 , 2022b；檀野 , 2023a；檀野 , 2023b) を合わせた通し番号として附番している．

Family CARABIDAE Latreille, 1802
オサムシ科

627. クロカタビロオサムシ *Calosoma* (*Calosoma*) *maximowiczi* Morawitz, 1863
御旅山 , 1ex., 21. Ⅴ .2022

628. ヤコンオサムシ 基亜種 *Carabus* (*Ohomopterus*) *yaconinus yaconinus* Bates, 1873
仁寿山 , 1ex., 10. Ⅸ .2023, 1ex., 11. Ⅷ .2024
仁寿山北部で見られる．仁寿山南部や御旅山では確認できていない．

629. クロヒメヒョウタンゴミムシ *Clivina lewisi* Andrewes, 1927
兼田地区 , 1ex., 27. Ⅶ .2024 LT
兵庫県版レッドリスト (2022): 要調査
全国的に記録が少なく，生息環境がよくわかっていない種のようである (森 , 2017a). 兼田地区の農道に仕掛けたライトトラップにより得られた．

630. ヒョウゴミズギワゴミムシ *Bembidion* (*Blepharoplataphus*) *hiogoense* Bates, 1873
市川河川敷 , 1ex., 8. Ⅰ .2023
河川敷の岩下より得られた．

631. キイロマルコミズギワゴミムシ *Elaphropus latissimus latissimus* (Motschulsky, 1851)
仁寿山 , 2exs., 15. Ⅹ .2022, 2exs., 7. Ⅳ .2024
市川河川敷 , 1ex., 8. Ⅹ .2023

632. クロチビカワゴミムシ *Tachyta* (*Tachyta*) *nana nana* (Gyllenhal, 1810)
仁寿山 , 1ex., 23. Ⅵ .2023
カシ伐採木の樹皮裏より得られた．

633. スジアオゴミムシ *Chlaenius* (*Haplochlaenius*) *costiger costiger* Chaudoir, 1856
仁寿山 , 1ex., 11. Ⅵ .2024

634. ムナビロアトボシアオゴミムシ *Chlaenius* (*Lissauchenius*) *tetragonoderus* Chaudoir, 1876
北原地区 , 1ex., 19. Ⅷ .2022 LT

[1)] Shohei DANNO　兵庫県姫路市

御旅山 , 1ex., 19. Ⅵ .2024

635. トゲアトキリゴミムシ *Aephnidius adelioides* (MacLeay, 1825)
北原地区 , 2exs., 12. Ⅷ .2022 LT
市川河川敷 , 1ex., 22. Ⅷ .2022 LT

636. ホシボシゴミムシ *Anisodactylus* (*Pseudanisodactylus*) *punctatipennis* Morawitz, 1862
御旅山 , 1ex., 21. Ⅴ .2022

637. オオホシボシゴミムシ *Anisodactylus* (*Pseudanisodactylus*) *sadoensis* Schauberger, 1932
市川河川敷 , 1ex., 5. Ⅴ .2024

638. カラカネゴモクムシ *Platymetopus flavilabris* (Fabricius, 1798)
北原地区 , 1ex., 11. Ⅵ .2022 LT, 1ex., 14. Ⅷ .2022 LT

639. ホソアトキリゴミムシ *Dromius* (*Klepterus*) *prolixus* Bates, 1883
御旅山 , 1ex., 23. Ⅶ .2022 LT, 1ex. 13. Ⅷ .2024
四郷町 , 1ex., 1. Ⅵ .2024
仁寿山 , 1ex., 13. Ⅶ .2024

640. アトグロジュウジアトキリゴミムシ *Lebia* (*Poecilothais*) *idae* Bates, 1873
甲山 , 1ex., 6. Ⅳ .2024

641. コルリアトキリゴミムシ *Lebia* (*Lebia*) *viridis* Say, 1823
北原地区 , 1ex., 12. Ⅵ .2024
兼田地区 , 1ex., 15. Ⅶ .2022
北米原産の移入種で県下では 2019 年 (脇村・森 , 2019) に初めて記録された．農地周りのセイタカアワダチソウに訪花する姿が確認される．

642. ホシハネビロアトキリゴミムシ *Lebia* (*Poecilothais*) *calycophora* Schmidt-Göbel, 1846
仁寿山 , 1ex., 2. Ⅴ .2022
御旅山 , 1ex., 21. Ⅴ .2022, 1 ex., 25.. Ⅷ .2024

643. メダカアトキリゴミムシ *Orionella lewisii* (Bates, 1873)
御旅山 , 1ex., 23. Ⅶ .2022 LT
林内のライトトラップで得られたが県内の記録は少ない種のようである．(森 , 2013)

644. ミツアナアトキリゴミムシ *Parena tripunctata* (Bates, 1873)
御旅山 , 1ex., 25. Ⅵ .2022 LT

645. ニッポンヨツボシゴミムシ *Adischissus japonicus* (Andrewes, 1933)
御旅山 , 1ex., 21. Ⅴ .2022
仁寿山 , 1ex., 5. Ⅶ .2024
(森 , 2017c) では湿潤な草地で得られているようであるが筆者は御旅山，仁寿山ともに山道のやや乾いた環境で確認している．

646. クロズホナシゴミムシ *Perigona* (*Trechicus*) *nigriceps* (Dejean, 1831)
御旅山 , 1ex., 27. Ⅲ .2022 LT
仁寿山 , 1ex., 9. Ⅴ .2022

647. オグラヒラタゴミムシ *Agonum* (*Lorostemmoides*) *ogurae* (Bates, 1883)
仁寿山 , 1ex., 15. Ⅶ .2022 LT

648. ムネミゾマルゴミムシ *Caelostomus picipes* (MacLeay, 1825)
北原地区 , 1ex., 15. Ⅵ .2022 LT, 2exs., 23. Ⅳ .2023
(森 , 2021) では樹林性で樹幹の隙間や樹皮化などで見られるとあるが林縁の枯れ草で見られることが多い．また自宅のライトトラップでも得られている．

649. ムナビロヒメナガゴミムシ *Pterostichus* (*Rhagadus*) *straneoi* Habu, 1958
御旅山 , 1ex., 23. Ⅶ .2022 LT

650. ルイスオオゴミムシ *Trigonotoma lewisii* Bates, 1873
仁寿山 , 1ex., 18. Ⅴ .2024

651. マルガタゴミムシ *Amara* (*Amara*) *chalcites* Dejean, 1828
北原地区 , 1ex., 12. Ⅲ .2023
御旅山 , 1ex., 5. Ⅵ .2024

Family DYTISCIDAE Leach, 1815 ゲンゴロウ科

652. マメゲンゴロウ基亜種 *Agabus* (*Acatodes*) *japonicus japonicus* Sharp, 1873
仁寿山 , 1ex., 23. Ⅷ .2023

653. ホソクロマメゲンゴロウ *Platambus optatus* (Sharp, 1884)

仁寿山 , 2exs., 19. Ⅷ .2023, 1ex.
山の染み出し水でできた浅い流水域の淀みで見られた.

654. ヒメゲンゴロウ *Rhantus* (*Rhantus*) *suturalis* (Macleay, 1825)
仁寿山 , 1ex., 19. Ⅷ .2023
四郷町 , 1ex., 16. Ⅸ .2023

655. カンムリセスジゲンゴロウ *Copelatus kammuriensis* Tamu & Tsukamoto, 1955
仁寿山 , 2exs., 19. Ⅷ .2023
四郷町 , 2exs., 16. Ⅸ .2023, 1ex., 23. Ⅺ .2023

656. ウスイロシマゲンゴロウ *Hydaticus* (*Prodaticus*) *rhantoides* Sharp, 1882
四郷町 , 1ex., 1. Ⅵ .2024 LT
県下ではあまり多くない種のようである (高橋 , 1997). 水田脇の雑木林の中に仕掛けたライトトラップで得られた.

657. マルチビゲンゴロウ Leiodytes frontalis (Sharp, 1884)
北原地区 , 1ex., 21. Ⅶ .2024 LT
四郷町 , 1ex., 16. Ⅸ .2023
環境省カテゴリ：準絶滅危惧（NT）
農地周辺の素掘りの水路や染み出し水でできた湿地など植生が豊富な浅い水辺で見られる.

658. ナガマルチビゲンゴロウ *Leiodytes kyushuensis* (Nakane, 1990)
北原地区 , 1ex., 1. Ⅸ .2024 LT
兼田地区 , 1ex., 21. Ⅶ .2024 LT
全国的に記録の少ない種で県下からは 1958 年に宝塚市で採集された標本記録が知られるだけである (林・初宿 , 2003). 筆者はライトトラップにより 2 個体を確認したので報告する. 北原地区では素掘りの水路がある畑に併設する畦に設置したライトトラップにより得られた. 採集日は降雨後であり水路に水が多く残っていた. 兼田地区では山からの染み出し水で浅い湿地上になった耕作放棄地に設置したライトトラップにて得られた. いずれも植生の豊富な 不安定な浅い湿地でありチビゲンゴロウやマルチビゲンゴロウと同時に確認された.

659. ケシゲンゴロウ *Hyphydrus japonicus japonicus* Sharp, 1873
北原地区 , 2exs., 17. Ⅴ .2023 LT
環境省カテゴリ：準絶滅危惧（NT）
兵庫県版レッドリスト (2022):C ランク

Family HALIPLIDAE Aubé, 1836
コガシラミズムシ科

660. クビボソコガシラミズムシ *Haliplus japonicus* Sharp, 1873
市川河川敷 , 1ex., 11. Ⅵ .2022 LT
市川下流域における本種の生息記録は (脇村・下野・森 , 2021) が詳しい.

Family HYDROPHILIDAE Latreille, 1802
ガムシ科

661. タマガムシ *Amphiops mater mater* Sharp, 1873
北原地区 , 1ex., 22. Ⅷ .2022 LT

662. オオトゲバゴマフガムシ *Berosus* (*Enoplurus*) *incretus* d'Orchymont, 1937
仁寿山 , 1ex., 16. Ⅸ .2023 LT
九州以北では記録の少ない種で県下では赤穂市の塩田湿地からの記録が知られている (森・下野 , 2021). 採集地は海岸からはやや離れた仁寿山北面の山からの染み出し水でできた浅い湿地帯であった.

663. ヒメシジミガムシ *Laccobius* (*Microlaccobius*) *fragilis* Nakane, 1966
北原地区 , 1ex., 19. Ⅷ .2023 LT

664. ヒメセマルガムシ *Coelostoma orbiculare* (Fabricius, 1775)
北原地区 , 1ex., 19. Ⅵ .2022 LT
セマルガムシやコガタセマルガムシと同所で見られる.

665. チビヒラタガムシ *Enochrus* (*Methydrus*) *esuriens* (Walker, 1858)
市川河口 , 1ex., 13. Ⅷ .2022 LT
県内では近年個体数が減少している (森 , 2017c).

666. キベリヒラタガムシ *Enochrus* (*Methydrus*) *japonicus* (Sharp, 1873)
四郷町 , 1ex., 20. Ⅷ .2023

667. ヒラタガムシの一種 *Enochrus* sp.1
北原地区 , 1ex., 19. Ⅷ .2023 LT
体長は 3.5mm. 小顎髭先端は暗色で中胸腹板には突起がありオス交尾器側片の先端はまっすぐ伸びてやや太くなる. 外観の特徴はウスグロヒラタガムシ *E.uniformis* に近いが (Minoshima, 2019) では *E.uniformis* の側片は先端で外に広がるとされていることから不明種とした.

668. スジヒラタガムシ *Helochares* (*Hydrobaticus*) *nipponicus* Hebauer, 1995
北原地区 , 2exs., 9. Ⅸ .2023
兼田地区 , 2exs., 12. Ⅵ .2022, 2exs., 3. Ⅸ .2022
仁寿山 , 1ex., 13. Ⅷ .2022 LT
四郷町 , 2exs., 16. Ⅸ .2023
環境省カテゴリ：準絶滅危惧（NT）
環境省カテゴリでは NT に選定されているが山の染み出し水や農地の浅い湿地など場所を選ばず生息しており個体数も少なくない.

669. ウスモンケシガムシ *Cercyon* (*Clinocercyon*) *laminatus* Sharp, 1873
市川河川敷 , 1ex, 13. Ⅶ .2024 LT

670. キバネケシガムシ *Cercyon* (*Cercyon*) *quisquilius* (Linnaeus, 1760)
白浜海岸 , 1ex., 21. Ⅴ .2022

671. セマルケシガムシ *Cryptopleurum subtile* Sharp, 1884
北原地区 , 1ex., 30. Ⅳ .2022, 1ex., 15. Ⅵ .2022 LT, 1ex., 13. Ⅷ .2022 LT, 1ex., 2. Ⅺ .2022
四郷町 , 1ex., 17. Ⅸ .2023

672. ホソケシガムシ *Paroosternum sorex* (Sharp, 1874)
北原地区 , 2exs., 30. Ⅳ .2022
御旅山 , 2exs., 19. Ⅲ .2022
ススキの枯れ草からのシフティング.

673. コウセンマルケシガムシ *Peratogonus reversus* Sharp, 1884
北原地区 , 2exs., 30. Ⅳ .2022

Family HISTERIDAE Gyllenhal, 1808
エンマムシ科

674. ヨコミゾアカツブエンマムシ *Mullerister niponicus* (Lewis, 1879)
北原地区 , 1ex., 16. Ⅵ .2023 LT
仁寿山 , 2exs., 23. Ⅵ .2023, 1ex., 14. Ⅹ .2023
倒木の樹皮裏で見られる.

675. ヒメチビヒラタエンマムシ *Platylomalus mendicus* (Lewis, 1892)
御旅山 , 2exs., 26. Ⅴ .2022 FIT, 1ex., 28. Ⅴ .2022 FIT, 1ex., 11. Ⅵ .2022 FIT
仁寿山 , 1ex., 1. Ⅴ .2022
倒木の樹皮裏で見られる他，FIT でもよく採集できる.

676. ツヤチビヒラタエンマムシ *Platylomalus viaticus* (Lewis, 1892)
仁寿山 , 1ex., 23. Ⅵ .2023
倒木の樹皮裏で見られる.

677. コツヤエンマムシ *Atholus duodecimstriatus quatuordecimstriatus* (Gyllenhal, 1808)
四郷町 , 1ex., 17. Ⅸ .2023

Family PTILIIDAE Erichson, 1845
ムクゲキノコムシ科

678. ムナビロムクゲキノコムシ *Acrotrichis* (*Flachiana*) *lewisi* (Matthews, 1884)
御旅山 , 1ex., 13. Ⅲ .2022 Litter

679. コゲチャムクゲキノコムシ *Acrotrichis* (*Acrotrichis*) *pumila* (Erichson, 1845)
北原地区 , 1ex., 15. Ⅹ .2022, 3ex., 21. Ⅲ .2023

680. ニホンムクゲキノコムシ *Baeocrara japonica* (A. Matthews, 1884)
北原地区 , 1 ex., 12. Ⅲ .2022, 1ex., 4. Ⅵ .2023
畑の刈草に見られるが前 2 種に比べると少ない.

681. ムクゲキノコムシの一種 *Acrotrichis* sp.1
北原地区 , 3exs., 12. Ⅲ .2023

Family HYDRAENIDAE Mulsant, 1844
ダルマガムシ科

682. ミヤタケダルマガムシ *Hydraena* (*Hydraenopsis*) *miyatakei* M. Satô, 1959
四郷町 , 2exs., 16. Ⅸ .2023

Family LEIODIDAE Fleming, 182
タマキノコムシ科

683. メボソマルタマキノコムシ *Agathidium* (*Agathidium*) *fornicatum* Hlisnikovský, 1964
甲山 , 1ex., 26. Ⅴ .2023

684. チビタマキノコムシ *Zeadolopus japonicus* (Champion, 1925)
仁寿山 , 1ex., 28. Ⅴ .2022 FIT

685. セスジクサビラタマキノコムシ *Pseudcolenis* (*Pseudcolenis*) *hilleri* Reitter, 1885
仁寿山 , 1ex., 2. Ⅴ .2023

686. マルタマキノコムシの一種 *Agathidium* sp.1
仁寿山 , 1ex., 1. Ⅴ .2022

Family STAPHYLINIDAE Latreille, 1802
ハネカクシ科

687. モモブトシデムシ *Necrodes nigricornis* Harold, 1875
北原地区 , 1ex., 28. Ⅴ .2022 LT

688. ベッコウヒラタシデムシ *Necrophila* (*Calosilpha*) *brunnicollis* (Kraatz, 1877)
市川河川敷 , 1ex., 19. Ⅴ .2024
河川敷のベイトトラップで得られたが同所に生息するツシマヒラタシデムシに比べ圧倒的に数が少ない.

689. オオヒラタシデムシ *Necrophila* (*Eusilpha*) *japonica* (Motschulsky, 1862)
御旅山 , 1ex., 17. Ⅵ .2022
ツシマヒラタシデムシとは生息場所をすみ分けており本種は水辺では見られない.

690. ムネボソヨツメハネカクシ *Boreaphilus japonicus* Sharp, 1874
北原地区 , 1ex., 17. Ⅲ .2023

691. シリブトヨツメハネカクシ *Eudectus rufulus* Weise, 1877
御旅山 , 1ex., 20. Ⅲ .2022

692. セミゾヨツメハネカクシ *Omalium japonicum* Sharp, 1874
仁寿山 , 1ex., 1. Ⅴ .2022, 2exs., 9. Ⅳ .2023
兼田地区 , 1ex., 16. Ⅳ .2022
市川河川敷 , 1ex., 4. Ⅲ .2023
犬糞トラップで採集した．場所を選ばず調査地域内に広く分布しておりいずれの場所でも個体数は多い.

693. セマルハバビロハネカクシ *Megarthrus convexus* Sharp, 1874
御旅山 , 1ex., 21. Ⅲ .2023

694. チビハバビロハネカクシの一種 *Proteinus* sp.2
四郷町 , 1ex., 14. Ⅳ .2024
犬糞トラップで採集した.

695. セスジチビハネカクシ *Micropeplus fulvus japonicus* Sharp, 1874
北原地区 , 1ex., 2. Ⅴ .2022, 1ex., 8. Ⅺ .2022

696. アシベアリヅカムシ *Prosthecarthron sauteri* Raffray, 1914
市川河口 , 5exs., 13. Ⅷ .2022
河口付近の葦原で見られる．本種の県内の記録は (新井・野村・亀澤 , 2005) が知られており市川からの記録は初になると思われる.

697. ダイコクアリヅカムシ *Rybaxis princeps* (Sharp, 1874)
御旅山 , 1ex., 27. Ⅺ .2022

698. コヤマトヒゲブトアリヅカムシ 基亜種 *Diartiger fossulatus fossulatus* Sharp, 1883
御旅山 , 1ex., 27. Ⅲ .2022

699. クロヒゲヒメキノコハネカクシ *Sepedophilus longipennis* (Cameron, 1930)
御旅山 , 1ex., 30. Ⅳ .2022
仁寿山 , 1ex., 25. Ⅳ .2022

700. ハスモンヒメキノコハネカクシ *Sepedophilus pumilus* (Sharp, 1874)
北原地区 , 1ex., 15. Ⅹ .2022, 1ex., 1. Ⅴ .2023

701. クロヒメキノコハネカクシ *Sepedophilus varicornis* (Sharp, 1888)
御旅山 , 1ex., 3. Ⅵ .2022

702. ヒメキノコハネカクシの一種 *Sepedophilus* sp.1
御旅山 , 1ex., 24. Ⅵ .2022 カワラタケ
仁寿山 , 1ex., 2. Ⅴ .2022 カワラタケ

703. アカセマルチビマルクビハネカクシ *Coproporus evanescens* (Boheman, 1858)
北原地区 , 1ex., 8. Ⅹ .2022, 1ex., 15. Ⅹ .2022

704. ニセセスジヒゲブトハネカクシ *Aleochara* (*Triochara*) *zerchei* (Assing, 1995)
白浜海岸 , 1ex., 7. Ⅳ .2024

705. ミズギワヒメハネカクシ *Hydrosmecta longula* (Heer, 1839)

仁寿山 , 1ex., 7. Ⅳ .2024
沢の岩の下より得られた.

706. キバネセミゾハネカクシ *Myrmecocephalus sapidus* (Sharp, 1874)
北原地区 , 1ex., 2. Ⅴ .2022, 1ex., 1. Ⅹ .2022

707. ヒゲナガカレハハネカクシ *Neosilusa ceylonica* (Kraatz, 1857)
北原地区 , 1ex., 9. Ⅺ .2024

708. アバタヒメハネカクシ *Schistogenia crenicollis* Kraatz, 1857
四郷町 , 1ex., 17. Ⅸ .2023

709. モンクロアリノスハネカクシ *Zyras* (*Zyras*) *haworthi* (Stephens, 1832)
御旅山 , 1ex., 11. Ⅵ .2022 LT

710. ハダニカブリケシハネカクシ *Holobus yasumatsui* (Kistner, 1969)
市川河川敷 , 1ex., 10. Ⅳ .2023

711. ツヤヒラタハネカクシの一種 *Gyrophaena* sp.1
兼田地区 , 7exs., 24. Ⅵ .2022

712. ツヤヒラタハネカクシの一種 *Gyrophaena* sp.2
仁寿山 , 1ex., 5. Ⅶ .2024

713. ナギサハネカクシの一種 *Bryothinusa* sp.1
市川河口 , 2exs., 13. Ⅷ .2022
河口の川岸に多く見られた.

714. ヒゲブトハネカクシの一種 Aleocharinae sp.1
仁寿山 , 1ex., 27. Ⅲ .2022, 1ex., 1. Ⅴ .2022
アラカシ伐採木の樹皮裏より得られた.

715. ヒゲブトハネカクシの一種 Aleocharinae sp.2
仁寿山 , 1ex., 27. Ⅲ .2022
アラカシ伐採木の樹皮裏より得られた.

716. ヒゲブトハネカクシの一種 Aleocharinae sp.3
御旅山 , 1ex., 27. Ⅴ .2024 LT

717. ヒゲブトハネカクシの一種 Aleocharinae sp.4
仁寿山 , 1ex., 30. Ⅳ .2022, 1ex., 11. Ⅴ .2024
カワラタケより得られた.

718. ヒゲブトハネカクシの一種 Aleocharinae sp.5
市川河川敷 , 1ex., 8. Ⅹ .2023

719. ヒゲブトハネカクシの一種 Aleocharinae sp.6
御旅山 , 1ex., 12. Ⅲ .2023

720. ヒゲブトハネカクシの一種 Aleocharinae sp.7
市川河川敷 , 1ex., 11. Ⅻ .2022

721. ヒゲブトハネカクシの一種 Aleocharinae sp.8
北原地区 , 2exs., 8. Ⅹ .2022

722. ヒゲブトハネカクシの一種 Aleocharinae sp.9
北原地区 , 1ex., 8. Ⅺ .2022

723. ヒゲブトハネカクシの一種 Aleocharinae sp.10
北原地区 , 1ex., 12. Ⅲ .2023

724. ヒゲブトハネカクシの一種 Aleocharinae sp.11
仁寿山 , 1ex., 14. Ⅳ .2024

725. ヒゲブトハネカクシの一種 Aleocharinae sp.12
兼田地区 , 1ex., 5. Ⅴ .2024

726. ヒゲブトハネカクシの一種 Aleocharinae sp.13
仁寿山 , 1ex., 11. Ⅵ .2024

727. ケシデオキノコムシの一種 *Scaphisoma* sp.2
御旅山 , 1ex., 30. Ⅰ .2022 Litter

728. ケシデオキノコムシの一種 *Scaphisoma* sp.3
仁寿山 , 1ex., 4. Ⅸ .2022, 1ex., 14. Ⅹ .2023

729. ケシデオキノコムシの一種 *Scaphisoma* sp.4
御旅山 , 1ex., 30. Ⅷ .2023

730. ケシデオキノコムシの一種 *Scaphisoma* sp.5
仁寿山 , 1ex., 14. Ⅹ .2023

731. ナガモリツツハネカクシ *Nacaeus longulus* (Sharp, 1874)
御旅山 , 1ex., 30. Ⅰ .2022
立ち枯れの樹皮裏より得られた.
仁寿山 , 1ex., 4. Ⅰ .2022, 1ex., 2. Ⅴ .2023
アラカシ伐採木の樹皮裏より得られた.

732. コバネアシベセスジハネカクシ *Anotylus amicus* (Bernhauer, 1923)

北原地区 , 1ex., 1. Ⅴ .2023
仁寿山 , 1ex., 2. Ⅴ .2022
市川河川敷 , 1ex., 25. Ⅲ .2023

733. シワバネセスジハネカクシ *Anotylus mimulus* (Sharp, 1874)
仁寿山 , 1ex., 16. Ⅴ .2022

734. セスジハネカクシの一種 *Anotylus* sp.4
北原地区 , 1ex., 13. Ⅷ .2022 LT
兼田地区 , 1ex., 8. Ⅹ .2023

735. ニセヒメユミセミゾハネカクシ *Carpelimus* (*Carpelimus*) *vagus* (Sharp, 1930)
北原地区 , 1ex., 26. Ⅳ .2022 LT, 1ex., 18. Ⅷ .2023 LT
四郷町 , 1ex., 26. Ⅷ .2023

736. ニセユミセミゾハネカクシの一種 *Carpelimus* sp.2
市川河川敷 , 1ex., 21. Ⅶ .2022 LT

737. ルイスナガメダカハネカクシ *Stenus lewisius* lewisius Sharp, 1874
市川河川敷 , 1ex., 8. Ⅰ .2023

738. キアシホソメダカハネカクシ *Stenus rugipennis* Sharp, 1874
北原地区 , 1ex., 2. Ⅴ .2022
白浜海岸 , 1ex., 2. Ⅹ .2022

739. チビフトハネカクシの一種 *Edaphus* sp.1
仁寿山 , 1ex., 1. Ⅴ .2022
アラカシ伐採木の樹皮裏より得られた.

740. クロカワベナガエハネカクシ *Ochthephilum densipenne (Sharp, 1889)*
北原地区 , 1ex., 11. Ⅵ .2022 LT

741. カントウシリグロハネカクシ *Astenus japonicus* Zhao & Sakai, 1999
北原地区 , 1ex., 8. Ⅹ .2022

742. キアシシリグロハネカクシ *Astenus latifrons* (Sharp, 1874)
御旅山 , 1ex., 27. Ⅺ .2023

743. フタホシシリグロハネカクシ *Astenus* (*Astenognathus*) *maculipennis* (Kraatz, 1859)
北原地区 , 1ex., 26. Ⅹ .2022
御旅山 , 1ex., 19. Ⅲ .2023

744. オオシリグロハネカクシ *Astenus* (*Astenus*) *suffusus* (Sharp, 1874)
御旅山 , 1ex., 19. Ⅲ .2023

745. シリグロハネカクシの一種 *Astenus* sp.1
白浜海岸 , 1ex., 22. Ⅳ .2022 LT

746. クビボソハネカクシ *Rugilus* (*Eurystilicus*) *rufescens* (Sharp, 1874)
北原地区 , 2exs., 21. Ⅲ .2023

747. ヒメクビボソハネカクシ *Scopaeus* (Scopaeus) *currax* Sharp, 1889
北原地区 , 1ex., 4. Ⅵ .2023, 1ex., 12. Ⅲ .2023
市川河川敷 , 1ex., 24. Ⅷ .2022 LT

748. タチゲクビボソハネカクシ *Sunesta setigera setigera* (Sharp, 1874)
御旅山 , 1ex., 11. Ⅺ .2022
仁寿山 , 1ex., 2. Ⅴ .2022

749. ヒメトガリハネカクシ *Hypomedon debilicornis* (Wollaston, 1857)
北原地区 , 1ex., 15. Ⅹ .2022

750. マルズハネカクシ *Domene* (*Macromene*) *crassicornis* (Sharp, 1874)
仁寿山 , 1ex., 9. Ⅳ .2023, 1ex., 7. Ⅳ .2024

751. キアシコガシラナガハネカクシ *Tetartopeus gracilentus* Kraatz, 1859
北原地区 , 1ex., 12. Ⅵ .2022
四郷町 , 1ex., 26. Ⅷ .2023

752. サビハネカクシ *Ontholestes gracilis* (Sharp, 1874)
仁寿山 , 1ex., 8. Ⅴ .2022

753. ツツナガハネカクシの一種 *Lobrathium* sp.1
北原地区 , 1ex., 13. Ⅷ .2022 LT
仁寿山 , 1ex., 15. Ⅶ .2022 LT

754. ナガハネカクシの一種 Xantholinini sp.1
仁寿山 , 1ex, 8. Ⅴ .2022

755.　ナガハネカクシの一種　Xantholinini sp.2
仁寿山 , 1ex, 12. Ⅲ .2023

756.　ナガハネカクシの一種 Xantholinini sp.3
御旅山 , 2exs., 21. Ⅲ .2023

757.　コガシラハネカクシの一種　Staphylinini sp.1
北原地区 , 1ex., 13. Ⅷ .2022 LT

758.　コガシラハネカクシの一種　Staphylinini sp.2
市川河川敷 , 1ex., 7. Ⅹ .2023

759.　コガシラハネカクシの一種　Staphylinini sp.3
市川河川敷 , 1ex., 5. Ⅴ .2024

760.　コガシラハネカクシの一種　Staphylinini sp.4
仁寿山 , 1ex., 15. Ⅶ .2022 LT

Family TROGIDAE MacLeay, 1819
コブスジコガネ科

761.　ヒメコブスジコガネ　*Glyptotrox opacotuberculatus* (Motschulsky, 1860)
仁寿山 , 2exs, 11. Ⅴ .2022
山道のやや開けた箇所の犬糞から得られた.

Family SCARABAEIDAE Latreille, 1802
コガネムシ科

762.　チャグロマグソコガネ　*Aphodius* (*Aparammoecius*) *isaburoi* Nakane, 1956
市川河川敷 , 2exs, 12.III.2023

763.　キマダラマグソコガネ *Aphodius* (*Chilothorax*) *punctatus* C. O. Waterhouse, 1875
市川河川敷 , 1ex, 11. Ⅻ .2022
山中の狸の溜め糞でよくみられるが土手のような開けた場所でも稀に見られる.

764.　マグソコガネ　*Aphodius* (*Phaeaphodius*) *rectus* Motschulsky, 1866
市川河川敷 , 2exs, 6.III.2022

765.　コケシマグソコガネ　*Myrhessus samurai* (Balthasar, 1941)
市川河川敷 , 1ex., 5. Ⅴ .2024
植物の根際に仕掛けた犬糞トラップで得られた.

766.　カドマルエンマコガネ　*Onthophagus* (*Strandius*) *lenzii* Harold, 1874
仁寿山 , 1ex, 4.VI.2022

767.　オオコフキコガネ　*Melolontha* (*Melolontha*) *frater* Arrow, 1913
兼田地区 , 1ex, 16, Ⅵ .2022 LT

768.　シロスジコガネ　*Polyphylla* (*Granida*) *albolineata* (Motschulsky, 1861)
仁寿山 , 1ex., 25. Ⅵ .2022 LT
兵庫県版レッドリスト (2022):B ランク
仁寿山山頂でのライトトラップで得られた．仁寿山山頂は白浜海岸からは 3.5km ほど離れておりこれまで白浜海岸で本種を確認できていないことと山頂付近には松が生えていることから海岸ではなく山地の松林に生息しているのではないかと思われる.

769.　マルオクロコガネ　*Nigrotrichia convexopyga* (Moser, 1912)
兼田地区 , 1ex, 16,VI.2022 LT

770.　コクロコガネ　*Pedinotrichia picea* (Waterhouse, 1875)
仁寿山 , 1ex., 15.VI.2022

771.　サクラコガネ　*Anomala daimiana* Harold, 1877
兼田地区 , 1ex, 16,VI.2022 LT

772.　コカブト 基亜種　*Eophileurus* (*Eophileurus*) *chinensis chinensis* (Faldermann, 1835)
兼田地区 , 1ex, 5,V.2022

Family LUCANIDAE Latreille, 1804
クワガタムシ科

773.　ノコギリクワガタ 基亜種　*Prosopocoilus inclinatus inclinatus* (Motschulsky, 1858)
御旅山 , 1ex., 5. Ⅷ .2024
住宅地の道路に落ちていた個体．雑木林の樹液で本種を確認したことがないので飼育個体が逃げ出したものかもしれない.

Family CLAMBIDAE Fischer von Waldheim, 1821
タマキノコムシモドキ科

774.　ニホンマルタマキノコムシモドキ *Clambus formosanus japonicus* Endrödy-Younga, 1960
仁寿山 , 1ex., 19. Ⅲ .2023, 1ex., 12. Ⅲ .2023

Family BUPRESTIDAE Leach, 1815
タマムシ科

775. ヒシモンナガタマムシ *Agrilus discalis* E. Saunders, 1873
兼田地区 , 2exs., 10. Ⅳ .2022

776. アオグロナガタマムシ *Agrilus viridiobscurus* E. Saunders, 1873
兼田地区 , 2exs., 28. Ⅴ .2023

777. ハイイロヒラタチビタマムシ *Habroloma* (*Parahabroloma*) *griseonigrum* (E. Saunders, 1873)
仁寿山 , 1ex., 11. Ⅴ .2024

778. ヒラタチビタマムシ *Habroloma* (*Parahabroloma*) *subbicorne* (Motschulsky, 1860)
仁寿山 , 1ex., 1. Ⅵ .2024

779. ウメチビタマムシ *Trachys inconspicua* E. Saunders, 1873
御旅山 , 1ex., 25. Ⅵ .2022

780. ヤノナミガタチビタマムシ *Trachys griseofasciata* E. Saunders, 1873
兼田地区 , 1ex., 27. Ⅲ .2022, 2exs., 22. Ⅴ .2022, 2exs., 28. Ⅴ .2023

Family Family BYRRHIDAE Latreille, 1804
マルトゲムシ科

781. チビマルトゲムシの一種 *Horiella* sp.1
御旅山 , 1ex., 19. Ⅵ .2024 LT

Family ELMIDAE Curtis, 1830
ヒメドロムシ科

782. キベリナガアシドロムシ *Grouvellinus marginatus* (Kono, 1934)
北原地区 , 1ex., 19. Ⅷ .2024 LT

783. トウカイヒメツヤドロムシ *Zaitzeviaria takafumii* M. Hayashi & Yoshitomi, 2021
仁寿山 , 3exs., 23. Ⅶ .2022, 1ex., 2. Ⅴ .2023
本種は 2021 年に愛知県で採集された個体を元に記載された種 (林・吉冨 , 2021) で県下からは淡路島の記録が知られている (石山 , 2022)．晴れた日が続くと水が枯れてしまうような細流で得られた．

Family ELMIDAE Billberg, 1820 (1817)
ドロムシ科

784. ムナビロツヤドロムシ *Elmomorphus brevicornis* Sharp, 1888
仁寿山 , 2exs., 15. Ⅶ .2022 LT
北原地区 , 1ex., 14. Ⅷ .2024 LT
本種は河川の上～中流域に見られることが多いようであるが市川では下流域で確認された．

Family EUCNEMIDAE Eschscholtz, 1829
コメツキダマシ科

785. オオチャイロコメツキダマシ *Fornax victor* Fleutiaux, 1923
仁寿山 , 1ex., 1. Ⅶ .2022 LT, 1ex., 6. Ⅶ .2024 LT

Family THROSCIDAE Laporte, 1840
ヒゲブトコメツキ科

786. ミカドヒゲブトコメツキ *Trixagus micado* Reitter, 1921
仁寿山 , 1ex., 22. Ⅴ .2022 FIT
白浜海岸 , 2exs., 1. Ⅶ .2022 LT

Family ELATERIDAE Leach, 1815
コメツキムシ科

787. オオクシヒゲコメツキ *Orthostethus sieboldi sieboldi* (Candèze, 1873)
御旅山 , 1ex., 19. Ⅷ .2023

788. コガタノサビコメツキ 基亜種 *Lacon parallelus parallelus* (Lewis, 1894)
仁寿山 , 2exs., 6. Ⅶ .2024 LT

789. スナサビキコリ *Meristhus* (*Sulcimerus*) *niponensis* Lewis, 1894
白浜海岸 , 2exs., 23. Ⅸ .2022
兵庫県版レッドリスト (2022): 要調査
海浜性の種で植物の根際で見られる．白浜海岸のハマゴウの根際で確認されたもので姫路市からは初記録となる．

790. シモフリコメツキ *Actenicerus* (*Acnitecerus*) *pruinosus* (Motschulsky, 1861)
御旅山 , 1ex., 21. Ⅲ .2022

791. ドウガネホソヒラタコメツキ *Corymbitodes gratus* (Lewis, 1894)

御旅山 , 1ex., 27. Ⅳ .2024

792. クロツヤハダコメツキ 基亜種 *Hemicrepidius* (*Hemicrepidius*) *secessus secessus* (Candèze, 1873)
仁寿山 , 1ex., 4. Ⅵ .2023
御旅山 , 1ex., 11. Ⅵ .2024 LT

793. ヒサゴコメツキの一種 *Homotechnes* sp.1
仁寿山 , 1ex., 15. Ⅵ .2022 LT, 1ex., 6. Ⅶ .2024 LT

794. カタモンチビコメツキ 基亜種 *Zorochros* (*Pronegastrius*) *humeralis humeralis* (Candèze, 1873)
仁寿山 , 3exs., 13. Ⅳ .2024
河原の砂地に生息する種とされているが山からの染み出し水で出る浅い湿地帯周りの刈草で得られた.

795. ニホンチビマメコメツキ *Quasimus* (*Quasimus*) *japonicus* Kishii, 1959
仁寿山 , 1ex., 27. Ⅲ .2022
仁寿山 , 1ex., 11. Ⅴ .2024 LT

796. アカハラクロコメツキ 基亜種 *Ampedus* (*Ampedus*) *hypogastricus hypogastricus* (Candèze, 1873)
御旅山 , 1ex., 21. Ⅴ .2022 LT
仁寿山 , 1ex.m 11. Ⅴ .2024 LT

797. ヒメホソキコメツキ *Agaripenthes helvolus* (Candèze, 1873)
白浜海岸 , 1ex., 13. Ⅶ .2024
訪花性の種で県下の記録はあまり多くない．山地での記録が多いようで大雨後の漂着ごみから得られたため上流から流されてきた個体と思われる.

798. ニセクチブトコメツキ *Lanecarus palustris* (Lewis, 1894)
仁寿山 , 1ex., 7. Ⅳ .2024
市川河川敷 , 1ex., 5. Ⅴ .2024

799. クロクシコメツキ 基亜種 *Melanotus* (*Melanotus*) *senilis senilis* Candèze, 1865
市川河川敷 , 1ex., 5. Ⅴ .2022

Family LYCIDAE Laporte, 1836
ベニボタル科

800. オオクシヒゲベニボタル *Macrolycus* (*Cerceros*) *excellens* Nakane, 1969
御旅山 , 2exs., 27. Ⅴ .2024 LT

Family LAMPYRIDAE Rafinesque, 1815
ホタル科

801. クロマドボタル *Pyrocoelia fumosa* (Gorham, 1883)
仁寿山 , 1ex., 23. Ⅵ .2023

Family CANTHARIDAE Imhoff, 1856
ジョウカイボン科

802. マルムネジョウカイ *Prothemus ciusianus* (Kiesenwetter, 1874)
御旅山 , 1ex., 28. Ⅴ .2022 LT
仁寿山 , 1ex., 28. Ⅴ .2023

803. フタイロチビジョウカイ *Malthinellus bicolor* Kiesenwetter, 1874
御旅山 , 1ex., 19 Ⅵ .2022, 1ex., 25 Ⅵ .2022

804. キベリコバネジョウカイ *Trypherus* (*Trypherus*) *niponicus* (Lewis, 1879)
御旅山 , 1ex., 24. Ⅵ .2022
四郷町 , 1ex., 1. Ⅵ .2024

Family BOSTRICHIDAE Latreille, 1802
ナガシンクイムシ科

805. オオナガシンクイ *Heterobostrychus hamatipennis* (Lesne, 1895)
北原地区 , 1ex., 24. Ⅵ .2022

Family DERMESTIDAE Latreille, 1804
カツオブシムシ科

806. チビケカツオブシムシ *Trinodes rufescens* Reitter, 1877
仁寿山 , 1ex., 26. Ⅴ .2023

807. ヒメカツオブシムシ *Attagenus* (*Attagenus*) *unicolor japonicus* Reitter, 1877
御旅山 , 1ex., 26. Ⅴ .2022, 2exs., 28. Ⅴ .2022

808. ベニモンチビカツオブシムシ *Orphinus* (*Orphinus*) *japonicus* Arrow, 1915
仁寿山 , 1ex., 25. Ⅵ .2022 LT

809. ヨツモンチビカツオブシムシ *Orphinus*

(*Orphinus*) *quadrimaculatus* (Matsumura & Yokoyama, 1928)
御旅山 , 1ex., 20. Ⅶ .2024 LT

Family PTINIDAE Latreille, 1802
ヒョウホンムシ科

810. フルホンシバンムシ *Gastrallus immarginatus* (Müller, 1821)
御旅山 , 1ex., 24. Ⅵ .2022 LT
白浜海岸 , 1ex., 1. Ⅶ .2022 LT

811. ジンサンシバンムシ *Stegobium paniceum* (Linnaeus, 1758)
北原地区 , 1ex, 21. Ⅴ .2022, 1ex, 8. Ⅹ .2022, 1ex., 9. Ⅻ .2022

812. クリイロタマキノコシバンムシ *Byrrhodes nipponicus* Sakai, 1984
御旅山 , 1ex., 27. Ⅴ .2024 LT

813. ヒメホコリタケシバンムシ *Caenocara rufitarse* (Reitter, 1878)
北原地区 , 1ex, 26. Ⅵ .2022 LT
御旅山 , 1ex., 30. Ⅳ .2022, 11. Ⅵ .2022 LT, 2exs., 10. Ⅹ .2022
仁寿山 , 1ex., 25. Ⅵ .2022 LT

814. ニセスジキノコシバンムシ *Stagetodes tetsuyai* Sakai, 1995
仁寿山 , 1ex., 6. Ⅶ .2024 LT
本種は大阪府信貴山で得られた雌個体を基に記載された種で（Sakai, 1995），本州および九州に分布するとされている．しかし，記録は少なく，中国・四国地方や兵庫県での記録はこれまで確認されておらず，今回の兵庫県での記録は，大阪から九州にかけての空白地帯を埋める記録となる．

Family BIPHYLLIDAE LeConte, 1861
ムクゲキスイムシ科

815. アカグロムクゲキスイ *Biphyllus lewisi* (Reitter, 1889)
御旅山 , 1ex., 28. Ⅴ .2022

816. ハスモンムクゲキスイ *Biphyllus rufopictus* (Wollaston, 1873)
仁寿山 , 1ex.,27. Ⅲ .2022, 1ex., 1. Ⅴ .2022, 1ex., 2. Ⅴ .2022, 1ex., 4. Ⅵ .2022 LT

Family MELYRIDAE Leach, 1815
ジョウカイモドキ科

817. ヒメジョウカイモドキ *Nepachys japonicus* (Kiesenwetter, 1874)
甲山 , 2exs., 9. Ⅴ .2022
仁寿山 , 1ex.,25. Ⅵ .2022

Family RHADALIDAE LeConte, 1861
コケシジョウカイモドキ科

818. コケシジョウカイモドキ *Semijulistus spectabilis* (Lewis, 1895)
御旅山 , 1ex.,23. Ⅳ .2023

Family MELYRIDAE Latreille, 1802
カッコウムシ科

819. ツマグロツツカッコウムシ *Tenerus hilleri* Harold, 1877
北原地区 , 1ex., 24. Ⅶ .2022 LT
仁寿山 , 1ex.,23. Ⅶ .2022 LT

Family MYCETOPHAGIDAE Leach, 1815
コキノコムシ科

820. ウスモンヒメコキノコムシ *Litargus* (*Litargosomus*) *lewisi* Reitter, 1889
御旅山 , 1ex., 13. Ⅷ .2024

Family EROTYLIDAE Latreille, 1802
オオキノコムシ科

821. ヒラタコメツキモドキ *Cathartocryptus hiranoi* (Sasaji, 1989)
御旅山 , 1ex., 20. Ⅶ .2024 LT
本種の分布は (平野・青木 , 2012) で詳しく述べられているが，兵庫県での記録は確認されていない．

822. キムネヒメコメツキモドキ *Anadastus atriceps* (Crotch, 1873)
市川河川敷 , 1ex., 27. Ⅳ .2024

823. ケシコメツキモドキ 基亜種 *Microlanguria jansoni jansoni* (Crotch, 1873)
仁寿山 , 2exs., 8. Ⅹ .2022,

824. ケナガマルキスイ *Toramus glisonothoides* (Reitter, 1874)

仁寿山 , 1ex., 1. Ⅹ .2022
兼田地区 , 1ex., 8. Ⅹ .2023

825. アカスジナガムクゲキスイ *Cryptophilus hiranoi* Sasaji, 1984
御旅山 , 3exs., 27. Ⅺ .2022
仁寿山 , 3exs., 15. Ⅹ .2022, 1ex., 15. Ⅹ .2022, 1ex., 8. Ⅺ .2022

826. ニホンホソオオキノコ *Dacne* (*Dacne*) *japonica* Crotch, 1873
仁寿山 , 1ex., 9. Ⅳ .2023

827. セモンホソオオキノコ *Dacne* (*Dacne*) *picta* Crotch, 1873
御旅山 , 1ex. 20. Ⅶ .2024 LT

828. フタホシチビオオキノコ *Triplax devia* Lewis, 1887
仁寿山 , 2exs., 23. Ⅵ .2023
カワラタケから得られた.

829. クロチビオオキノコ *Tritoma* (*Tritoma*) *niponensis* (Lewis, 1874)
御旅山 , 2exs., 21. Ⅲ .2022
仁寿山 , 1ex., 6. Ⅳ .2024
カワラタケより得られた.

830. シベリアチビオオキノコ *Triplax sibirica connectens* (Lewis, 1887)
仁寿山 , 1ex., 23. Ⅶ .2022 LT

Family SPHINDIDAE Jacquelin du Val, 1860
ヒメキノコムシ科

831. マルヒメキノコムシ *Aspidiphorus japonicus* (Reitter, 1879)
仁寿山 , 3exs., 23. Ⅵ .2023
御旅山 , 1ex., 20. Ⅶ .2024

832. ヒメキノコムシの一種 *Sphindus* sp.1
仁寿山 , 1ex., 6. Ⅶ .2024 LT
本種は *Sphindus* 属に属する未記載種である. 同属については（平野 , 2014）で詳しく解説されており，同報告では，本邦産として既知種の２種と未記載種３種を含む計５種を記載している. 今回採集した個体は全身が赤褐色で，上翅が長いという特徴を持つことから，(平野 , 2014) にある既知種や未記載種のいずれにも該当しないと判断した．また，この個体はその特徴から日本産ヒメキノコムシ科 Sphindidae の覚書～粘菌の妖精～［http://shipi2015.blog.fc2.com/blog-entry-8.html］で紹介されているドウガネヒメキノコムシ (仮称) に該当すると思われる.

Family MONOTOMIDAE Laporte, 1840
ネスイムシ科

833. アナバケデオネスイ *Mimemodes cribratus* (Reitter, 1874)
仁寿山 , 1ex., 27. Ⅲ .2022
アカメガシワの立ち枯れの樹皮裏から得られた.

834. オバケデオネスイ *Mimemodes monstrosus* (Reitter, 1874)
兼田地区 , 1ex., 7. Ⅹ .2023

835. ホソムネデオネスイ *Monotoma longicollis* (Gyllenhal, 1827)
北原地区 , 1ex., 27. Ⅷ .2022 LT
四郷町 , 1ex., 17. Ⅸ .2023

836. ニセケブカネスイ *Rhizophagoides kojimai* Nakane & Hisamatsu, 1963
北原地区 , 2exs., 28. Ⅳ .2023

Family CRYPTOPHAGIDAE Kirby, 1826
キスイムシ科

837. ノコバキスイ *Micrambe* (*Micrambe*) *micramboides* (Reitter, 1874)
北原地区 , 1ex., 8. Ⅺ .2022, 2exs., 15. Ⅹ .2022, 1ex., 8. Ⅺ .2022

838. ウスバキスイ *Cryptophagus decoratus* Reitter, 1874
北原地区 , 1ex., 8. Ⅺ .2022

839. ガマキスイ *Telmatophilus orientalis* Sasaji, 1987
四郷町 , 1ex., 10. Ⅸ .2023
ガマの穂からのスイーピングで得られた.

840. キイロセマルキスイ *Atomaria* (*Anchicera*) *lewisi* Reitter, 1877
北原地区 , 2exs., 9. Ⅳ .2023, 2exs., 19. Ⅷ .2023 LT

Family SILVANIDAE Kirby, 1837
ホソヒラタムシ科

841. ノコギリホソヒラタムシ *Oryzaephilus surinamensis* (Linnaeus, 1758)

姫路市東山 , 1ex., 22. Ⅳ .2022
スーパーに設置されたコイン精米機から得られた．コイン精米機では本種のほかにコクヌストモドキも多く見られる．

842. ホソミツカドホソヒラタムシ *Silvanoprus grouvellei* (Reitter, 1876)
仁寿山 , 1ex., 2. Ⅴ .2022, 1ex., 2. Ⅶ .2022, 1ex., 15. Ⅹ .2022, 1ex., 19. Ⅳ .2023

843. ミツカドホソヒラタムシ *Silvanoprus scuticollis* (Walker, 1859)
北原地区 , 1ex., 19. Ⅲ .2023, 1ex., 14. Ⅸ .2023
四郷町 , 1ex., 23. Ⅺ .2023

844. ホホビロホソヒラタムシ *Silvanoprus longicollis* (Reitter, 1876)
北原地区 , 10. Ⅺ 1.2022
御旅山 , 1ex., 27. Ⅲ .2022 LT
仁寿山 , 2exs., 8. Ⅹ .2022, 1ex., 15. Ⅹ .2022
白浜海岸 , 2exs., 2. Ⅹ .2022

Family PHALACRIDAE Leach, 1815
ヒメハナムシ科

845. キイロアシナガヒメハナムシ *Augasmus nipponicus* (Hisamatsu, 1985)
市川河川敷 , 1ex., 22. Ⅷ .2022, 1ex., 20. Ⅺ .2022, 1ex., 7. Ⅹ .2023
兼田地区 , 1ex., 19. Ⅲ .2023

846. チビズマルヒメハナムシ *Phalacrus luteicornis* Champion, 1924
仁寿山 , 1ex., 23. Ⅶ .2022 LT

847. アカボシチビヒメハナムシ *Stilbus* (*Stilbus*) *bipustulatus* Champion, 1925
兼田地区 , 1ex., 21. Ⅶ .2024 LT

848. ヒメハナムシの一種 *Olibrus* sp.1
兼田地区 , 1ex., 16. Ⅸ .2023

849. ヒメハナムシの一種 *Acylomus* sp.1
兼田地区 , 1ex., 16. Ⅵ .2022 LT

Family LAEMOPHLOEIDAE Ganglbauer, 1899
チビヒラタムシ科

850. サビカクムネチビヒラタムシ *Cryptolestes ferrugineus* (Stephens, 1831)
北原地区 , 1ex., 21. Ⅷ .2022 LT

851. グルーベルホソチビヒラタムシ *Leptophloeus convexiusculus* (Grouvelle, 1877)
仁寿山 , 1ex., 2. Ⅴ .2022
フジの枯れ枝からコキクイムシ属の一種とともに得られた．

Family NITIDULIDAE Latreille, 1802
ケシキスイ科

852. トゲアシヒラタケシキスイ *Epuraea* (*Micruria*) *dentipes* Hisamatsu, 1961
仁寿山 , 1ex., 25. Ⅵ .2022 LT
市川河川敷 , 1ex., 27. Ⅳ .2024

853. モンチビヒラタケシキスイ *Epuraea* (*Haptoncus*) *ocularis* (Fairmaire, 1849)
仁寿山 , 1ex., 14. Ⅴ .2022

854. クロハナケシキスイ *Carpophilus* (*Carpophilus*) *chalybeus* Murray, 1864
北原地区 , 1ex., 11. Ⅳ .2022

855. トゲナシチビケシキスイ *Astylogethes corvinus* (Erichson, 1845)
市川河口 , 2exs., 17. Ⅵ .2022
市川河川敷 , 1exs., 1. Ⅵ .2024

856. ヒゲナガチビケシキスイ *Pria tokarensis* Nakane, 1959
北原地区 , 1ex., 11. Ⅳ .2022

857. フトヒゲツヤマルケシキスイ *Neopallodes clavatus* Reitter, 1884
御旅山 , 1ex., 27. Ⅲ .2022

858. コクロヒラタケシキスイ *Ipidia* (*Hemipidia*) *sibirica* (Reitter, 1879)
仁寿山 , 2exs., 27. Ⅲ .2022

859. クロヒラタケシキスイ 基亜種 *Ipidia* (*Ipidia*) *variolosa variolosa* Reitter, 1879
仁寿山 , 1ex., 27. Ⅲ .2022

Family ANAMORPHIDAE Strohecker, 1953
マルテントウダマシ科

860. ヒメマルガタテントウダマシ *Dexialia minor* (Chûjô, 1941)
御旅山 , 1ex, 20. Ⅲ .2023

Family ENDOMYCHIDAE Leach, 1815
テントウムシダマシ科

861. エグリツヤヒメマキムシ *Holoparamecus* (*Calyptobium*) *contractus* Wollaston, 1874
北原地区 , 1ex., 23. Ⅹ .2022, 1ex., 26. Ⅹ .2022
御旅山 , 1ex., 11. Ⅺ .2022

862. イカリモンテントウダマシ *Mycetina ancoriger* Gorham, 1873
北原地区 , 1ex., 10. Ⅹ .2022
市川河川敷 , 1ex., 8. Ⅸ .2023

Family COCCINELLIDAE Latreille, 1807
テントウムシ科

863. クロツヤテントウ *Serangium japonicum* Chapin, 1940
北原地区 , 1ex., 13. Ⅷ .2022 LT
御旅山 , 1ex., 28. Ⅴ .2022
白浜海岸 , 1ex., 17. Ⅵ .2022 LT

864. カメノコテントウ *Aiolocaria hexaspilota* (Hope, 1831)
北原地区 , 1ex., 30. Ⅷ .2023

865. シロジュウゴホシテントウ *Calvia quindecimguttata* (Fabricius, 1777)
北原地区 , 1ex., 15. Ⅵ .2022 LT
御旅山 , 1ex., 6. Ⅶ .2024 LT

866. クモガタテントウ *Psyllobora* (*Psyllobora*) *vigintimaculata* (Say, 1824)
北原地区 , 1ex., 25. Ⅵ .2022 LT
仁寿山 , 1ex., 2. Ⅶ .2022 LT
本種は神戸市西区の記録が県内で最も西の記録として報告されている (池田 , 2020)．2022 年はライトトラップで多数の個体を確認したが同じ環境でライトトラップを実施した 2021 年以前には本種を確認できなかったので最近定着したのかもしれない．

867. モンクチビルテントウ *Crypticolus maculosus* (Weise, 1910)
市川河川敷 , 1ex., 8. Ⅹ .2023
本種は中国，台湾，ベトナムに生息する外来種で 兵庫県内では宝塚から記録されている (宇野 , 2021)．県内での記録は少ないが市川河川敷では葛の枯れ葉に大量にいるところを確認しており定着しているようである．

868. シコクフタホシヒメテントウ *Nephus* (*Geminosipho*) *shikokensis* Kitano, 2008
兼田地区 , 3exs., 10. Ⅳ .2022
本種は，愛媛県で採集された個体を基に記載された種である（Kitano, 2008）．今回，兵庫県において初めて確認されたが，本種は以前から近畿以西の各地において，マダケやクマザサなどから採集されていることが知られていることから，県内でも以前から生息していた可能性が高いと考えられる．

869. ヨツモンヒメテントウ *Nephus* (*Nephus*) *yotumon* (H. Kamiya, 1961)
仁寿山 , 1ex., 27. Ⅳ .204

870. ハレヤヒメテントウ *Pseudoscymnus hareja* (Weise, 1879)
兼田地区 , 1ex., 16. Ⅳ .2022, 1ex., 7. Ⅹ .2023

871. ツマアカヒメテントウ *Scymnus* (*Pullus*) *dorcatomoides* Weise, 1879
御旅山 , 1ex., 9. Ⅳ .2022
北原地区 , 1ex., 19. Ⅲ .2023

872. オニヒメテントウ *Scymnus* (*Pullus*) *giganteus* H. Kamiya, 1961
北原地区 , 1ex., 1. Ⅸ .2023 LT

873. カグヤヒメテントウ *Scymnus* (*Pullus*) *kaguyahime* H. Kamiya, 1961
北原地区 , 3exs., 18. Ⅷ .2023 LT

874. ニセツマアカヒメテントウ *Scymnus* (*Pullus*) *rectoides* Sasaji, 1971
市川河川敷 , 1ex., 14. Ⅳ .2024

875. ハダニクロヒメテントウ *Stethorus* (*Stethorus*) *pusillus* (Herbst, 1797)
北原地区 , 1ex, 10. Ⅹ .2022, 20. Ⅳ .2022

876. クロテントウ *Telsimia nigra* (Weise, 1879)
北原地区 , 1ex, 14. Ⅶ .2023

Family CORYLOPHIDAE LeConte, 1852
ミジンムシ科

877. マルガタミジンムシ *Orthoperus japonicus* Matthews, 1899
四郷町 , 1ex., 23. XI .2023

Family LATRIDIIDAE Erichson, 1842
ヒメマキムシ科

878. ヒトスジヒメマキムシ *Stephostethus pandellei* Brisout de Barneville, 1863
仁寿山 , 1ex., 28. IV .2023
本種はヨーロッパ原産の種で国内では北海道，本州，四国，九州で確認されている (平野 , 2016)．兵庫県下での記録は確認されなかったのでここに報告しておく．

879. ニセクロオビケシマキムシ *Corticaria geisha* Johnson, 1989
四郷町 , 1ex., 23. XI .2023

880. サカグチケシマキムシ *Melanophthalma* (*Cortilena*) *sakaguchii* Johnson, 1976
四郷町 , 1ex., 23. XI .2023

881. ヤマトケシマキムシ *Melanophthalma* (*Melanophthalma*) *japonica* Johnson, 1976
市川河口 , 1ex., 6. VIII .2022 LT
河口の葦原に設置したライトトラップで得られた．

882. トフシケシマキムシ *Migneauxia lederi* Reitter, 1875
仁寿山 , 1ex., 6. VIII .2022 LT

Family CIIDAE Leach, 1815
ツツキノコムシ科

883. キタツツキノコムシ *Cis seriatopilosus* Motschulsky, 1861
御旅山 , 9exs., 21. III .2022, 1ex., 27. III .2022
カワラタケに多い．

884. ミツアナツツキノコムシ *Cis seriatulus* Kiesenwetter, 1879
御旅山 , 4exs., 21. III .2022, 1ex., 27. III .2022
仁寿山 , 1ex., 27. III .2022
前種とともにカワラタケに普通．

885. フタツノツヤツツキノコムシ *Euxestocis bicornutus* Miyatake, 1954
北原地区 , 4exs., 9. XI .2024
マンネンタケより得られた

Family TETRATOMIDAE Billberg, 1820
キノコムシダマシ科

886. アヤモンヒメナガクチキ *Holostrophus* (*Paraholostrophus*) *orientalis* Lewis, 1895
御旅山 , 1ex., 11. VI .2022 LT, 13. VIII .2024 LT
仁寿山 , 1ex. 27. VII .2024 LT

Family MELANDRYIDAE Leach, 1815
ナガクチキムシ科

887. オオメズカクシナガクチキ *Anisoxiella ocularis* (Nomura & Katô, 1959)
仁寿山 , 1ex., 25. VI .2022 LT
(蟹江 , 1999) では本種は原生林的環境より乾燥した松山を好むとされている．トラップはため池近くの山道沿いのやや湿った二次林的な箇所に設置したものであるが，仁寿山山頂付近は乾燥した松山となっておりそこから飛来したものと思われる．

Family MORDELLIDAE Latreille, 1802
ハナノミ科

888. クリイロヒゲハナノミ *Macrotomoxia castanea* Pic, 1922
御旅山 , 1ex., 24. VII .2022 LT

889. チャオビヒメハナノミ *Mordellina* (*Mordellina*) *brunneotincta* (Marseul, 1877)
仁寿山 , 1ex., 23. VII .2022 LT

890. シロウズクロヒメハナノミ *Mordellistena shirozui* Nomura, 1951
市川河川敷 , 1ex., 11. VI .2022 LT

891. ナガトゲヒメハナノミ *Mordellochroa* (*Tolidostena*) *japonica* Tokeji, 1953
御旅山 , 1ex., 23. VI .2022

892. カトウヒメハナノミ *Falsomordellistena* (*Falsomordellistena*) *katoi* Nomura, 1961
御旅山 , 1ex., 9. VI .2022

Family ZOPHERIDAE Solier, 1834
アトコブゴミムシダマシ科

893. ヒサゴホソカタムシ *Glyphocryptus brevicollis* Sharp, 1885
仁寿山 , 1ex., 10. Ⅳ .2022

894. ベニモンヒメヒラタホソカタムシ *Synchita rufosignata* (Sasaji, 1984)
御旅山 , 1ex., 17. Ⅶ .2024 LT
市川河川敷 , 1ex., 7. Ⅵ .2024 LT
(青木 , 2013) は本種の分布に兵庫県を含めていないが，最近神戸市で確認されているようである.

895. ハヤシヒメヒラタホソカタムシ *Synchita hayashii* (Sasaji, 1971)
仁寿山 , 1ex., 4. Ⅸ .2022

Family TENEBRIONIDAE Latreille, 1802
ゴミムシダマシ科

896. アラメヒゲブトゴミムシダマシ *Luprops cribrifrons* (Marseul, 1876)
仁寿山 , 1ex., 28. Ⅶ .2022

897. コマルキマワリ *Amarygmus* (*Amarygmus*) *curvus* (Marseul, 1876)
市川河川敷 , 1ex., 2. Ⅵ .2024

898. ヤマトスナゴミムシダマシ *Gonocephalum* (*Gonocephalum*) *coenosum* Kaszab, 1952
北原地区 , 1ex., 19. Ⅵ .2022 LT, 4. Ⅸ .2022 LT

899. シナスナゴミムシダマシ *Gonocephalum* (*Gonocephalum*) *klapperichi* Kaszab, 1952
市川河川敷 , 1ex., 24. Ⅷ .2022 LT

900. オオスナゴミムシダマシ *Gonocephalum* (*Gonocephalum*) *pubens* (Marseul, 1876)
白浜海岸 , 1ex., 23. Ⅸ .2022

901. マルセルエグリゴミムシダマシ 基亜種 *Uloma* (*Uloma*) *marseuli marseuli* Nakane, 1956
御旅山 , 2exs., 17. Ⅸ .2022

902. ナミウスイロクチキムシ *Borboresthes bilamellata* (Marseul, 1876)
仁寿山 , 1ex., 18. Ⅴ .2024 LT

903. フナガタクチキムシ *Isomira* (*Paraisomira*) *oculata* (Marseul, 1876)
御旅山 , 1ex., 4. Ⅵ .2022 LT

904. ホンドカタモンヒメクチキムシ *Mycetochara* (*Ernocharis*) *mimica* (Lewis, 1895)
仁寿山 , 1ex., 14. Ⅴ .2022, 2exs., 15. Ⅵ .2022 LT
御旅山 , 2exs., 16. Ⅵ .2023 LT

905. クロテントウゴミムシダマシ *Ades convexus* (Lewis, 1894)
御旅山 , 2exs., 13. Ⅵ .2023

906. キイロテントウゴミムシダマシ *Ades masidai* (Nakane, 1963)
市川河川敷 , 1ex., 20. Ⅺ .2022
河川敷に見られる種で葛の枯れ草から得られた．県下での記録は少ない (高橋 , 1985b).

907. ホンドクビカクシゴミムシダマシ 基亜種 *Stenochinus bacillus bacillus* (Marseul, 1876)
御旅山 , 1ex., 13. Ⅴ .2024 LT

908. セスジナガキマワリ 基亜種 *Strongylium cultellatum cultellatum* Mäklin, 1864
御旅山 , 1ex., 2. Ⅷ .2023
照葉樹林に生息する.

909. ハネナシセスジナガキマワリ *Strongylium marseuli* Lewis, 1894
御旅山 , 1ex., 23. Ⅵ .2022, 1ex., 19. Ⅷ .2023
前種同様，照葉樹林に生息する．本種は県下での記録が少なく (高橋 , 1985a) では前種との共存の調査が課題にあげられていたが今回の調査で同一地区に共存していることが確認された.

Family OEDEMERIDAE Latreille, 1810
カミキリモドキ科

910. ハイイロカミキリモドキ 基亜種 *Eobia* (*Eobia*) *cinereipennis cinereipennis* (Motschulsky, 1866)
北原地区 , 1ex., 24. Ⅶ .2022 LT
白浜海岸 , 1ex., 1. Ⅶ .2022 LT

911. キイロカミキリモドキ 基亜種 *Nacerdes* (*Xanthochroa*) *hilleri hilleri* (Harold, 1878)
仁寿山 , 1ex., 25. Ⅵ .2022 LT

912. モモブトカミキリモドキ *Oedemera* (*Oedemera*) *lucidicollis lucidicollis* (Motschulsky, 1866)
北原地区 , 1ex, 19. Ⅴ .2019, 1ex., 21. Ⅳ .2020
仁寿山 , 1ex., 15. Ⅳ .2023

Family MELOIDAE Gyllenhal, 1810
ツチハンミョウ科

913. ツマグロキゲンセイ *Zonitoschema cothurnata* (Marseul, 1873)
北原地区 , 1ex., 9. Ⅵ .2022 LT

Family SALPINGIDAE Leach, 1815
チビキカワムシ科

914. ツヤチビキカワムシ *Chilopeltis laevipennis* (Marseul, 1876)
御旅山 , 1ex., 25. Ⅳ .2022

Family ANTHICIDAE Latreille, 1819
アリモドキ科

915. ヒゲブトホソアリモドキ *Anthicus monstrosicornis* Marseul, 1877
北原地区 , 1ex., 8. Ⅺ .2022

916. ツヤチビホソアリモドキ *Clavicollis laevipennis* (Marseul, 1877)
市川河川敷 , 1ex., 22. Ⅷ .2022 LT
市川下流域の河川敷に設置したライトトラップにて得られた．黒沢・久松・佐々治（1985）では渓流沿いで発見されるとされており，このような下流域で本種が確認されたことは非常に興味深く，上流域から増水時に流されてきたのか近くの山の沢に生息しているのか引き続き調査が必要である．

Family ADERIDAE Csiki, 190
ニセクビボソムシ科

917. チャイロニセクビボソムシ *Aderus grouvelli* (Pic, 1910)
市川河川敷 , 1ex., 10. Ⅹ .2022

918. セグロニセクビボソムシ *Syzeton brunnidorsis* (Marseul, 1876)
仁寿山 , 1ex., 12. Ⅵ .2022

919. ヤマトニセクビボソムシ *Pseudolotelus japonicus* (Champion, 1890)
御旅山 , 1ex., 18. Ⅴ .2022
市川河川敷 , 1ex., 8. Ⅹ .2023
仁寿山 , 1ex., 6. Ⅶ .2024

Family SCRAPTIIDAE Gistel, 1848
ハナノミダマシ科

920. コフナガタハナノミ *Anaspis* (*Anaspis*) *funagata* Kôno, 1928
仁寿山 , 1ex., 26. Ⅳ .2022, 1ex., Ⅹ . Ⅴ .2022
御旅山 , 1ex., 11. Ⅴ .2024

921. オオクロフナガタハナノミ *Anaspis* (*Anaspis*) *frontalis* (Linnaeus, 1758)
市川河川敷 , 1ex., 27. Ⅴ .2024

922. ハナノミダマシの一種 Anaspidinae sp.1
市川河川敷 , 1ex., 11. Ⅵ .2022

Family CERAMBYCIDAE Latreille, 1802
カミキリムシ科

923. ニセノコギリカミキリ *Prionus sejunctus* Hayashi, 1959
仁寿山 , 1ex., 5. Ⅷ .2022

924. ヤツボシハナカミキリ 本州以南亜種 *Leptura annularis modicenotata* (Pic, 1901)
御旅山 , 1ex., 3. Ⅵ .2023

925. ヒメスギカミキリ *Callidiellum rufipenne* (Motschulsky, 1862)
北原地区 , 1ex., 17. Ⅳ .2023

926. スギカミキリ 基亜種 *Semanotus japonicus japonicus* (Lacordaire, 1869)
仁寿山 , 1ex., 2. Ⅴ .2024

927. タケトラカミキリ *Chlorophorus annularis* (Fabricius, 1787)
仁寿山 , 1ex., 23. Ⅵ .2023

928. シラケトラカミキリ *Clytus melaenus* Bates, 1884
仁寿山 , 1ex., 27. Ⅳ .2024

929. ホシベニカミキリ *Eupromus ruber* (Dalman, 1817)

白浜海岸 , 1ex., 1. Ⅶ .2022

930. カノコサビカミキリ 基亜種 *Apomecyna* (*Apomecyna*) *naevia naevia* Bates, 1873
市川河川敷 , 1ex., 22. Ⅷ .2022 LT

931. ヤハズカミキリ 基亜種 *Uraecha bimaculata bimaculata* Thomson, 1864
御旅山 , 1ex., 4. Ⅵ .2022

932. クモガタケシカミキリ *Exocentrus fasciolatus* Bates, 1873
北原地区 , 1ex., 19. Ⅺ .2022 LT

933. アトモンマルケシカミキリ *Exocentrus lineatus* Bates, 1873
北原地区 , 1ex., 15. Ⅺ .2024 LT
御旅山 , 1ex., 13. Ⅵ .2023
白浜海岸 , 1ex., 17. Ⅵ .2022 LT

934. ニセビロウドカミキリ 基亜種 *Acalolepta sejuncta sejuncta* (Bates, 1873)
仁寿山 , 1ex., 11. Ⅵ .2024

935. ヒメヒゲナガカミキリ 基亜種 *Monochamus* (*Monochamus*) *subfasciatus subfasciatus* (Bates, 1873)
仁寿山 , 1ex., 5. Ⅶ .2024

Family CHRYSOMELIDAE Latreille, 1802
ハムシ科

936. インゲンマメゾウムシ *Acanthoscelides obtectus* (Say, 1831)
市川河川敷 , 1ex., 5. Ⅴ .2022

937. アワクビボソハムシ *Oulema* (*Oulema*) *dilutipes* (Fairmaire, 1888)
兼田地区 , 1ex., 19. Ⅲ .2023, 1ex., 19. Ⅷ .2023

938. ジンガサハムシ *Aspidimorpha* (*Aspidimorpha*) *indica* Boheman, 1854
市川河川敷 , 1ex., 7. Ⅹ .2023

939. ヒメジンガサハムシ *Cassida fuscorufa* Motschulsky, 1866
市川河川敷 , 1ex., 14. Ⅳ .2024

940. ヒメカメノコハムシ *Cassida piperata* Hope, 1842
市川河川敷 , 1ex., 5. Ⅴ .2022

941. カタビロトゲハムシ *Dactylispa* (*Platypriella*) *subquadrata subquadrata* (Baly, 1874)
仁寿山 , 1ex., 29. Ⅲ .2023

942. コカミナリハムシ *Altica viridicyanea* (Baly, 1874)
兼田地区 , 1ex., 26. Ⅳ .2023

943. キイロツブノミハムシ *Aphthona abdominalis* Duftschmid, 1825
仁寿山 , 1ex., 6. Ⅶ .2024 LT

944. オオバコトビハムシ *Longitarsus* (*Longitarsus*) *scutellaris* (Mulsant & Rey, 1874)
兼田地区 , 2exs., 19. Ⅳ .2023

945. キアシツブノミハムシ *Aphthona semiviridis* Jacoby, 1885
北原地区 , 1ex., 20. Ⅳ .2022, 1ex., 11. Ⅴ .2022
御旅山 , 1ex., 4. Ⅵ .2022
白浜海岸 , 1ex., 21. Ⅴ .2022 LT

946. コバンマメトビハムシ *Bikasha nipponica* (Chûjô, 1959)
仁寿山 , 1ex., 23. Ⅶ .2022 LT

947. ヒメドウガネトビハムシ *Chaetocnema* (*Chaetocnema*) *concinnicollis* (Baly, 1874)
市川河川敷 , 1ex., 10. Ⅸ .2022, 1ex., 10. Ⅹ .2022

948. ヒメトビハムシ *Hermaeophaga* (*Orthocrepis*) *adamsii* (Baly, 1874)
御旅山 , 1ex., 11. Ⅳ .2022
甲山 , 1ex., 28. Ⅳ .2022

949. クビアカトビハムシ *Luperomorpha pryeri* (Baly, 1874)
市川河川敷 , 1ex., 9. Ⅴ .2022

950. ダイコンナガスネトビハムシ *Psylliodes* (*Psylliodes*) *subrugosa* Jacoby, 1885
市川河川敷 , 1ex., 1. Ⅵ .2024
河川敷のアブラナ

951. チャバネツヤハムシ *Phygasia fulvipennis* (Baly, 1874)
北原地区 , 1ex., 2. Ⅴ .2022, 1ex., 11. Ⅴ .2022

952. ジュンサイハムシ *Galerucella* (*Galerucella*) *nipponensis* (Laboissière, 1922)
仁寿山 , 1ex., 25. Ⅵ .2022 LT

953. ブタクサハムシ *Ophraella communa* Lesage, 1986
兼田地区 , 1ex., 8. Ⅵ .2024

954. サンゴジュハムシ *Pyrrhalta lineatipes* (Takei, 1916)
市川河川敷 , 1ex., 27. Ⅳ .2024

955. イタドリハムシ *Gallerucida bifasciata* Motschulsky, 1861
市川河川敷 , 1ex., 14. Ⅳ .2024

956. キボシツツハムシ基亜種 *Cryptocephalus* (*Cryptocephalus*) *perelegans perelegans* Baly, 1873
仁寿山 , 1ex., 12. Ⅵ .2022, 1ex., 15. Ⅵ .2022

957. カシワツツハムシ *Cryptocephalus* (*Cryptocephalus*) *scitulus* Baly, 1873
仁寿山 , 1ex., 6. Ⅶ .2024 LT

958. ツツジコブハムシ *Chlamisus laticollis* (Chûjô, 1942)
仁寿山 , 1ex., 1. Ⅴ .2022

959. ニホンケブカサルハムシ *Fidia japonica* (Ohno, 1958)
兼田地区 , 1ex., 26. Ⅴ .2023

960. マルキバネサルハムシ *Pagria ussuriensis* Moseyko & Medvedev, 2005
北原地区 , 1ex 13. Ⅷ .2022 LT, 1ex, 4. Ⅸ .2022 LT

Family ANTHRIBIDAE Billberg, 1820
ヒゲナガゾウムシ科

961. シバンガタノミヒゲナガゾウムシ *Choragus anobioides* Sharp, 1891
北原地区 , 1ex., 19. Ⅵ .2022 LT

Family ATTELABIDAE Billberg, 1820
オトシブミ科

962. ヒメケブカチョッキリ *Involvulus* (*Parinvolvulus*) *pilosus* (Roelofs, 1874)
御旅山 , 1ex., 23. Ⅳ .2023

Family BRENTIDAE Billberg, 1820
ミツギリゾウムシ科

963. ケブカホソクチゾウムシ *Sergiola* (*Sergiola*) *griseopubescens* (Roelofs, 1874)
仁寿山 , 1ex., 8. Ⅳ .2022

964. ハナコブチビゾウムシ *Alonsiellus pubescens* (Roelofs, 1874)
四郷町 , 1ex., 16. Ⅸ .2023

Family BRACHYCERIDAE Billberg, 1820
イボゾウムシ科

965. イネミズゾウムシ *Lissorhoptrus* (*Lissorhoptrus*) *oryzophilus* Kuschel, 1951
市川河川敷 , 1ex., 25. Ⅲ .2023

Family CURCULIONIDAE Latreille, 1802
ゾウムシ科

966. チビハナゾウムシ *Anthonomus* (*Anthonomus*) *minor* Kojima & Morimoto, 1994
市川河川敷 , 1ex., 10. Ⅳ .2022
甲山 , 1ex., 9. Ⅴ .2022
御旅山 , 1ex., 23. Ⅳ .2023

967. オビデオゾウムシ *Orsophagus trifasciatus* Roelofs, 1874
市川河川敷 , 1ex., 9. Ⅳ .2022
甲山 1ex., 10. Ⅳ .2022

968. シュロゾウムシ *Derelomus uenoi* Morimoto, 1959
御旅山 , 2exs., 2. Ⅴ .2024
シュロの花から

969. アイノシギゾウムシ *Curculio* (*Curculio*) *aino* (Kôno, 1930)
仁寿山 , 1ex., 23. Ⅳ .2023

970. ハモグリゾウムシ *Ellescus bicoloripes* Voss & Chûjô, 1960
兼田地区 , 1ex., 6. Ⅳ .2024

971. クロタマゾウムシ *Cionus helleri* Reitter, 1904
御旅山 , 1ex., 24. Ⅵ .2022
仁寿山 , 1ex., 1. Ⅶ .2022

972. タマゾウムシの一種 *Stereonychus* sp.1
甲山 , 1ex., 26. Ⅴ .2022

973. ムネスジノミゾウムシ *Orchestes* (*Orchestes*) *amurensis* Faust, 1887
四郷町 , 1ex., 1. Ⅺ .2024
カシからのビーティング
甲山 1ex., 10. Ⅳ .2022

974. エノキノミゾウムシ *Orchestes* (*Orchestes*) *horii* (Kono, 1937)
仁寿山 2exs., 15. Ⅳ .2023

975. リンゴノミゾウムシ *Rhamphus pulicarius* (Herbst, 1795)
四郷町 , 2exs., 1. Ⅺ .2024

976. クロノミゾウムシ *Tachyerges stigma* (Germar, 1821)
市川河川敷 , 1ex., 27. Ⅳ .2024

977. カナムグラサルゾウムシ *Cardipennis shaowuensis* (Voss, 1958)
四郷町 , 1ex., 23. Ⅺ .2023

978. アオバネサルゾウムシ *Ceutorhynchus ibukianus* Hustache, 1916
甲山 , 1ex., 16. Ⅳ .2022

979. オビアカサルゾウムシ Coeliodes nakanoensis Hustache, 1916
甲山 , 1ex., 10. Ⅳ .2022

980. ケナガサルゾウムシ *Trichocoeliodes excavatus* (Huetache, 1916)
仁寿山 , 1ex., 23. Ⅵ .2023

981. トゲトゲクロサルゾウムシ *Zacladus geranii* (Paykull, 1800)
仁寿山 , 1ex., 24. Ⅶ .2023

982. サルゾウムシの一種 Ceutorhynchinae sp.2
市川河川敷 , 1ex., 25. Ⅲ .2023

983. ワシバナヒメキクイゾウムシ *Phloeophagosoma* (*Phloeophagosoma*) *curvirostre* Wollaston, 1873
御旅山 , 2exs., 13. Ⅵ .2023

984. タカオマルクチカクシゾウムシ *Orochlesis takaosanus* Kôno, 1932
御旅山 , 1ex., 28. Ⅴ .2022, 1ex., 19. Ⅷ .2023, 1ex., 19. Ⅵ .2024

985. アラハダクチカクシゾウムシ *Rhadinopus sulcatostriatus* (Roelofs, 1875)
仁寿山 , 1ex., 6. Ⅶ .2024 LT

986. ツメクサタコゾウムシ *Hypera* (*Hypera*) *nigrirostris* (Fabricius, 1775)
北原地区 , 1ex., 22. Ⅳ .2022, 1ex., 31. Ⅲ .2023

987. コフキゾウムシ *Eugnathus distinctus* Roelofs, 1873
市川河川敷 , 1ex., 2. Ⅵ .2024, 1ex., 27. Ⅳ .2024

988. チビコフキゾウムシ *Sitona japonicus* (Roelofs, 1873)
北原地区 , 1ex., 8. Ⅹ .2022
市川河川敷 , 1ex., 10. Ⅳ .2022

989. チビヒョウタンゾウムシ *Myosides seriehispidus* Roelofs, 1873
北原地区 , 1ex., 10. Ⅺ .2022

990. クリイロクチブトゾウムシ *Cyrtepistomus castaneus* (Roelofs, 1873)
御旅山 , 1ex., 24. Ⅶ .2022 LT
仁寿山 , 1ex., 28. Ⅶ ,2022

991. コカシワクチブトゾウムシ *Lepidepistomodes griseoides* (Zumpt, 1937)
御旅山 , 1ex., 11. Ⅵ .2022

992. カシワクチブトゾウムシ *Nothomyllocerus griseus* (Roelofs, 1873)
御旅山 , 1ex., 19. Ⅵ .2024

993. オオクチブトゾウムシ *Phyllolytus variabilis* (Roelofs, 1873)
北原地区 , 1ex., 1. Ⅸ .2024 LT

994.　ヒラズネヒゲボソゾウムシ *Phyllobius* (*Phyllobius*) *intrusus* Kôno, 1948
甲山 , 1ex., 5. Ⅴ .2022

995.　クチブトゾウムシの一種　Entiminae sp.1
四郷町 , 1ex., 20. Ⅷ .2023

996.　ヒサカキノキクイムシ *Xyleborinus octiesdentatus* (Murayama, 1931)
御旅山 , 1ex., 21. Ⅴ .2022 FIT

997.　クリノミキクイムシ　*Coccotrypes cardamomi* C. F. C. Schaufuss, 1905
仁寿山 , 1ex., 7. Ⅳ .2024

998.　クワノキクイムシ　*Ambrosiophilus atratus* (Eichhoff, 1875)
仁寿山 , 1ex., 9. Ⅳ .2022, 1ex., 31. Ⅲ .2023

999.　コキクイムシの一種　*Cosmoderes* sp.1
甲山 , 12exs., 10. Ⅳ .2022
北原地区 , 1ex., 19. Ⅲ .2023
フジの枯れ枝に見られる.

1000.　フィリピンザイノキクイムシ　*Xyleborus perforans* (Wollaston, 1857)
北原地区 , 1ex., 21. Ⅷ .2022 LT

1001.　ザイノキクイムシ族の一種　Xyleborini sp.1
北原地区 , 1ex., 19. Ⅲ .2023

1002.　ハンノキキクイムシ　*Xylosandrus germanus* (Blandford, 1894)
仁寿山 , 1ex., 23. Ⅵ .2023

1003.　フィリピンキクイムシ　*Cyrtogenius brevior* (Eggers, 1927)
北原地区 , 1ex., 19. Ⅷ .2023 LT

1004.　ニホンザイノキクイムシ　*Cyclorhipidion japonicum* (Nobuchi, 1981)
御旅山 , 1ex., 13. Ⅷ .2024 LT

5. 訂正

(檀野 , 2022a) の内容に一部間違いがあったので訂正させていただきたい.

誤：272. アカアシハナコメツキ 基亜種　*Platynychus* (*Displatynychus*) *adjutor adjutor* (Candèze, 1873)
正：272. ミズギワコメツキ　基亜種　*Fleutiauxellus* (*Migiwa*) *tutus* (Lewis, 1894)

誤：446. モモブトカミキリモドキ　*Oedemera* (*Oedemera*) *lucidicollis lucidicollis* (Motschulsky, 1866)
正：446. キアシカミキリモドキ　*Oedemera* (*Oedemera*) *lucidicollis lucidicollis* (Motschulsky, 1866)

以上，これまでに確認した 626 種に今回確認した 378 種を合わせて 74 科 1004 種のコウチュウ目を記録した.

今回の調査ではまだ同定に至っていない種も多く含まれているが，種数の概況を把握することを優先し，未同定の状態で報告したことをお詫び申し上げる．今後，引き続き同定作業を進めることで，地域の甲虫相のさらなる解明に努めていきたい.

参考文献

青木淳一郎 , 2013. ホソカタムシの誘惑［第２版］日本産ホソカタムシ全種の図説 . 東海大学出版会

新井志保・野村周平・亀澤 洋 , 2005. アシベアリヅカムシの日本国内および琉球列島での記録 . 甲虫ニュース , 151: 19

檀野将平 , 2022a. 兵庫県姫路市南部で採集した甲虫類の記録 . きべりはむし , 45(1): 3-65

檀野将平 , 2022b. 姫路市からマゴジャクシミゾキノコシバンムシの記録 . きべりはむし , 45(2): 73

檀野将平 , 2023a. 兵庫県からタイワンタマキノコシバンムシの記録 . きべりはむし , 46(2): 54

檀野将平 , 2023b. 兵庫県からのコガタセマルガムシの記録 . きべりはむし , 46(2): 54

林 成多・初宿成彦 , 2003. 大阪市立自然史博物館所蔵のゲンゴロウ類標本：特に希少種及び絶滅危惧種について , Bulletin of the Osaka Museum of Natural History, 57: 11-20

Hayashi, M., and H. Yoshitomi, 2021. A New Species of *Zaitzeviaria* from Aichi Prefecture, Honshu, Japan (Coleoptera: Elmidae). Jpn. J. syst. Ent., 27(1): 43-51

平野幸彦 , 2014. 日本産ヒメキノコムシ科について . 神奈川虫報 , 182: 57-62

平野幸彦 , 2016. 日本産ヒメマキムシ科 *Stephostethus* 属の再検討 . 神奈川虫報 , 190: 13-17

平野幸彦・青木淳一 , 2012. ヒラタコメツキモドキの採

集記録とその分布 . さやばね N.S., 6: 13-15
兵庫県 , 2023. 兵庫県版レッドリスト 2022 年版 (昆虫　類). https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp /jp/environment/leg_240/leg_289/2022.（最終閲覧：2025 年 4 月）
池田健一 , 2020. 神戸市西区にてヨモギにいるクモガタテントウを確認 . きべりはむし , 43(2): 57-58
石山侑樹 , 2022. 兵庫県南あわじ市におけるトウカイヒメツヤドロムシの採集記録 . さやばね N.S., 46：70
蟹江 昇 , 1999. ちょっと気になる甲虫の情報 (XIII) (1) ナガイツツナガクチキの愛知県における採集例 . ねじればね , 82 :5
環境省 , 2020. 環境省レッドリストの公表について . https://www.env.go.jp/press/107905.html.（最終閲覧：2025 年 4 月）
Kitano, T., 2008. Two Ner Species of Ladybird Beetles from Japan and Taiwan (Coleoptera, Coccinellidae). Jpn. J. syst. Ent., 14(2): 319-248
黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之 , 1985. 原色日本甲虫図鑑 (Ⅲ). 保育社
森 正人 , 2013. 兵庫県のアトキリゴミムシ類 (1). きべりはむし , 36(1): 12-19
森 正人 , 2017a. 兵庫県の水生ガムシ類 . きべりはむし , 39(2): 42-52
森 正人 , 2017b. 兵庫県のヒョウタンゴミムシ亜科・オサムシモドキ亜科 . きべりはむし , 39(2): 37-41
森 正人 , 2017c. 兵庫県のヨツボシゴミムシ亜科 . きべりはむし , 40(1): 31-33
森 正人 , 2021. 兵庫県のナガゴミムシ類 (1). きべりはむし , 44(1): 1-8
森 正人・下野誠之 , 2021. 塩田跡地のゴミムシ・ガムシ (兵庫県初記録種). きべりはむし , 44(2):15-17
Minoshima, Y. N., 2019. Taxonomic status of *Enochrus vilis* (Sharp) and *E. uniformis* (Sharp) (Coleoptera, Hydrophilidae), INSECTA MATSUMURANA. N.S., 75: 1-18
Sakai, M., 1995. Discovery of the Dorcatomine Genus *Stagetodes* Espanol (Coleoptera, Anobiidae) from Japan with Descriptions of Two New Species. Jpn. J. syst. Ent., 1(2): 243-248
高橋寿郎 , 1985a. 兵庫県におけるセスジナガキマワリの分布 . きべりはむし , 13(2): 48
高橋寿郎 , 1985b. キイロテントウゴミムシダマシ美嚢郡吉川町にて採集 . きべりはむし , 13(2): 49
高橋寿郎 , 1997. 兵庫県産水棲甲虫目録 (1). きべりはむし , 25(1): 2-10
高橋寿郎 , 1999. 記録から見た兵庫県の甲虫相 . きべりはむし , 27(1): 40-41
宇野宏樹 , 2021. 宝塚市の緑地公園の昆虫相 -2010 年～2020 年の昆虫の記録 -. きべりはむし , 44(1): 9-25
脇村涼太郎・森 正人 , 2019. 兵庫県，奈良県におけるコルリアトキリゴミムシの初記録 . きべりはむし , 42(2): 60
脇村涼太郎・下野誠之・森 正人 , 2021. 兵庫県におけるクビボソコガシラミズムシの最近の採集記録と生態的知見 . きべりはむし , 44(2): 36-37


627. クロカタビロオサムシ


628. ヤコンオサムシ 基亜種


629. クロヒメヒョウタンゴミムシ


630. ヒョウゴミズギワゴミムシ


631. キイロマルコミズギワゴミムシ


632. クロチビカワゴミムシ


633. スジアオゴミムシ


634. ムナビロアトボシアオゴミムシ


635. トゲアトキリゴミムシ


636. ホシボシゴミムシ


637. オオホシボシゴミムシ


638. カラカネゴモクムシ


639. ホソアトキリゴミムシ


640. アトグロジュウジアトキリゴミムシ


641. コルリアトキリゴミムシ


642. ホシハネビロアトキリゴミムシ


643. メダカアトキリゴミムシ


644. ミツアナアトキリゴミムシ


645. ニッポンヨツボシゴミムシ


646. クロズホナシゴミムシ


647. オグラヒラタゴミムシ


648. ムネミゾマルゴミムシ


649. ムナビロヒメナガゴミムシ


650. ルイスオオゴミムシ


651. マルガタゴミムシ


652. マメゲンゴロウ基亜種


653. ホソクロマメゲンゴロウ


654. ヒメゲンゴロウ


655. カンムリセスジゲンゴロウ


656. ウスイロシマゲンゴロウ


657. マルチビゲンゴロウ


658. ナガマルチビゲンゴロウ


659. ケシゲンゴロウ


660. クビボソコガシラミズムシ


661. タマガムシ


662. オオトゲバゴマフガムシ


663. ヒメシジミガムシ


664. ヒメセマルガムシ


665. チビヒラタガムシ


666. キベリヒラタガムシ


667. ヒラタガムシの一種
Enochrus sp.1


668. スジヒラタガムシ


669. ウスモンケシガムシ


670. キバネケシガムシ


671. セマルケシガムシ


672. ホソケシガムシ


673. コウセンマルケシガムシ


674. ヨコミゾアカツブエンマムシ


675. ヒメチビヒラタエンマムシ


676. ツヤチビヒラタエンマムシ


677. コツヤエンマムシ


678. ムナビロムクゲキノコムシ


679. コゲチャムクゲキノコムシ


680. ニホンムクゲキノコムシ


681. ムクゲキノコムシの一種
Acrotrichis sp.1


682. ミヤタケダルマガムシ


683. メボソマルタマキノコムシ


684. チビタマキノコムシ


685. セスジクサビラ
タマキノコムシ


686. マルタマキノコムシの一種
Agathidium sp.1


687. モモブトシデムシ


688. ベッコウヒラタシデムシ


689. オオヒラタシデムシ


690. ムネボソヨツメハネカクシ


691. シリブトヨツメハネカクシ


692. セミゾヨツメハネカクシ


693. セマルハバビロハネカクシ


694. チビハバビロハネカクシ
の一種 Proteinus sp.2


695. セスジチビハネカクシ


696. アシベアリヅカムシ


697. ダイコクアリヅカムシ


698. コヤマトヒゲブト
アリヅカムシ 基亜種


699. クロヒゲヒメキノコ
ハネカクシ


700. ハスモンヒメキノコ
ハネカクシ


701. クロヒメキノコハネカクシ


702. ヒメキノコハネカクシの一種 *Sepedophilus* sp.1


703. アカセマルチビマルクビハネカクシ


704. ニセセスジヒゲブトハネカクシ


705. ミズギワヒメハネカクシ


706. キバネセミゾハネカクシ


707. ヒゲナガカレハハネカクシ


708. アバタヒメハネカクシ


709. モンクロアリノスハネカクシ


710. ハダニカブリケシハネカクシ


711. ツヤヒラタキノコハネカクシの一種 *Gyrophaena* sp.1


712. ツヤヒラタキノコハネカクシの一種 *Gyrophaena* sp.2


713. ナギサハネカクシの一種 *Bryothinusa* sp.1

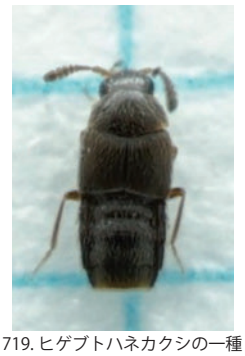

714. ヒゲブトハネカクシの一種 Aleocharinae sp.1


715. ヒゲブトハネカクシの一種 Aleocharinae sp.2


716. ヒゲブトハネカクシの一種 Aleocharinae sp.3


717. ヒゲブトハネカクシの一種 Aleocharinae sp.4


718. ヒゲブトハネカクシの一種 Aleocharinae sp.5


719. ヒゲブトハネカクシの一種 Aleocharinae sp.6


720. ヒゲブトハネカクシの一種 Aleocharinae sp.7


721. ヒゲブトハネカクシの一種 Aleocharinae sp.8


722. ヒゲブトハネカクシの一種 Aleocharinae sp.9


723. ヒゲブトハネカクシの一種 Aleocharinae sp.10


724. ヒゲブトハネカクシの一種 Aleocharinae sp.11


725. ヒゲブトハネカクシの一種 Aleocharinae sp.12


726. ヒゲブトハネカクシの一種 Aleocharinae sp.13


727. ケシデオキノコムシの一種 *Scaphisoma* sp.2


728. ケシデオキノコムシの一種 *Scaphisoma* sp.3


729. ケシデオキノコムシの一種 *Scaphisoma* sp.4


730. ケシデオキノコムシの一種 *Scaphisoma* sp.5


731. ナガモリツツハネカクシ


732. コバネアシベセスジハネカクシ


733. シワバネセスジハネカクシ

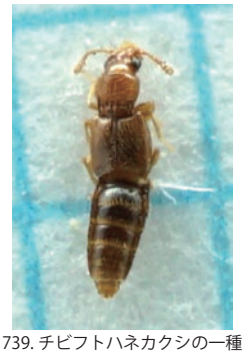

734. セスジハネカクシの一種 *Anotylus* sp.4


735. ニセヒメユミセミゾハネカクシ


736. ニセヒメユミセミゾハネカクシの一種 *Carpelimus* sp.2


737. ルイスナガメダカハネカクシ


738. キアシホソメダカハネカクシ


739. チビフトハネカクシの一種 *Edaphus* sp.1


740. クロカワベナガエハネカクシ


741. カントウシリグロハネカクシ


742. キアシシリグロハネカクシ


743. フタホシシリグロハネカクシ


744. オオシリグロハネカクシ


745. シリグロハネカクシの一種 *Astenus* sp.1


746. クビボソハネカクシ


747. ヒメクビボソハネカクシ


748. タチゲクビボソハネカクシ


749. ヒメトガリハネカクシ


750. マルズハネカクシ


751. キアシコガシラナガハネカクシ


752. サビハネカクシ


753. ツツナガハネカクシの一種
Lobrathium sp.1


754. ナガハネカクシの一種
Xantholinini sp.1


755. ナガハネカクシの一種
Xantholinini sp.2


756. ナガエハネカクシの一種
Xantholinini sp.3


757. コガシラハネカクシの一種
Staphylinini sp.1


758. コガシラハネカクシの一種
Staphylinini sp.2


759. コガシラハネカクシの一種
Staphylinini sp.3


760. コガシラハネカクシの一種
Staphylinini sp.4


761. ヒメコブスジコガネ


762. チャグロマグソコガネ


763. キマダラマグソコガネ


764. マグソコガネ


765. コケシマグソコガネ


766. カドマルエンマコガネ


767. オオコフキコガネ


768. シロスジコガネ


769. マルオクロコガネ


770. コクロコガネ


771. サクラコガネ


772. コカブト 基亜種


773. ノコギリクワガタ 基亜種


774. ニホンマルタマキノコムシモドキ


775. ヒシモンナガタマムシ


776. アオグロナガタマムシ


777. ハイイロヒラタチビタマムシ


778. ヒラタチビタマムシ


779. ウメチビタマムシ


780. ナミガタチビタマムシ


781. チビマルトゲムシの一種
Horiella sp.1


782. キベリナガアシドロムシ


783. トウカイヒメツヤドロムシ


784. ムナビロツヤドロムシ


785. オオチャイロコメツキダマシ


786. ミカドヒゲブトコメツキ


787. オオクシヒゲコメツキ


788. コガタノサビコメツキ　基亜種


789. スナサビキコリ


790. シモフリコメツキ


791. ドウガネホソヒラタコメツキ


792. クロツヤハダコメツキ　基亜種


793. ヒサゴコメツキの一種
Homotechnes sp.1


794. カタモンチビコメツキ　基亜種


795. ニホンチビマメコメツキ


796. アカハラクロコメツキ　基亜種


797. ヒメホソキコメツキ


798. ニセクチブトコメツキ


799. クシコメツキの一種


800. オオクシヒゲベニボタル


801. クロマドボタル


802. マルムネジョウカイ


803. フタイロチビジョウカイ


804. キベリコバネジョウカイ


805. オオナガシンクイ


806. チビケカツオブシムシ


807. ヒメカツオブシムシ


808. ベニモンチビカツオブシムシ


809. ヨツモンチビカツオブシムシ


810. フルホンシバンムシ


811. ジンサンシバンムシ


812. クリイロタマキノコシバンムシ


813. ヒメホコリタケシバンムシ


814. ニセスジキノコシバンムシ


815. アカグロムクゲキスイ


816. ハスモンムクゲキスイ


817. ヒメジョウカイモドキ


818. コケシジョウカイモドキ


819. ツマグロツツカッコウムシ


820. ウスモンヒメコキノコムシ


821. ヒラタコメツキモドキ


822. キムネヒメコメツキモドキ


823. ケシコメツキモドキ 基亜種


824. ケナガマルキスイ


825. アカスジナガムクゲキスイ


826. ニホンホソオオキノコ


827. セモンホソオオキノコ


828. フタホシチビオオキノコ


829. クロチビオオキノコ


830. シベリアチビオオキノコ


831. マルヒメキノコムシ


832. ヒメキノコムシの一種
Sphindus sp.1


833. アナバケデオネスイ


834. オバケデオネスイ


835. ホソムネデオネスイ


836. ニセケブカネスイ


837. ノコバキスイ


838. ウスバキスイ


839. ガマキスイ


840. キイロセマルキスイ


841. ノコギリホソヒラタムシ


842. ホソミツカドホソヒラタムシ


843. ミツカドホソヒラタムシ


844. ホホビロホソヒラタムシ


845. キイロアシナガヒメハナムシ


846. チビズマルヒメハナムシ


847. アカボシチビヒメハナムシ


848. ヒメハナムシの一種
Olibrus sp.1


849. ヒメハナムシの一種
Acylomus sp.1


850. サビカクムネチビヒラタムシ


851. グルーベルホソチビヒラタムシ


852. トゲアシヒラタケシキスイ


853. モンチビヒラタケシキスイ


854. クロハナケシキスイ


855. トゲナシチビケシキスイ


856. ヒゲナガチビケシキスイ


857. フトヒゲツヤマルケシキスイ


858. コクロヒラタケシキスイ


859. クロヒラタケシキスイ 基亜種


860. ヒメマルガタテントウダマシ


861. エグリツヤヒメマキムシ


862. イカリモンテントウダマシ


863. クロツヤテントウ


864. カメノコテントウ


865. シロジュウゴホシテントウ


866. クモガタテントウ


867. モンクチビルテントウ


868. シコクフタホシヒメテントウ


869. ヨツモンヒメテントウ


870. ハレヤヒメテントウ


871. ツマアカヒメテントウ


872. オニヒメテントウ


873. カグヤヒメテントウ


879 ニセツマアカヒメテントウ


875. ハダニクロヒメテントウ


876. クロテントウ


877. マルガタミジンムシ


878. ヒトスジヒメマキムシ


879. ニセクロオビケシマキムシ


880. サカグチケシマキムシ


881. ヤマトケシマキムシ


882. トフシケシマキムシ


883. キタツツキノコムシ


884. ミツアナツツキノコムシ


885. フタツノツヤツツキノコムシ


886. アヤモンヒメナガクチキ


887. オオメズカクシナガクチキ


888. クリイロヒゲハナノミ


889. チャオビヒメハナノミ


890. シロウズクロヒメハナノミ


891. ナガトゲヒメハナノミ


892. カトウヒメハナノミ


893. ヒサゴホソカタムシ


894. ベニモンヒメヒラタホソカタムシ


895. ハヤシヒメヒラタホソカタムシ


896. アラメヒゲブトゴミムシダマシ


897. コマルキマワリ


898. ヤマトスナゴミムシダマシ


899. シナスナゴミムシダマシ


900. オオスナゴミムシダマシ


901. マルセルエグリゴミムシダマシ 基亜種


902. ナミウスイロクチキムシ


903. フナガタクチキムシ


904. ホンドカタモンヒメクチキムシ


905. クロテントウゴミムシダマシ


906. キイロテントウゴミムシダマシ


907. ホンドクビカクシゴミムシダマシ 基亜種


908. セスジナガキマワリ 基亜種


909. ハネナシセスジナガキマワリ


910. ハイイロカミキリモドキ 基亜種


911. キイロカミキリモドキ 基亜種


912. モモブトカミキリモドキ


913. ツマグロキゲンセイ


914. ツヤチビキカワムシ


915. ヒゲブトホソアリモドキ


916. ツヤチビホソアリモドキ

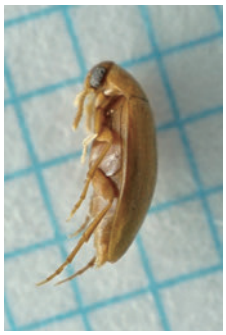

917. チャイロニセクビボソムシ


918. セグロニセクビボソムシ

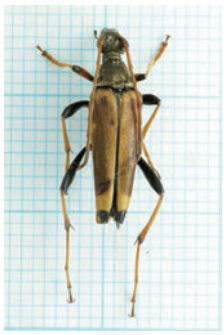

919. ヤマトニセクビボソムシ


920. コフナガタハナノミ


921. オオクロフナガタハナノミ


922. ハナノミダマシの一種
Anaspidinae sp.1


923. ニセノコギリカミキリ


924. ヤツボシハナカミキリ
本州以南亜種


925. ヒメスギカミキリ


926. スギカミキリ 基亜種


927. タケトラカミキリ


928. シラケトラカミキリ


929. ホシベニカミキリ


930. カノコサビカミキリ 基亜種


931. ヤハズカミキリ 基亜種


932. クモガタケシカミキリ


933. アトモンマルケシカミキリ


934. ニセビロウドカミキリ 基亜種


935. ヒメヒゲナガカミキリ 基亜種


936. インゲンマメゾウムシ


937. アワクビボソハムシ


938. ジンガサハムシ


939. ヒメカメノコハムシ


940. ヒメジンガサハムシ


941. カタビロトゲハムシ


942. コカミナリハムシ


943. キイロツブノミハムシ


944. オオバコトビハムシ


945. キアシツブノミハムシ


946. コバンマメトビハムシ


947. ヒメドウガネトビハムシ


948. ヒメトビハムシ


949. クビアカトビハムシ


950. ダイコンナガスネトビハムシ


951. チャバネツヤハムシ


952. ジュンサイハムシ


953. ブタクサハムシ


954. サンゴジュハムシ


955. イタドリハムシ


956. キボシツツハムシ 基亜種


957. カシワツツハムシ


958. ツツジコブハムシ


959. ニホンケブカサルハムシ


960. マルキバネサルハムシ


961. シバンガタノミヒゲナガゾウムシ


962. ヒメケブカチョッキリ


963. ケブカホソクチゾウムシ


964. ハナコブチビゾウムシ


965. イネミズゾウムシ


966. チビハナゾウムシ


967. オビデオゾウムシ


968. シュロゾウムシ


969. アイノシギゾウムシ


970. ハモグリゾウムシ


971. クロタマゾウムシ


972. タマゾウムシの一種
Stereonychus sp.1


973. ムネスジノミゾウムシ


974. エノキノミゾウムシ


975. リンゴノミゾウムシ


976. クロノミゾウムシ


977. カナムグラサルゾウムシ


978. アオバネサルゾウムシ


979. オビアカサルゾウムシ


980. ケナガサルゾウムシ


981. トゲトゲクロサルゾウムシ


982. サルゾウムシの一種


983. ワシバナヒメキクイゾウムシ


984. タカオマルクチカクシゾウムシ


985. アラハダクチカクシゾウムシ


986. ツメクサタコゾウムシ


987. コフキゾウムシ


988. チビコフキゾウムシ


989. チビヒョウタンゾウムシ


990. クリイロクチブトゾウムシ


991. コカシワクチブトゾウムシ


992. カシワクチブトゾウムシ


993. オオクチブトゾウムシ


994. ヒラズネヒゲボソゾウムシ


995. クチブトゾウムシの一種
Entiminae sp.1


996. ヒサカキノキクイムシ


997. クリノミキクイムシ


998. クワノキクイムシ


999. コキクイムシの一種
Cosmoderes sp.1


1000. フィリピンザイノキクイムシ


1001. ザイノキクイムシの一種
Xyleborini sp.1

1002. ハンノキキクイムシ

1003. フィリピンキクイムシ

1004. ニホンザイノキクイムシ

県立西宮甲山高等学校とその周辺地で確認した昆虫類の報告

中本 南[1)]・木下翔太郎[2)]・神吉正雄[3)]

本調査・研究結果の投稿にあたり

西宮市鷲林寺町にある県立西宮甲山高等学校に通学する中本と木下は，小・中学校時代から神吉が主宰する西宮オサムシグループの中心メンバーである．両君共に小学校時代から昆虫の採集と研究に興味を抱き，研究や採集に秀でた成果を上げてきた．

中本は高校進学に際して，昆虫生息環境の優れた西宮甲山高校への進学を選び，在学中，学校敷地内を中心とする地域の昆虫の調査を行い，その結果をまとめた（未発表）．高校卒業後，大学で昆虫関係の研究を行っている．グループの後輩である木下は，中本の調査・研究の後を引き継ぎたく同高校へ進学し，現在３年生である．

両君が調査を行った西宮甲山高等学校は，表六甲山地に位置し，六甲山頂付近から流下する仁川渓谷にあたる東の丘陵地帯に面している．また，南は観音山山系にある９世紀からの古寺，鷲林寺の寺領として保護されてきた保護林に接していることから，昆虫相が多様であり，生物地理学的に興味深い場所である．

両君の調査中から，その確認種に西宮市南部の未記録種や貴重種の確認報告を受け，その一部は「きべりはむし」へ投稿を勧め，報告してきた（中本・神吉，2021；神吉ほか，2024）．ところが，この高等学校が2025年で近隣校と統合することが決定し，この学舎は廃校となる．両君の４年間の調査結果の全容は，貴重なデータであり，是非公表し，後世の西宮市ないし六甲山系の昆虫相の研究に役立てられるように，本誌への投稿を両君と協議し発表することに至った．

以下，採集力と研究センスに優れた二人の息の長い努力の結晶の報告である．各分野で本調査・研究の成果が活かされることを願う．（神吉記）

1，はじめに

兵庫県立西宮甲山高等学校は，西宮市鷲林寺町剣谷にあり，六甲山地東部南面の山麓部に広がる観音山山系が舌状に南に伸びた先端部にあたる．北側を六甲山頂付近を源流とする仁川が東西に峡谷を造り流れる．その仁川は少し下ると甲山の北部の丘陵地帯を通り，武庫川に合流する．学校の敷地は標高260 mの道路面から急崖を上るとほぼ平坦面に出て，校舎もその一部に立っている．校舎周辺は広葉樹を中心とする樹林地が広く見られ，小河川も流れる．標高はほぼ300 mである．小河川周辺には狭いが草地も見られる．本校３階から街を見下ろすと，西宮市南部の大社町などの住宅街，東部の仁川町などの街並みが一望できる．また，本校前を南北に走る県道を挟みゴルフ場が開かれている．

そのように本校周辺の自然は市内に残されている貴重な場所であるが，ただ「緑の豊かさ」は目に見える外見であり，「自然の真の豊かさ」という視点で判断するためには，動植物の実態調査を行わないと断言できないと思う．今回，筆者らはこの緑の真の豊かさを知るために，２年間の調査を2017・2018年と2023・2024年の２回にわたり行った．その調査対象を筆者らが最も愛好し，これまで取り組んできた昆虫に絞り，その種数調査を行った．ただ，生徒としての主たる学習などとの両立もあり，二人で足掛け５年間の調査期間も十分とは考えていない．ペンを持っていないときにはネットを持って走り回っている筆者らを，応援して頂いた本校の先生方には感謝している．ここで報告するデータが将来，西宮市の「自然史」を語る一つの材料となることを願う．

2，調査方法等について

調査場所は西宮市鷲林寺町剣谷の学校敷地内を中心に，一部周辺地域を含んだ．調査期間は第１期として2017年４月から2020年３月まで中本が，第２期として2023年３月から2024年10月まで木下が実施した．調査の一部は，昆虫仲間の松井一希，甲斐大成，黒田勇斗，小川由有，中本和恵，中谷優介，黒木 颯の協力も得た．

調査方法は，採集ないし目視により種の確認をした．採集方法としてビーティング，スウィーピングの採集法のほか，第１期では石起こし，崖掘りやピットフォールトラップ（ベイト使用）やライトトラップによる夜間採集も行った．

[1)] Minami NAKAMOTO　兵庫県西宮市；[2)] Shotaro KINOSHITA　兵庫県西宮市；[3)] Masao KAMIYOSHI　兵庫県宝塚市

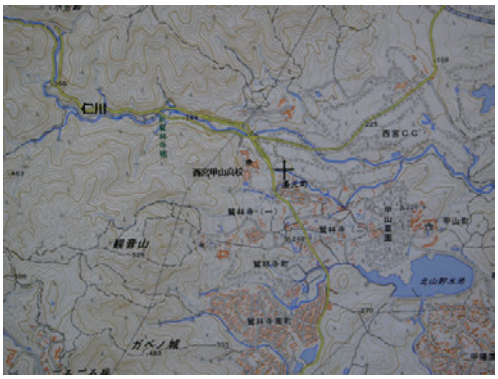


図 1．甲山高校周辺地形図．
地理院地図（国土地理院）を加工して作成．

図 2．南西部の観音山を望む．

図 3．南東部の甲山と丘陵地帯を望む．

図 4．学舎と南の鷲林寺方面．

図 5．学舎と北の樫ヶ峰方向．

図 6．通学路「緑の道」．

図 7．ライトトラップ．

3，調査結果について

調査結果は全て表に提示し，特色ある種については解説を記した．チョウに関しては，調査結果の分析に西宮市が 1971 年に各専門機関に委託し実施された「西宮市の自然の保護と利用に関する基礎調査」の西宮市の生物相のうちの昆虫部門（大阪市立自然史博物館日浦勇他が担当）の調査結果（日浦ら，1972）を参考として，チョウの生息状況の変化についての比較検討も試みた．

1）西宮甲山高校で見られたチョウについて（表 1）

チョウについては，今回確認できたチョウの全体的な傾向について述べ，次いで特色ある種について述べてみる．

今回の調査で，筆者らは 55 種を確認することができた．科別に見るとアゲハチョウ科が 11 種，シロチョウ

科が 6 種，シジミチョウ科が 14 種，タテハチョウ科が 21 種（内ジャノメチョウ類が 6 種），セセリチョウ科が 3 種であった．これを西宮市 1971 年調査の表六甲（日浦ら，1972）と比較してみると 16 種が確認できなかった．特に見かけなかったり，少なくなっているヒョウモンチョウ類やセセリチョウ類は草原を好み，ヒメヒカゲなどのヒカゲチョウ類は湿原を好むが，今回の調査地ではそのような環境が少ないため，確認できた種類数が少なくなっていると思われる．

逆に，1971 年には見られなかったナガサキアゲハや稀にしかいないとされていたイシガケチョウなどは，今回の調査で度々確認されており，気温の上昇に伴う分布の北上によるものと思われる．

以上のように 1971 年時と今回の調査時のチョウ類の生息状況の変化は，狭い本校の森でもはっきりと現れていて驚いた．

以下では，確認できた種の中で，貴重種やその生態や調査時に興味がひかれた種について記述しておく．

＊ギフチョウ *Luehdorfia japonica*（環境省：絶滅危惧Ⅱ類）

今回の調査で本種を採集し，西宮市での記録を聞かないため本誌で報告した（中本・神吉，2021）．西宮市の六甲山地南部の記録は初めてであり，偶産種ではないかと考えられる．因みに食草のヒメカンアオイの存在は，仁川町 6 丁目の仁川緑地内で数株確認しているが、食痕や成虫の飛来は全く確認できていない．

＊ナガサキアゲハ *Papilio memnon*

近年温暖化で北上させていることで注目されている．1971 年の調査では確認されていなかったが，本調査では吸蜜個体やテリトリーを張る飛行個体など多くを観察することができた．また，校内には食草であるサンショウが生えており，市内の他の場所でも柑橘類が多く見られるため，温暖化で北上してきた本種が定着するようになったと考えられる．

＊モンキアゲハ *Papilio helenus*

西日本を中心に分布している大型のアゲハだけに人気がある．本調査では体育館横のプールサイドで給水する個体などを確認できた．

＊オナガアゲハ *Papilio macilentus*（兵庫県：要注目）

西宮市内では広範囲に分布するが，他のアゲハ類に比較すると数は少ない．本調査での記録もグラウンド付近で目視した 1 頭に止まった．

＊ジャコウアゲハ *Atrophaneura alcinous*

西宮市内で本種は多くないが，市内南部でも局地的に発生したことがある．幼虫はウマノスズクサを食草とする．本調査地ではプール横の畑の柵や校門周辺に自生しており，複数回に渡って産卵する個体を確認している．

＊ミヤマカラスアゲハ *Papilio maackii*

本校西側の山林内の日当たりの良い場所で，オスのテリトリー飛行をする本種を複数回確認した．また，稀に本校バスロータリー付近のツツジに吸蜜のために訪れていた．美麗種である．特に春型は美しい．

＊ツマグロキチョウ *Eurema laeta*（環境省：絶滅危惧Ⅱ類，兵庫県：要注目）

西宮市南部でも近年，かなり見られるようになった．本調査では校門付近で複数回確認したが，全て秋型であり，夏型は見られなかった．食草のカワラケツメイは本校で確認していない．

＊ツマキチョウ *Anthocharis scolymus*

春を告げる可憐な美しいチョウで，3 ～ 4 月のわずかな期間に観察される種である．西宮では減少気味であったが近年増えてきているように感じる．本調査でも同様に早春の時期に学校内の林道で採集された．

＊ウラキンシジミ *Ussuriana stygiana*（兵庫県：要注目）

市内の甲山や社家郷山などで確認されているが稀な種である．本調査ではテニスコート付近のクリの大木で確認された．

＊ミドリシジミ *Neozephyrus japonicus*（兵庫県：要注目）

市内の表六甲側ではこれまで確認はされていなかったが，本校南側の展望階段付近で卍飛行中のオス 2 個体を確認したため本誌で報告した（中本・神吉，2021）．食樹のハンノキは本校では確認できなかった．

＊クロマダラソテツシジミ *Chilades pandava*

南西諸島原産のチョウで，阪神間では 2007 年に大阪府池田市で初めて確認されたが，拡がらずに死滅した（平井 2009；神吉 2009）． 西宮市では 2008 年に筆者らのグループの神吉らが確認した．その年から阪神間を中心に大発生となった．出現は 8 月下旬に飛来してきて，産卵・発生を繰り返し 12 月下旬まで姿を見せるが，越冬できず死滅することを繰り返している．本調査では，プール近くのソテツで 2017 年 10 月 1 日に確認できた．

＊アサギマダラ *Parantica sita*

生育適温を求め「渡り」を行うチョウである．西宮市では六甲山地尾根筋で多数の本種が集合しているのを筆者らのグループで観察したことがあり，多くの場所で

は少数の飛来に出会っている．本校でもフジバカマがテニスコート周辺に生えていることもあり，秋に複数個体が確認できた．

＊イシガケチョウ *Cyrestis thyodamas*

近年温暖化に伴い分布を北上させている．食樹となるイヌビワが校内に多く自生しているため，本調査でも数多く確認できた．

＊ルリタテハ *Kaniska canace*

本調査でも最も多く確認できた種の一つである．本校は，本種の成虫が好むカシ類の樹液場が多く，また，校舎の裏側に少し開けた場所があり，本種が好む陽当たりの良い場所がある．その広場で，頻繁にテリトリーを張っていたのを部活動で通った際に見かけることが多かった．

＊オオムラサキ *Sasakia charonda*（環境省：準絶滅危惧種，兵庫県：C ランク）

1971 年市の調査時では，表六甲での生息が確認されていなかった．ところが 1993 年に甲山山麓で幼虫を発見（法西），2008 年に甲山山頂で飛行中を確認（神吉弘視）などの情報が入り，2013 年に西宮自然保護協会として筆者らのグループが参加して甲山周辺の調査を実施し，多数の幼虫を確認した．それ以降，甲山周辺から鷲林寺町などへ広く生息地が拡大し，発生数も多くなっていったことを確認している．

本調査では校内の藤棚付近でテリトリーを張る個体を複数回確認した．

＊クロコノマチョウ *Melanitis phedima*

気候温暖化に伴う北上種である．西宮市の表六甲では 1971 年には稀な種（日浦ら，1972）であったが，近年では見掛けることが多くなってきた．深い照葉樹林で多く見掛けられ，本校にはカシの大木が多くあり，樹液を吸蜜しにきた個体を多く確認することができた．

2）西宮甲山高校で見られた甲虫について（表 2）

今回の調査で確認できた甲虫は 161 種であった．ライトトラップとピットフォールトラップによる採集をも実施したのでかなり調査の成果が上がった．ここでは甲虫類の確認種の中での注目種について記述しておく．

＊ハンミョウ *Cicindela japonica*

「道しるべ」と昔から言われた昆虫であるが，その種の中では最も美しいのがハンミョウである．本種の名称はナミハンミョウとも呼ばれることもある．最近このハンミョウを見かける機会が減少しているが，今回の調査ではかなりの数が確認できた．これは校内の小川や，学校の北に流れる仁川が好条件になっていると考えられる．

＊クロカタビロオサムシ *Calosoma maximowiczi*

2013 年に生駒山地で大発生し，その後六甲山地へも拡がり，本校の北の社家郷山一帯でも大発生した．その大発生が 2023 年まで続いたため今回の調査時にも確認できた．

＊エゾカタビロオサムシ *Campalita chinense*

前種のクロカタビロオサムシは関西では非常に珍しい種であったが，大発生に伴い近年はよく見られた．逆に本種は，河川の草地などで時々採集できたが，最近は珍しい昆虫となった．灯火に飛来するため，川に近い本校にも飛来してきたと考えられる．

＊ミズスマシ *Gyrinus japonicus*（兵庫県：B ランク）

本種はよく知られている水生昆虫であるが，近年急速に減少しており，兵庫県でも絶滅危惧の B ランクと位置付けられている．減少は農薬などによるものと思うが，本調査時に確認できたことは環境的に自然度が高いと思っていいのではないだろうか．

＊オオチャイロハナムグリ *Osmoderma opicum*（兵庫県：B ランク）

本種は，兵庫県下では少ない大型のハナムグリで，西宮市での記録は見当たらなかったことから，本誌で報告した（中本・神吉，2021）．本種は大木の洞で見つかることが多いと聞くため，学校の南に現在も残る，歴史の古い鷲林寺の自然林の環境に関係しているとも考えられる．

＊オオクワガタ *Dorcus hopei*（環境省：準絶滅危惧 II 類，兵庫県：B ランク）

本種はクワガタムシ愛好家には人気があり，高額で売買されるため，採集圧が高くなり，野外では見つけることは稀となっている．一方で，本種を購入し飼育していたが野外へ放す例も聞く．筆者の友人も西宮市の柏堂や甲山などで採集している．今回の調査時に確認したのは大型のメスで，放虫された個体か，その次世代の個体の可能性が高い．筆者らはこのような自然を乱す行為は止めてほしいと願う．

＊オオムツボシタマムシ *Chrysobthris ohbayashii*

本種は稀で，西宮市の記録を見かけないため，本誌で報告した（神吉ほか，2024）．今回の調査では，グラウンドに筆者がいた時，本種の死体が偶然，目前に落下したのを見つけたのである．誠に幸運であった．

＊ヘイケボタル *Luciola lateralis*（兵庫県：要注目）

本校の近くを流れる仁川や逆瀬川の中・下流では，流水性のゲンジボタルが見られるが，今回確認できたのは止水性のヘイケボタルであった．

＊ヨコヤマトラカミキリ *Epiclytus yokoyamai*

本種は比較的珍しいカミキリムシで，主に山地の広葉樹林に生息し，樹木上部の花に集まる．このようなカミキリが確認できることは，本学校周辺の自然度の高さを感じる．

＊ヨツスジトラカミキリ *Chlorophorus quinquefasciatus*

本種は温暖な西南日本の沿岸地方を中心に見られる美しいトラカミキリである．西宮市では甲山森林公園などの木の花に集まっているのを見つけている．今回の調査地でも2017年7月21日に1頭ではあるが確認できた．

＊カキゾウムシ *Pseudocneorhinus obesus*

6.5 mmの小型でずんぐりしたゾウムシで少ないとされる．興味が持たれるのは日本にはメスしかおらず，済州島と中国にはオスがいるという変わったゾウムシである（林ら，1984）．

＊ナガフトヒゲナガゾウムシ *Xylinada striatifrons*

本種はシイタケの原木などの伐採木やナラ枯れした木に集まる．西宮市の甲山などでも近年ナラ枯れの被害が増加し，伐採木が多く見られるようになっている．それに伴って個体数が増加傾向にあり，今回の調査でも確認できた．

3）西宮甲山高校で見られたトンボについて（表 3）

＊ルリボシヤンマ *Aeshna juncea*（兵庫県：B ランク）とオオルリボシヤンマ *Aeshna crenata*

ルリボシヤンマは少ない種で，高層の湿原のほか，山麓の池沼でも時には見られる種である．オオルリボシヤンマは前者より大型で，平地から山地までの樹林地の中の池沼で見られる．調査地ではオオルリボシヤンマが多く見られ，ルリボシヤンマは一度だけ現れた．

＊タカネトンボ *Somatochlora uchidai*（兵庫県：要調査）

樹木に囲まれた日陰の多い池や沼に生息し，沢や湧き水が流れ出す水温の低い池沼を好む．オスは縄張りを張りメスを待つ．甲山高校は仁川の中・上流に位置し，山から流れてくる水が砂防ダムによって堰き止められ，池沼的な環境を造っている．ここではミズスマシも生息しており，水生昆虫にとって良い生息環境が残っている．

＊リスアカネ *Sympetrum risi risi*，マユタテアカネ *Sympetrum eroticum* とミヤマアカネ *Sympetrum pedemontanum*

リスアカネとマユタテアカネは西宮市内どこでも多く見かけていた赤とんぼである．ミヤマアカネは，アカネの中では珍しく流水性の美しい赤とんぼである．筆者らは逆瀬川・仁川・夙川水系の丘陵部でマユタテアカネと共に多く確認している．一方，両種以外のアカネの類は少なくなり，特にリスアカネの減少が著しい（山本ら，2009）．調査時もマユタテアカネとミヤマアカネは多く確認できたが，リスアカネを確認したのは1頭のみであった．

＊カトリヤンマ *Gynacantha japonica*（兵庫県：B ランク）

本種は，夕刻に家に入ってきて，蚊を取ってくれるトンボとして良く知られていたトンボであるが，筆者らが行っている神社の昆虫調査で，2011 年に越木岩神社で確認できたと聞いていたのが，2024 年に筆者が同神社を調査した時には全く確認できなくなっていた．水田環境の変化で全国的に急激な減少傾向であるとのことである（山本ら，2009）．今回の調査で 1 頭だけではあるが姿を見せてくれた．

4）西宮甲山高校で見られたその他の昆虫類について（表 4 ～ 9）

その他の昆虫類として，ガ，ハサミムシ，ハチ，カメムシ，カゲロウ，バッタ，ハエ，ネジレバネ，ナナフシの各目に入る昆虫を確認することが出来ている．確認種については表 4 ～ 9 で示した．ここでは，特に注目する種のみを示して説明をしておく．

＊オオミズアオ *Actias aliiena*

ヤママユガの一種であるが，全国の平地から高原まで広く生息する美しい大型の蛾であるため，昆虫好きでない方でも良く知られている蛾である．本種の幼虫はモミジ，ウメ，サクラなどの樹木の葉が好みである．この食性のため街中でも見かけることがある．

類似するオナガミズアオ *Actias gnoma* が当地でも確認できているが，前翅の形態や色彩などの違いが分類の基準になっている．調査中ではオオミズアオが圧倒的に多かったが，同じ日に 1 頭だけオナガミズアオも飛来したことがある．

＊ギンモンスズメモドキ *Tarsolepis japonica*

比較的大型のシャチホコガの仲間であるが，スズメガに類似するのでスズメモドキとよばれる種である．上翅に大きな三角形の銀色をした紋が二つあるのが特色で

ある．西宮では少ない種であるが 2017 年 8 月のライトトラップに来た．

＊ジョナスキシタバ *Catocala jonasii*

大型の蛾で，後翅の黒字に黄色の美しい帯があるキシタバに良く似るが，前翅の模様で区別できる．

＊シンジュキノカワガ *Eligma narcissus*

美しい蛾で，食草はシンジュ（ニワウルシ）．中国原産の蛾で日本では偶産種と考えられているが，近年は増えている．筆者らは西宮の社家郷山などで多数確認しており，越冬中の蛹を採集し飼育もしている．蛹は樹皮など付いている場所に擬態して，よく見ないと分からない．また飼育中に触れると音を出す．本調査で 2024 年 9 月 27 日に確認できたことは，山麓部で気温が低い本校でも越冬個体が羽化して成虫として出現したことになる．やはり，暖冬が影響したのだろうかと考える．

＊ルリチュウレンジ *Arge similis*

本種は 9mm ほどのハチであるが，体が紺色に輝く美しさのため，魅力のある昆虫である．幼虫がツツジの葉を食す．このハチが 2017 年の春に 3 度顔を見せてくれた．

＊ウマノオバチ *Euurobracon yokahamae*（兵庫県：C ランク）

メスの産卵管が体長の 5 倍前後あることから本種の名前が付いている．少ない種で兵庫県版レッドリストで C ランクになっている特異な姿のハチだけに，2023 年に確認できたのは嬉しく思った．

＊チャイロスズメバチ *Vespa dybowskii*

本種はキイロスズメバチやモンスズメバチの巣を乗っ取り繁殖する社会労働寄生種として知られている，少ない種である（槐, 2017b）．本調査でも確認できたが，僅かであった．

＊タイワンタケクマバチ *Xylocopa tranquebarorum*

台湾，中国南部，インドなどが原産地で，2006 年に愛知県で確認されて以降，分布を拡大させている（国立環境研究所，2025）．筆者らの前期の調査では確認されていなかったが，後期の 2023 年では多数確認することができ，その拡大の速さに驚かされた．なお，日本在来のキムネクマバチは，ニセアカシヤが咲くころにホバリングしている姿をよく見かける．

＊オンブバッタ *Atractomorpha lata* とアカハネオンブバッタ *Atractomorpha sinensis*

在来種のオンブバッタは，大きなメスの体に小型のオスが交尾のために乗っかっている姿から，この名前が付き，どこの原っぱにもいるので子供の頃から親しんできた．ところが 2008 年頃に大阪南港埋立地に外来種のアカハネオンブバッタが侵入し，たちまち阪神間に広く分布を拡大させた．阪神間では，海岸部から北へと分布を拡大させて，西宮北部にまで確認できていることを筆者らのグループで確認，報告している（神吉，2019a；神吉，2019b）．外部形態は極似するが，採集し後翅が赤色を呈するのを見て初めてアカハネオンブバッタと判断できる．

本調査地は山地で草地が少ないが，それでも 2023 年に在来種に混ざり，確認ができた．

＊調査地でのセミの比率

近年の温暖化の中で，西宮南部では圧倒的にクマゼミ *Cryptotympana facialis* が多く，アブラゼミ *Graptopsaltria nigrofuscata*，ニイニイゼミ *Platypleura kaempferi* の声を聞くことが少なくなっているように思う．そこで，今回の調査地域での 3 種の確認比率を調べてみた（鳴いている頭数でなく，鳴いている場所のポイント比で調べた）．するとアブラゼミが 52.7%，ニイニイゼミが 36.8%，クマゼミが 10.5%であった．本校へのクマゼミの進出は予想以上に少なかった．このことから，本校の自然度はまだ高いと思った．

＊タイコウチ *Laccotrephes japonensis*

今回の調査で減少してきている本種を 2017 年に 1 頭ではあるが確認することができた．

＊アオバハゴロモ *Geisha distinctissima*

本種は薄緑色をした美しい昆虫で，名前が羽衣から付けられている．10mm 内外の大きな翅で三角形状に止まっており，時には多数が集まっていることもある．今回の調査時には前期，後期を通してしばしば見かけることができた（槐，2017a）．

＊マツヘリカメムシ *Riptortus pedestris*

北米原産の本種は，2008 年に東京で発見後 10 年で全国へ分布が広がった問題の外来種である．

簡略ではあるが，筆者らのグループで 2010 年前後に西宮・芦屋で調査をした時はまだ極めて少なかった．今回の調査では 2023 年に 2 度確認しており増えてきているようだ．

＊オオキンカメムシ *Eucorysses grandis*

大型で真っ赤な赤地に黒い大きな斑点がある極めて美しいカメムシである．アブラギリに良くつく．冬季に西宮浜などの南部の温かい場所の樹木で集団越冬する

様子が観察できる．今回の調査範囲では 2017 年 10 月 10 日に確認された．

＊スズメバチネジレバネ *Xenos amoutomi*

ネジレバネの仲間は特異な生態で，昆虫好きの方に興味が持たれている．ハチ類やゴギブリなどに寄生し，メスは一度宿主の体内に入ると出てくることなく一生を終える．オスは宿主の体内で成虫になると，外に出て交尾相手のいる宿主を探す．

筆者らのグループは 2024 年冬季に，本調査地に近いところで，キイロスズメバチ *Vespa simillina* の巣から 1 頭であるが本種を取り出した．本調査中では 2017 年 10 月 20 日にキイロスズメバチの巣から寄生中の本種を採集した．

4，おわりに

今回調査対象とした兵庫県立甲山高等学校は，西宮という阪神間の文教住宅都市内にありながら，周辺だけでなく学校の敷地内も自然が豊かな環境である．このため，学校生活は昆虫との出会いが日常であった．筆者らは，この環境に魅力を感じ入学したが，調査を進める中で，これらの環境に生息する昆虫の実態を明らかにして，さらにその生態や変化する要因を明らかにする研究まで踏み込みたくなっていった．

今回，中本（1 期 2017-2018 年）と木下（2 期 2023-2024 年）の二人の調査を比較することで，昆虫の変化を明らかにすることが出来た．さらに，チョウについては西宮市の 1971 年時の調査と今回の調査結果を比較する中で，見られなくなった種もあれば，ナガサキアゲハなど新しく見られるようになった種もいた．このことは，一つの環境の変化が一部の昆虫にとっては生息を困難にしているが，他の一部の昆虫にとっては新しい住みかとなっていると考えられる．この事実から，環境の変化が昆虫に与えている影響の大きさを再認識させられた．

今回の調査によって，ギフチョウやオオチャイロハナムグリのような西宮南部での新しい記録種も見つけることができた．一方で危険なチャイロスズメバチが確認できたり，在来種を駆逐しそうなアカハネオンブバッタのような外来種の侵入，オオクワガタに見られた本来の生態系を乱す放虫の存在も確認できた．狭い甲山高校の敷地の中であるが，調査をしてみると問題視されている昆虫が生息していることも明らかにすることができた．

本調査を自然環境の豊かな母校で実施することができたことは幸せであった．その母校が 45 年の歴史に幕を下ろすことは残念であるが，今回の調査結果が各方面で活かされることを願う．

末筆であるが，今回の調査・研究にあたり，長期間にわたる調査に協力して頂いた本校の先生方，ご指導を頂いた先生方，調査時に協力頂いた友人の方々に厚く感謝を申し上げる．

引用文献

槐 真史，2017a．日本の昆虫 1400 ① チョウ・バッタ・セミ．文一総合出版．320pp.

槐 真史，2017b．日本の昆虫 1400 ②トンボ・コウチュウ・ハチ．文一総合出版．270pp.

神吉正雄，2009．西宮市におけるクロマダラソテツシジミの発生について．さざなみ，28：25-28

神吉正雄，2016．環境変化と西宮市域の蝶類棲息数の変化．大昆 Crude，30：19-32

神吉正雄，2019a．アカハネオンブバッタとオンブバッタの生息状況 (1)- 芦屋市・西宮市・宝塚市南部について -．きべりはむし，41(2)：41-43

神吉正雄，2019b．アカハネオンブバッタとオンブバッタの生息状況 (2)- 芦屋市・西宮市・宝塚市南部について -．きべりはむし，42(1)：78-83

神吉正雄・石川延寛・木下翔太郎，2024．西宮市で確認できた甲虫類 2 種の報告．きべりはむし 47（2）48-49

環境省，2020．環境省レッドリストの公表について．https://www.env.go.jp/press/107905.html.（参照 2025 年 4 月）

国立環境研究所，2025．侵入生物データベース．タイワンタケクマバチ．https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/60530.html（参照 2025 年 4 月）

中本 南・神吉正雄，2021．兵庫県西宮市におけるギフチョウ，ミドリシジミ，オオチャイロハナムグリの記録．きべりはむし，44（1）：51-52

林 匡夫・森本 桂・木元新作，1984．原色日本甲虫図鑑 (Ⅳ)．保育社．440pp.

日浦 勇・瀬戸 剛・宮武頼夫，1972．西宮市の生物相．西宮市，「西宮市の自然保護および利用に関する基礎調査報告書（西宮市自然保護利用基礎調査団）」．pp.71-102

平井規夫，2009．本州と四国におけるクロマダラソテツシジミの記録．やどりが，220：2-20

兵庫県, 2023．兵庫県版レッドリスト 2022 年版 (昆虫類)．https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/jp/environment/leg_240/leg_289/2022.（参照 2025 年 4 月）

山本哲央・新村捷介・宮崎俊行・西浦信明，2009．近畿のトンボ図鑑．いかだ社．239pp.

表 1．西宮市鷲林寺町の兵庫県立甲山高校で確認されたチョウ.

和名	1971 年市調査＊1 表六甲のチョウ	甲山高校における 2017 年・2018 年（中本）、2023 年・2024 年（木下）調査＊2	
		確認	確認日
アゲハチョウ科			
ギフチョウ	×	○	2019 年 4/16
クロアゲハ	多	○	2017 年 5/11，2023 年 5/11，7/4, 9/1, 9/6, 9/8
ナガサキアゲハ	×	○	2017 年 5/11，6/11，9/21, 2023 年 9/26
モンキアゲハ	稀	○	2017 年 4/10(2 頭)，8/21，9/11，2018 年 5/11, 2023 年 5/22, 9/8
オナガアゲハ	稀	○	2018 年 6/18
ジャコウアゲハ	少	○	2017 年 4/10, 2018 年 7/25 ④ , 2023 年 5/10
アゲハ	多	○	2017 年 4/10，6/11(3 頭)，7/21 ②，11/18，2018 年 4/22，2023 年 3/29，4/11，9/4，9/7，9/22, 9/25，9/26，9/27, 9/29，10/2
キアゲハ	少	○	2017 年 7/21 ②
カラスアゲハ	稀	○	2017 年 4/29，2024 年 5/11
ミヤマカラスアゲハ	稀	○	2017 年 4/29，7/25, 2018 年 4/15，7/10(5 頭)
アオスジアゲハ	多	○	2023 年 4/11，7/4，9/4, 9/5, 9/7, 9/12, 9/19, 9/20, 9/26, 9/28, 9/29, 2024 年 5/2, 7/24, 7/26
シロチョウ科			
キタキチョウ	多	○	2017 年 4/10，2018 年 6/19 ④ , 2023 年 9/6, 9/22
ツマグロキチョウ	稀	○	2017 年 4/** ⑤，2018 年 4/22
モンキチョウ	多	○	2017 年 7/23 ①
ツマキチョウ	少	○	2018 年 4/11，4/16 ① , 2023 年 4/14
モンシロチョウ	多	○	2017 年 5/11(2 頭), 5/29，2023 年 4/11
スジグロシロチョウ	少	○	2018 年 7/10，2023 年 4/23
シジミチョウ科			
ウラギンシジミ	多	○	2017 年 8/15，2018 年 6/18(3 頭), 6/22(2 頭), 6/23(2 頭), 2023 年 4/14，4/23，7/28，9/6，9/7，9/12，9/19，9/20，9/22，9/25，9/28，9/29, 10/2, 10/4, 2024 年 7/24，9/5
ゴイシシジミ	稀	×	
ムラサキシジミ	少	○	2018 年 6/18, 2023 年 9/14, 9/19, 2024 年 7/24
ムラサキツバメ	×	○	2024 年 9/5
ウラキンシジミ	稀	○	2018 年 7/10
ミズイロオナガシジミ	少	○	2017 年 7/21，2018 年 6/6
ウラミスジシジミ	少	×	
アカシジミ	稀	○	2017 年 6/20，2018 年 6/15(2 頭), 6/20, 2023 年 6/7
ウラナミアカシジミ	稀	×	
ミドリシジミ	×	○	2017 年 6/20(2 頭)
トラフシジミ	少	○	2023 年 4/20
コツバメ	多	×	
ベニシジミ	多	○	2017 年 5/20, 7/21
クロシジミ	少	×	
ウラナミシジミ	多	○	2017 年 11/12(6 頭), 11/20(3 頭), 11/21，12/1
ヤマトシジミ	多	○	2017 年 5/10(3 頭), 6/18，6/20(3 頭), 2023 年 4/14
ルリシジミ	多	○	2017 年 6/11，7/10
ツバメシジミ	多	○	2017 年 5/1
クロマダラソテツシジミ	×	○	2017 年 10/1
タテハチョウ科			
テングチョウ	少	○	2017 年 4/22(3 頭), 5/19，8/21 ①，2018 年 6/18 ①，2023 年 3/29，9/5，9/20, 2024 年 3/4
アサギマダラ	稀	○	2017 年 6/9，9/23 ①，10/10(13 頭) ①，11/10，11/21，2018 年 6/11，6/18，7/10，2024 年 10/26
タテハチョウ科			
ミドリヒョウモン	稀	×	
ウラギンスジヒョウモン	稀	×	
オオウラギンスジヒョウモン	稀	×	
ツマグロヒョウモン	稀	○	2017 年 4/10，4/15，8/21，9/21，2023 年 5/22, 9/22, 10/14
イチモンジチョウ	少	×	
アサマイチモンジ	稀	○	2024 年 7/23
コミスジ	多	○	2017 年 6/11，2023 年 9/19
ホシミスジ	多	○	2017 年 9/21，10/11
ミスジチョウ	稀	×	
イシガケチョウ	稀	○	2017 年 7/21，8/15，2018 年 10/10, 2023 年 6/17，2024 年 5/29，6/11
キタテハ	多	○	2017 年 10/10，2023 年 6/1，9/27，9/29，10/4, 2024 年 3/15
ヒオドシチョウ	多	○	2017 年 8/15、2023 年 4/11、6/7
ルリタテハ	多	○	2017 年 7/21，7/22(4 頭), 8/15(2 頭), 9/21(2 頭), 10/10，2018 年 6/18，7/21 ②、2023 年 6/7, 7/4，9/1, 9/5, 9/6, 9/7, 9/8, 9/12, 9/22, 9/26, 9/27, 10/13，10/14，2024 年 2/20，3/15，4/16，4/17，4/23< 卵・幼虫＞ , 9/5
アカタテハ	多	○	2018 年 6/1，2023 年 9/25，2024 年 4/12
ヒメアカタテハ	稀	○	2017 年 5/22，2018 年 3/27(2 頭), 2023 年 5/22, 2024 年 3/15
スミナガシ	稀	×	
コムラサキ	多	○	2018 年 6/18，7/25(2 頭)
オオムラサキ	×	○	2017 年 7/1，7/21，2018 年 6/18(4 頭), 7/10(3 頭), 7/11(5 頭), 7/23
ゴマダラチョウ	多	○	2017 年 8/21(4 頭), 9/21，2018 年 6/10，2018 年 7/25 ② , 2023 年 5/22, 7/28, 2024 年 7/22
ジャノメチョウ	稀	×	
ヒカゲチョウ	少	○	2023 年 6/9，9/5，9/8
クロヒカゲ	少	○	2018 年 5/19，2023 年 9/7
サトキマダラヒカゲ	多	○	2017 年 7/21 ③ , 2018 年 6/18，2023 年 9/5
ヒメジャノメ	多	○	2023 年 5/2
コジャノメ	多	×	
クロコノマチョウ	稀	○	2017 年 7/21 ② , 2023 年 4/18，2024 年 4/12
ヒメヒカゲ	多	×	
ヒメウラナミジャノメ	多	○	2017 年 8/15，9/18
ウラナミジャノメ	少	×	
セセリチョウ科			
アオバセセリ	稀	×	
ダイミョウセセリ	少	○	2023 年 6/7，7/25
ミヤマセセリ	多	×	
ホソバセセリ	多	×	
コチャバネセセリ	少	×	
キマダラセセリ	多	×	
イチモンジセセリ	多	○	2017 年 5/22，6/11，10/10，2018 年 6/18 ①
オオチャバネセセリ	多	×	
ミヤマチャバネセセリ	稀	×	
チャバネセセリ	稀	○	2017 年 8/20
合計	71 種	55 種	

＊ 1：西宮市の自然保護および利用に関する基礎調査研究報告書 1972.　3、「Ⅲ生物相 1、動物相、西宮の蝶の棲息状況 . 表六甲」による
＊ 2：確認者は中本・木下と表中 ①松井一希 ②甲斐大成 ③黒田勇斗 ④小川由有 ⑤中本和恵 ⑥中谷優介 ⑦黒木颯による（以下の表も同じ）

表 2．西宮市鷲林寺町の兵庫県立甲山高校で確認されたコウチュウ.

和名	確認日
オサムシ科	
コニワハンミョウ	2017 年 8/10
ニワハンミョウ	2023 年 5/3
ハンミョウ	2017 年 7/10, 7/13, 8/15 ①, 2018 年 6/18, 2023 年 4/20, 9/5, 2024 年 3/29
クロカタビロオサムシ	2017 年 5/17, 12/28 ⑥, 2023 年 9/19, 2024 年 5/7, 6/3
エゾカタビロオサムシ	2018 年 6/7 ②
ヤコンオサムシ	2017 年 4/13, 5/10, 6/19, 8/15, 8/18, 8/21 ①, 9/10, 9/23, 9/29, 10/10, 2018 年 1/17
オオオサムシ	2017 年 12/28 ⑥, 2023 年 5/11, 6/20
マヤサンオサムシ	2017 年 7/1, 8/15, 11/18, 12/20, 12/28 ⑥, 2018 年 8/7, 2023 年 5/1, 6/17
マイマイカブリ	2017 年 4/10, 9/21, 2018 年 6/7 ②, 6/18 ①, 2023 年 5/9, 6/20
マルガタゴミムシ	2017 年 4/17
ゴミムシ	2017 年 12/21
ヒメゴミムシ	2017 年 10/21
ウスアカクロゴモクムシ	2018 年 1/17, 4/21
アオゴミムシ	2017 年 4/10, 6/19, 6/30, 7/21, 8/15 ①, 2018 年 1/1
フタモンクビナガゴモクムシ	2017 年 7/20
アオヘリアトキリゴミムシ	2017 年 5/10, 8/15
ホシハネビロアトキリゴミムシ	2018 年 2/20
オオホソクビゴミムシ	2017 年 5/19, 8/15
シデムシ科	
クロシデムシ	2017 年 8/15
ヨツボシモンシデムシ	2017 年 8/15
オオモモブトシデムシ	2017 年 8/15
オオヒラタシデムシ	2017 年 4/10, 8/22, 2018 年 9/21, 2023 年 6/5, 7/24
ヨツボシヒラタシデムシ	2023 年 4/27
エンマムシ科	
コエンマムシ	2017 年 9/11
オオヒラタエンマムシ	2017 年 8/15
ハネカクシ科	
アオバアリガタハネカクシ	2017 年 8/15
アカバハネカクシ	2023 年 5/1
クロガネハネカクシ	2017 年 8/15
サビハネカクシ	2017 年 7/21, 8/15
ナミクシヒゲハネカクシ	2017 年 8/15
ムネビロハネカクシ	2017 年 8/15
デオキノコムシ科	
ヤマトデオキノコムシ	2023 年 5/3
ミズスマシ科	
ミズスマシ	2024 年 3/15
コガネムシ科	
クロマルエンマコガネ	2017 年 7/21 ②, 7/22, 8/15, 9/18, 2018 年 5/20
ツヤエンマコガネ	2017 年 8/15
コフキコガネ	2017 年 8/15, 2018 年 8/6
クロコガネ	2023 年 5/10
ビロウドコガネ	2023 年 5/18
コイチャコガネ	2017 年 8/15
セマダラコガネ	2017 年 8/15, 2018 年 7/10, 8/6
マメコガネ	2017 年 8/15, 2023 年 5/10
コガネムシ	2017 年 8/15
アオドウガネ	2017 年 6/19, 7/21, 8/15 ①, 9/6, 9/21, 10/1, 2023 年 7/24, 9/7
オオスジコガネ	2024 年 7/19, 7/24, 7/26
スジコガネ	2017 年 8/15
ドウガネブイブイ	2017 年 8/15, 2023 年 6/15
ツヤコガネ	2017 年 8/15 ①, 2018 年 6/18
ヒメコガネ	2017 年 8/15
オオチャイロハナムグリ	2018 年 7/27
アオカナブン	2017 年 7/1, 2018 年 7/10, 2023 年 7/6, 7/7, 7/13, 2024 年 7/18
カナブン	2017 年 6/19, 7/1, 8/15, 9/20, 2023 年 6/13, 7/4, 7/7, 2024 年 5/29, 7/18, 7/29
ハナムグリ	2018 年 4/20
アオハナムグリ	2023 年 4/20, 5/26
シラホシハナムグリ	2017 年 8/15
シロテンハナムグリ	2017 年 6/19, 7/21, 2023 年 9/1, 9/21, 9/29
キョウトアオハナムグリ	2017 年 7/15, 7/21, 2018 年 7/11
カブトムシ	2017 年 7/21, 7/22 ①, 8/15, 8/21, 2018 年 7/18, 2023 年 6/11, 7/18, 2024 年 7/17, 7/24
コアオハナムグリ	2018 年 6/7, 2023 年 5/11, 6/21, 10/4
クロハナムグリ	2023 年 4/20, 5/25, 7/4
クワガタムシ科	
ミヤマクワガタ	2017 年 6/19, 7/1, 7/15, 7/27 ①, 8/15, 8/21, 2018 年 7/11, 7/27, 2023 年 7/10, 7/11, 7/12, 2024 年 6/14, 6/17, 7/17, 7/18
チビクワガタ	2018 年 1/1
クワガタムシ科	
ノコギリクワガタ	2017 年 7/1 ①, 7/20 ①, 7/22, 2018 年 7/10 ①, 7/11, 7/28, 8/7, 2023 年 7/7, 7/12, 7/13, 2024 年 5/29, 6/11, 6/12, 6/13, 6/14, 6/17, 6/19, 6/20, 7/17, 7/18, 7/19, 7/22, 7/24, 7/26
コクワガタ	2017 年 8/15, 2018 年 7/28, 8/6, 2023 年 6/13, 6/26, 7/12, 2024 年 5/2, 7/24, 7/26
スジクワガタ	2017 年 7/10, 2024 年 7/19
ヒラタクワガタ	2017 年 5/22, 2018 年 7/25
オオクワガタ	2017 年 8/15
ホタル科	
ヘイケボタル	2017 年 6/11, 2018 年 7/10
オバボタル	2017 年 8/15
ベニボタル科	
ベニボタル	2023 年 4/27, 5/10
カクムネベニボタル	2017 年 7/11
ジョウカイボン科	
クビボソジョウカイ	2024 年 5/11
アオジョウカイ	2017 年 6/16
キンイロジョウカイ	2023 年 5/12
セボシジョウカイ	2023 年 5/18
ジョウカイボン	2017 年 5/5 ①, 2018 年 6/10, 2023 年 6/7
ヒメジョウカイ	2017 年 7/1
マルムネジョウカイ	2023 年 4/21, 4/28
タマムシ科	
ウバタマムシ	2018 年 7/10, 2024 年 7/19
アオマダラタマムシ	2017 年 5/10, 5/18, 7/10, 2018 年 6/19, 2023 年 5/16
ヤマトタマムシ	2017 年 7/16, 9/21, 2018 年 7/10, 8/6, 2023 年 6/13, 7/13, 7/28, 7/31, 9/12, 9/26, 2024 年 7/19
オオムツボシタマムシ	2024 年 9/5
ムツボシタマムシ	2017 年 8/15
クズノチビタマムシ	2018 年 6/18
コメツキムシ科	
ウバタマコメツキ	2018 年 7/26
ヒゲコメツキ	2017 年 8/15, 2023 年 5/9, 5/16
サビキコリ	2017 年 8/15, 2023 年 5/12
ヒメサビキコリ	2017 年 8/15, 2018 年 7/25, 2023 年 5/10
フタモンウバタマコメツキ	2017 年 8/15
ニホンベニコメツキ	2017 年 8/15
オオナガコメツキ	2018 年 8/15
キバネホソコメツキ	2017 年 8/15
アカアシオオクシコメツキ	2017 年 8/18, 2018 年 7/10
テントウムシ科	
アミダテントウ	2023 年 9/6
アカホシテントウ	2017 年 10/27
ベニヘリテントウ	2018 年 5/11
ナナホシテントウ	2017 年 4/11, 4/12, 6/18, 8/27, 9/21, 10/11, 2018 年 3/20, 4/10 ①, 5/5, 7/26, 2023 年 3/24
ナミテントウ	2017 年 7/21, 8/15, 2018 年 4/10, 7/11, 7/25, 2023 年 3/24
キイロテントウ	2017 年 8/15, 10/11
ニジュウヤホシテントウ	2017 年 5/23 ①
ケシキスイ科	
マルキマダラケシキスイ	2017 年 9/21
ヨツボシケシキスイ	2023 年 5/30, 6/14, 7/7, 2024 年 5/9
オオキスイムシ科	
ヨツボシオオキスイ	2017 年 6/16, 7/7, 7/20, 7/27, 2023 年 6/14, 7/4, 7/7
ツチハンミョウ科	
ヒメツチハンミョウ	2017 年 11/10
キイロゲンセイ	2017 年 8/15, 8/21
ゴミムシダマシ科	
ナガニジゴミムシダマシ	2023 年 5/16
ユミアシゴミムシダマシ	2017 年 12/10, 12/11, 12/28, 2018 年 1/1, 6/10, 6/18, 7/25
オオニジゴミムシダマシ	2017 年 12/18 ②
キマワリ	2017 年 12/28, 2018 年 1/1, 2/2, 2023 年 7/7, 7/24
クロナガキマワリ	2023 年 7/24
クチキムシ	2017 年 12/28 ⑥, 2018 年 1/1
オオクチキムシ	2017 年 12/10
アカハネムシ科	
ムナビロアカハネムシ	2023 年 4/14
アカハネムシ	2024 年 4/12
カミキリムシ科	
ウスバカミキリ	2017 年 8/15, 9/15, 2018 年 7/10
ノコギリカミキリ	2023 年 6/17
クロカミキリ	2023 年 6/15
ミドリカミキリ	2017 年 5/10, 2018 年 6/18, 2023 年 5/10
エグリトラカミキリ	2023 年 5/16
ヨコヤマトラカミキリ	2024 年 4/23
ヨツスジトラカミキリ	2017 年 7/21
ナガゴマフカミキリ	2018 年 6/18

表 2．続き．

和名	確認日
カミキリムシ科	
ワモンサビカミキリ	2024 年 5/2
ゴマダラカミキリ	2017 年 6/19, 2018 年 6/18, 2023 年 7/28
クワカミキリ	2018 年 7/25, 2024 年 7/22
シロスジカミキリ	2017 年 8/10, 8/23
セミスジコブヒゲカミキリ	2023 年 6/26
ヒトオビアラゲカミキリ	2023 年 7/12
ラミーカミキリ	2017 年 6/10
シラホシカミキリ	2023 年 6/17
カミキリモドキ科	
アオカミキリモドキ	2017 年 8/15 ①
ハムシ科	
アカクビボソハムシ	2018 年 7/22
ヨツモンクロツツハムシ	2023 年 4/20
ムシクソハムシ	2017 年 4/11, 2018 年 6/1
アカガネサルハムシ	2023 年 4/20
ヤナギルリハムシ	2018 年 6/18
コガタルリハムシ	2018 年 7/11 ④
ヨモギハムシ	2017 年 5/16
ヤナギハムシ	2023 年 4/11
エノキハムシ	2017 年 7/21, 9/9
サンゴジュハムシ	2018 年 6/10
クロウリハムシ	2017 年 6/19, 2023 年 4/17, 9/6, 9/26
イタドリハムシ	2017 年 7/10, 9/18, 2018 年 6/18
ルリマルノミハムシ	2023 年 4/10
Aspidomorpha sp.	2018 年 5/22
Cassida sp.	2018 年 7/1
ゾウムシ科	
カキゾウムシ	2018 年 5/10, 6/10
コフキゾウムシ	2023 年 5/9
カツオゾウムシ	2017 年 7/6
オジロアシナガゾウムシ	2017 年 5/30, 2023 年 9/26, 2024 年 4/16
ホホジロアシナガゾウムシ	2023 年 4/27
マツアナアキゾウムシ	2017 年 6/10
クスアナアキゾウムシ	2024 年 4/16
マダラアシゾウムシ	2017 年 6/19, 7/21, 7/22, 2018 年 7/10
オトシブミ科	
イタヤハマキチョッキリ	2018 年 4/29
ハイイロチョッキリ	2017 年 5/10, 5/11
ヒメクロオトシブミ	2023 年 8/1
アシナガオトシブミ	2023 年 5/16
ヒゲナガゾウムシ科	
ナガフトヒゲナガゾウムシ	2023 年 5/10
カツオブシムシ科	
ヒメマルカツオブシムシ	2018 年 6/11
ナガハナノミ科	
Paralichas sp.	2018 年 8/6

表 3．西宮市鷲林寺町の兵庫県立甲山高校で確認されたトンボ．

和名	確認日
イトトンボ科	
アジアイトトンボ	2017 年 9/22 ①, 11/7
アオイトトンボ科	
オオアオイトトンボ	2017 年 8/25, 9/16, 9/22, 10/10
カワトンボ科	
ハグロトンボ	2017 年 7/1, 2018 年 7/10
アサヒナカワトンボ	2023 年 5/1
サナエトンボ科	
アオサナエ	2017 年 6/18
オグマサナエ	2017 年 5/21, 5/22
オジロサナエ	2023 年 7/7
オニヤンマ科	
オニヤンマ	2017 年 7/1 ①, 8/10, 9/22 ①, 10/12, 2018 年 7/27, 2023 年 7/4, 7/7, 9/1, 9/6, 9/14, 9/27, 2024 年 7/18, 9/3, 9/5
ヤンマ科	
ミルンヤンマ	2017 年 8/10, 2018 年 7/19, 2023 年 9/5, 2024 年 9/3
カトリヤンマ	2017 年 11/20
ヤブヤンマ	2018 年 6/18
ルリボシヤンマ	2017 年 9/27
オオルリボシヤンマ	2017 年 9/27, 9/29 ①
ギンヤンマ	2017 年 5/20, 6/21, 2023 年 5/10
クロスジギンヤンマ	2017 年 5/20
エゾトンボ科	
タカネトンボ	2023 年 9/14
トンボ科	
シオカラトンボ	2017 年 7/22 ①, 8/10, 9/22, 2018 年 6/6, 7/25, 2023 年 9/1
オオシオカラトンボ	2018 年 5/22, 2023 年 7/4, 9/1, 9/19
アキアカネ	2017 年 7/21
マユタテアカネ	2017 年 9/20, 10/11, 2023 年 9/5, 2024 年 7/19
ミヤマアカネ	2017 年 7/21, 9/20, 10/10, 10/17, 2023 年 9/1, 9/5
ナツアカネ	2017 年 9/18
リスアカネ	2018 年 7/19
コシアキトンボ	2017 年 5/22, 6/6, 7/18, 7/21, 9/22, 2018 年 5/10, 5/11, 6/18, 7/10, 7/25 ④, 2023 年 7/4
チョウトンボ	2018 年 7/10, 2023 年 9/1
ウスバキトンボ	"2017 年 7/22 ①, 10/11, 2018 年 6/18, 2023 年 4/20, 9/1, 9/7, 9/29, 2024 年 7/18, 9/5

表 4．西宮市鷲林寺町の兵庫県立甲山高校で確認されたガ．

和名	確認日
ツトガ科	
マメノメイガ	2017 年 11/10
ヨツボシノメイガ	2017 年 8/15
キベリハネボソノメイガ	2017 年 5/10
マエアカスカシノメイガ	2017 年 8/15, 2023 年 4/28
オオキノメイガ	2017 年 8/15
マダラガ科	
ミノウスバ	2017 年 11/21, 11/22, 12/5
ハマキガ科	
チャハマキ	2023 年 5/10
ヘリオビヒメハマキ	2017 年 11/10, 11/14
シャクガ科	
Abraxas sp.	2017 年 8/9, 2018 年 6/11
ゴマダラシロエダシャク	2017 年 8/15
オオゴマダラエダシャク	2017 年 8/15
ウスキツバメエダシャク	2017 年 8/15, 2023 年 9/22
ヒトツメオオシロヒメシャク	2017 年 8/15
カギバアオシャク	2017 年 8/15
マエキトビエダシャク	2017 年 8/15
オオマエキトビエダシャク	2018 年 6/20
アカモンコナミシャク	2017 年 8/15
フトジマナミシャク	2017 年 7/11
ソトシロオビエダシャク	2023 年 4/10
ヨモギエダシャク	2017 年 8/15
ハスオビエダシャク	2018 年 4/22, 2023 年 4/12

和名	確認日
シャクガ科	
エグリヅマエダシャク	2023 年 4/17
オオバナミガタエダシャク	2023 年 5/24
シモフリトゲエダシャク	2024 年 3/4
キイロミミモンエダシャク	2017 年 7/21
シロシタトビイロナミシャク	2023 年 4/28
アゲハモドキガ科	
アゲハモドキ	2023 年 5/26
キンモンガ	2023 年 5/11, 9/5, 9/8
イボタガ科	
イボタガ	2019 年 5/13
オビガ科	
オビガ	2023 年 7/4
ヤママユガ科	
クスサン	2017 年 8/21, 10/11, 11/10
ヤママユ	2017 年 7/21, 8/9, 8/15, 8/21, 8/22, 9/3, 9/10, 9/21
シンジュサン	2017 年 6/30, 7/10, 8/13, 8/14, 8/15, 2018 年 6/10, 6/28
ウスタビガ	2017 年 11/10, 11/15, 11/16, 11/17
オオミズアオ	2017 年 4/22, 5/22, 8/15, 2018 年 4/21, 7/25, 8/6
オナガミズアオ	2018 年 4/21 ①, 8/6
エゾヨツメ	2018 年 4/21
スズメガ科	
オオスカシバ	2017 年 5/18, 2018 年 7/1, 2023 年 9/29
ホシホウジャク	2023 年 7/31(幼 虫), 9/1, 9/5, 9/6, 9/7, 9/8, 9/22, 9/25, 9/26, 10/3

表 4．続き．

和名	確認日
スズメガ科	
ホシヒメホウジャク	2017 年 8/15, 2023 年 9/19, 9/29
ヒメクロホウジャク	2017 年 8/15
エビガラスズメ	2017 年 8/15, 2018 年 5/30
モモスズメ	2017 年 8/15
クチバスズメ	2017 年 8/15
クルマスズメ	2017 年 8/15
コスズメ	2017 年 8/15
セスジスズメ	2017 年 8/15, 8/21, 2018 年 4/19, 2023 年 6/15
キイロスズメ	2017 年 8/15
ホソバスズメ	2017 年 8/15
ベニスズメ	2017 年 8/15
ウンモンスズメ	2017 年 8/15, 2023 年 4/21
サザナミスズメ	2017 年 8/15
エゾスズメ	2017 年 8/15
エゾシモフリスズメ	2017 年 8/15
ハネナガブドウスズメ	2017 年 8/15, 2018 年 7/25
ウチスズメ	2023 年 9/22
シャチホコガ科	
ギンモンスズメモドキ	2017 年 8/15
シャチホコガ	2023 年 5/11
バイバラシロシャチホコ	2023 年 4/10
タカサゴツマキシャチホコ	2017 年 8/15
モンクロシャチホコ	2017 年 8/15, 2018 年 7/11
ハガタエグリシャチホコ	2017 年 8/25
ホソバシャチホコ	2017 年 8/25
セダカシャチホコ	2017 年 8/25
カレハガ科	
ヨシカレハ	2024 年 9/5
クヌギカレハ	2017 年 8/15
ドクガ科	
リンゴドクガ	2017 年 9/25, 2018 年 8/6(幼虫) ④
アカヒゲドクガ	2023 年 4/18
マイマイガ	2017 年 8/15
カシワマイマイ	2017 年 6/11, 7/10, 8/9, 8/15, 8/21 ①
チャドクガ	2018 年 6/18, 2023 年 4/21
ヒトリガ科	
ヨツボシホソバ	2017 年 8/15
スジベニコケガ	2023 年 5/22
スジモンヒトリ	2017 年 8/15
シロヒトリ	2017 年 8/15
クロフシロヒトリ	2023 年 5/16
カノコガ	2017 年 6/1, 6/19, 2018 年 5/21, 6/9, 6/18, 6/21, 6/22, 7/20, 2023 年 9/12
ヤガ科	
アケビコノハ	2017 年 7/19, 8/9, 2023 年 7/18(幼虫), 2024 年 7/26
ムクゲコノハ	2017 年 8/15
オスグロトモエ	2017 年 8/15
オオトモエ	2018 年 4/21, 4/23, 7/25
オニベニシタバ	2017 年 8/15
シロシタバ	2017 年 8/15
キシタバ	2017 年 6/10, 8/15
ワモンキシタバ	2017 年 8/15
ジョナスキシタバ	2017 年 8/15
マメキシタバ	2017 年 8/15
コシロシタバ	2017 年 8/10, 8/15
ウンモンクチバ	2017 年 8/15
ニセウンモンクチバ	2023 年 5/19
オオアカマエアツバ	2023 年 4/6
ウスキミスジアツバ	2017 年 8/15
ハナオイアツバ	2024 年 7/18
キクキンウワバ	2017 年 8/15
アカエグリバ	2017 年 8/15
キクビゴマケンモン	2017 年 8/15
フクラスズメ	2017 年 4/10, 8/15, 12/11, 2018 年 3/17, 3/19
オオシマカラスヨトウ	2023 年 5/9(幼虫)
コウモリガ科	
コウモリガ	2018 年 6/10 ⑦
コブガ科	
ハネモンリンガ	2017 年 8/15
キノカワガ	2023 年 3/24
シンジュキノカワガ	2024 年 9/27

表 5．西宮市鷲林寺町の兵庫県立甲山高校で確認されたハチ．

和名	確認日
ミフシハバチ科	
ルリチュウレンジ	2017 年 4/24, 4/25, 5/1, 5/22
ハバチ科	
ニホンカブラハバチ	2023 年 5/1
コブシハバチ	2018 年 4/25, 4/30
カエデヒゲナガハバチ	2017 年 4/24
クロハバチ	2017 年 4/10, 2018 年 4/16
コマユバチ科	
ウマノオバチ	2023 年 8/1
ヒメバチ科	
オオホシオナガバチ	2023 年 5/31
コンボウアメバチ	2023 年 4/20, 9/7
マダラヒメバチ	2017 年 11/1
セイボウ科	
オオセイボウ	2018 年 10/26
アリ科	
オオハリアリ	2023 年 4/28
アシナガアリ	2023 年 4/14
クロナガアリ	2023 年 4/20
トビイロシワアリ	2023 年 5/1, 7/5
アミメアリ	2018 年 6/18, 2023 年 4/20, 5/26
ハリブトシリアゲアリ	2023 年 4/11
キイロシリアゲアリ	2017 年 8/10, 2023 年 9/13
ルリアリ	2023 年 4/25
アメイロアリ	2023 年 4/14, 7/4, 7/11
サクラアリ	2023 年 4/20
トビイロケアリ	2023 年 4/24, 6/14, 6/15, 6/17, 6/26, 6/27, 6/30, 7/3, 7/5, 7/7, 7/11, 7/12, 7/14, 7/18, 7/24, 7/25, 2024 年 7/17, 7/18
アメイロケアリ	2023 年 7/14, 2024 年 7/23
クロクサアリ	2023 年 7/3, 7/4, 7/7, 7/11, 7/13, 7/14
クロヤマアリ	2023 年 3/29, 5/22, 5/24, 5/29, 5/30, 5/31, 6/1, 6/3, 6/5, 6/7
クロオオアリ	2017 年 6/13, 7/13, 2018 年 6/18, 10/10, 2023 年 4/14, 5/9, 5/10
ムネアカオオアリ	2023 年 5/16
ミカドオオアリ	2023 年 6/5
ヨツボシオオアリ	2024 年 5/11
ドロバチ科	
エントツドロバチ	2023 年 5/31, 2024 年 7/26
オオフタオビドロバチ	2018 年 6/18, 7/10, 2023 年 9/4, 2024 年 7/31
キボシトックリバチ	2017 年 11/10
キアシトックリバチ	2023 年 9/7
スズバチ	2017 年 9/28 ① , 11/1, 2018 年 10/29, 2023 年 9/4, 9/8, 9/28
スズメバチ科	
オオスズメバチ	2017 年 4/17, 11/1, 2018 年 3/28, 4/13, 7/10, 7/25, 2023 年 4/14, 5/25, 7/4, 9/14, 9/26, 9/29, 10/3, 2024 年 4/16
コガタスズメバチ	2017 年 6/16, 2018 年 6/18, 7/10, 2023 年 4/20, 6/7, 7/4, 9/7, 9/19, 9/20, 9/21, 9/22, 9/26, 9/27, 9/28, 2024 年 3/29, 7/26, 9/5
モンスズメバチ	2017 年 5/10, 2018 年 7/10, 2023 年 9/5, 9/12, 9/14
ヒメスズメバチ	2017 年 5/8, 7/20, 2018 年 5/16, 7/28, 7/29, 2023 年 6/7, 6/30, 9/4, 9/5, 9/7, 9/8, 9/13, 9/19, 9/20, 9/28, 2024 年 4/12
チャイロスズメバチ	2018 年 7/29, 2023 年 6/1, 7/7
キイロスズメバチ	2017 年 9/22, 2018 年 4/11, 5/2, 2023 年 5/9, 9/4, 9/7, 9/8, 9/11, 9/13, 9/14, 9/19, 9/20, 9/21, 9/22, 9/26, 9/27, 9/28, 10/3, 10/13, 2024 年 4/12, 9/3
クロスズメバチ	2017 年 4/22, 10/17
セグロアシナガバチ	2017 年 4/22, 5/24, 6/1, 7/23, 2018 年 5/22, 2023 年 9/1, 9/7
キアシナガバチ	2017 年 4/17, 2018 年 6/19, 2023 年 5/1
ヤマトアシナガバチ	2017 年 7/7
フタモンアシナガバチ	2017 年 4/13, 7/17, 9/25, 2018 年 6/25
キボシアシナガバチ	2017 年 5/5
コアシナガバチ	2023 年 5/1
ムモンホソアシナガバチ	2017 年 5/19, 2023 年 4/20, 9/7, 9/27
クモバチ科	
ベッコウクモバチ	2023 年 7/4
ツチバチ科	
キオビツチバチ	2017 年 6/16, 7/4, 2023 年 6/27, 9/22, 2024 年 7/18
キンケハラナガツチバチ	2023 年 10/13
ヒメハラナガツチバチ	2023 年 9/22
アナバチ科	
アメリカジガバチ	2017 年 5/17
サトジガバチ	2023 年 5/16, 9/8
ミカドジガバチ	2017 年 6/1, 2018 年 7/10
クロアナバチ	2018 年 7/24
ギングチバチ科	
シロスジギングチバチ	2023 年 5/16

表 5．続き．

和名	確認日
ミツバチ科	
ニホンミツバチ	2023 年 4/20, 9/7, 9/8, 9/19, 9/27, 10/4
セイヨウミツバチ	2019 年 3/1, 2023 年 6/5, 6/17, 7/31
ニッポンヒゲナガハナバチ	2023 年 4/12
キムネクマバチ	2017 年 5/15, 5/31, 2018 年 5/23, 2023 年 4/11, 4/20, 9/6, 9/8, 9/25, 9/26, 9/29, 2024 年 4/11, 4/12, 4/16, 4/17
タイワンタケクマバチ	2023 年 4/20, 9/1, 9/4, 9/5, 9/7, 9/14, 9/15, 9/22, 9/25, 9/26, 2024 年 4/11, 4/16, 4/17
コマルハナバチ	2023 年 4/28, 5/11, 5/25, 5/30, 2024 年 4/11, 4/16
トラマルハナバチ	2023 年 9/8
オオマルハナバチ	2023 年 5/8
ケブカコシブトハナバチ	2023 年 4/11
ハキリバチ科	
トモンハナバチ	2018 年 7/11
ツルガハキリバチ	2023 年 4/20
コンボウヤセバチ科	
オオコンボウヤセバチ	2023 年 6/14

表 6．西宮市鷲林寺町の兵庫県立甲山高校で確認されたハエ．

和名	確認日
ガガンボ科	
マダラガガンボ近縁種	2023 年 4/12
ミカドガガンボ	2023 年 9/6
クロキリウジガガンボ	2017 年 8/15
カ科	
ヒトスジシマカ	2017 年 7/15
アカイエカ	2023 年 9/6
オオクロヤブカ	2023 年 9/14, 9/27
ヤマトヤブカ	2023 年 5/10
ユスリカ科	
セスジユスリカ	2023 年 4/28
アカムシユスリカ	2023 年 5/12
ケバエ科	
ハグロケバエ	2023 年 3/24
アブ科	
アカウシアブ	2023 年 7/18
ウシアブ	2018 年 6/18, 2023 年 7/4, 9/7, 2024 年 7/19, 7/24, 9/3
ミズアブ科	
アメリカミズアブ	2023 年 6/13, 9/5
ツリアブ科	
コウヤツリアブ	2024 年 7/24
ビロウドツリアブ	2023 年 3/29
ニトベハラボソツリアブ	2024 年 7/19
ムシヒキアブ科	
シオヤアブ	2023 年 7/12, 2024 年 7/24
マガリケムシヒキ	2023 年 9/1, 9/6
ハナアブ科	
ナミハナアブ	2023 年 9/29
ホソヒラタアブ	2024 年 7/26
ナミホシヒラタアブ	2023 年 9/8, 9/29
クロヒラタアブ	2023 年 3/29
ナガヒラタアブ	2023 年 7/13
ルリボシヒラアシヒラタアブ	2023 年 10/16
オオハナアブ	2017 年 10/10, 2023 年 9/29, 10/3, 10/13, 2024 年 9/27
アシブトハナアブ	2017 年 4/10, 2023 年 4/10
ミバエ科	
ミスジミバエ	2023 年 5/1
イエバエ科	
イエバエ	2023 年 4/28
クロバエ科	
ツマグロキンバエ	2023 年 9/11, 9/14, 9/19, 9/21, 9/26, 10/2, 10/3
ニクバエ科	
センチニクバエ	2023 年 4/28, 9/25
ショウジョウバエ科	
キイロショウジョウバエ	2023 年 6/20, 7/7
フンバエ科	
ヒメフンバエ	2023 年 5/11
ベッコウバエ科	
ベッコウバエ	2023 年 6/14, 7/7

表 7．西宮市鷲林寺町の兵庫県立甲山高校で確認されたバッタ．

和名	確認日
バッタ科	
トノサマバッタ	2017 年 9/14
ツチイナゴ	2023 年 4/18, 9/19(幼虫), 9/27, 9/28, 2024 年 3/29
クルマバッタ	2017 年 9/14 ① , 2018 年 7/10
クルマバッタモドキ	2023 年 9/5
ヒナバッタ	2023 年 4/27(幼虫)
マダラバッタ	2023 年 9/28
イボバッタ	2023 年 9/25
ショウリョウバッタ	2023 年 9/5, 9/7, 9/8, 9/12, 9/19, 9/28, 9/29, 10/3
コバネイナゴ	2017 年 9/14
オンブバッタ科	
オンブバッタ	2017 年 9/14, 2023 年 9/1, 9/5, 9/7
アカハネオンブバッタ	2023 年 9/28
コオロギ科	
エンマコオロギ	2017 年 9/14, 2024 年 9/4
ツヅレサセコオロギ	2017 年 9/14, 2023 年 9/4(幼虫)
ヒバリモドキ科	
マダラスズ	2023 年 9/28
マツムシ科	
アオマツムシ	2023 年 9/19, 10/3
カネタタキ科	
カネタタキ	2018 年 9/25, 2023 年 9/6
コロギス科	
コロギス	2018 年 6/18, 2023 年 7/7, 7/12
カマドウマ科	
カマドウマ	2023 年 5/1(幼虫)
キリギリス科	
キリギリス	2023 年 4/18(幼虫)
クビキリギス	2017 年 8/15
ヤブキリ	2023 年 4/25(幼虫)
クサキリ	2017 年 9/14
ホシササキリ	2023 年 9/1, 9/22, 2024 年 9/5
ウスイロササキリ	2023 年 9/28
オナガササキリ	2023 年 9/4(幼虫), 9/5
ササキリ	2023 年 9/6, 9/12
ツユムシ科	
セスジツユムシ	2017 年 9/14
ホソクビツユムシ	2024 年 7/26
ヒメクダマキモドキ	2023 年 9/19(幼虫), 9/26
サトクダマキモドキ	2018 年 7/28
ヤマクダマキモドキ	2023 年 9/19

表 8. 西宮市鷲林寺町の兵庫県立甲山高校で確認されたカメムシ.

和名	確認日
アオバハゴロモ科	
アオバハゴロモ	2017 年 9/23, 9/26, 2023 年 7/24, 7/31, 9/6, 9/22, 2024 年 7/18, 7/24, 7/26
ヨコバイ科	
ツマグロオオヨコバイ	2023 年 9/12, 9/19
ツマグロヨコバイ	2023 年 4/24
マルウンカ科	
マルウンカ	2023 年 5/25
ハゴロモ科	
ベッコウハゴロモ	2023 年 7/7
テングスケバ科	
テングスケバ	2023 年 9/8, 2024 年 7/18
アワフキムシ科	
ハマベアワフキ	2023 年 5/30
モンキアワフキ	2024 年 10/17
トゲアワフキムシ科	
ムネアカアワフキ	2023 年 4/21
セミ科	
クマゼミ	2017 年 7/17, 7/20
アブラゼミ	2017 年 7/17, 2023 年 7/12, 9/1, 9/4, 9/5, 9/20, 2024 年 7/19, 7/24, 7/26, 7/29
ニイニイゼミ	2017 年 7/18, 2024 年 7/19, 7/23, 7/24, 7/26, 7/29, 7/31
ミンミンゼミ	2017 年 8/23 ①, 9/1, 2024 年 9/3
ツクツクボウシ	2017 年 8/15, 2023 年 8/1, 9/4, 2024 年 9/3
ヒグラシ	2017 年 6/26, 2023 年 7/4, 7/6, 7/12, 2024 年 7/19, 7/23, 7/26
アブラムシ科	
ソラマメヒゲナガアブラムシ	2023 年 5/10
エノキワタアブラムシ	2023 年 7/31
アメンボ科	
アメンボ	2017 年 9/23, 2023 年 4/12, 4/28
オオアメンボ	2023 年 4/27
マツモムシ科	
マツモムシ	2023 年 5/10
タイコウチ科	
タイコウチ	2017 年 4/10
カスミカメムシ科	
クヌギトビカスミカメ	2018 年 7/28
サシガメ科	
ヤニサシガメ	2017 年 7/1
ヨコヅナサシガメ	2018 年 4/11, 2023 年 5/16
アカシマサシガメ	2017 年 11/11, 2023 年 5/3
オオトビサシガメ	2017 年 11/10, 2023 年 4/13, 2024 年 4/16
マキバサシガメ科	
アシブトマキバサシガメ	2023 年 4/20
ヒョウタンナガカメムシ科	
オオモンシロナガカメムシ	2023 年 9/28
オオホシカメムシ科	
オオホシカメムシ	2023 年 4/27
イトカメムシ科	
イトカメムシ	2023 年 4/13
ヘリカメムシ科	
ホシハラビロヘリカメムシ	2023 年 5/9, 9/7
オオクモヘリカメムシ	2023 年 9/25
キバラヘリカメムシ	2024 年 10/30
ホソハリカメムシ	2023 年 5/10, 9/6
オオツマキヘリカメムシ	2023 年 5/10
マツヘリカメムシ	2023 年 4/12, 4/16
ホソヘリカメムシ科	
クモヘリカメムシ	2017 年 11/10
ホソヘリカメムシ	2017 年 11/10, 2018 年 6/19, 2023 年 4/28, 9/1, 2024 年 7/19
ツチカメムシ科	
ツチカメムシ	2023 年 5/16
ヨコヅナツチカメムシ	2018 年 7/26
キンカメムシ科	
アカスジキンカメムシ	2017 年 10/27
オオキンカメムシ	2017 年 10/10
カメムシ科	
チャバネアオカメムシ	2017 年 11/10 ①, 2023 年 9/8, 10/16, 2024 年 4/12
ムラサキシラホシカメムシ	2023 年 5/9
クサギカメムシ	2017 年 11/10 ①, 2023 年 3/10, 4/12, 2024 年 4/16
ツヤアオカメムシ	2017 年 11/10 ①, 2023 年 9/22
ウシカメムシ	2023 年 9/6
マルカメムシ科	
マルカメムシ	2023 年 4/11
ツノカメムシ科	
エサキモンキツノカメムシ	2017 年 11/18, 2018 年 7/27
モンキツノカメムシ	2024 年 10/17

表 9. 西宮市鷲林寺町の兵庫県立甲山高校で確認されたその他の昆虫.

和名	確認日
ゴキブリ目	
ゴキブリ科	
クロゴキブリ	2017 年 9/20
チャバネゴキブリ科	
チャバネゴキブリ	2017 年 4/20
モリチャバネゴキブリ	2017 年 4/21, 6/18, 9/10, 12/9, 2018 年 6/18, 7/25
ミヅガシラシロアリ科	
ヤマトシロアリ	2017 年 11/20, 2018 年 1/21, 2023 年 5/10
カマキリ目	
カマキリ科	
オオカマキリ	2017 年 8/18, 9/20, 10/10, 2023 年 7/6(幼 虫), 9/22, 9/25, 10/4, 2024 年 7/18(幼虫), 7/19(幼虫)
チョウセンカマキリ	2017 年 8/9, 8/22 ①, 9/20, 10/22 ①
ハラビロカマキリ	2018 年 7/10(幼 虫), 2023 年 9/4(幼 虫), 9/22, 10/13, 10/14, 2024 年 9/30
ヒナカマキリ	2017 年 9/24 ①, 2023 年 9/28, 2024 年 9/26
コカマキリ	2017 年 9/20, 10/11
ナナフシ目	
ナナフシ科	
ナナフシモドキ	2017 年 7/10, 2023 年 4/20(幼虫), 9/1
トゲナナフシ	2017 年 11/10 ①, 2018 年 9/13
ハサミムシ目	
ハサミムシ科	
ヒゲジロハサミムシ	2017 年 8/10, 9/19, 9/23, 2018 年 1/21, 6/10
キアシハサミムシ	2017 年 6/20
カゲロウ目	
モンカゲロウ科	
モンカゲロウ	2023 年 5/12
カワゲラ目	
カワゲラ科	
オオヤマカワゲラ	2023 年 5/10
フタツメカワゲラ	2023 年 5/10
アミメカゲロウ目	
ウスバカゲロウ科	
ウスバカゲロウ	2023 年 9/7, 9/27, 2024 年 7/18
ホシウスバカゲロウ	2017 年 8/15
クサカゲロウ科	
ヨツボシクサカゲロウ	2017 年 8/15, 2018 年 7/29
シリアゲムシ目	
シリアゲムシ科	
ヤマトシリアゲ	2023 年 5/9
キアシシリアゲ	2023 年 5/9
ホソマダラシリアゲ	2024 年 4/30
ネジレバネ目	
ハチネジレバネ科	
スズメバチネジレバネ	2017 年 10/20(キイロスズメバチに寄生)
チャタテムシ目	
チャタテムシ科	
オオチャタテ	2023 年 3/17

2021 年～ 2025 年に西播磨地域で確認した兵庫県初記録及び県内で記録の少ない蛾類について

髙橋弘樹[1)]

はじめに

2024 年 10 月，宇野宏樹・池田 大・阪上洸多の三氏により「兵庫県産蛾類分布記録データベース」（宇野ほか，2024）（以下データベースと記載）が NPO 法人こどもとむしの会 HP において公開され，兵庫県における蛾類各種の報告状況や根拠資料の通覧が可能となった．さらに宇野宏樹氏によって「兵庫県産蛾類の概観について」（宇野，2024）が本誌 47(2) で発表されたことにより，各種の分布や調査状況等の理解とその共有化がさらに深められただけでなく，筆者のようにこれらによって示された各種の「分布の空白」を埋めたいという意欲を高められた方も多いのではないだろうか．

本稿では筆者が 2021 年から 2025 年 5 月までに兵庫県の西播磨地域（相生市，たつの市，赤穂市，宍粟市，太子町，上郡町，佐用町）において採集・撮影した蛾類のうち，データベースに記載がなく，兵庫県内において初記録とみられる種，記録の少ない種，記録された地点は少なくないものの発見地の近隣で未記録の種について報告する．なお，採集・撮影者は特記したものを除き全て筆者であるため記載を省略する．また，兵庫県内の記録については特記の無い限りデータベースにより，その情報は 2025 年 4 月 30 日時点のものである．県内に記録はあるが播磨地域全域で初記録の種には○を，西播磨地域で初記録の種には☆を種名の右に付した．

各種資料

兵庫県において初記録とみられる種

マダラガ科

1．ヤホシホソマダラ *Balataea octomaculata* 図 1

1 ♀，佐用町船越，26．Ⅵ．2021．：10exs. 以上，宍粟市一宮町東公文 ろくろしの森キャンプ場，4．Ⅸ．2021．

前翅は暗褐色，黄色斑はキスジホソマダラに比べ短く明瞭．年 1 ～ 2 化で成虫は 6・8 月に出現．生息地は明るい草原で，本州では特に湿地を好む．寄主植物はササ，タケ，ヌマガヤ（広渡ほか，2013）．佐用町での記録は佐用町昆虫館来館者の少年が瑠璃寺仁王門横の広場で発見し，当日の一日館長として採集に付き添っていた筆者が貰い受けたものである．その顛末は当日の昆虫館公式ブログに記載しているが，宇野 (2024) の勧めにより本稿で改めて報告する．採集地の広場は砂利敷きで周囲にはササが生えており，隣接する高台は現在鹿柵を設置して植物を保護しているが，当時は小規模な湿地が存在する荒れ地だった．宍粟市での記録はキャンプ場周辺の沢や湿地に囲まれた明るく背の低い草むらのもので，草を踏み分けると何頭もの本種が驚いて飛び出してきた．

ヒラタマルハキバガ科

2．デコボコマルハキバガ *Depressaria irregularis* 図 2

1ex.，上郡町光都，24．Ⅸ．2021．：1ex.，宍粟市波賀町鹿伏，24．Ⅲ．2023．：1ex.，同地，19．Ⅳ．2025．

ライトトラップに飛来した．マエジロヒラタマルハキバガに似るが，一回り大きく，胸部背面，および前縁基部の Sc 脈より前縁部では前翅の他の部分よりやや橙褐色を帯びるが，白色や淡褐色になることはない．また，基部 1/10 に黒色の横帯は現れない（那須ほか，2013）ことで識別できる．

ハマキガ科

3．ツマボシホソハマキ *Eupoecilia ingens* 図 3

1ex.，上郡町金出地，22．Ⅴ．2024．

渓谷沿いに設置したライトトラップに飛来した．国内分布は本州～九州で寄主植物は不明 (那須ほか，2023)．本種は 2022 年に鈴木信也氏と神保宇嗣氏によって国内で初記録された種で，鈴木信也氏に同定していただいた．鈴木氏が管理者の一人となっているウェブサイト「JP みくろもす (仮)」では，経験則によるとの断りの上での沖縄島より北にのみ通用する近似種との識別点として，前翅前縁の先端部に明瞭な黒点が存在すること，前翅中央の帯は中央付近で曲がることはあるがブドウホソハマキのように後縁にかけて狭まることはないこと，前翅の地色がブドウホソハマキ，アカオビホソハマキより淡く薄い色であることが挙げられている．

メイガ科

4．ミドリネグロフトメイガ *Stericta flavopuncta* 図 4

1 ♂ 1 ♀，宍粟市一宮町東公文 ろくろしの森キャンプ場，4-5．Ⅸ．2021．：1 ♂ 1 ♀，たつの市新宮町光都，20．Ⅸ．

1) Hiroki TAKAHASHI　兵庫県相生市

2021.：1 ♀，上郡町金出地，2. Ⅸ. 2022.
全てライトトラップに飛来した．北海道，本州，対馬に分布．ネグロフトメイガと酷似するが前翅外側の黒褐色帯は狭く，淡色なので，外横線はより明瞭であること，外横線の淡黄色帯による縁取りがやや明瞭（那須ほか，2013）なことなどで区別される．

シャクガ科

5. シロシモフリエダシャク *Biston melacron* 図 5

2 ♂，上郡町金出地，30. Ⅲ. 2024.：1 ♂，同地，16. Ⅳ. 2025.
渓谷沿いに設置したライトトラップに飛来した．岸田 (2011a) によると年 1 化で 4 ～ 5 月に出現し．国内分布は本州（広島県，島根県），四国（高知県），九州，対馬となっている．本種を含む春の蛾のいくつかは NPO 法人こどもとむしの会の「みんなでつなぐ初蝶リレー」に情報提供しており，久保 (2024) などで既に発表されているものもあるが，本稿で改めて報告する．

6. キモンカバナミシャク *Eupithecia flavoapicaria* 図 6

1 ♀，相生市矢野町瓜生 羅漢の里，31. Ⅰ. 2024.：1 ♀，相生市相生，2. Ⅰ. 2025.
羅漢の里では外灯，相生ではウバメガシ林で糖蜜に飛来していたものを採集した．アキカバナミシャクと似るが，本種は前翅前縁の黄色班が顕著なため野外でも同定は可能（小西・葉山，2020）．また，前翅後角付近の亜外縁帯内側の暗色班が目立つ（岸田，2011a）．同書に「これまでに記録された産地は福岡県大牟田市と宮崎県の 2 か所だけで，12 ～ 1 月にわずかな個体が採れているだけ」とあるが近年記録が増えており，2020 年には奈良市で 9 個体が採集されている（小西・葉山，2020）ほか，山口県，広島県，徳島県，大阪府などで撮影された画像がウェブ上で公開されている．

ヒトリガ科

7. クロバネヒトリ *Lemyra infernalis* 図 7

1 ♂，宍粟市波賀町安賀，2. Ⅶ. 2022.
♂の体と翅は黒色で無紋，腹部は赤色．♀の翅は灰黄色で，帯状の斑紋があるが個体変異が著しく，この斑紋が消失した個体もある（岸田，2011b）．同書によると年 1 化で 7 ～ 8 月に出現し，山地で得られるが少ない．夜遅く灯火に飛来するとのことである．採集場所はコンビニで，外灯に照らされた壁面に静止していた．筆者が立ち寄ったのはライトトラップの帰途で，時刻は午前 1 時前だったと記憶している．


図 1. ヤホシホソマダラ，佐用町，2021/6/26.


図 2. デコボコマルハキバガ，宍粟市，2023/3/24.


図 3. ツマボシホソハマキ，上郡町，2024/5/22.


図 4. ミドリネグロフトメイガ，上郡町，2022/9/2.


図 5. シロシモフリエダシャク，上郡町，2024/3/30.


図 6. キモンカバナミシャク♀と交尾器，相生市，2025/1/2.


図 7. クロバネヒトリ，宍粟市，2022/7/2.


図 8. シタジロコブガ，上郡町，2022/11/12.


図 9. カバイロウスキヨトウ，上郡町，2025/4/30.

コブガ科

8. シタジロコブガ *Nola infralba* 図 8

1ex.，上郡町金出地，12．XI．2022.

渓谷沿いに設置したライトトラップに飛来した．内横線はCuA2 脈付近で鋭く屈曲し，屈曲点と外横線間は黒条で連結する．成虫は本州では 5 ～ 6 月と 9 ～ 10 月に出現．本州（千葉県以西），伊豆諸島，小笠原諸島，四国，南西諸島に分布し（岸田，2011b），本県の近隣では大阪府大東市と四条畷市で撮影された画像がウェブサイト「北河内昆虫記」に多数掲載されている．

ヤガ科

9. カバイロウスキヨトウ *Sesamia confusa* 図 9

1 ♂．上郡町山野里，30．Ⅳ．2025.

ため池の傍の，ススキが点在する背の低い草むらに設置したライトトラップに飛来した．頭部および頸板は黒褐色となり，他種と区別できる．寄主植物はススキ（岸田，2011b）．高島（2002）は，「草原性の種であり，湿地との結びつきは弱い．年 1 回春に出現する．兵庫県での記録はないが，中央山地周辺の草原地帯に分布しているかもしれない．」と述べているが，標高 80m 程度の丘陵が採集地となった．

兵庫県で記録の少ない種及び発見地の近隣で未記録の種

コウモリガ科

10. キマダラコウモリ *Endoclita sinensis* ○ 図 10

1ex.，上郡町金出地，12．Ⅵ．2021.：1ex.，同地，13．Ⅶ．2021.

ライトトラップに飛来した．飛来時刻は 2 例とも 19 時台だった．データベースでの記録は兵庫県南部・神戸市・川西市・宝塚市・丹波市・豊岡市・養父市・淡路市・南あわじ市となっている．

ヒラタマルハキバガ科

11. アケボノマルハキバガ *Agonopterix laterella* 図 11

1ex.，相生市矢野町瓜生 羅漢の里，4．XII．2024.：1ex.，相生市那波野 岩屋谷公園，1．Ⅲ．2025.

羅漢の里では外灯，岩屋谷ではライトトラップに飛来した．兵庫県内の記録は上郡町高田台（大貝，2018）のみである．

メスコバネキバガ科

12. メスコバネキバガ *Diurnea cupreifera* ○ 図 12

1 ♀，佐用町船越 佐用町昆虫館，5．Ⅳ．2025.

午前 9 時頃，佐用町昆虫館の外壁に静止していたものを採集した．成虫は早春に出現し，年 1 化．本科の成虫は昼飛性で，♂の翅は正常に発達するが，♀は短翅で飛ぶのに適しておらず，地表や樹幹部を歩行するのが観察されている（那須ほか，2013）．宝塚市・養父市・丹波市で記録されている．

ハマキガ科

13. ナカジロハマキ *Acleris japonica* ☆ 図 13

1ex.，宍粟市波賀町鹿伏，30．X．2021.：1ex.，佐用町船越 佐用町昆虫館，7．Ⅷ．2024.

ライトトラップに飛来した．顕著な季節型を示し，夏型では基半部が純白色，外側は茶褐色で全体にややまだら模様になる．越冬型では基半部の白色部はくすみ，外側は暗褐色で，全体に灰色の細線を密布する（那須ほか，2013）．兵庫県内での記録は姫路市安富町 大河渓谷（高島，2003）のみである．

14. クシヒゲムラサキハマキ *Terricula violetana* ○ 図 14

1 ♂，宍粟市波賀町鹿伏，24．Ⅸ．2022.：1 ♂，同地，22．Ⅸ．2024.

ライトトラップに飛来した．前翅の地色は黒色で，全体に光沢のある青紫色の鱗粉を散らす（那須ほか，2013）．神戸市・香美町で記録されている．

15. クロシオハマキ *Archips peratrata* ○ 図 15

1 ♂，たつの市揖保川町黍田，14．Ⅵ．2021.：1 ♂，同地，11．Ⅳ．2022.

ライトトラップに飛来した．翅の色や斑紋は雌雄で大きく異なる．データベースでの記録は淡路島・南あわじ市となっている．

16. シロテンアカマダラヒメハマキ *Gatesclarkeana idia* 図 16

1ex.，上郡町金出地，3．X．2022.：1ex.，同地，14．X．2022.：1ex.，たつの市新宮町光都，3．XI．2023.

ライトトラップに飛来した．前翅は幅広く，赤褐色で中央付近に小白点をもつ．サッポロヒメハマキと類似するがこの白点を有するため識別できる．国内分布は九州，四国，沖縄（那須，2022）となっているが，大阪府や愛知県で撮影された画像がウェブ上で公開されている．兵庫県内でも相生市 羅漢の里（髙橋，2023b）で記録されている．

17. シロテンシロアシヒメハマキ *Phaecasiophora obraztsovi* ☆ 図 17

1ex.，相生市矢野町瓜生 羅漢の里，3．Ⅸ．2023.

外灯に飛来していた．オオシロアシヒマハマキに類似するが，より小さく，前翅はより濃色，前縁中央から後縁に幅広い地色の帯が明瞭．翅頂部は黄褐色で数本の黒い細線をもつ．類似するコモンアシブトヒメハマキはこの黒線が 2 ～ 3 本と少ない（那須，2024）．宝塚市・姫路市で記録されている．

18. スイカズラホソバヒメハマキ *Lobesia coccophaga*

1ex.，相生市矢野町瓜生 羅漢の里，18．Ⅸ．2023.

外灯に飛来していた．幼虫はスイカズラなどの新芽や花を摂食する（那須，2024）．上郡町・南あわじ市で記録されている．

19. マエモンマダラカギバヒメハマキ *Ancylis amplimacula* 図 18

1ex.．上郡町山野里，30．Ⅳ．2025.

ライトトラップに飛来した．国内分布は本州，四国，対馬で，成虫は 5 ～ 7 月に採集されている（那須，2022）．兵庫県内の記録は相生市 羅漢の里（髙橋，2023a）のみである．

20. ヒノキカワモグリガ *Coenobiodes granitalis* ○ 図 19

1 ♂ 1 ♀，佐用町櫛田，24．Ⅵ．2023.

ライトトラップに 2 個体が飛来し，器材の上で交尾を行った．寄主植物はヒノキ，ニオイヒバ，スギで，幼虫ははじめ針葉に潜るが，その後枝の分岐部，主枝基部と順次移動していく（那須，2021）．宝塚市・丹波市・南あわじ市で記録されている．

21. クロマダラシロヒメハマキ *Epinotia exquisitana* ○ 図 20

1 ♂，宍粟市波賀町鹿伏，3．Ⅶ．2024.

ライトトラップに飛来した．寄主植物はヤマザクラ，ナナカマドなど（那須ほか，2023）．神戸市・南あわじ市で記録されている．

22. ニセマツアカヒメハマキ *Rhyacionia pinivorana* ○ 図 21

2exs.，たつの市新宮町光都，23．Ⅴ．2022.：1ex.，上郡町金出地，31．Ⅴ．2023.

ライトトラップに飛来した．前翅はくすんだ褐色で，4 ～ 5 本の鉛色波状横線をもつが，二重で細く，光沢が強くない（那須，2021）．兵庫県内の記録は南あわじ市のみである．

ニジュウシトリバガ科

23. マダラニジュウシトリバ *Alucita spilodesma*

1ex.，宍粟市波賀町鹿伏，30．Ⅶ．2022.

ライトトラップに飛来した．神戸市・上郡町・南あわじ市で記録されている．

マドガ科

24. チビマダラマドガ *Rhodoneura erecta*

1ex.，上郡町金出地，10．Ⅷ．2021.：1 ♀，同地，2．Ⅸ．2022.：1 ♀，宍粟市波賀町鹿伏，18．Ⅵ．2022.

ライトトラップに飛来した．相生市・洲本市・南あわじ市で記録されている．

メイガ科

25. ニシキシマメイガ *Mimicia pseudolibatrix* ○ 図 22

1 ♀，宍粟市波賀町鹿伏，3．Ⅷ．2024.

ライトトラップに飛来した．年 2 化と思われ，成虫は 6 ～ 9 月に得られているがまれな種（那須ほか，2013）とされる．兵庫県内の記録は香美町のハチ北高原（阪上ほか，2020）のみである．

26. クシヒゲシマメイガ *Sacada approximans* ☆

1 ♀，上郡町金出地，10．Ⅶ．2021.：1 ♂，宍粟市波賀町鹿伏，17．Ⅶ．2022.

上郡町では林内，宍粟市では湖畔でのライトトラップに飛来した．神戸市・宝塚市・猪名川町・西脇市・市川町・丹波市・南あわじ市で記録されている．

27. キイフトメイガ *Lepidogma kiiensis* ☆

1 ♀，上郡町光都，17．Ⅶ．2021.：1 ♂，たつの市新宮町光都 兵庫県西播磨総合庁舎付近，13．Ⅶ．2022.

播磨科学公園都市の 2 か所でライトトラップに飛来した．西脇市・丹波市・南あわじ市で記録されている．

ツトガ科

28. シナミズメイガ *Elophila sinicalis* ○ 図 23

1 ♂，佐用町船越，7．Ⅷ．2024.

佐用町昆虫館の事業「昆虫学園中等部」の一環として瑠璃寺仁王門横の高台で実施したライトトラップに飛来し，筆者が採集した．寄主植物はウキクサ，トチカガミで，幼虫は寄主の 2 葉片でやや扁平な筒巣をつくり，水面上に生息する (那須ほか，2013)．兵庫県内の記録は南あわじ市（旧南淡町）阿万東町（藤平，2002）のみである．

29. クロテンシロミズメイガ *Parapoynx diminutalis* 図 24

1 ♀，上郡町金出地，13．Ⅶ．2021.：1 ♂，同地，16，Ⅸ．2022.：1 ♂，同地，9．Ⅹ．2024.：1 ♂，たつの市新宮町光都，13．Ⅸ．2021.：1 ♂，同地，10，Ⅹ．2022.

川沿いに設置したライトトラップに飛来した．本州，九州，沖縄諸島，八重山に分布（那須ほか，2023）し，幼虫はトチカガミや他のイネ科を含む水生植物（未同定）にも寄生（那須ほか，2013）する．兵庫県内の記録は相生市 羅漢の里のみである（髙橋，2023a）．

30. オオワタノメイガ *Haritalodes basipunctalis* ○ 図 25

1 ♀，宍粟市波賀町鹿伏，18．Ⅵ．2022.：1 ♂，同地，30．Ⅶ．2022.：1 ♀，同地，31．Ⅷ．2024.

ライトトラップに飛来した．ワタノメイガに酷似するが，大型で，前翅基部の黒褐色斑点がやや顕著であること，後翅の亜外縁線は太く，外縁にほぼ平行に走り，鋸歯状をなさないことなどで区別される（那須ほか，2013）．兵庫県内の記録は神戸市北区のみである．

31. キササゲノメイガ *Sinomphisa plagialis* ☆ 図 26

1 ♂，上郡町金出地，5．Ⅷ．2021.：1 ♂，同地，24．Ⅵ．2022.

ライトトラップに飛来した．市川町・洲本市で記録されている．

32. ウスベニオオノメイガ *Uresiphita prunipennis* ☆
1 ♂，たつの市新宮町牧 牧運動公園，23. Ⅳ. 2025.
ライトトラップに飛来した．寄主植物はクララ．年 2 化．成虫は 4 ～ 8 月に得られるが少ない（那須ほか，2013）とされる．猪名川町・西脇市・南あわじ市で記録されている．

カギバガ科

33. ホシベッコウカギバ *Deroca inconclusa*
1 ♀，上郡町金出地，12. Ⅵ. 2021.：1 ♂，同地，19. Ⅶ. 2021.：1 ♀，同地，18. Ⅹ. 2021.
ライトトラップに飛来した．神戸市・宝塚市・多可町・宍粟市・朝来市・豊岡市・養父市・丹波市で記録されている．

シャクガ科

34. キスジシロエダシャク *Orthocabera sericea* ○ 図 .27
1ex.，上郡町金出地，24. Ⅵ. 2022.：1ex.，宍粟市波賀町鹿伏，3. Ⅶ. 2024.：1ex.，宍粟市千種町河内，5. Ⅴ. 2025.
いずれもライトトラップに飛来した．国内では本州，伊豆諸島，四国，九州，屋久島に分布し，日本海側ではブナ帯にも生息する（岸田，2011a）．兵庫県内では新温泉町の扇ノ山の 1984 年の記録（谷田，1986）が唯一のものだった．なお，筆者は 2022 年に新温泉町でも確認しているので下記のとおり報告する．
1ex.，新温泉町海上 上山高原，3. Ⅴ. 2022.

35. ホシスジシロエダシャク *Myrteta punctata*
1 ♂，上郡町金出地，10. Ⅷ. 2021.：1 ♀，同地，31. Ⅴ. 2023.：1 ♀，宍粟市一宮町東公文 ろくろしの森キャンプ場，19. Ⅵ. 2021.
ライトトラップに飛来した．宍粟市・養父市で記録されている．

36. ニッコウキエダシャク *Pseudepione magnaria* ☆
1ex.，上郡町金出地，28. Ⅹ. 2022.
ライトトラップに飛来した．神戸市・宝塚市・西脇市・南あわじ市で記録されている．

37. シロズエダシャク *Ecpetelia albifrontaria*
1 ♀，上郡町金出地，4. Ⅴ. 2021.：1 ♀，たつの市新宮町光都 兵庫県西播磨総合庁舎付近，22. Ⅳ. 2022.：1 ♀，宍粟市波賀町鹿伏，28. Ⅳ. 2023.：1 ♀，同地，19. Ⅳ. 2025.
ライトトラップに飛来した．佐用町・豊岡市・丹波市で記録されている．

38. ウスネズミエダシャク *Isturgia vapulata* ○ 図 28
1 ♂，相生市ひかりが丘，28. Ⅳ. 2021.：1 ♀，上郡町金出地，31. Ⅶ. 2021.：1 ♀，たつの市新宮町光都，9. Ⅸ. 2021.：1 ♀，同地，9. Ⅶ. 2022.
相生市では住宅の窓明かり，その他はライトトラップに飛来した．宝塚市・養父市・丹波市で記録されている．

39. シロジマエダシャク *Euryobeidia languidata* ○ 図 29
1ex.，上郡町金出地，10. Ⅶ. 2021.
ライトトラップに飛来した．西宮市・南あわじ市で記録されている．

40. ナミスジエダシャク *Racotis petrosa* ○ 図 30
1ex.，上郡町金出地，5. Ⅷ. 2022.：1ex.，同地，30. Ⅲ. 2024.：1 ♂，宍粟市千種町河内，5. Ⅴ. 2025.
ライトトラップに飛来した．丹波市・南あわじ市で記録されている．

41. キリバエダシャク *Ennomos nephotropa* ☆
1 ♀，上郡町光都，17. Ⅶ. 2021.：1 ♀，宍粟市波賀町鹿伏，2. Ⅹ. 2021.：1 ♀，同地，3. Ⅷ. 2024.
ライトトラップに飛来した．神戸市・宝塚市・姫路市・神河町・養父市で記録されている．

42. キイロミミモンエダシャク *Eilicrinia parvula* ○ 図 31
1ex.，たつの市揖保町揖保上，28. Ⅳ. 2022.：1ex.，宍粟市波賀町鹿伏，3. Ⅷ. 2024.
ライトトラップに飛来した．1 化の個体は黄色みが弱い．対馬ではかなり普通種だが，他の地域では産地が限られている（岸田，2011a）．伊丹市・南あわじ市で記録されている．

43. ウスムラサキエダシャク *Selenia adustaria* ☆ 図 32
1 ♀，宍粟市波賀町鹿伏，21. Ⅴ. 2022.
ライトトラップに飛来した．神河町・養父市で記録されている．

44. ナシモンエダシャク *Garaeus mirandus* ☆ 図 33
1 ♂，佐用町船越 佐用町昆虫館，7. Ⅷ. 2024.
昆虫館敷地内に設置したライトトラップに飛来した．データベースでの記録は兵庫県・兵庫県西部・姫路市となっている．

45. クロバネフユシャク *Alsophila foedata*
1 ♂，上郡町光都 光都バスターミナル，7. Ⅰ. 2022.：3 ♂，上郡町金出地，29. Ⅰ. 2022.
光都では夜間，擬木の案内板に♂単体で静止，金出地ではライトトラップに飛来した．相生市・福崎町で記録されている．

46. ホシシャク *Naxa seriaria* ○ 図 34
1 ♀，上郡町金出地，2. Ⅶ. 2021.
ライトトラップに飛来した．年 1 化．昼飛性だが夜間に灯火にも飛来する（岸田，2011a）．神戸市・丹波市・南あわじ市で記録されている．

47. フタツメオオシロヒメシャク *Problepsis albidior* ○ 図 35

1 ♂，上郡町金出地，16. Ⅸ. 2022.

ライトトラップに飛来した．宝塚市・西宮市・淡路市・南あわじ市で記録されている．

48. ウススジオオシロヒメシャク *Problepsis plagiata* ○ 図 36

1 ♀，宍粟市一宮町東公文 ろくろしの森キャンプ場，20. Ⅵ. 2021.：1 ♀，宍粟市波賀町鹿伏，31. Ⅷ. 2024.

ライトトラップに飛来した．兵庫県内では丹波市の妙高山の記録のみで（宇野，2024），1954 年のものである（山本，1997）．

49. アヤコバネナミシャク *Acasis bellaria* ○ 図 37

1ex.，宍粟市波賀町鹿伏，19. Ⅳ. 2025.

ライトトラップに飛来した．前翅後縁部に大きな白斑が生じる．全国的に分布するが，局地的で非常にまれ（岸田，2011a）とされる．兵庫県内の記録は南あわじ市のみである．

50. シロテンコバネナミシャク *Trichopteryx grisearia* 図 38

1ex，上郡町金出地，1. Ⅳ. 2023.：1ex，同地，30. Ⅲ. 2024.：1 ♂ 1ex.，宍粟市波賀町鹿伏，8. Ⅳ. 2023.：2exs.，同地，19. Ⅳ. 2025.

ライトトラップに飛来した．比較的浅い山地に産するが少ない（岸田, 2011a）とされる．兵庫県内の記録は相生市 羅漢の里（髙橋，2023a）のみである．

51. シロシタコバネナミシャク *Trichopteryx fastuosa* ○ 図 39

1 ♂ 1 ♀，宍粟市波賀町鹿伏，19. Ⅳ. 2025.

ライトトラップに飛来した．全国的に低山地から山地に産し，比較的普通（岸田，2011a）とされるが，兵庫県内の記録は豊岡市のみである．

52. チャマダラコバネナミシャク *Trichopteryx nagaii*

1ex，宍粟市波賀町鹿伏，8. Ⅳ. 2023.

ライトトラップに飛来した．本州では関東地方以西の山地に産するが，あまり多くない（岸田，2011a）とされる．神戸市・相生市で記録されている．

53. ウスミドリコバネナミシャク *Trichopteryx miracula*

1ex.，たつの市新宮町光都 栗ノ木谷公園，21. Ⅲ. 2022.：3exs.，上郡町金出地，11. Ⅲ. 2023.：3exs.，同地，21. Ⅲ. 2025.：3exs.，宍粟市波賀町鹿伏，24. Ⅲ. 2023.

ライトトラップに飛来した．神戸市・相生市・南あわじ市で記録されている．

54. クロオビシロナミシャク *Trichopteryx ustata* ☆ 図 40

1 ♂，宍粟市波賀町鹿伏，19. Ⅳ. 2025.

ライトトラップに飛来した．ホソクロオビシロナミシャクと似るが，本種の前翅の内横線は後縁に対して斜めに走る（岸田，2011a）．兵庫県内の記録は神河町 砥峰高原（髙島，2003）のみである．

55. キンオビナミシャク *Electrophaes corylata* ☆

1ex，宍粟市一宮町東公文 ろくろしの森キャンプ場，20. Ⅵ. 2021.：1 ♀，宍粟市波賀町鹿伏，21. Ⅴ. 2022.

ライトトラップに飛来した．データベースでの記録は兵庫県西部・姫路市・豊岡市・養父市となっている．

56. フタシロスジナミシャク *Epirrhoe supergressa* ○ 図 41

2exs.，宍粟市波賀町鹿伏，21. Ⅴ. 2022.：1ex.，同地，17. Ⅸ. 2022.：1ex.，同地，26. Ⅶ. 2023.：1ex.，同地，31. Ⅷ. 2024.

ライトトラップに飛来した．全国的に低山地から山地に広く分布し，普通に産する（岸田，2011a）とされる．上記地点では飛来頻度が高い．養父市・淡路市で記録されている．

57. オオネグロウスベニナミシャク *Photoscotosia lucicolens* 図 42

1 ♂，相生市矢野町瓜生 羅漢の里，25. Ⅺ. 2024.

外灯に飛来していた．岸田（2011a）によると，本種は 1986 年にネグロウスベニナミシャクから分離された種で，翅表の色彩・斑紋ではネグロウスベニエダシャクとほとんど見分けがつかないことが多い．最も確実な識別点は前翅裏面の外横線の状態で，本種は前縁部でより太くなり，大きな黒色斑になる．全国的に分布し，各地でごく普通とされる．データベースでの本種の記録は宍粟市付近・養父市付近となっている．

58. トビモンシロナミシャク *Plemyria rubiginata* ○ 図 43

1ex.，宍粟市波賀町鹿伏，3. Ⅶ. 2024.

ライトトラップに飛来した．養父市・丹波市で記録されている．

59. ミドリアキナミシャク *Epirrita viridipurpurescens*

1ex.，上郡町金出地，21. Ⅻ. 2021.：1ex.，宍粟市波賀町鹿伏，10. Ⅺ. 2022.：2exs.，たつの市新宮町光都 栗ノ木谷公園，10. Ⅻ. 2022.

ライトトラップ及び糖蜜トラップに飛来した．宝塚市・西宮市・相生市で記録されている．

60. ナナスジナミシャク *Venusia phasma* ○ 図 44

1ex.，宍粟市波賀町鹿伏，30. Ⅸ. 2022.：1ex.，佐用町大畑，20. Ⅹ. 2022.

ライトトラップに飛来した．年 1 化の秋の蛾（岸田，2011a）．神戸市・養父市で記録されている．

61. チビヒメナミシャク *Hydrelia shioyana* ○ 図 45

1ex.，宍粟市一宮町東公文 ろくろしの森キャンプ場，19．Ⅵ．2021.

ライトトラップに飛来した．北海道，本州に分布し，関東地方周辺では主として低山地に分布する（岸田，2011a）とのことである．兵庫県内の記録は丹波市のみである．

62. セグロナミシャク *Laciniodes unistirpis*

1ex.，宍粟市波賀町鹿伏，18．Ⅵ．2022.：1ex.，同地，21．Ⅷ．2022.

ライトトラップに飛来した．神戸市・相生市・丹波市で記録されている．

63. フトオビヒメナミシャク *Eupithecia gigantea* ☆ 図 46

1ex.，宍粟市波賀町鹿伏，21．Ⅷ．2022.：1ex.，同地，31．Ⅷ．2024.：1ex.，佐用町船越 佐用町昆虫館，7．Ⅷ．2024.

ライトトラップに飛来した．兵庫県内の記録は神河町 砥峰高原（八木ほか，2003）のみである．

64. ナカオビカバナミシャク *Eupithecia subbreviata* ○ 図 47

1 ♀，相生市矢野町瓜生 羅漢の里，26．Ⅲ．2025.：1 ♀，上郡町金出地，16．Ⅳ．2025.：1 ♀，宍粟市波賀町鹿伏，19．Ⅳ．2025.

羅漢の里では外灯，その他はライトトラップに飛来したものを採集し，検鏡した．宝塚市・淡路市・南あわじ市で記録されている．

65. ヒコサンカバナミシャク *Eupithecia antivulgaria* ○ 図 48

1 ♀，相生市矢野町瓜生 羅漢の里，9．Ⅻ．2023.：1 ♀，同地，22．Ⅰ．2024.：1 ♀，同地，15．Ⅱ．2024.：2 ♀，同地，1．Ⅲ．2025.：1 ♀，上郡町金出地，30．Ⅻ．2024.：1 ♀，相生市相生，2．Ⅰ．2025.：1 ♂，同地，14．Ⅱ．2025.：1 ♀，相生市那波野 岩屋谷公園，27．Ⅱ．2025.

上郡町ではライトトラップ，羅漢の里では外灯，相生ではウバメガシ林内での糖蜜とライトトラップ，岩屋谷では糖蜜に飛来したものを採集し，検鏡した．羅漢の里では 12 月上旬～ 3 月上旬まで見られ，個体数も多かった．♂のバルバの形状は特異で，エデアグスは太くて長い．♀のコルプス・ブルサエは細長く，右側がふくらむ（岸田，2011a）．兵庫県内の記録は川西市黒川（高島，1998）のみである．

66. マスイカバナミシャク *Eupithecia pusillata* ○ 図 49

1 ♂，相生市矢野町瓜生 羅漢の里，26．Ⅹ．2023.

外灯に飛来したものを採集，検鏡した．晩秋の蛾で，10 ～ 11 月に出現するが，分布は局所的で個体数も非常に少ない（岸田，2011a）とされる．兵庫県内の記録は南あわじ市のみである．

67. ヨホシナミシャク *Eupithecia costimacularia* ○ 図 50

1 ♂ 2 ♀ 1ex.，相生市矢野町瓜生 羅漢の里，19，Ⅱ．2024.：1 ♂，同地，2．Ⅳ．2024.：1 ♂，相生市那波野 岩屋谷公園，27．Ⅱ．2025.

羅漢の里では外灯，岩屋谷では糖蜜に飛来した．昼間活動するが灯火にも飛来．年 1 化，春の蛾（岸田，2011a）である．兵庫県内の記録は南あわじ市のみである．

68. マダラアオナミシャク *Pasiphila hypopyrrha* ☆

1ex.，宍粟市波賀町鹿伏，3．Ⅸ．2022.

ライトトラップに飛来した．神戸市・神河町・養父市で記録されている．

69. テングナミシャク *Collix stellata* 図 51

1ex.，上郡町金出地，27．Ⅸ．2021.

ライトトラップに飛来した．国内の分布は本州（三重県，大阪府，広島県，山口県），四国，九州，種子島，屋久島 (岸田，2011a) で，2024 年 12 月に岡山県でも初めて確認されたことが朝日新聞で報道された．兵庫県内での記録は相生市 羅漢の里（髙橋，2023a）のみである．

カレハガ科

70. ウスズミカレハ *Poecilocampa tamanukii*

1 ♂ 1 ♀，宍粟市波賀町鹿伏，19．Ⅺ．2022.

ライトトラップに飛来した．神戸市・宝塚市・相生市・上郡町・豊岡市・養父市で記録されている．

ヤママユガ科

71. クロウスタビガ *Rhodinia jankowskii*

1 ♂，上郡町金出地，4．Ⅺ．2021.

ライトトラップで採集したが当地での飛来はこの 1 回のみである．データベースでの記録は西播磨・宍粟市・神河町・養父市となっている．

シャチホコガ科

72. クシヒゲシャチホコ *Ptilophora nohirae* ○ 図 52

1 ♂，上郡町金出地，24．Ⅻ．2021.：4 ♂，宍粟市波賀町鹿伏，25．Ⅺ．2022.

ライトトラップに飛来した．宝塚市・豊岡市で記録されている．

ヒトリガ科

73. ウスクロスジチビコケガ *Stictane obscura* 図 53

1ex.，たつの市新宮町光都，21．Ⅷ．2021.：1ex.，上郡町金出地，31．Ⅴ．2023.
ライトトラップに飛来した．兵庫県内での記録は相生市 羅漢の里（髙橋，2023b）のみである．

74．ウスグロコケガ *Siccia obscura*
1ex.，たつの市新宮町光都，2．Ⅷ．2021.：1ex.，宍粟市一宮町東公文 ろくろしの森キャンプ場，4．Ⅸ．2021.
ライトトラップに飛来した．相生市・上郡町で記録されている．

75．クロテンシロコケガ *Aemene fukudai* 図 54
1♀，上郡町金出地，13．Ⅶ．2021.：1♀，宍粟市波賀町鹿伏，30．Ⅶ．2022.
ライトトラップに飛来した．本州，四国に分布するが産地は局地的でまれな種（岸田，2011b）とされる．相生市・丹波市で記録されている．

76．クシヒゲホシオビコケガ *Aemene altaica* 図 55
1ex.，宍粟市一宮町東公文 ろくろしの森キャンプ場，19．Ⅵ．2021.：1ex.，佐用町船越 佐用町昆虫館，18．Ⅸ．2021.：1ex.，たつの市新宮町光都，6．Ⅵ．2022.：1ex.，上郡町金出地，15．Ⅷ．2022.
佐用町昆虫館のものは 16 時頃に外壁に静止している個体を発見，それ以外はライトトラップに飛来した．かつてホシオビコケガとして扱われていた種が 2018 年に本種と次種に分離されたもので，明確に区別・同定されている近年の記録としては相生市 羅漢の里（髙橋，2023b）がある（宇野，2024）．

77．クシナシホシオビコケガ *Aemene takahashii* 図 56
1ex.，たつの市新宮町光都，16．Ⅷ．2021.：1ex.，上郡町金出地，26．Ⅵ．2024.：1ex.，宍粟市波賀町鹿伏，3．Ⅶ．2024.
ライトトラップに飛来した．前種との外見での識別点として，岸田（2018）では亜外縁の黒点列のうち M2 室のものが小さな 2 黒点で，♂の触角が櫛歯状ではないこと，横田（2023）では前胸背の黒点が前種の 2 つに対し，本種では 3 つあることが挙げられている．相生市 羅漢の里（髙橋，2023b）で記録されている．

78．モンクロベニコケガ *Stigmatophora rhodophila*
1ex.，上郡町金出地，13．Ⅶ．2021.：1ex.，同地，23．Ⅷ．2024.：1ex.，相生市矢野町瓜生 羅漢の里，24．Ⅵ．2024.
上郡町ではライトトラップ，相生市では外灯に飛来した．西宮市・芦屋市・多可町付近・姫路市・佐用町・豊岡市・養父市・丹波市・南あわじ市で記録されている．

79．ハガタキコケガ *Miltochrista calamina* ☆
1ex.，たつの市新宮町光都，9．Ⅸ．2021.：1ex.，宍粟市波賀町鹿伏，21．Ⅷ．2022.
ライトトラップに飛来した．神戸市・宝塚市・西宮市・三田市・川西市・西脇市・養父市・丹波市・淡路市・南あわじ市で記録されている．

ヒトリモドキガ科

80．イチジクヒトリモドキ *Asota ficus* ☆ 図 57
1♀，たつの市揖保町揖保上，29．Ⅴ．2021．三村剣義．
ライトトラップに飛来したものを同行の三村剣義氏が採集した．標本は筆者が保管している．西宮市・姫路市で記録されている．

コブガ科

81．ナミコブガ *Nola nami* ○ 図 58
1ex.，宍粟市波賀町鹿伏，21．Ⅴ．2022.：1ex.，同地，28．Ⅳ．2023.：1ex.，同地，19．Ⅳ．2025.：1♀，宍粟市千種町河内，5．Ⅴ．2025.
ライトトラップに飛来した．前翅は淡褐色を帯びた白色．各横線や斑紋は茶褐色（岸田，2011b）．兵庫県内の記録は養父市のみである．

82．フタモンコブガ *Nola exumbrata* 図 59
1ex.，上郡町金出地，22．Ⅴ．2024.
ライトトラップに飛来した．兵庫県内の記録は相生市 羅漢の里（髙橋，2023a）のみである．

83．シメキクロコブガ *Meganola shimekii*
1ex.，宍粟市波賀町鹿伏，2．Ⅹ．2021.：1ex.，同地，3．Ⅶ．2024.：1ex.，同地，31．Ⅷ．2024.
ライトトラップに飛来した．川西市・相生市・南あわじ市で記録されている．

84．イナズマコブガ *Meganola triangulalis* 図 60
1♂，上郡町金出地，7．Ⅷ．2021.：1♂，同地，31．Ⅴ．2022.：2exs.，同地，14．Ⅹ．2022.
ライトトラップに飛来した．兵庫県内の記録は相生市 羅漢の里（髙橋，2022）のみである．

85．オオマエモンコブガ *Hampsonola gigantoides* ○ 図 61
1♀，宍粟市波賀町鹿伏，30．Ⅶ．2022.：1♂，たつの市新宮町光都 兵庫県西播磨総合庁舎，21．Ⅴ．2025.
宍粟市ではライトトラップに飛来，上郡町では日中に庁舎内で採集した．岸田（2011b）での分布は本州（東北地方，中部地方，北陸地方）となっている．兵庫県内では養父市の複数の場所で記録されている．

86．ウスアオリンガ *Paracrama angulata* ○ 図 62
1♂，たつの市新宮町光都，9．Ⅶ．2022.：1♂，上郡町金出地，

15．Ⅷ．2022.：2exs.，宍粟市波賀町鹿伏，3．Ⅶ．2024.
ライトトラップに飛来した．データベースでの記録は神戸市・宝塚市・伊丹市・養父市・淡路島・淡路市・洲本市・南あわじ市となっている．

ヤガ科

87．ヒメエビイロアツバ *Maguda suffusa*
1ex.，上郡町金出地，15．Ⅷ．2022.：1ex.，佐用町櫛田，24．Ⅵ．2023.：1ex.，宍粟市波賀町鹿伏，3．Ⅶ．2024.
ライトトラップに飛来した．データベースでの記録は三田市・相生市・淡路島・洲本市・南あわじ市となっている．

88．シマアツバ *Hepatica linealis*
1ex.，上郡町金出地，3．Ⅵ．2022.：1ex.，同地，26．Ⅵ．2024.：1ex.，たつの市新宮町光都 兵庫県西播磨総合庁舎付近，13．Ⅶ．2022.
ライトトラップに飛来した．相生市・丹波市で記録されている．

89．ハスオビヒメアツバ *Schrankia separatalis*
1ex.，相生市矢野町瓜生 羅漢の里，29．Ⅳ．2023.
外灯に飛来していた．上郡町・丹波市で記録されている．

90．フタスジシマコヤガ *Corgatha marumoi*
1ex.，上郡町金出地，11．Ⅸ．2021.：1ex.，たつの市新宮町光都 兵庫県西播磨総合庁舎付近，13．Ⅶ．2022.
ライトトラップに飛来した．宝塚市・相生市で記録されている．

91．キスジハナオイアツバ *Cidariplura bilineata* ○ 図 63
1 ♂，上郡町金出地，12．Ⅵ．2021.：1 ♂，同地，23．Ⅸ．2023.：1 ♂，宍粟市波賀町鹿伏，17．Ⅶ．2022.：1 ♂，同地，17．Ⅸ．2023.
ライトトラップに飛来した．森林の発達した暗い環境で得られるが少ない（岸田，2011b）とされる．養父市・丹波市で記録されている．

92．オビアツバ *Paracolax fascialis* ○ 図 64
1ex.，宍粟市波賀町鹿伏，19．Ⅷ．2022.
ライトトラップに飛来した．神戸市・養父市で記録されている．

93．コシロシタバ *Catocala actaea*
1 ♀，上郡町光都，17．Ⅶ．2021.：1ex.，たつの市揖保川町黍田，4．Ⅹ．2021.
ライトトラップに飛来した．データベースでの記録は神戸市・神戸阪神・宝塚市・猪名川町・川西市・加西市・小野市・三木市・姫路市・佐用町・淡路・淡路市・洲本市となっている．

94．ユミモンクチバ *Melapia electaria* ☆
1 ♂，宍粟市波賀町鹿伏，21．Ⅴ．2022.：1 ♀，同地，17．Ⅶ．2022.
ライトトラップに飛来した．多可町付近・養父市・香美町・丹波市で記録されている．

95．ナカグロクチバ *Grammodes geometrica* ○ 図 65
1 ♀，たつの市揖保川町新在家，6．Ⅶ．2021.：1ex.，たつの市新宮町北村，4．Ⅹ．2021.
揖保川町の個体は夜間に訪花，新宮町の個体はライトトラップに飛来した．日本本土域では偶産と考えられるが，一時的な発生を繰り返すことも知られている（岸田，2011b）．データベースでの記録は兵庫県・神戸市・三田市・南あわじ市となっている．

96．ヤマトホソヤガ *Lophoptera hayesi*
1ex.，上郡町金出地，4．Ⅴ．2021.：1ex.，同地，2．Ⅶ．2021.：1ex.，同地，21．Ⅹ．2023.；1ex.，宍粟市波賀町鹿伏，2．Ⅹ．2021.
ライトトラップに飛来した．宝塚市・猪名川町・相生市・南あわじ市で記録されている．

97．ミドリシロモンコヤガ *Koyaga virescens* ☆ 図 66
1ex.，宍粟市波賀町鹿伏，17．Ⅸ．2023.
ライトトラップに飛来した．姫路市・香美町で記録されている．

98．サビイロヤガ *Amyna stellata*
1ex.，相生市矢野町瓜生 羅漢の里，24．Ⅹ．2023.
外灯に飛来していた．神戸市・尼崎市・川西市・神河町・宍粟市・西脇市・豊岡市・養父市・佐用町・丹波市・淡路市・南あわじ市で記録されている．

99．ウスズミケンモン *Acronicta carbonaria*
1 ♀，たつの市新宮町光都 栗ノ木谷公園，5．Ⅳ．2022.：1ex.，たつの市揖保川町黍田，9．Ⅳ．2022.
国内では本州・四国・九州に分布し，局地的でまれ（岸田 2011b）とされる．新宮町では糖蜜トラップ，揖保川町ではライトトラップに飛来した．神戸市・宝塚市・佐用町で記録されている．

100．マエグロシラオビアカガネヨトウ *Phlogophora albovittata*
1 ♀，たつの市新宮町光都，9．Ⅸ．2021.：1 ♂，宍粟市波賀町鹿伏，30．Ⅹ．2021：2exs.，上郡町金出地，3．Ⅵ．2022.
ライトトラップに飛来した．初夏から真冬まで各地で頻繁に飛来する．神戸市・宝塚市・西宮市・相生市・養父市・南あわじ市で記録されている．

101．アオフシラクモヨトウ *Antapamea conciliata*
2exs.，佐用町円光寺 笹ヶ丘公園，5．Ⅵ．2021.：2exs.，

宍粟市一宮町東公文 ろくろしの森キャンプ場，19-20. Ⅵ. 2021.：1ex.，たつの市揖保川町黍田，15. Ⅵ. 2022.
ライトトラップに飛来した．神戸市・宝塚市・川西市・上郡町・丹波市・南あわじ市で記録されている．

102. ショウブヨトウ *Amphipoea ussuriensis* ☆
1 ♀，宍粟市波賀町鹿伏，17. Ⅶ. 2022.：1ex.，同地，3. Ⅷ. 2024.
ライトトラップに飛来した．神戸市・猪名川町・神河町・朝来市・豊岡市・養父市・香美町で記録されている．

103. ゴボウトガリヨトウ *Gortyna fortis*
1 ♂，上郡町金出地，14. Ⅹ. 2022.：1 ♂，宍粟市波賀町安賀，29. Ⅹ. 2022.
上郡ではライトトラップ，宍粟では外灯に飛来した．神戸市・川西市・神河町・養父市・佐用町で記録されている．

104. プライヤオビキリガ *Dryobotodes pryeri*
1ex.，相生市矢野町瓜生 羅漢の里，7. Ⅺ. 2023.
外灯に飛来していた．川西市・神河町・宍粟市で記録されている．

105. ヤクシマキリガ *Mesorhynchaglaea pacifica*
1 ♂ 2 ♀ 3exs.，相生市相生，2. Ⅰ. 2025.：2exs.，同地，14. Ⅱ. 2025.；1 ♀ 3exs.，同地，28. Ⅱ. 2025.
ウバメガシ林での糖蜜トラップ及びライトトラップに飛来した．神戸市・たつの市・南あわじ市で記録されている．

106. スミレモンキリガ *Sugitania akirai* ○ 図 67
1 ♀，上郡町金出地，26. Ⅺ. 2022.
ライトトラップに飛来した．神戸市・宝塚市・朝来市・丹波篠山市で記録されている．

107. ヨモギキリガ *Orthosia ella* ☆
1 ♂，たつの市揖保町揖保上，13. Ⅲ. 2025.
河川敷の糖蜜トラップで採集したが，翅が完全に乾ききっておらず，たまたま近くで羽化した個体だった可能性がある．神戸市・宝塚市・市川町・神河町で記録されている．

108. オオノコバヨトウ *Tiracola aureata* ○ 図 68
1ex.，たつの市新宮町光都，13. Ⅸ. 2021.：1ex.，宍粟市波賀町鹿伏，31. Ⅷ. 2024.
ライトトラップに飛来した．兵庫県内の記録は香美町 東鉢伏高原 (坪田・髙橋，2021：髙橋輝男，2023) のみである．

109. カバフクロテンキヨトウ *Mythimna salebrosa*
1ex.，宍粟市波賀町鹿伏，18. Ⅵ. 2022.
ライトトラップに飛来した．神戸市・宝塚市・相生市・西脇市・養父市・丹波市・南あわじ市で記録されている．

110. スジグロキヨトウ *Mythimna nigrilinea* ☆
1ex.，上郡町光都，13. Ⅸ. 2021.：1ex.，たつの市新宮町光都 栗ノ木谷公園，25. Ⅳ. 2022.：1ex.，佐用町大畑，20. Ⅹ. 2022.
ライトトラップに飛来した．データベースでの記録は兵庫県南部・宝塚市・猪名川町・神河町・丹波市・南あわじ市となっている．

111. マエジロアカフキヨトウ *Mythimna pallidicosta* ☆ 図 69
1 ♂，宍粟市波賀町鹿伏，25. Ⅺ. 2022.
ライトトラップに飛来した．市川町・養父市で記録されている．兵庫県において偶産蛾と思われる種（宇野，2024）とされる．

以上 111 種を報告する．兵庫県内で初記録の種が 9 種，播磨地域全域で初記録の種が 37 種，西播磨地域で初記録の種が 22 種である．

謝辞

末筆ながら，原稿作成にあたってご助言くださった八木 剛氏，本稿作成のきっかけを作ってくださった宇野宏樹氏，池田 大氏，阪上洸多氏，ツマボシホソハマキの同定をしてくださった鈴木信也氏，資料の入手についてお力を貸していただいた末宗安之氏，三宅誠治氏に御礼申し上げる。

参考資料

朝日新聞デジタル，2025 年 1 月 24 日，珍しい蛾「テングナミシャク」なぜここに？ 小さなビオトープで発見， https://www.asahi.com/articles/AST1R3SCVT1RPPZB00GM.html（参照 2025 年 1 月 26 日）.

宇野宏樹，2024．兵庫県産蛾類の概観について —兵庫県産蛾類分布記録データベースの作成にあたって—．きべりはむし，47（2）：12-27

宇野宏樹・池田 大・阪上洸多，2024．兵庫県産蛾類分布記録データベース．https://www．konchukan.net/moths/moths_of_hyogo．html（参照 2025 年 4 月 30 日）.

大貝秀雄，2018．兵庫県赤穂郡上郡町の住宅団地内 1 区画における昆虫相，94pp．播磨長翅目研究センター．

岸田泰則（編），2011a．日本産蛾類標準図鑑Ⅰ ,352pp．学習研究社．

岸田泰則（編），2011b．日本産蛾類標準図鑑Ⅱ ,416pp．学習研究社．

岸田泰則，2018．日本のホシオビコケガについて - 含

む 1 新種の記載 -. 蛾類通信，285：233-236.
北河内昆虫記，シタジロコブガ，https://osaka-insecta.sakura.ne.jp/moth/d-shitajirokobuga.html（ 参 照 2025 年 4 月 21 日）
久保弘幸，2024．みんなでつなぐ 初蝶リレー，きべりはむし，47（2）：34-40.
小西岳史・葉山 卓，2020．キモンカバナミシャクの新産地．蛾類通信，294：475.
阪上洸多, 宮野昭彦, 後藤聖士郎, 岩下幸平, クルズスキー淳子，間野隆裕，松井悠樹，Khine Mon Mon Kyaw，那須義次，奥 尉平，富沢 章，外村俊輔，屋宜禎，2020．兵庫県で開催した第 79 回レピドプテリストセミナー（レピゼミ）で採集された蛾 . 誘蛾燈，240：32–40.
鈴木信也・松井悠樹・朴 鎮亨・外村俊輔，JP みくろもす（仮），ツマボシホソハマキ，https://sites.google.com/view/jpmicromoth/%E3%83%8F%E3%83%9E%E3%82%AD%E3%82%AC%E7%A7%91/%E3%83%84%E3%83%9E%E3%83%9C%E3%82%B7%E3%83%9B%E3%82%BD%E3%83%8F%E3%83%9E%E3%82%AD（参照 2025 年 2 月 2 日）
高島 昭，1998．黒川の蛾（兵庫県産蛾類分布資料・8）．きべりはむし，26（1）：23-38.
高島 昭，2002．兵庫県のカラスヨトウ亜科（その 1）兵庫県産蛾類分布資料 •24．きべりはむし, 30(1)：80-93.
高島 昭，2003．兵庫県未記録の蛾 兵庫県産蛾類分布資料 •27，きべりはむし，31（1）53-36
髙橋輝男，2023．兵庫県美方郡香美町 (東鉢伏高原) におけるオオノコバヨトウの記録．蛾類通信，305：163.
髙橋弘樹，2022．相生市「羅漢の里」公園で確認された蛾類の記録（1）- 相生市三濃山麓の蛾 2020 - 2022 -．きべりはむし，45(2):41-51.
髙橋弘樹，2023a．相生市「羅漢の里」公園で確認された蛾類の記録（2）- 相生市三濃山麓の蛾 2020 - 2023 -．きべりはむし，46(1):1-12.
髙橋弘樹，2023b．相生市「羅漢の里」公園で確認された蛾類の記録（3）- 相生市三濃山麓の蛾 2020 - 2023 -．きべりはむし，46(2):1-16.
谷田昌也，1986．扇ノ山の蛾類分布資料 (I)．IRATSUME，10：30-37.
坪田 瑛・髙橋輝男，2021．2021 年の東鉢伏高原における注目すべき蛾類について，きべりはむし，44(2)：18 － 24.
那須義次，2021．日本のハマキガ 1 モグリヒメハマキガ族 (鱗翅目，ハマキガ科，ヒメハマキガ亜科)，171pp. 日本蛾類学会.
那須義次，2022．日本のハマキガ 2 ハラブトヒメハマキガ族，クラークヒメハマキガ族，トガリバヒメハマキガ族およびカギバヒメハマキガ族 (鱗翅目，ハマキガ科，ヒメハマキガ亜科)，88pp. 日本蛾類学会.
那須義次，2024．日本のハマキガ 3 ヒメハマキガ族とモグリヒメハマキガ族の補遺 (鱗翅目，ハマキガ科，ヒメハマキガ亜科)，155pp. 日本蛾類学会.
那須義次・広渡俊哉・岸田泰則 (編)，2013．日本産蛾類標準図鑑Ⅳ，522pp. 学習研究社.
那須義次・広渡俊哉・坂巻祥孝・岸田泰則 (編)，2023．日本の小蛾類，191pp. 株式会社 Gakken.
広渡俊哉・那須義次・坂巻祥孝，岸田泰則 (編)，2013．日本産蛾類標準図鑑Ⅲ，360pp. 学習研究社.
藤平 明，2002．淡路島南部の蛾（1999）の訂正と追加．PARNASSIUS，50：12.
諸岡範澄・筒井学・阿部浩志，2023．くらべてわかる蛾 1704 種，92．山と渓谷社.
八木 剛・中西明徳・稲畑憲昭・杉野広一・植田義輔・勝又千寿代・木全俊明・古賀督尉・高島 昭・谷口登志夫・中濱春樹・福島秀毅・水野辰彦・森脇竹男・山崎敏雄・吉田 武，2003．砥峰高原の昆虫相 -2002 年の昆虫調査から -(第一部)，きべりはむし，31（1）1-46
山本義丸，1997．兵庫県氷上地方の蛾類 (2)．きべりはむし ,25(1)：11-22.

図 10. キマダラコウモリ，上郡町，2021/6/12.

図 11. アケボノヒラタマルハキバガ，相生市，2025/3/1.

図 12. メスコバネキバガ，佐用町，2025/4/5.

図 13. ナカジロハマキ，宍粟市，2021/10/30.

図 14. クシヒゲムラサキハマキ，宍粟市，2022/9/24.

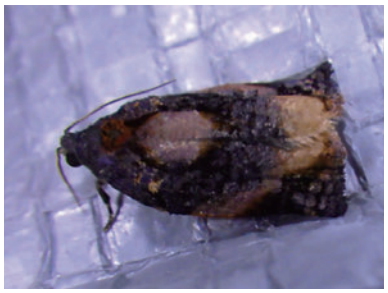


図 15. クロシオハマキ，たつの市，2022/4/11.

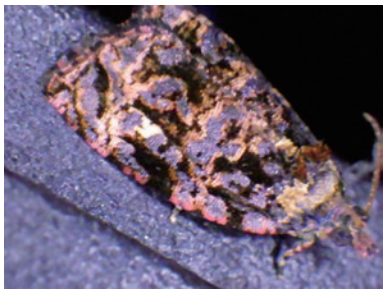


図 16. シロテンアカマダラヒメハマキ，上郡町，2022/10/3.

図 17. シロテンシロアシヒメハマキ，相生市，2023/9/3.

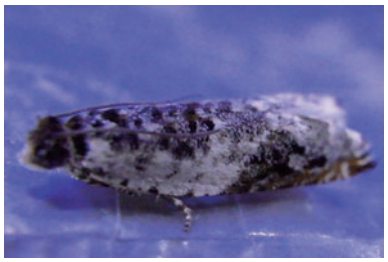


図 18. マエモンマダラカギバヒメハマキ，上郡町，2025/4/30.

図 19. ヒノキカワモグリガ（交尾中），佐用町，2023/6/24.

図 20. クロマダラシロヒメハマキ，宍粟市，2024/7/3.

図 21. ニセマツアカヒメハマキ，たつの市，2022/5/23.

図 22. ニシキシマメイガ，宍粟市，2024/8/3.

図 23. シナミズメイガ，佐用町，2024/8/7.

図 24. クロテンシロミズメイガ，たつの市，2021/9/13.

図 25. オオワタノメイガ，宍粟市，2022/6/18.

図 26. キササゲノメイガ，上郡町，2022/6/24.

図 27. キスジシロエダシャク，上郡町，2022/6/24.

図 28. ウスネズミエダシャク，相生市，2021/4/28.

図 29. シロジマエダシャク，上郡町，2021/7/10.

図 30. ナミスジエダシャク，上郡町，2022/8/5.

図 31. キイロミミモンエダシャク，たつの市，2022/4/28.

図 32. ウスムラサキエダシャク，宍粟市，2022/5/21.

図 33. ナシモンエダシャク，佐用町，2024/8/7.

図 34. ホシシャク，上郡町，2021/7/2.

図 35. フタツメオオシロヒメシャク，上郡町，2022/9/16.

図 36. ウススジオオシロヒメシャク，宍粟市，2024/8/31.

図 37. アヤコバネナミシャク，宍粟市，2025/4/19.

図 38. シロテンコバネナミシャク，上郡町，2023/4/1.

図 39. シロシタコバネナミシャク，宍粟市，2025/4/19.

図 40. クロオビシロナミシャク，宍粟市，2025/4/19.

図 41. フタシロスジナミシャク，宍粟市，2022/8/21.

図 42. オオネグロウスベニナミシャク (左は裏面)，相生市，2024/11/25.

図 43. トビモンシロナミシャク，宍粟市，2024/7/3.

図 44. ナナスジナミシャク，宍粟市，2022/9/30.

図 45. チビヒメナミシャク，宍粟市，2021/6/19.

図 46. フトオビヒメナミシャク，宍粟市，2022/8/21.

図 47. ナカオビカバナミシャク♀と交尾器，上郡町，2025/4/16.

図 48. ヒコサンカバナミシャク♀と交尾器 (コルプス・ブルサエ)，上郡町，2024/12/30.

図 49. マスイカバナミシャク，相生市，2023/10/26.

図 50. ヨホシナミシャク，相生市，2024/2/19.

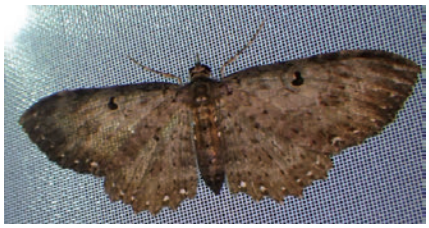


図 51. テングナミシャク，上郡町，2021/9/27.

図 52. クシヒゲシャチホコ，宍粟市，2022/11/25.

図 53. ウスクロスジチビコケガ，たつの市，2021/8/21.

図 54. クロテンシロコケガ，上郡町，2021/7/13.

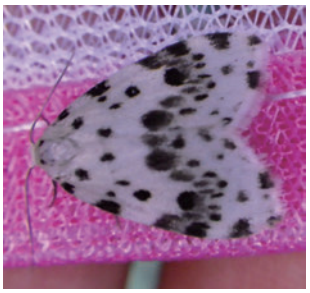


図 55 クシヒゲホシオビコケガ，宍粟市，2021/6/19.

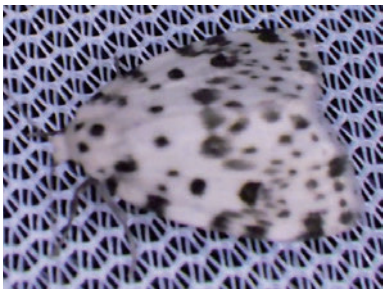


図 56. クシナシホシオビコケガ，上郡町，2024/6/26.

図 57. イチジクヒトリモドキ，たつの市，2021/5/29.

図 58. ナミコブガ，宍粟市，2025/4/19.

図 59. フタモンコブガ，上郡町，2024/5/22.

図 60. イナズマコブガ，上郡町，2022/10/14.

図 61. オオマエモンコブガ，宍粟市，2022/7/30.

図 62. ウスアオリンガ，上郡町，2022/8/15.

図 63. キスジハナオイアツバ，宍粟市，2022/7/17.

図 64. オビアツバ，宍粟市，2022/8/19.

図 65. ナカグロクチバ，たつの市，2021/10/4.

図 66. ミドリシロモンコヤガ，宍粟市，2023/9/17.

図 67. スミレモンキリガ，上郡町，2022/11/26.

図 68. オオノコバヨトウ，たつの市，2021/9/13.

図 69. マエジロアカフキヨトウ，宍粟市，2022/11/25.

兵庫県を中心とした 2024 年度のシンジュキノカワガの発生状況と知見について

髙橋弘樹[1)]

はじめに

NPO 法人こどもとむしの会では，2023 年度と 2024 年度に，兵庫県内におけるシンジュキノカワガ *Eligma narcissus* (Cramer, 1775) の確認情報を誰もが参加できる形で広く募集した．2023 年度分については大変多くの方の協力によって得られた確認記録と生態に関する知見を「兵庫県とその周辺で得られたシンジュキノカワガの記録と知見」として報告しているが（髙橋，2024a），今回は 2024 年度の結果について報告する．

(1) 2024 年の大発生と周年経過

情報の収集方法と前年度の記録

本稿及び髙橋（2024a）で扱った情報の収集方法

情報の収集は 2023 年度，2024 年度ともに『みんなも、昆虫調査員！このむし、みつけたら、おしえてね【MM：むしみっけ 2023 年版／ 2024 年版】』(以下、「MM2023」「MM2024」と表記) としてインターネット上で実施した．これはスタッフが選定した本種を含む「気になる虫」の確認情報を募集し，佐用町昆虫館公式ブログに設けられた入力フォームから情報を送信していただくもので，子どもから大人まで非常に多くの方が参加してくださった．広報は同館ブログ及びメーリングリストで行っている．本稿で扱う情報及び髙橋 (2024a) で扱った情報は，これらに「こどもとむしの会」会員等からの私信や筆者自身による確認記録等を加えたもので，2024 年度分についてまとめたものが表 1 である．なお掲載した投稿文は，個人情報の保護や読みやすさを考慮して筆者の責任で一部添削していることをご了承いただきたい．

2023 年度に得られた本種の記録

まず前提として髙橋（2024a）より，2023 年度に得られた本種の記録を紹介する．

2023 年は兵庫県周辺で本種の大発生が起こり，MM2023 でも非常に多くの情報が提供された．髙橋 (2024a) で報告した新たな記録 125 件のうち 2023 年度のものは 118 件で，兵庫県内から 101 件 (86 か所)，岡山･京都･大阪･奈良の 4 府県から 17 件 (17 か所) だった．兵庫県内では北は豊岡市南部から南は南あわじ市まで、西は佐用町から東は西宮市までと，日本海沿岸部を除く県下全域に及んでいる（図 1）．

確認された時期は幼虫（死骸除く）が 2023 年 7 月 21 日（西宮市）～ 11 月 27 日（朝来市）で，成虫は 2023 年 8 月 6 日（洲本市）が最も早く，10 ～ 12 月の記録が多くなっているが, 2024 年 1 月 13 日(洲本市), 1 月 28 日 (相生市), 3 月 10 日 (相生市), 3 月 30 日 (淡路市）という成虫での越冬を示唆させる記録も得られている（図 3）．

2024 年度に得られた本種の記録

2024 年度の記録件数

今回発表する記録は全て 2024 年度のもので，総数は 88 件，兵庫県内から 76 件，岡山，大阪，京都，福井，愛知，長野，東京の 7 都府県から 12 件となった．兵庫県内の記録は成虫が 18 件，それ以外が 60 件で，そのうち 2 件は成虫とそれ以外の重複，県外の記録は成虫が 5 件，幼虫（食痕含む）が 8 件で，そのうち 1 件は同じく重複である．

兵庫県内における記録の分布

兵庫県内において 2024 年度に本種が記録された地点は 65 か所 (成虫 14 か所，それ以外 55 か所，うち両者重複 4 か所) で，北は朝来市から南は洲本市、西は佐用町から東は西宮市にまで及んでおり（図 2），兵庫県下では 2 年連続の大発生となった（図 3 ～ 23）．記録の件数と地点数は 2023 年度より減少しており，特に但馬地域と三田市の記録が激減しているが，これは 2023 年度にそれらの地域で積極的に調査・報告をしてくださった近藤伸一氏，島岡 優氏からの情報提供が減少したことによるものであり，但馬でも実際には前年度以上の発生となっていたことを近藤氏から伺っている．また，三田市では前年度に幼虫が確認された場所の多くでニワウルシが伐採されており，観察自体ができなかったと島

1) Hiroki TAKAHASHI　兵庫県相生市

岡氏に伺っている．

2024 年度に新たに記録が得られたのは加東市・明石市・加古川市・太子町の 4 市町である．2023 年度と全く同じか至近の場所で再発見された地点は 20 か所で，たつの市新宮町光都では 4 年連続（高橋，2024b），西宮市越水社家郷山の仁川渓谷では 3 年連続 (高橋，2024a) の幼虫発生となった（図 8）．

さらに 2024 年度の記録の分布の特徴の一つとして，「点」の記録だけではなく，佐用町南部～上郡町北部の千種川沿い，播磨科学公園都市周辺，たつの市北部～宍粟市南部の揖保川沿い，姫路市の林田川沿い，姫路市夢前町寺～又坂，朝来市山東町～京都府福知山市といった「線」あるいは「面」の記録が目立つことが挙げられる．

県外における状況

2024 年秋には東日本でも本種の大発生が起こったようで，長野県（信濃毎日新聞，2024 年 10 月 26 日）

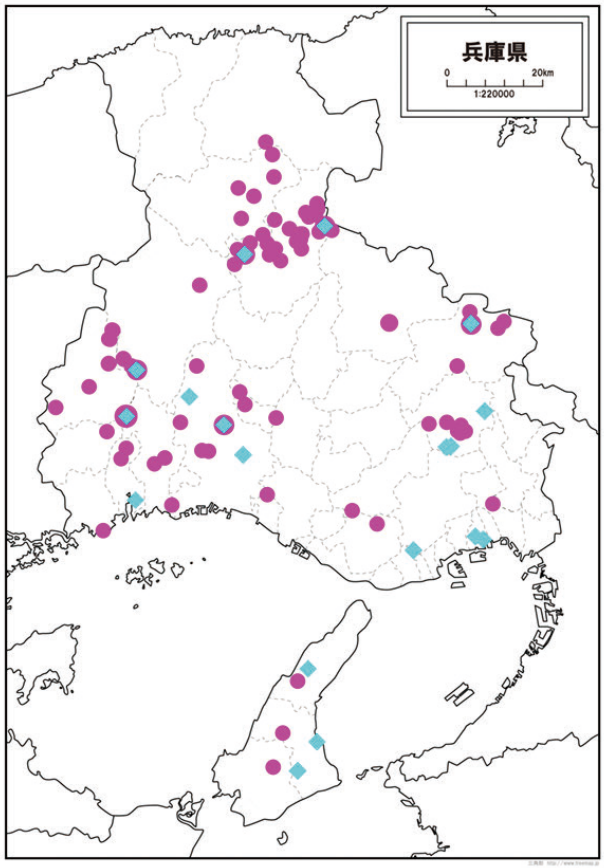


図 1．兵庫県において 2023 年度にシンジュキノカワガが記録された地点．（データ出展：髙橋，2024a）．
◆成虫　●成虫以外

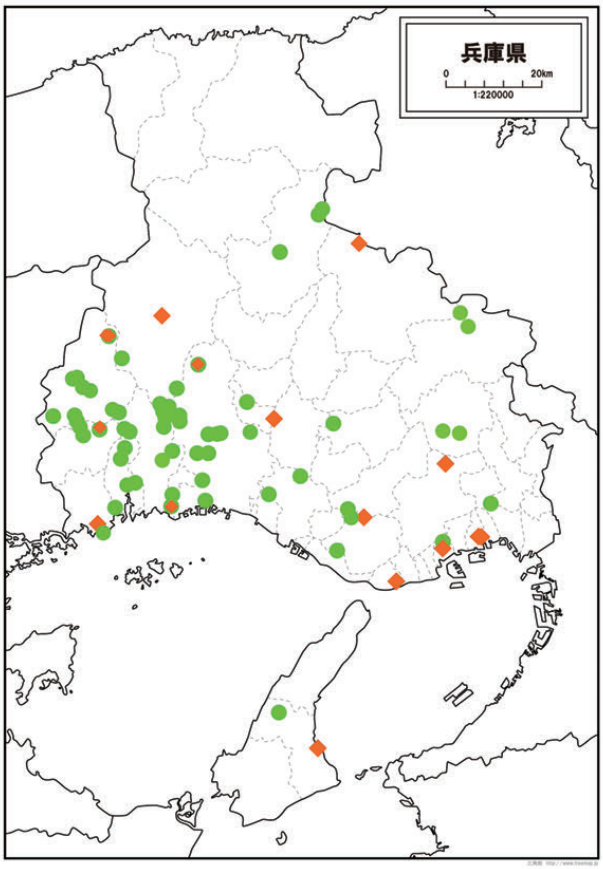


図 2．兵庫県において 2024 年度にシンジュキノカワガが記録された地点．
◆成虫　●成虫以外

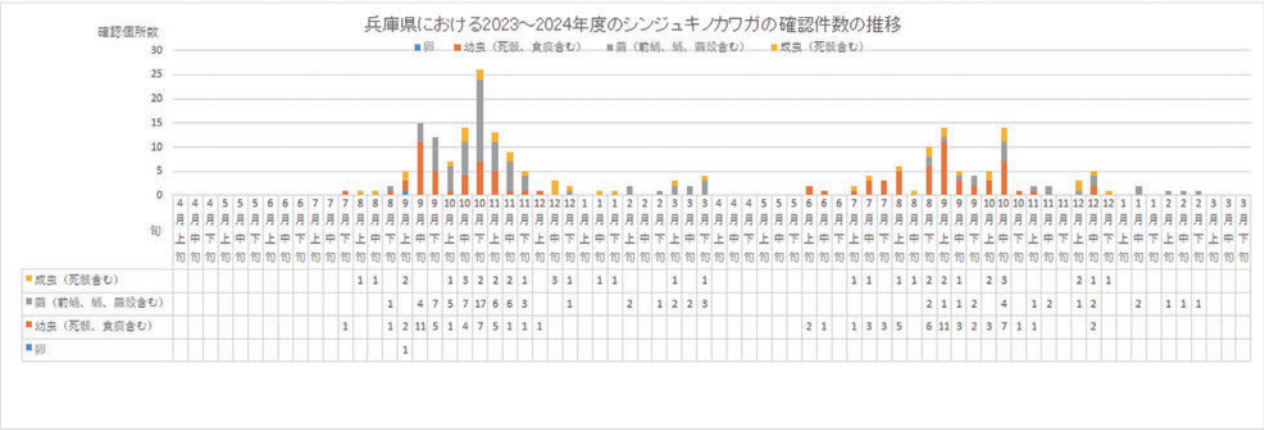


図 3 兵庫県における 2023 ～ 2024 年度のシンジュキノカワガの確認件数の推移
※ 2023 年度のデータは髙橋（2024a）による．

表 2．今回新たに発表するシンジュキノカワガの記録.

	(1) 兵庫県内の記録								
	年	月日	場所	ステージ	数	発見者（敬称略）	発見場所の詳細と状況	情報提供方法	前年度記録
1	2024	6/2	佐用町佐用字秀谷	幼虫	10	島岡 優，三村剣義，石川大馳，高橋弘樹	林道脇のニワウルシの小葉の裏。ニワウルシは点在しているが、幼虫が確認できた樹は２本のみ。樹高は１０m ほど。幼虫のサイズは 1.9 ～ 3.2cm(３～４齢) で、2.5cm 程のものが多かった。	MM2024	
2	2024	6/8	上郡町金出地	幼虫	6	末宗 安之	道路沿いの大き目のニワウルシの葉に 5 頭、幹に 1 頭。恐らく終齢幼虫だった。ニワウルシの木は道沿いに多かったのですが、幼虫が見つかった木は 1 本だけでした。	MM2024	○
3	2024	6/13	西宮市越水社家郷山仁川渓谷盤滝付近	幼虫		中本 和恵	去年いた木から少し離れた木にいた	MM2024	○
4	2024	7/5	姫路市広畑区夢前町浜手緑地	幼虫	数十	匿名	ニワウルシの葉裏目当てのシンジュサンは全く見つからず、シンジュキノカワガは数えきれないくらいたくさんいました。	MM2024	
5	2024	7/7	佐用町船越 佐用町昆虫館	成虫	1ex.	末宗安之，八木剛	佐用町昆虫館玄関付近の壁面に静止しているのを午後に発見した。前日夜から朝まで館の敷地内にライトトラップを実施していたため、それに誘引された可能性がある。	筆者確認、佐用町昆虫館ブログ	○
6	2024	7/13	太子町吉福 姫路市余部区上川原	幼虫	多数	内海 守	太子町と姫路市の境、林田川と揖保川の合流地点のシンジュの木にいた	MM2024	
7	2024	7/13	丹波市青垣町山垣 青垣いきものふれあいの里	成虫	1ex.	吉田 峰規	日中のイベント中に飛来、松の木に止まった。	MM2024	
8	2024	7/16	姫路市六角 書写山六角登山口あたり	幼虫	15 以上	庄野 貴美子	ニワウルシの木にいました（２カ所）おとなしい模様の若齢幼虫もいましたが写真撮り損ねました	MM2024	
9	2024	7/18	たつの市新宮町香山	幼虫	多数	髙橋 弘樹	県道 26 号路肩及び揖保川河川敷のニワウルシの葉裏。7 月 18 日、幼虫に激しく食害されたニワウルシ数本を確認。8 月 1 日の調査では丸坊主の樹の本数が増えており、その他の樹でも 4 齢～ 5 齢幼虫が多数確認できた。繭は見当たらなかった。	MM2024	
10	2024	7/29	相生市矢野町能下	幼虫	多数	髙橋 弘樹	能下川沿いのニワウルシの葉裏。ニワウルシは 175m 離れた上流と下流に孤立して生えており、7 月 29 日に上流の木で幼虫の激しい食害を確認。8 月 1 日には下流の木でも 4 齢～ 5 齢幼虫を多数確認できた。その後これらの木は丸坊主となったが、9 月中旬には小葉が回復、10 月 9 日には再び丸坊主となり、11 月にはまた回復したが、その後食害を受けた状態で落葉を迎えた。 なお上流の木では 2023 年 10 月にも繭・繭殻を確認している。	筆者確認 (MM2024)	○
11	2024	7/29	たつの市新宮町光都	幼虫	10 頭以上	髙橋 弘樹	ニワウルシの葉裏。４年連続での幼虫確認。ニワウルシの藪は６月末に伐採され再生途中だが、大木の葉裏で４齢幼虫～終齢幼虫が多数確認できた。シタベニハゴロモもたくさん見られた。	MM2024	○
12	2024	7/30	佐用町小日山	幼虫	多数	末宗 安之	川沿いのニワウルシ（樹高約４m）に食痕のある葉が見えたので近づいてみると多数の幼虫が確認できた。大部分が終齢幼虫だった。周辺のニワウルシにも幼虫が多数確認できた。繭を作っている幼虫も確認できた。昨年の秋に多数の幼虫や蛹を確認できた地域です。	MM2024	○
13	2024	8/1	相生市矢野町瓜生	幼虫	多数	髙橋 弘樹	県道４４号沿いの山裾のニワウルシの葉裏。終齢幼虫が多数見られたが、葉の食害は目立たなかった。2023 年 10 月には同じ樹で繭・繭殻を確認している。	MM2024	○
14	2024	8/1	たつの市新宮町二柏野	幼虫	多数	髙橋 弘樹	道路脇のニワウルシの大木の葉裏。かなりの大木で葉の位置は高いが、終齢幼虫のシルエットを多数確認できた	MM2024	
15	2024	8/1	宍粟市山崎町下比地	幼虫	多数	髙橋 弘樹	ニワウルシの葉裏揖保川の小さな支流の土手沿いにニワウルシが点在している。丸坊主に近い木も複数あった。	MM2024	
16	2024	8/1	宍粟市山崎町川戸	幼虫	10 頭程度	髙橋 弘樹	県道８０号路肩（戸原小学校のやや北）のニワウルシの葉裏。周囲のニワウルシは激しく食害されていたが、幼虫の数は多くなかった。幹の根元や背後の擁壁に繭殻が付着していたが直近のものかどうかは不明。	MM2024	
17	2024	8/1	たつの市新宮町上笹	幼虫	20 頭程度	髙橋 弘樹	県道 42 号脇のニワウルシの葉裏。産廃処分場や道路脇の山裾にニワウルシが点在。丸坊主の樹も数本あったが、幼木では食痕も幼虫も見られなかった。	MM2024	
18	2024	8/7	佐用町船越 佐用町昆虫館とその周辺	成虫	3 (1 ♀ 2exs.)	佐用町昆虫館「昆虫学園中等部」受講生	昆虫館敷地内及び周辺高台でのライトトラップ。８月７日～８日にかけて館敷地内と高台の２か所にライトトラップを設置したところ、２１時４０分に１♀が飛来。その後、敷地内 でも１時にかけて２頭が飛来した。	MM2024	重複
19	2024	8/19	神戸市北区上津台 上津公園	成虫	1ex	仲山 颯祐	公園内の樹液が出ている木の周辺。午後４時頃に公園で樹液を見ていたらスズメガに紛れて１匹のシンジュキノカワガが飛んでいました。たまたまその場にいたのかもしれませんが、木を回るように飛んでいたように見えたので、樹液目当てでやってきたのかもしれないです。	私信	
20	2024	8/21	たつの市新宮町光都	幼虫	10 頭以上	髙橋 弘樹	ニワウルシの葉裏。定点観察地点。この場所では７月末の確認以降、幼虫が全く見られない状態が続いていたが、この日、伐採から復活した低木で１齢～３齢幼虫を確認した。	筆者確認	重複
21	2024	8/23	上郡町金出地	成虫	6（4 ♂ 1 ♀ 1ex.）	髙橋 弘樹	渓谷沿いでライトトラップを行ったところ、点灯直後の 20 時 10 分に♀が飛来し、その後 21 時 40 分までに 5 頭が相次いで飛来した。設置場所付近の谷底にはニワウルシがあり、昨年晩秋には擁壁上で繭殻多数を確認している。	MM2024	重複
22	2024	8/24	姫路市安富町皆河	成虫、幼虫、繭・繭殻	多数、無数、多数	前田 清隆	昨年にブログに記載させて頂いた、シンジュキノカワガの生息地を今年も訪問しました。今年は？と云えば、やはり昨年に続いて～！いやいや！昨年以上に大発生をしていました。成虫は周辺のニワウルシの樹に沢山とまっていますが飛んでいる個体はほとんどいません。しかし、驚かすのではなく、自分の意志で飛び出すとなかなかとまらずに 10 分ぐらいは飛んでいました。 幼虫はいっぱい過ぎて、数える気持ちも起こらないですね。その為に、ニワウルシの樹は丸裸に。上を見上げると、樹の葉よりも空がよく見えます。幼虫と成虫が居るのですから、もちろん中で生きている繭や脱出痕のある繭もあります。樹には沢山の繭が確認できます。反対に低い位置の特殊な位置で繭があります。ガードレールに繭があるなんて～！こんな風に、大発生中です。	個人ブログから一部改変の上引用 (筆者聞取り)	○
23	2024	8/24	姫路市林田町松山～ 姫路市安富町狭戸	繭殻	多数	前田 清隆	兵庫県から鳥取県に向かう国道 29 号の兵庫県姫路市林田町松山から姫路市安富町狭戸にかけての国道沿い約 750 メートル程の間には、100 本ちかく以上（想像上）のニワウルシが生えていますが、全てのニワウルシが食害で丸坊主になっています。現状確認してみた処、シンジュキノカワガの脱出痕のある繭が沢山確認できました。車を横付けは出来ませんが、発生時期だけ合わせれば、此処が一番広域に発生し、個体数も多いようです。 ちなみに今年の猛暑では、既に幼虫の姿は見れなかったので、8 月第一週ぐらいが良かったのではないかと想像しています。	個人ブログから一部改変の上引用 (筆者聞取り)	
24	2024	8/24	宍粟市山崎町須賀沢	食痕	多数	前田 清隆	国道 29 号線沿いのニワウルシ。シンジュキノカワガによって、大規模的に食害を受けている。	個人ブログから一部改変の上引用 (筆者聞取り)	
25	2024	8/24	神崎郡福崎町田口	食痕	多数	前田 清隆	神戸医療未来大学周辺の道沿いや山裾に生えているニワウルシが丸坊主。	個人ブログから一部改変の上引用 (筆者聞取り)	
26	2024	8/28	佐用町福中 旧文化財調査室	幼虫	多数	匿名	ニワウルシの葉に多量にいる。ニワウルシは 2009 年の水害後繁殖しているが、この虫をみたのは初めてのように思います。	MM2024	
27	2024	8/31	明石市大久保町高丘	幼虫 (終齢)	1	久保 弘幸	ベランダの網戸に静止していた	MM2024	
28	2024	9/1	宍粟市波賀町安賀	成虫	1ex.	髙橋 弘樹	ローソン波賀安賀店外灯。深夜０時過ぎ、外壁に静止していました。	MM2024	
29	2024	9/1	神戸市西区神出町小東野	幼虫	多数	久保 弘幸	国道沿いの荒地のニワウルシ群集に、多数の幼虫がいた。齢は様々。	MM2024	
30	2024	9/4	姫路市広畑区西蒲田	幼虫	30	匿名	家の壁や地面を這い回っていた。裏山にあるニワウルシからは 30m も離れているのに一斉にここに来た理由が分からない。	MM2024	
31	2024	9/5	上郡町光都 星の広場	幼虫、蛹	4、1	菅藤 康平	ガードレールにて幼虫を多数目撃しました。この時期多い気がします。	MM2024	
32	2024	9/5	姫路市夢前町又坂	食痕	多数	髙橋 弘樹	県道 80 号沿線のニワウルシ。９月５日と９月２９日に県道 80 号線の峠から置塩中学校周辺にかけて、一帯のニワウルシに本種の特徴的な食痕があり、多くの木が丸坊主になっているのを車内から確認した。	筆者確認	

表 2．続き．

	年	月日	場所	ステージ	数	発見者（敬称略）	発見場所の詳細と状況	情報提供方法	前年度記録
33	2024	9/5	朝来市石田	食痕	多数	髙橋 弘樹	国道 312 号沿線のニワウルシ。多くのニワウルシに本種の特徴的な食痕があり、丸坊主になっている木もあるのを車内から確認した。	筆者確認	
34	2024	9/5	朝来市山東町大内	食痕	多数	髙橋 弘樹	国道 9 号沿線のニワウルシ。9 月 5 日と 9 月 2 9 日に当地から県境をまたいで京都府福知山市下小田に至るまでの一帯のニワウルシに本種の特徴的な食痕があり、多くの木が丸坊主になっているのを車内から確認した。	筆者確認	○
35	2024	9/7	加古川市志方町野尻	幼虫	多数	久保 弘幸	雑木林の林縁部にあるニワウルシの成木に多数の幼虫。	MM2024	
36	2024	9/7	佐用町船越 瑠璃寺仁王門横の高台	幼虫	多数	三村 寛子	ニワウルシには去年ブレイクした、アレ（シンジュキノカワガ幼虫）。おわっ！めっちゃいっぱい、、、いる。	佐用町昆虫館公式ブログ	重複
37	2024	9/8	佐用町船越 瑠璃寺仁王門横の高台	成虫	1ex.	島岡 優	丘の上のニワウルシからはシンジュキノカワガ成虫が飛び出したので優君が採集！	佐用町昆虫館公式ブログ	重複
38	2024	9/8	高砂市阿弥陀町長尾	幼虫	5 以上	三村 寛子	山沿い、池沿いの背の低いニワウルシ。冬に蛹を見つけたとこです。カフェのオーナーが、「一昨年まで全然見たことなかったのに、去年から突然お店の敷地を歩いてる」と言ってました。去年からだそうです。	MM2024	○
39	2024	9/8	たつの市神岡町大住寺	幼虫	1	植田 義輔	山際の住宅地。周辺は水田。おそらく終齢幼虫。住宅横の道路（車道）を歩行していた。	MM2024	
40	2024	9/8	三木市別所町小林	幼虫	多数	久保 弘幸	畑の畦法面に生育したニワウルシ若木の群集に多数の幼虫。終齢が主体。	MM2024	
41	2024	9/14	神戸市中央区 JR 新神戸駅	成虫	1ex.	亀本 保頼	新神戸駅新幹線ホームの壁にいました。	MM2024	
42	2024	9/15	上郡町赤松	幼虫	2	髙橋 弘樹	国道 373 号沿いのニワウルシの葉裏。歩道沿いにニワウルシの木が数本あるがほぼ丸坊主。まだ小葉が残っている木で終齢幼虫 2 頭を確認した。鹿柵越しのため幹に近寄れず、繭の有無は確認できなかった。	MM2024	
43	2024	9/15	佐用町大酒	幼虫、繭	2、3	髙橋 弘樹	小赤松橋付近 (千種川左岸)、千種川護岸上のニワウルシ。丸坊主のニワウルシが数本あり、その葉柄で幼虫、幹で繭を確認した。車を停められず、直接は確認できなかったが、この地点から 4 km 強下流の上郡町赤松までの国道 373 号沿い (千種川沿い) に点在するニワウルシの大部分は小葉が食い尽くされており、本種の大発生が起こっているとみられる。	MM2024	
44	2024	9/16	佐用町弦谷	食痕	多数	髙橋 弘樹	県道 28 号沿いのニワウルシ。周囲のニワウルシのほとんどに本種の食痕が見られ、小葉が少なくなっている。	筆者確認	
45	2024	9/21	佐用町船越 瑠璃寺仁王門横の高台	幼虫、繭	多数	末宗 安之	午後に来てくれた少年は筋金入りの虫好き。はっぴーがーでんでも様々なムシを採集できたようです。まずは庭でナガサキアゲハのオスを採集！こちらでは夏以降大発生しているシンジュキノカワガ幼虫やシタベニハゴロモも採集して満足そうでした。	佐用町昆虫館公式ブログ	重複
46	2024	9/25	たつの市新宮町光都	幼虫 繭・繭殻	多数	髙橋 弘樹	ニワウルシの幹とその周辺。定点観察地点。ニワウルシほとんどが丸坊主になっており、わずかに小葉が残る木で幼虫が見られた。樹高約 8m の樹では 3 齢から終齢の幼虫が幹をせわしなく上り下りしたり、ポタポタと降ってきたり、中齢幼虫が糸を垂らして降下したりする様子が見られ、周囲の地面でも多くの幼虫が這い回っていた。繭も多く見られたが、ほとんどが羽化済みの繭殻だった。	筆者確認	重複
47	2024	10/4	赤穂市加里屋 播州赤穂駅	成虫	3	八木 剛	コンコースの天井に静止。	MM2024	
48	2024	10/5	加西市畑町 加西サービスエリア西行き	成虫	1	八木 剛	街灯についてた。	MM2024	○
49	2024	10/5	佐用町長尾 スピカホール周辺	幼虫	多数	島岡 優，髙橋 弘樹	車道沿いのニワウルシ周辺。1 齢～ 3 齢幼虫が多く見られた。木に振動を与えると糸を吐きながら降りてくる幼虫も多かった。なお、周辺一帯のニワウルシは概ね激しく食害されていた。	筆者確認	
50	2024	10/6	加東市下滝野 播磨中央公園	幼虫	30 以上	橋本 美由起	シンジュの幼木についていた。お城の階段の中央くらいにシンジュがありました。	MM2024	
51	2024	10/10	神戸市中央区葺合町苧川	幼虫	2	くすもとりょう	山道のニワウルシの葉裏	MM2024	
52	2024	10/11	洲本市五色町鮎原西	幼虫	30 以上	井嶋 茉美	わたぼうしの園庭、駐車場に大量発生していました。周辺を調査したところ、施設裏の雑木林のニワウルシが発生元だと分かりました。	MM2024	
53	2024	10/12	洲本市小路谷 三熊いこいヶ丘展望台付近	成虫（死骸）	1	八木 剛	ジョロウグモのアミにかかっていました。	MM2024	
54	2024	10/12	たつの市新宮町宮内 兵庫県立西播磨文化会館南庭	幼虫	15 以上	髙橋 弘樹	水路沿いのニワウルシ。西播磨文化会館南庭西側の水路沿いにニワウルシの低木が 2 本あり、その両方に 2～終齢幼虫が多数いるのを発見した。昨年は周辺で本種は見つかっていない。	MM2024	
55	2024	10/13	姫路市石倉 石倉峯相の里	幼虫 繭・繭殻	多数	八木 剛，北詰 真奈	各齢多数。樹幹にマユも多数。マユは空が多い。	MM2024	○
56	2024	10/13	三田市志手原	幼虫	8	島岡 優	道路沿い。昨年とほぼ同じ場所でみつかりました。周りはセイタカアワダチソウがたくさんある中にニワウルシの幼木がありました。大きな木のニワウルシは葉は全くなくなっており、道路沿いの 1 メートルくらいの幼木の葉にいました。	MM2024	○
57	2024	10/13	神戸市須磨区水野町 天井川公園	成虫	1ex.	上野 貢	開けたところにいた。ふわふわと低空飛行する。	MM2024	
58	2024	10/14	佐用町船越 佐用町昆虫館周辺	成虫	1 ♂	上野 貢，木村 晴貴	瑠璃寺参道。川沿いをヒラヒラ飛んでいた。	MM2024	重複
59	2024	10/14	丹波篠山市火打岩	幼虫 蛹	多数	島岡 優	林道。 昨年と同じ場所です。	MM2024	○
60	2024	10/14	丹波篠山市栗柄 栗柄ダム	幼虫 蛹	多数	島岡 優		MM2024	
61	2024	10/20	たつの市新宮町光都	幼虫 繭・繭殻	多数	髙橋 弘樹	周辺一帯のニワウルシ。定点観察地点。樹高 50cm ほどの株が密生する一角を除く、ほとんどのニワウルシが丸坊主になっており、僅かに残った小葉や葉柄に各齢の幼虫が密集していた。幹も繭を作っている幼虫や蛹化済みの繭、繭殻がびっしり付着していた。	筆者確認	重複
62	2024	10/27	姫路市香寺町土師 ニッスイの森周辺	幼虫	1	黒田 修司	畑付近。	MM2024	
63	2024	11/7	赤穂市高野 高取峠 (赤穂市側中腹)	幼虫 繭・繭殻	1 多数	髙橋 弘樹	国道２５０号沿いのニワウルシ。終齢幼虫１頭と発音する繭及び繭殻多数を確認した。一帯のニワウルシは９月上旬から食害が目立っていた。頂上付近では現在小葉が回復しているが、赤穂側中腹ではほぼ丸坊主の状態が継続している。	MM2024	
64	2024	11/14	姫路市夢前町寺	繭・繭殻	多数	髙橋 弘樹	県道 80 号沿いのニワウルシ。ニワウルシの幹に多数の繭・繭殻が付着していた。 9月 5 日及び２９日にはこの地点から峠を越えた夢前町又坂にかけてのニワウルシが激しく食害されているのを車内から確認している。	MM2024	
65	2024	11/14	姫路市夢前町菅生澗	繭・繭殻	多数	髙橋 弘樹	県道５１９号沿いのニワウルシ。ニワウルシの幹に多数付着していた。	MM2024	
66	2024	12/3	たつの市御津町朝臣 みはらしの森	成虫 繭・繭殻	1ex. 多数	茂見 節子	みはらしの森内の樹幹で羽化し、翅を伸ばしていたが結局羽化不全のようだった。周囲には羽化前の繭がいくつか見られた。	私信	○
67	2024	12/9	神戸市東灘区本山南町 6 丁目	成虫	1	石川 大馳	昼間 (14 時頃) なのに、元気に飛び回っていた。気温 10℃です。	MM2024	○
68	2024	12/11	神戸市東灘区本山南町 2 丁目	成虫（死骸）	1	石川 大馳	歩道の脇の地面で死んでいました。まだ柔らかかったです。朝 8 時前に通った時にはいなかったと思います。	MM2024	
69	2024	12/15	相生市陸 相生スポーツセンター周辺	幼虫 前蛹 繭殻	1 1 4	髙橋 弘樹	道端のニワウルシ。僅かに小葉の残るニワウルシの枝先に終齢幼虫 1 頭が静止。同じ木の幹には完成一歩手前の繭があった。周囲の木では 繭殻も確認できた。この場所ではシタベニハゴロモは 2022 年から確認しているが、本種の発見は初。	MM2024	
70	2024	12/15	宍粟市山崎町土万 八重谷峠東側	幼虫 死骸 繭殻	1 5	髙橋 弘樹	県道 53 号脇のニワウルシ。昨年度、幼虫と繭が複数回報告されている場所。数は少ないが新しい繭殻があり、死亡して萎びた終齢幼虫も見られた。	MM2024	○
71	2024	12/21	神戸市西区神出町	成虫	1ex.	石川亜矢子	道にひっくり返って落ちていたので、死んでいると思ったら生きていました。	MM2024	

表 2．続き．

	年	月日	場所	ステージ	数	発見者（敬称略）	発見場所の詳細と状況	情報提供方法	前年度記録
72	2025	1/16	相生市竜泉町	繭・繭殻	30 以上	髙橋 弘樹	JR 山陽本線と国道 2 号の間のニワウルシ。ニワウルシ 3 株の幹に繭の付着を確認。フェンス内部のため繭の状態のチェックは不可能。	筆者確認	
73	2025	1/18	たつの市龍野町中霞城龍野公園	繭殻	15 以上	髙橋 弘樹	龍野公園聚遠亭付近のニワウルシ。若木の幹に今年度の比較的新鮮な繭殻が数個ずつ付着していた。	筆者確認	○
74	2025	2/1	赤穂市御崎 赤穂海浜公園	繭・繭殻	多数	髙橋 弘樹	赤穂海浜公園西駐車場横のニワウルシ及び唐船海岸の砂浜のニワウルシ群集。それぞれの幹に繭・繭殻がびっしり付着していた。蛹の状態のものも多かったが、触れた範囲には動くものはなかった。	筆者確認	○
75	2025	2/15	佐用町下徳久 佐用坂頂上付近	繭・繭殻	10 以上	髙橋 弘樹	国道 179 号沿いのニワウルシ。秋に食痕があるのを車窓から見ていたが、この日複数の樹幹に繭・繭殻が付着しているのを確認した。繭内に残っていた蛹は死亡していた。	筆者確認	○
76	2025	2/23	三田市上井沢	繭・繭殻	10	島岡 優	田畑と線路フェンスの間に水路があり脇に生えているシンジュの木の幹で発見。今年のものかはわからない。写真無しです。	MM2024	
	(2) 兵庫県以外の記録								
1	2024	8/23	岡山県美作市湯郷	成虫 幼虫（初齢～終齢）	3 多数	末宗 安之	山すその砂利置き場。夜、クツワムシの観察中（午後 8 時 30 分頃）山すその砂利置き場のニワウルシ（樹高約 3 m）に 3 頭の成虫が飛来し、ずっとゆっくりと飛翔しながらまとわりついていた。時々若い葉に止まっていた。未確認ですが産卵の可能性あり。同じく小さな幼虫や終齢幼虫もこのニワウルシに多数確認。すでに美作市のニワウルシには数多くの食痕があります。	MM2024	
2	2024	9/3	大阪府箕面森町南	幼虫	1	川村 美咲	自宅の外壁についていた	MM2024	
3	2024	9/5	福井県南越前町大良	食痕	多数	髙橋 弘樹	国道 8 号沿いのニワウルシ。9 月 5 日と 9 月 2 9 日、当地から越前市春日野町に至る一帯のニワウルシに本種の特徴的な食痕があり、丸坊主の木も多数あるのを車内から確認した。	筆者確認	
4	2024	9/9	長野県飯田市上郷黒田	幼虫	1	匿名	玄関扉の外側・タイル様のステップの上。ガレージに移動させてから写真を撮り検索しました。	MM2024	
5	2024	9/13	京都府福知山市雲原	幼虫	2	匿名		MM2024	
6	2024	9/23	東京都練馬区東大泉	幼虫	多数	こはま ちひろ	東京学芸大学大泉寮近辺のコンクリート塀に多数。１１月２２日同じ場所にて蛹を多数確認。塀に貼り付くような感じ。	MM2024	
7	2024	9/27	長野県飯田市上郷黒田	成虫	1ex.	匿名	夜更け、家の裏口の網戸でオオカマキリに狙われていた。翌朝裏口に翅が落ちていた。翅以外が無いので捕食された？	MM2024	
8	2024	9/30	福井県勝山市野向町	成虫	3exs,	髙橋 弘樹	ライトトラップ。標高約 900m の山中で 29 日 23 時半ごろ点灯。薄明までに 3 頭が飛来。1 頭目の飛来は 30 日 0 時 55 分。晴天だったが霧が出ていた。	筆者確認	
9	2024	9/30	福井県南越前町板取	食痕	多数	髙橋 弘樹	国道 365 号～ 476 号沿線のニワウルシ。当地から木ノ芽峠トンネルを越えて敦賀市獺河内に至る一帯のニワウルシに本種の特徴的な食痕があり、丸坊主の木も多数あるのを車内から確認した。	筆者確認	
10	2024	10/6	愛知県犬山市 日本モンキーパーク	幼虫	1	匿名	遊園地内を歩いていた。	MM2024	
11	2024	10/20	長野県安曇野市穂高 大王わさび農場	成虫	1ex.	宮澤 芳枝	わさび田の横道にいました。現地は観光地です。	MM2024	
12	2025	2/1	岡山県岡山市中区祇園 龍ノ口山	成虫	1ex.	山田 勝	龍ノ口山（256.8mH）北西山麓　混交林内 標高 :32.6mH 日時：2025 年 02 月 01 日 AM11:18 天候：晴れ　気温：7.6℃ 樹種：カクレミノ 葉高：2320mmH（地表から葉柄つけ根）	末宗安之氏宛私信	

と福島県（NHK 福島 WEB 特集，2024 年 12 月 6 日）のいずれも広い範囲で幼虫が確認されていることが報道されたほか，関東地方など各地から多くの情報がウェブ記事として発信された．MM2024 にも長野県や東京都からの情報が投稿されるなど記録の分布が広域化しており，筆者自身も福井県南越前町～越前市，越前市～敦賀市で国道に沿って続くニワウルシの食害や，福井県勝山市の標高約 900m の地点で実施したライトトラップに成虫が相次いで飛来する様子を観察できた．

兵庫県内において成虫が記録された時期

兵庫県内の成虫の確認記録は 2024 年 3 月 30 日（髙橋，2024a）以降約 3 か月間途絶えたが，7 月 7 日に佐用町船越（図 10），7 月 13 日に丹波市青垣町山垣で確認され，年度の区分では兵庫県内で最も早い成虫の記録だった 2023 年 8 月 6 日（髙橋，2024a）を大きく塗り替えた．

月別では 7 月 2 件，8 月 4 件，9 月 3 件，10 月 5 件，11 月 0 件，12 月 4 件で，兵庫県内での最後の記録は 12 月 21 日だった（図 23）．

兵庫県内において幼虫や繭が記録された時期

これまでに兵庫県内で得られた最も早い幼虫の記録は 2023 年 7 月 21 日の西宮市仁川渓谷のもので，7 月の記録はこの 1 件のみ，8 月の記録も 2 件に留まっていた (髙橋，2024a) が，2024 年度は 6 月 2 日に佐用町佐用で 3 齢・4 齢幼虫（図 4 ～ 6），6 月 8 日に上郡町金出地で終齢と思われる幼虫（図 7），6 月 13 日には西宮市仁川渓谷でも幼虫が発見され（図 8），6 月だけで 3 件，7 月に 7 件，8 月には繭殻や食痕も含めて 12 件と，これまでの記録を大きく覆すものとなった．

8 月以降は晩秋まで大発生が続き，大規模な食害の情報も相次いだ．相生市矢野町能下ではこの期間，孤立したニワウルシの大木が小葉の消失と再生を繰り返している（図 13 ～ 15）．11 月以降は幼虫の記録が減少し，12 月 15 日に相生市で見つかった瀕死の個体（図 22）が 2024 年度最後の生きた幼虫の記録となった．

繭の記録は 8 月 24 日（姫路市）が初見であるが，それ以前にも 7 月 30 日（佐用町小日山）の繭を作っている幼虫の観察例や，直近のものか不明な繭殻の観察例もある．秋期の記録は昨年度より激減しているが，これは集中的な調査とその結果の提供の有無によるものである．冬期は繭殻と死亡蛹は確認されたものの，前年度のように生存蛹は記録されなかった（図 3）．

(2)2024 年度に得られた知見

幼虫に関する知見

6 月 2 日に採集した幼虫の成長状況

先に少し触れているが，2024 年 6 月 2 日に佐用町佐用で得られた 3 齢・4 齢幼虫が現在のところ兵庫県下で最も早い幼虫の記録である．発見地は佐用駅裏から谷

図 4. こどもとむしの会主催イベントにスタッフとして参加していた少年たちが佐用町佐用字秀谷で採集してきた中齢幼虫. (2024/6/2 筆者).

図 5. イベント終了後に再訪し観察と採集を行った. ニワウルシは多かったが幼虫が見られたのは 2 本だけだった. (2024/6/2 筆者).

図 6. 現地で確認できた 4 齢幼虫. 葉を手繰り寄せて撮影. (2024/6/2 筆者).

図 7. 上郡町金出地で撮影された終齢幼虫. (2024/6/8 末宗安之氏).

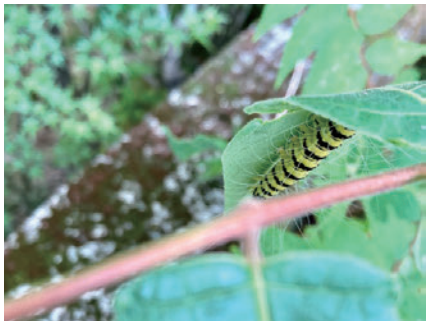


図 8. 西宮市仁川渓谷で撮影された終齢幼虫. この場所での発生は 3 年連続となった. (2024/6/13 中本和恵氏).

図 9. 姫路市広畑区の浜手緑地で撮影された幼虫. 数えきれなほどいたとのこと. (2024/7/5 匿名).

図 10. 佐用町昆虫館の外壁に静止していた成虫. 前夜のライトトラップに誘引された可能性がある. (2024/7/7 八木剛氏、末宗安之氏).

図 11. 太子町と姫路市の境界の河川敷で撮影された幼虫. (2024/7/13 内海守氏).

図 12. 姫路市六角で撮影された幼虫. 若齢から終齢まで 15 頭以上が確認された. (2024/7/16 庄野貴美子氏).

図 13. 相生市矢野町能下で撮影された終齢幼虫. (2024/8/1 筆者).

図 14. 図 13 から約 200m 上流の孤立したニワウルシ. 8 月から 11 月にかけ, 小葉の消失と再生を何度もくり返した. (2024/8/1 筆者).

図 15. 図 14 のニワウルシの拡大. 本種の食害により小葉が無くなりかけている. (2024/8/1 筆者).

図 16. 明石市の住宅のベランダに移動してきた終齢幼虫.（2024/8/31 久保弘幸氏）.

図 17. 新幹線新神戸駅のホームの壁に静止していた成虫.（2024/9/14 亀本保頼氏）.

図 18. 神戸市中央区葺合町苧川の山道で撮影された幼虫.（2024/10/10 くすもとりょう氏）.

図 19. 洲本市五色町鮎原西のニワウルシ．多数の幼虫が発生している.（2024/10/11 井嶋茉美氏）.

図 20. 三田市志手原で撮影された幼虫．前年度もほぼ同じ場所で幼虫が確認されている.（2024/10/13 島岡優氏）.

図 21. 姫路市夢前町菅生澗で撮影された繭．周辺の木にも多数付着していた.（2024/11/14 筆者）.

図 22. 相生市陸のニワウルシの幹に静止していた瀕死の幼虫．2024 年度の生きた幼虫の確認はこれが最後である.（2024/12/15 筆者）.

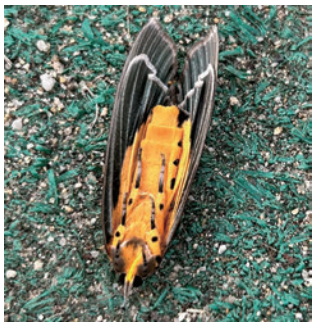


図 23. 神戸市西区神出町で撮影された成虫．道に落ちていたが生存していた．兵庫県内での 2024 年度最後の成虫の確認情報となった.（2024/12/21 石川亜矢子氏）.

図 24. 2024 年 6 月 2 日に佐用町佐用で採集し，筆者が持ち帰った幼虫．2 日夕方時点の体長は A が 3.2cm, B が 2.7cm, C が 1.9cm.（2024/6/2 筆者）.

図 25. A の個体は 6 月 12 日に蛹化し，飼育開始から 23 日後の 6 月 25 日に羽化した.（2024/6/25 筆者）.

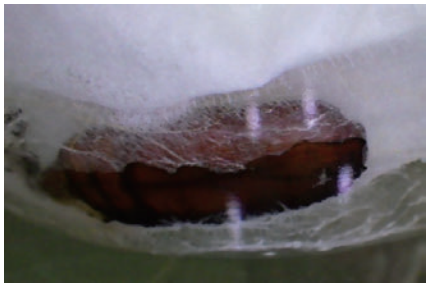


図 26. B の個体は 11 日後の 6 月 13 日に蛹化したが体液が漏れており，羽化することはなかった.（2024/6/14 筆者）.

図 27. C の個体は成長が遅く，6 月 7 日に 4 齢，15 日に終齢となったが，22 日に死亡した.（2024/6/22 筆者）.

図 28. たつの市新宮町光都の樹高約 8m のニワウルシから糸を吐いて降下している若齢幼虫（円内）．なお，この場所では 4 年連続の幼虫発生となった.（2024/9/25 筆者）.

図 29．神戸市北区の上津公園内の樹液が出ている樹．午後 4 時頃成虫が木を回るように飛んでいた．（2024/8/19 仲山颯祐氏）．

図 30．筆者は 8 月 23 日に上郡町で採集した成虫を飼育し摂餌行動の観察を試みた．（2024/8/24 筆者）．

図 31．この日は熟したブドウ（左上），薄めたカルピス（右）と，それに日本酒を加えたものを与えている．（2024/8/30 筆者）．

図 32．薄めたカルピスに日本酒を加えたものに口吻を伸ばす成虫．この 2 頭は 8 月 29 日から 30 日にかけてここに留まり続けた．（2024/8/30 筆者）．

図 33．姫路市安富町皆河のニワウルシ群集では多数の幼虫，繭，成虫が観察された．シタベニハゴロモも多かった．（2024/8/24 前田清隆氏）．

図 34．姫路市安富町皆河のニワウルシの幹で頭を寄せ合う 4 頭の成虫．樹液やシタベニハゴロモの関与の有無など詳細は不明．（2024/8/24 前田清隆氏）．

図 35．図 33 のニワウルシ群集で日中に飛翔する成虫．ニワウルシの枝先や葉で陰になった枝や幹を確認するような飛び方をしていた．この飛翔行動は 2 ～ 3 分間程度継続した．（2024/8/24 前田清隆氏）．

図 36．厳寒期に岡山県中区祇園の龍ノ口山北西山麓の混合林内で発見された成虫．（2025/2/1 山田勝氏）．

図 37．図 36 と同一個体．カクレミノの幹の高さ約 2.3m の位置に下向きに静止している．（2025/2/1 山田勝氏）．

に沿って伸びる林道の中間地点で，第一発見者は佐用駅近隣のさよう文化情報センターで開催されていたこどもとむしの会主催のイベント「いどうこんちゅうかん」にスタッフとして参加していた少年たちである．イベント終了後に筆者や少年たちの保護者も加わって採集地点を再訪したところ，道に沿って大小様々なニワウルシが点在している中，2 本のみで幼虫を確認できた（図 4 ～ 6）．この日見つかった幼虫は 10 頭で，筆者は 3 頭，第一発見者の一人でもある島岡 優氏は 1 頭を持ち帰り，それぞれの家で飼育した．

筆者が持ち帰ったのは A（3.2cm，4 齢），B（ 2.7cm，4 齢），C（1.9cm，3 齢）の 3 頭で，折り畳んだティッシュペーパーを敷いた底面直径 75mm，蓋の直径 125mm，高さ 45mm の円柱形のフードパックで 1 頭ずつ飼育した（図 24）．A の個体は 6 月 5 日に 5 齢（終齢），10 日に前蛹，12 日に蛹となり，6 月 25 日に羽化した（図 25）．B の個体は 6 月 6 日に 5 齢，11 日に前蛹，13 日に蛹化したが体液が漏れており羽化することはなかった（図 26）．各ステージの所要時間は 5 齢 4 ～ 5 日間，前蛹 2 日間で，A の蛹期間は 13 日間だった．なお，筆者が 2023 年 9 月 4 日～ 10 月 6 日に行った卵から羽化までの飼育の際の 4 齢以降の所要日数は 4 齢 2 日，5 齢

3 日，前蛹 2 日，蛹 12 ～ 13 日であり（高橋，2024c），これよりも幼虫の期間が若干長くなっている．

C の個体はニワウルシの小葉への食いつきが非常に悪く，容器の蓋を削ってそこに静止していることが多かった．この個体は飼育開始 5 日後の 6 月 7 日に 4 齢となり，それから 8 日後の 15 日に 5 齢となったが，その 7 日後の 6 月 22 日に 5 齢のまま死亡してしまった（図 27）．なお島岡 優氏が持ち帰った 4 齢幼虫も羽化せずに死亡しており，秋に比べて死亡率が高いような印象を受けたが，飼育数が少なすぎるためさらなる検証を要する．

移動する幼虫

2023 年にはニワウルシからかなり離れた場所に作られた繭や，餌や蛹化場所を求めて多数の幼虫が地面等を這い回る様子が各地で記録されている（高橋，2024a）．

2024 年も 8 月 31 日に明石市大久保町の住宅のベランダの網戸（図 16），9 月 4 日に姫路市広畑区のニワウルシから 30m も離れた家の壁や地面と，思いもよらぬ場所で幼虫が発見されたという報告が続いた．多くの幼虫が地面を這い回る光景は 9 月 25 日，たつの市新宮町光都のわずかに小葉が残る樹高約 8m の樹の周辺で筆者が観察した．その樹では 3 齢～終齢の幼虫が幹をせわしなく上り下りしているだけでなく，大きな幼虫は樹上からポタポタと落下し，3 齢幼虫と思われる少なくとも 5 頭は糸を長く吐き，宙づりになってそよ風に吹かれていた（図 28）．また，島岡 優氏と筆者は 10 月 5 日，佐用町長尾の 1 ～ 3 齢幼虫が多数付いている樹高約 1.5m のニワウルシで採集を試みたが，その際の振動によって幼虫たちが糸を吐き，一斉に降下していく行動を観察している．

成虫に関する知見

成虫の活動時間

2024 年にライトトラップに飛来した成虫の記録うち，飛来時刻，時間帯が分かっているものは以下の 3 件で，深夜やそれ以降の時刻にも飛来している．

1 ♀ 2exs.，兵庫県佐用町船越 佐用町昆虫館敷地内及び瑠璃寺仁王門横の高台，2024 年 8 月 7 日 21 時 41 分～ 8 日 1 時，佐用町昆虫館「昆虫学園中等部」受講生

4 ♂ 1 ♀ 1ex.，兵庫県上郡町金出地，2024 年 8 月 23 日 20 時 10 分～ 21 時 40 分，髙橋弘樹

3exs.，福井県勝山市野向町，2024 年 9 月 30 日 0 時 55 分～ 3 時（点灯 29 日 23 時 30 分），髙橋弘樹

筆者は髙橋（2024a）で本種の成虫の活動時間について，2023 年度の飼育下での行動観察やライトトラップ・外灯への飛来時刻をもとに，「日没後比較的早い時間に活発に活動することが示唆される」と述べたが，今回の結果を受けてこの一文を撤回する。

日中の成虫の飛翔については 7 月から 12 月にかけて 7 件の情報が得られた．飛び方には「ふわふわ」，「ひらひら」という表現が用いられており，「自分の意志で飛び出すとなかなかとまらずに 10 分ぐらいは飛んでいました」という報告もある．

成虫の摂餌行動について

筆者は成虫の摂餌行動の観察例として，飼育下において薄めたカルピス及びスポーツドリンク類，熟したパイナップル及び甘柿からの吸汁を行ったことについて髙橋（2024a）で報告した．その中で特に強い反応を示した柿に注目し，野外においても腐果からの吸汁を行っている可能性について述べたが，2024 年度にはその観察例も腐果トラップを実施したという情報も得られておらず，筆者自身も晩夏から冬にかけて罹病していたこともあり実施できなかった．糖蜜採集は筆者も頻繁に行ったが本種が飛来したという記録は得られなかった．2024 年 8 月 19 日午後 4 時頃には仲山颯祐氏から神戸市北区上津公園で，樹液が出ているクヌギを回るように飛んでいる個体を採集したとの情報をいただいているが，止まる前に網に入れているため樹液に誘引されたものかどうかは不明である（図 29）．

筆者は飼育下の摂餌行動の観察のため，8 月 23 日に上郡町で採集した成虫 3 ♂が入った飼育ケースにティッシュペーパーに含ませた薄めたカルピス及びそれに日本酒少々を加えたもの，薄めたソルティライチ（塩分を含む清涼飲料水），クサギの花，熟したブドウ数品種とキウイなどを入れたが、吸汁が確認できたのは飲料 3 種のみだった．日本酒を加えたカルピスには 2 頭が 1 日以上留まり続けていた（図 30 ～ 32）．

頭を一点に寄せ合って静止する成虫たち

前田清隆氏は 2024 年 8 月 24 日の日中に姫路市安富町皆河のニワウルシ群集（図 33）で幼虫と繭とともにニワウルシの樹に静止する多数の成虫を確認しており，その際に 4 頭の成虫が樹幹の一点に頭を寄せ合い，円を描くように定位している写真が撮影されている（図 34）．この成虫たちが何のために集結していたのか非常に気になるところだが，前田氏に問い合わせたところ，成虫が集まっていたのはガードレールから約 3m 先の急斜面の下方から立ち上がったニワウルシの大木の樹高約 5 ～ 6m の位置で，道路面からも約 3m 上方にあり，接近が不可能だったため樹液の有無や，この群集で多く見られたシタベニハゴロモが何らかの関与をした可能性など詳細は一切不明とのことだった．

ニワウルシの枝先にまとわりつくように飛翔する成虫

前田清隆氏は上記と同じ時刻に同じ場所で，成虫 1

個体が２～３分間程度ニワウルシの枝先や葉で陰になった枝や幹を確認するような飛び方をしているのを目撃し撮影している（図 35）．末宗安之氏も，8 月 23 日 20 時 30 分頃，岡山県美作市湯郷の山裾の砂利置き場で成虫の同じような飛翔を目撃している．3 頭の成虫が樹高約 3m のニワウルシに飛来し，ゆっくりと飛翔しながら木にまとわりつき，時々若い葉に止まっていたとのことで，末宗氏はこの行動について産卵の可能性を指摘されている．なお，このニワウルシでは同時に若齢から終齢の幼虫も多数確認されたが，卵は夜間ということもあり確認できなかったとのことである．

本種の卵は直径約 1mm の白色球形で，周囲に 50 本前後の微小な稜を持つ．筆者は 2023 年 9 月 4 日，たつの市新宮町光都で樹高約 4m のニワウルシの小葉の裏側に 15 個が固めて産み付けられているのを確認している（高橋，2024c）．

冬期における成虫の観察例

2024 年度の兵庫県内での成虫の記録は 12 月 21 日を最後に途絶えたが（図 23），岡山市中区祇園では 2025 年 2 月 1 日，常緑樹であるカクレミノの幹に下向きに静止している成虫が山田 勝氏によって撮影されている．場所は龍ノ口山北西山麓の混合林内の標高 32.6m の地点で，地表からの高さは約 2.3m とのことである（図 36 ～ 37）．

おわりに

これまで偶産種とされることが多かった本種の大発生が 2024 年も継続したことに加え，兵庫県内外から大変多くの方々のご協力をいただいたことにより，今回も本種の発生状況など詳細な記録といくつかの知見を報告できた．今回も情報を提供してくださった方はもちろん，発見の有無にかかわらず本種を探してくださったすべての方に心から御礼申し上げます．また末宗安之氏，久保弘幸氏をはじめ情報の収集にお力添えくださった方々に対しても厚く御礼申し上げます．

2024 年度の冬は久しぶりの厳冬となり寒さが長く続いた．これにより本県での大発生が一旦収束するのか，それともこのまま完全に定着するのか非常に気になるところである．2025 年度も本種から目が離せない 1 年になりそうだ．

参考文献

NHK 福島放送局，NHK 福島 WEB 特集，2024 年 12 月 6 日．【福島】温暖な地域の虫が東北の福島に！？次々に見つかった南方の昆虫たち 背景を探りました． https://www.nhk.or.jp/fukushima/lreport/articles/300/154/62/（参照 2025 年 2 月 27 日）

信濃毎日新聞デジタル，2024 年 10 月 26 日，越冬困難なはずが…長野県の安曇野市や松本市で中国原産の「ガ」の幼虫大発生　長野市でも確認，https://www.shinmai.co.jp/news/article/CNTS2024102500950（参照 2024 年 10 月 31 日）．

髙橋弘樹，2024a．兵庫県とその周辺で得られたシンジュキノカワガの記録と知見 ―　2023 年の大発生，周年経過，成虫の行動など　―．きべりはむし，47(1)；5-19.

髙橋弘樹，2024b．兵庫県たつの市において 3 年連続で発生したシンジュキノカワガの観察記録．きべりはむし，47(1)；20-24.

髙橋弘樹，2024c．兵庫県たつの市で採集したシンジュキノカワガの卵からの飼育記録．きべりはむし，47(1)；25-27.

てんとうむしさんの昆虫漂流記，シンジュキノカワガ 兵庫県姫路市安富町皆河 2024 年 8 月 24 日 https://ameblo.jp/tentoumushi26/entry-12866812330.html（参照 2025 年 3 月 23 日）

上郡町のケバエ類

大貝秀雄[1)]

ケバエ類（ケバエ科 Bibionidae，トゲナシケバエ科 Pleciidae とヒゲナガケバエ科 Hesperinidae，かつてはそれぞれケバエ科の亜科とされていた）は形態や色彩の妙味に欠け，一般に採集の対象となることの少ない昆虫であろう．ケバエ類はキノコバエ類などのように成虫の体は軟弱で，おおむね不活発な昆虫であり，多くは単発的に採集されるが，時には草地に多数の雌雄が群れていたり，雄が群飛する場合もある．一部の種は花に集まり，また走光性を示す種もある．雄の複眼が巨大化する点はケバエ類の顕著な特徴の一つであろう．国内からはケバエ科として 2 属 26 種，トゲナシケバエ科が 2 属 8 種，ヒゲナガケバエ科 1 属 2 種の合計 36 種が記録され（中村ほか 2014）ている．

日本産ケバエ類を系統的に調べた Hardy と Takahashi (1960) は，当時篠山町にあった兵庫県立兵庫農科大学（その後移転し，現神戸大学農学部）の収蔵標本を主要な研究材料の一つとしたため，彼らの命名したケバエ類のうち 10 種（うち，ホロタイプ 7 種）は兵庫県を基産地としたものであった．またニセアシブトケバエ *Bibio pseudoclavipes* Okada もタイプ標本の採集地は Tajima, Honshu なので兵庫県から最初に記載された種である．このようにケバエ類研究において兵庫県産の標本がはたしてきた役割は大きかったにもかかわらず，大貝（2018）などに断片的に見られる例はあっても，これまで兵庫県のケバエ類を包括的に扱った報告は見当らない．

筆者は上郡町産ケバエ類を調査し，2 科 4 属 13 種と，ケバエ属 *Bibio* の 2 不明種を確認したので，以下に報告する．あわせて，名称がケバエ類に似たニセケバエ科の 1 種も記録しておく．

上郡町のケバエ類

ケバエ科 Bibionidae

1. トゲナガアシブトケバエ *Bibio adjanctus* Hardy and Takahashi, 1960（図 1）

高田台；1 ♂ , 17.VI.2006, 1 ♂ , 11.VI.2012．上郡　鈴の宮公園；2 ♂ , 30.V.2021.

やや小型の種で，体は黒く肢は黄褐色ないし黒褐色．黒色の長立毛におおわれる．北海道と本州の記録がある．

高田台の 2 例は夜間，屋内の蛍光灯に誘引されたもので，本種は走光性を有すると考えられる．

2. チビアシボソケバエ *Bibio amputonervis* Hardy and Takahashi, 1960（図 2）

上郡　鈴の宮公園；2 ♂ , 21.IV.2020．旭日；1 ♂ , 10.IV.2021, 1 ♂ , 8.V.2021, 1 ♂ , 17.IV.2023，八保丙；1 ♂ , 18.IV.2020.

図 1：トゲナガアシブトケバエ♂.

図 2：チビアシボソケバエ♂.

1) Hideo OGAI　兵庫県上郡町

体は黒く肢は黄褐色．淡黄褐色（一部は黒色）の長立毛におおわれる小型種．本州, 四国, 九州から知られる．

3. キスネアシボソケバエ *Bibio aneuretus* Hardy and Takahashi, 1960（図 3）

上郡　鈴の宮公園；1 ♀, 15.IV.2020, 1 ♀, 3.IV.2023, 1 ♀, 10.IV.2024．八保丙；1 ♀, 11.IV.2024．金出地；1 ♀, 18.IV.2021.

小型種で体は黒色，雌の肢はほぼ全体が濃黄色で，腿節末端と脛節両端は狭く黒褐色を呈する．雌は前腿節の先方 2/3 の腹面に黒色の鋭い刺を散生し，体は淡黄褐色の長毛におおわれるが胸部の毛はやや短い．北海道，本州，四国，九州に分布する．

4. ウスイロアシブトケバエ *Bibio flavihalter* Hardy and Takahashi, 1960（図 4）

高田台；1 ♀, 12.XI.2012．上郡　鈴の宮公園；1 ♂, 16.XI.2019.

体はやや透明感のある黒色の中型種で，雌の胸部は橙黄色である．全体的に淡色の長毛でおおわれ，光沢がとぼしい．肢は両性で橙黄色，後肢の第一ふ節は顕著に肥大する．これらの全体的な印象が和名の由来になったと思われる．典型的な晩秋のケバエである．本州，九州と極東ロシアに分布する．

5. クロアシボソケバエ *Bibio holomaurus* Hardy and Takahashi, 1960（図 5）

与井；1 ♂, 14.IV.2020．八保丙；1 ♂, 26.IV.2024.

雄は脛節の距や爪の褥板と爪間板が淡色となり，爪が赤褐色であるのをのぞき，漆黒色で，体は黒色の長立毛におおわれる．雌は胸部が部分的に黄色く，肢が赤褐色となるほかは黒色であるとされるが筆者は未見．本州，四国，九州，南西諸島に分布する．

6. メスアカケバエ *Bibio japonica* Motschulsky, 1866（図 6）

高田台；1 ♀, 29.IV.2017．西野山；1 ♀, 30.IV.2010．与井新；4 ♂ 4 ♀, 13.IV.2002.

北海道，本州，九州，奄美諸島，沖縄諸島から知られ，国外でもロシア南東部，朝鮮半島，中国から記録される広域分布種.

ケバエ類の多くの種は頭部の形状や体色などに性差が顕著であるが，本種の雄は真黒なのに対し雌は全身が橙色で肢は黒い．また後述のハグロケバエに次ぐ大型の目立つ種であるが，筆者はかつて鹿児島県の与論島で翅長 7.5mm と著しく小型の♀を得たことがある（大貝 2015）.

吉田と八木（2012）は兵庫県内で記録のある注目すべき種として本種をあげているが，上郡町では稀な種ではない．与井新での記録のケースでは，路傍の小規模なやや陰湿な植物群落に 10 頭以上の雌雄が群れていたと記憶している．

7. メスアカアシボソケバエ *Bibio simulans* Hardy and Takahashi, 1960（図 7a）

上郡　鈴の宮公園；2 ♀, 21.IV.2020．旭日；1 ♂, 21.IV.2020.

原記載によると，雄はクロアシボソケバエに似て体は黒く，肢にも黒色部が多く，全身が黒色の長立毛でおおわれる．雌は頭部と腹部が黒く，肢では脛節と跗節が濃色になるほかは黄褐色とされる．

上郡産の雄標本の肢は基節と転節が黒いほかは一様に黄褐色で原記載とやや異なるが，生殖節（腹部第 9 背板）の特異な形状（図 7b）から本種と同定した．雌はオーマンケバエ *Bibio omani* Hardy and Takahashi の雌と酷似し腿節の微妙な色調の差異でのみ区別可能とされるため，誤同定の可能性が残る．

8. ニセアシブトケバエ *Bibio pseudoclavipes* Okada, 1938（図 8）

高田台；2 ♂, 19.III.2005，1 ♂, 27.III.2005.

体は黒く，肢は橙褐色の中型種で，全身に黄白色の長毛を密生する．後肢の第一跗節は肥大する．本州と九州のほか，韓国にも分布する．

上郡のケバエ類では，春最も早く出現する種で，標本は全例，家屋の外壁に静止していたものである．

9. ハグロケバエ *Bibio tenebrosus* Coquilett, 1898（図 9）

高田台；1 ♂ 1 ♀, 29.IV.2004, 1 ♂, 3.V.2005, 1 ♂, 2.V.2007, 1 ♂, 26.IV.2015, 1 ♂, 28.IV.2015, 1 ♂, 29.IV.2015．上郡　鈴の宮公園；1 ♂, 15.IV.2024.

日本産ケバエ類では最も大型で強壮な種で，目につきやすい普通種である．雌雄とも体と肢は黒く，毛は灰褐色で雌の毛は短い．国内では本州以南，国外では韓国，中国，ミャンマー，ネパール，インドに分布する南方系の広域種.

鈴の宮公園では尾根筋の四阿 (あずまや) がある付近で，ひらけた地面の上空 3 ～ 4m を，キムネクマバチ *Xylocopa appendiculata circumvolans* 雄のように, 飛び回っている複数の本種雄を観察した．占有行動であろうと推測される．

10. *Bibio* sp. 1（図 10a）

上郡　鈴の宮公園；1 ♀, 15.IV.2020.

体や肢の形状と色彩は一見クロアシボソケバエに類似するが，翅の M2，M3+4 脈がほぼ翅縁に達する点などで異なる．前腿節の腹面内側先方にはキスネアシボソ

ケバエ雌と類似の短刺群があるが，刺はより細く長く，前腿節の先半に限られて生ずる（図 10b）．またキスネアシボソケバエ雌より大型で，肢の色は明らかに濃い．

以下に本種雌の上述以外の特徴を簡単に述べる．前脛節端の内刺は外刺よりやや短い．翅は淡い褐色をおび，翅脈は膜部よりわずかに濃色．r-m 横脈と径分脈の基部はほぼ等長．頭・胸・腹部は黒色．肢の基節・転節は黒く，腿節と前・中脛節は黒褐色で部分的に黄褐色．後脛節と跗節は黄褐色で，各節の末端部は黒褐色．

11. *Bibio* sp. 2（図 11a）

高田台　古墳公園；2 ♀, 6.VI.2021．野桑；5 ♀, 5.VI.2024.

前脛節の内側の短刺が外側のものより明らかに短い（図 11b）点を除けば，*Bibio singularis* Hardy and Takahashi, 1960 雌の原記載とよく一致する黒色中形の不明種で，翅は全面が強くけむる．上郡町で 6 月上旬に採集しており，クリの花に集まる．採集した標本には，多数の花粉が付着していることから，花粉食の可能性がある．*singularis* の標本が手元になく詳細な検討はできないが，産地として北海道のみが知られる *singularis* に対して，本種は地理的に隔離された代替種にあたるのかもしれない．

以下に本種雌の上述以外の特徴を簡単に述べる．褐色の腹部腹板と脛節の距をのぞき全身が光沢ある黒色で，短い伏し毛をよそおう．前脛節の内側の距は外側のそれの 1/3 の長さ（*singularis* では 2/3）．翅は全面が強くくもるが前縁側ほど濃色である．M 脈基部から M1 とそれより前方の脈は黒褐色で，後方の脈は膜部よりわずかに濃色．r-m 横脈と径分脈の基部はほぼ等長で，M2 はわずかに，M3+4 は明らかに翅縁に届かない．

12. クチナガトゲケバエ *Dilophus fulviventris* Hardy and Takahashi, 1960（図 12a）

金出地；1 ♀, 24.X.2023.

Dilophus はいずれも小型のケバエで，前胸背に顕著な突起列をもち，前脛節の腹面には複数の横列をなす突起列をもつ．また翅の Rs 脈は r-m 横脈より短いことで前属 *Bibio* から区別される．

本種は口吻が既知の日本産同属他種より顕著に長く，雌では胸部・腹部ならびにすべての基節と腿節が橙黄色を呈し他は黒いことなどで他種から区別できる．体の柔毛は淡色で短い．上郡産の標本は，前脛節中央部突起列の配列（図 12b）が原記載の図と一致しないが，この突起列は本種の雄において多様性があるとされている（Hardy and Takahashi, 1960）ので，上郡産標本が本種であることを否定する根拠にはならないと考える．

タイプ標本は北海道のクッチャロ湖と足寄別および愛媛県の面河渓で，5 月上旬から 6 月上旬に採集されている．これを踏襲して日本昆虫目録では本種の分布を北海道と四国のみとしているが，本州でも既に東京都本土部での記録がある．しかし，上郡産標本の採集日は 10 月下旬であり，タイプ標本の採集時期とは大きく異なっている．上郡の標本は，本種の第二化にあたるのか，それとも酷似した別種なのであろうか．今後の検討が必要である．

トゲナシケバエ科 Pleciidae

13. ヒメセアカケバエ *Penthetria japonica* Wiedemann, 1830（図 13）

高　田　台；1 ♀, 29.IV.2004，1 ♀, 28.IV.2008，1 ♀, 29.IV.2008, 1 ♀, 23.IX.2009, 1 ♂, 1.V.2010, 2 ♀, 2.V.2010, 1 ♂, 3.V.2010，3 ♀, 4.V.2010，1 ♀, 5.V.2010，1 ♀, 26.IV.2015，1 ♀, 29.IV.2015.

トゲナシケバエ科は翅の R2+3 と R4+5 脈が分岐することなどでケバエ科と区別される．*Penthetria* では R2+3 が長く R4+5 と平行に走る．

広範に鮮紅色を呈する中胸楯板をのぞき黒色の大形種で，体は灰褐色の微毛におおわれ，黒い短刺毛を有する．北海道，本州，四国，九州，中国，台湾，インド北部に分布する．

上郡町では 4，5 月と 9 月の記録がある．Hardy and Takahashi (1960) も 4，5，9，10 月の標本を記録しているので，春季と秋季の二化性のケバエであると思われる．

本種は 1826 年にライデン博物館に送られたというシーボルト採集の標本（Ueda et al, 2000）に基づき記載されたものかと思われる．

14. ヒメセグロケバエ *Penthetria velutina* Loew, 1858（図 14）

与井；1 ♂, 6.VI.2019.

全身黒ないし黒褐色の小型種で，脛節の端距も黒い．体の被毛は前種と同様．北海道，本州，四国，九州に分布する．

15. クロトゲナシケバエ *Plecia adjastola* Hardy and Takahashi, 1960（図 15）

高　田　台；1 ♂, 16.IV.2015，1 ♀, 17.IV.2015，1 ♂, 22.IV.2015，1 ♂, 29.IV.2015，1 ♂, 30.IV.2017，1 ♂, 2.V.2017，1 ♀, 22.IV.2018，1 ♂, 23.IV.2018.

Plecia では R2+3 が短く，R4+5 から離れて C 脈に終わる．

雌雄とも全身黒色の中型種で，体の被毛は前属と同様．北海道，本州，九州に分布し，近畿地方でも兵庫（Paratype）のほか，京都，奈良，和歌山から記録されている（春沢 2012）．

ニセケバエ科 Scatopsidae

16. クロツヤニセケバエ *Scatopse notata* (Linnaeus. 1758)（図 16）

高　田　台；1 ♂，21.III.2004，1 ♂，30.III.2007，2 ♂，12.IV.2008.

標本はいずれもユキヤナギの花に飛来したものである．

ニセケバエ科は C 脈と R 脈のみが強く黒褐色を呈する小型の昆虫である．ヨーロッパでは非常に多数の属種が知られているのに対し，日本で記録されたのは 4 属 5 種にすぎず，国内にはまだまだ多数の未記録・未記載種があるものと思われる．上郡町でもクロツヤニセケバエ以外に属未詳の微小な不明種を複数得ている．

Scatopse 属は翅の R4+5 脈が長く，M 脈の分岐の先に明瞭な小枝があることなどで他属から明らかに区別される．上郡産の標本は Beuk の検索表にもとづき本種と同定したが，ヨーロッパの標本と比較したわけではない

図 3：キスネアシボソケバエ♀．

図 4：ウスイロアシブトケバエ　左♂，右♀．

図 5：クロアシボソケバエ♂．

図 6：メスアカケバエ　左♂，右♀．

図 7：メスアカアシボソケバエ　a; 左♂，右♀，b: 腹部第 9 背板（♂）．

図 8：ニセアシブトケバエ♂．

図 9：ハグロケバエ　左♂，右♀．

ので，酷似した別種の可能性はあり得る．

なお，各種図鑑類にはナガサキニセケバエ *Coboldia fuscipes* (Meigen, 1830) という種が掲載されていることが多いが，学研生物図鑑 III にナガサキニセケバエ *Scatopse* sp. として掲載されている標本の写真は R4+5 脈の特徴からクロツヤニセケバエの誤同定ではないかと思われる．

図 10：*Bibio* sp. 1　a; ♀，b: 前腿節（♀）．

図 11：*Bibio* sp. 2　a; ♀，b: 前脛節（♀）．

図 13：ヒメセアカケバエ　左♂，右♀．

図 15：クロトゲナシケバエ　左♂，右♀．

総括

以上，上郡町からケバエ科の 2 属 10 種と 2 不明種，トゲナシケバエ科の 2 属 3 種，ならびにニセケバエ科の 1 種を記録した．そのうち，クチナガトゲケバエは兵庫県初記録になると思われる．

兵庫県ではこれら以外のケバエ類として，アシブトケバエ *Bibio grasilipalpus* Hardy and Takahashi，マツムラケバエ *Bibio matsumurai* Okada，クロアシブトケバエ *Bibio nigriclavipes* Hardy and Takahashi，チョボグチトゲケバエ *Dilophus brevirostrum* Hardy and Takahashi，ナガトミトゲナシケバエ *Plecia nagatomii* Hardy and Takahashi の 5 種が記録されている（Hardy and Takahashi, 1960）．

引用文献

Beuk, Paul. Key to European Scatopsidae, occasionally supplemented with some species from other regions. http://online-keys.net/infusions/keys/keys_view.php?key_no=23（参照 2025 年 2 月 3 日）

図 12：クチナガトゲケバエ　a; ♀，b: 前脛節（♀）．

図 14：ヒメセグロケバエ♂．

図 16：クロツヤニセケバエ♂．

Hardy, D. E. and Takahashi, M. 1960. Revision of the Japanese Bibionidae (Diptera; Nematocera). Pacific Insects, 2(4): 383-449.

春沢圭太郎, 2012．近畿地方のトゲナシケバエ属の記録. はなあぶ．(33)：49-50.

中村剛之・三枝豊平・諏訪正明　編．2014. 日本昆虫目録 第 8 巻　双翅目　第 1 部．日本昆虫学会 発行，櫂歌書房，福岡．539pp.

大貝秀雄，2015．与論島新記録のコクロカメムシおよびその他の昆虫．月刊むし．(534)：52.

大貝秀雄．2018．兵庫県赤穂郡上郡町の住宅団地内 1 区画における昆虫相．播磨長翅目研究センター，上郡．94pp.

三枝豊平，1983．ナガサキニセケバエ．石原保 監修 学研生物図鑑　昆虫 III バッタ・ハチ・セミ・トンボほか：167, 308. 学習研究社，東京.

東京都本土部昆虫目録作成プロジェクト．2016 年 8 月 29 日更新 . 東京都本土部昆虫目録 . http://tkm.na.coocan.jp/（参照 2025 年 2 月 3 日）

Ueda, K., Sawada, Y., Yoshiyasu, Y. and Hirowatari, T. 2000. A list of Japanese insect collection by P. F. Von Siebold and H. Büger preserved in National Naturhistorisch Museum, Leiden, the Netherlands Introduction. Bulletin of the Kitakyushu Museum of Natural History, 19: 43-47.

吉田浩史・八木剛，2012．兵庫県の注目すべき双翅目．きべりはむし．34(2)：12-25.

武田尾渓谷及びその周辺で得られた興味深い昆虫類（その 2）

宇野宏樹[1)]

1. はじめに

筆者は，兵庫県南東部の武田尾渓谷で昆虫類の調査を行い，その調査結果の一部を宇野（2021）に報告した．その後も本渓谷で調査を行い，興味深い昆虫が追加で見つかっているので，本記事にて報告しておきたい．

2. 武田尾渓谷及びその周辺で見られた昆虫類

武田尾渓谷で得られた興味深い昆虫を追加で以下に報告する．採集・撮影はおもに見つけ採り法で行った．なお，武田尾渓谷は宝塚市と西宮市の境界にあたり，どちらの市か記録できなかったものは「兵庫県南東部武田尾」と表記した．

・鞘翅目

カミキリムシ科

クスベニカミキリ　*Pyrestes nipponicus*

1ex.(図 1), 兵庫県南東部武田尾 . 25. VI. 2024. 筆者採集・保管 .

「宝塚の昆虫」シリーズなどに本種の記録は見つけられず（宝塚市，1993a; 宝塚市，1994），武田尾渓谷の記録は少ないと考えられる．

・鱗翅目

アゲハチョウ科

オナガアゲハ　*Papilio macilentus*

1ex.（図 2）, 兵庫県西宮市武田尾渓谷 . 4. V. 2024. 筆者撮影 .

武庫川右岸で吸水にきた個体を撮影した．本種は兵庫県版レッドリスト 2022 において「要注目」に指定されているため，近年の記録として報告する．

セセリチョウ科

ダイミョウセセリ　*Daimio tethys*

1ex.（図 3）, 兵庫県西宮市武田尾渓谷 . 4. V. 2024. 筆者撮影 .

道の地面付近にとまった個体を撮影した．本種は，前種と同じく兵庫県版レッドリスト 2022 において「要注目」に指定されているため，近年の記録として報告しておきたい．

カギバガ科

オオカギバ　*Cyclidia substigmaria*

1ex.（図 4）, 兵庫県西宮市武田尾渓谷 . 12. V. 2024. 筆者撮影

宇野ほか（2024）によると，本種は猪名川町で記録があるが，基本的には兵庫県南東部での記録は少ないと考えられる．植物体に静止していた個体を撮影した．

シャクガ科

マエモンオオナミシャク　*Triphosa sericata*

1ex., 兵庫県宝塚市武田尾渓谷 . 2014 年※. 筆者採集保管 .

「宝塚の昆虫」シリーズには本種が掲載されているが，宇野ほか（2024）によると，基本的には本種の兵庫県南東部の記録は少ないと考えられるので，筆者の記録を報告しておきたい．本個体は，武田尾のトンネル内で得たと記憶している．

※本個体は標本を作製しているが，採集日時の月を記した部分の上に針が刺さっており，月を読み取りにくかったので，2014 年という表記にとどめておきたい．これは反省したい．

フタモンコナミシャク *Venusia megaspilata*

1ex.（図 5）, 兵庫県宝塚市武田尾渓谷 . 28. III. 2025. 筆者撮影 .

兵庫県において本種は，宍粟市で記録がある（久保，2023）が，同県内での確実な記録は多くないと思われる．筆者は本種を記録があまりないと思われる宝塚市で撮影したので報告しておきたい．本個体は，JR 武田尾駅から武庫川を渡らずに西に向かったところにある林道付近で、静止していた個体を撮影した．

マルハキバガ科

クロモンベニマルハキバガ　*Schiffermuelleria imogena*

1ex.（図 6）, 兵庫県西宮市武田尾渓谷 . 4. V. 2024. 筆者撮影 .

地表の個体を撮影した．兵庫県では宝塚市の記録があるが（宝塚市，1993b），同県内での記録は少ないので（宇野ほか，2024），情報の蓄積のため，筆者の記録を報告しておきたい．

1) Hiroki UNO　大阪府池田市

図 1. 武田尾産クスベニカミキリ .

図 2. 武田尾産オナガアゲハ

図 3. 武田尾産ダイミョウセセリ

図 4. 武田尾産オオカギバ

図 5. 武田尾産フタモンコナミシャク

図 6. 武田尾産クロモンベニマルハキバガ .

図 7. 武田尾産トモンノメイガ .

ツトガ科

トモンノメイガ　*Pyrausta limbata*

1ex.（図 7）, 兵庫県西宮市武田尾渓谷 . 12. V. 2024. 筆者採集保管 .

やや見苦しい写真となってしまったが，採集した個体の写真を示しておきたい．宇野ほか（2024）によると，本種は上郡町・神河町付近・西脇市・養父市で記録があるが，基本的には兵庫県南東部の本種の記録は少ないと考えられるので筆者の記録を報告しておきたい．

引用文献

林 匡夫・森本 桂・木本新作（編著），1984．原色日本甲虫図鑑 IV．438pp. 保育社.

広渡俊哉・那須義次・坂巻祥孝・岸田泰則（編），2013．日本産蛾類標準図鑑 3．360pp. 学研教育出版，東京.

兵庫県，2023．兵庫県版レッドリスト 2022．https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/jp/environment/leg_240/leg_289/2022/2022（2025 年 1 月閲覧）

岸田泰則（編），2011．日本産蛾類標準図鑑 1．352pp. 学研教育出版，東京.

久保弘幸，2023. みんなでつなぐ　初蝶リレー．きべりはむし，46 (2)：44-49.

那須義次・広渡俊哉・岸田泰則（編），2013．日本産蛾類標準図鑑 4．552pp. 学研教育出版，東京.

日本チョウ類保全協会（編），2012．フィールドガイド日本のチョウ．327pp. 株式会社誠文堂新光社.

宝塚市，1993a．宝塚の昆虫 IV 甲虫目（II）．224pp. 宝塚市教育委員会.

宝塚市，1993b．宝塚の昆虫 V 蛾類（II）．290pp. 宝塚

市教育委員会.
宝塚市，1994．宝塚の昆虫 VII ハチ・アリ・ノミ・(補遺)．378pp. 宝塚市教育委員会.
宇野宏樹，2021．武田尾渓谷及びその周辺で得られた興味深い昆虫類．きべりはむし，44 (2)：9-14.
宇野宏樹・池田 大・阪上洸多，2024．兵庫県産蛾類分布記録データベース． https://www.konchukan.net/moths/moths_of_hyogo.html（2025 年 1 月 閲覧）

兵庫県丹波篠山市で見られた昆虫類の記録

宇野宏樹[1)]

1. はじめに

兵庫県丹波篠山市における昆虫類の調査は，キリガ類では宇野（2022）などがあるが，基本的には本市の昆虫相の把握については，あまり進んでいない部分があると思われる．筆者は 2010 年代から 2020 年代にかけて，丹波篠山市で若干の昆虫の調査を行ったので，本報告で記録しておきたい．

2. 丹波篠山市で見られた昆虫類

丹波篠山市で見られた昆虫類について，本項目に書き留めておきたい．なお，本項目で扱う記録について，採集地はすべて「兵庫県丹波篠山市草野付近」であり，採集者・標本の管理者はすべて筆者である．本リストで報告する昆虫の掲載順序について，甲虫類は基本的に原色日本甲虫図鑑 II~IV に従った．

・鞘翅目

オサムシ科

マイマイカブリ *Carabus blaptoides*

1ex., 3. IV. 2016— 7. IV. 2016.

スジアオゴミムシ *Chlaenius costiger*

1ex., 29. VI. 2024.

ハギキノコゴミムシ *Coptodera subapicalis*

1ex., 6. VII. 2024.

キノコゴミムシ *Lioptera erotyloides*

1ex., 29. VI. 2024.

コヨツボシアトキリゴミムシ *Dolichoctis rotundata*

1ex., 18. V. 2024.

エンマムシ科

キノコアカマルエンマムシ *Notodoma fungorum*

1ex., 29. VI. 2024.

クワガタムシ科

スジクワガタ *Dorcus striatipennis*

1ex., 6. VII. 2024.

ネブトクワガタ *Aegus subnitidus*

1ex., 6. VII. 2024.

アカマダラセンチコガネ科

アカマダラセンチコガネ *Notochodaeus maculatus*

1ex.(図 1), 18. V. 2024.

本種は，本州・四国・九州に分布するコガネムシの 1 種である（川井ほか , 2008）．兵庫県版レッドリスト 2022 によると，本種は兵庫県では多可町・猪名川町で記録されており, カテゴリーは「要調査」とされている（兵庫県 , 2023）．本種の兵庫県内における分布地は不明な点が多く，兵庫県版レッドリストに掲載されている以上，本種の詳細な分布地を記録しておく必要があると思われる．筆者は記録が少ないと思われる丹波篠山市で本種を採集したので，記録しておきたい．本記録は，林縁にいた個体を採集したものである．

コガネムシ科

マメコガネ *Popillia japonica*

1ex., 29. VI. 2024.

クロハナムグリ *Glycyphana fulvistemma*

1ex., 6. VII. 2024.

図 1. 兵庫県丹波篠山市産アカマダラセンチコガネ .

1) Hiroki UNO　大阪府池田市

ケシキスイ科

ヨツモンヒラタケシキスイ *Atarphia quadripunctata*

1ex.（図 2）, 29. VI. 2024.

兵庫県では，「兵庫県川西市一庫～猪名川町民田」で記録があるが（仲田 , 1982），兵庫県での本種の記録は少ないと考えられる．

ヨツボシケシキスイ *Glischrochilus japonicus*

1ex., 18. V. 2024.

オオキスイムシ科

オオキスイムシ属の 1 種 *Helota* sp.

1ex., 18. V. 2024.

オオキノコムシ科

ミツボシチビオオキノコ *Tritoma maculifrons*

3exs., 29. VI. 2024.

ベニオビオオキノコ属の 1 種 *Episcapha* sp.

1ex., 27. IV. 2024.

ゴミムシダマシ科

チビコブツノゴミムシダマシ属の 1 種 *Byrsax* sp.

1ex., 27. IV. 2024.

種不明の樹木から得た．内藤（2002）によると，本属の仲間は 2002 年に初めて兵庫県から記録されていると思われ，現在でも兵庫県からの本属の記録は多くないと考えられるため，筆者の記録を報告しておく．本属の仲間の探索には枯れた樹木のスプレーイングが有効である．なお，筆者は本属の 1 種を京都府京都市吉田山で確認している．

モンキゴミムシダマシ *Diaperis lewisi*

1ex., 29. VI. 2024.

ベニモンキノコゴミムシダマシ *Platydema subfascia*

1ex., 27. IV. 2024.

ヨツボシゴミムシダマシ *Basanus erotyloides*

1ex., 27. IV. 2024; 1ex., 18. V. 2024.

オオナガニジゴミムシダマシ *Ceropria sulcifrons*

2exs., 29. VI. 2024.

高橋（1991）および内藤（2002）によると，兵庫県での本種の記録は，「美方郡扇の山」「宍粟郡波賀町赤西渓谷」が知られているが，基本的には，兵庫県の記録は多くないと考えられるため，筆者の記録を報告しておく．

図 2. 兵庫県丹波篠山市産ヨツモンヒラタケシキスイ .

フトヒメツノゴミムシダマシ *Cryphaeus morii*

1ex., 27. IV. 2024.

サトユミアシゴミムシダマシ *Promethis valgipes*

1ex., 6. VII. 2024.

ホンドニジゴミムシダマシ *Tetraphyllus paykullii*

2exs., 29. VI. 2024.

ホソクビキマワリ *Stenophanes mesostena*

1ex., 29. VI. 2024.

ニホンキマワリ *Plesiophthalmus nigrocyaneus*

1ex., 6. VII. 2024.

ナミクチキムシ属の 1 種 *Upinella* sp.

1ex., 18. V. 2024.

カミキリムシ科

ベニカミキリ *Purpuricenus temminckii*

1ex., 18. V. 2024.

ハムシ科

クロオビツツハムシ *Physosmaragdina nigrifrons*

1ex., 3. VII. 2024.

イチモンジカメノコハムシ *Thlaspida cribrosa*

1ex., 27. IV. 2024.

・半翅目

カメムシ科

クサギカメムシ *Halyomorpha halys*

1ex.(撮影のみ), 27. IV. 2024.

・膜翅目

シリアゲコバチ科

シリアゲコバチ *Leucospis japonica*

1ex., 3. VII. 2024.

・双翅目

ハルカ科

ハマダラハルカ *Haruka elegans*

1ex.（図 3・撮影のみ）, 9. IV. 2025.

本種は環境省レッドリスト 2020 において情報不足（DD）に指定されているほか,「兵庫県の注目すべき双翅目」の 1 つとして兵庫県内の記録がまとめられている（吉田・八木 , 2012）．静止していた個体を撮影した．

図 3. 兵庫県丹波篠山市産ハマダラハルカ .

参考文献

秋田勝己・益本仁雄 , 2016. 日本産ゴミムシダマシ大図鑑 . 302pp. 有限会社むし社 , 東京 .

林 匡夫・森本 桂・木本新作（編著）, 1984. 原色日本甲虫図鑑 IV. 438pp. 保育社 .

兵庫県 , 2012. 兵庫県版レッドリスト 2012. アカマダラセンチコガネ . https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/JPN/apr/hyogoshizen/reddata2012/data/06/20.pdf（2024 年 6 月閲覧）.

兵庫県 , 2023. 兵庫県版レッドリスト 2022. アカマダラセンチコガネ . https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/application/files/2916/8075/5555/137..pdf（2024 年 6 月閲覧）.

環境省 , 2020. 環境省レッドリスト 2020. https://www.env.go.jp/content/900515981.pdf（2025 年 4 月閲覧）.

川井信矢・堀　繁久・河原正和・稲垣政志 , 2008. 日本産コガネムシ上科図説 第 1 巻 食糞群 (普及版). 197pp. 昆虫文献六本脚 .

黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之（編著）, 1985. 原色日本甲虫図鑑 III. 500pp. 保育社 .

内藤隆夫 , 2002. 兵庫県で採集した甲虫類の記録（2）. きべりはむし , 30(1): 65-69.

仲田元亮 , 1982. 増補改訂 能勢の昆虫 甲虫の部 下巻 . 508pp. 阪堺出版 .

高橋壽郎 , 1991. 兵庫県のゴミムシダマシ（4）（兵庫県甲虫相資料 . 241）. 兵庫生物 , 10(2): 72-74.

上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝（編著）, 1985. 原色日本甲虫図鑑 II. 514pp. 保育社 .

宇野宏樹 , 2022. 兵庫県丹波篠山市におけるキリガ類の若干の記録 . きべりはむし , 45(1): 79.

渡辺恭平・伊藤誠人・藤江隼平・清水 壮 , Information station of Parasitoid wasps. シリアゲコバチ科 Leucospidae Walker, 1834. https://himebati.jimdofree.com/%E5%AF%84%E7%94%9F%E8%9C%82%E3%81%AE%E3%83%AA%E3%82%B9%E3%83%88%E3%81%A8%E7%89%B9%E5%BE%B4-%E5%86%99%E7%9C%9F/%E3%82%B7%E3%83%AA%E3%82%A2%E3%82%B2%E3%82%B3%E3%83%90%E3%83%81%E7%A7%91-leucospidae/ (2024 年 8 月閲覧).

吉田浩史・八木 剛 , 2012. 兵庫県の注目すべき双翅目 . きべりはむし , 34 (2): 12-25.

兵庫県高砂市へのツマグロキチョウの飛来記録と吸蜜植物

島﨑正美[1)]・島﨑能子[1)]

兵庫県におけるツマグロキチョウ（*Eurema laeta bethesba*, 絶滅危惧ⅠB類（環境省, 2020）, 以下, 本種）については「兵庫県の蝶」(2007) に 2004 年までの 32 市の記録が集約されており, その後, 本種が大発生をした年のマーキング調査や新たに本種が確認された 7 市町の追加等の報告がある（近藤, 2015）. さらに, 本種の阪神間での確認記録（神吉, 2022; 神吉, 2023）と追加記録（広畑, 2023）もみられる.

本種の第二化（秋型）には生息地から遠く離れた場所へと分散移動する強い習性があることはよく知られていて, 上記報告中にも食草：カワラケツメイ類が自生していない地域での観察例が多くみられる. マーキング手法による行動範囲の調査（近藤, 2015）では越冬後の初夏までの生存が認められているが, 行動範囲の調査結果をまとめるまでには至っていない.

高砂市における本種については, 立岩幸雄氏による越冬個体の観察例（荒井町, 2014 年 1 月 3 日）と, 東輝弥氏による阿弥陀町での 2008-9 年, 2015 年の記録および筆者らによる高砂公園での 2015 年の記録があるが（近藤, 2015）, 高砂市内には食草の自生が確認できておらず, いずれの観察個体も他の生息地から高砂市に飛来したものと考えられる.

今回, 2024 年 10 月に久しぶりに高砂市で本種の飛来を確認できたことを機会に, 筆者らによる未発表の観察記録と, 高砂市在住で「NPO 法人こどもとむしの会」に所属しておられる東輝弥氏から提供いただいた観察記録を合わせて, 高砂市への飛来記録として報告する. 公表済み（近藤, 2015）の 2015 年 9 月の記録も吸蜜植物を示す目的で再掲した.

兵庫県内で観察できた吸蜜植物に関しては, アメリカセンダングサ, カワラケツメイ, コバノランタナ, シロツメクサ, ヤマハギの 5 種(近藤, 2000)に「兵庫県の蝶」でヒメジョオンが追加され, その後, 新たにカタバミ, キツネノマゴ, コウヤボウキ, コセンダングサ, シソ, スミレ, セイタカアワダチソウ, センブリ, ヒメクズ, ミゾソバ, ミヤコグサ, ヤクシソウ, ヤマハッカの 13 種が追加記載された(近藤, 2015). 以上 19 種との重複も含め, 高砂市で観察できた吸蜜植物名（新規植物に下線）を本種の飛来記録に付記（画像は鮮明な記録のみ表示）し, 参考記録として加古川市での新知見吸蜜植物も示す.

【高砂市での本種および吸蜜植物の観察記録】

筆者ら以外の例にだけ観察者を付記.

1）観察日 2008 年 10 月 29 日
　観察地 高砂市西畑 4 丁目 1ex
　大木曽水路沿いの草地路面に静止

2）観察日 2015 年 9 月 20 日, 21 日, 22 日
　観察地 高砂市西畑高砂公園 1ex
　<u>ナデシコ</u>（図 1）, <u>ポーチュラカ</u>（図 2）で吸蜜
　三日間おそらく同一個体

3）観察日 2015 年 10 月 6 日
　観察地 高砂市米田町古新 1ex
　キツネノマゴで数秒吸蜜

4) 観察日 2016 年 11 月 22 日
　観察地 高砂市荒井町小松原 1ex
　ノブドウの葉上に静止

5）観察日 2019 年 10 月 4 日
　観察地 高砂市曽根町日笠山 1ex
　<u>ヌスビトハギ</u>で数秒吸蜜

6）観察日 2020 年 10 月 25 日
　観察地 高砂市荒井町浜風公園 1ex
　<u>アベリア</u>（図 3）垣根を移動しながら吸蜜

7) 観察日 2021 年 10 月 18 日
　観察地 高砂市荒井町千鳥 1ex
　観察者 東輝弥

8) 観察日 2021 年 11 月 3 日
　観察地 高砂市荒井町千鳥 1ex
　観察者 東輝弥

9) 観察日 2021 年 11 月 21 日
　観察地 高砂市高砂町木曽町 1ex
　観察者 東輝弥

10) 観察日 2022 年 10 月 13 日
　観察地 高砂市荒井町千鳥 1ex
　観察者 東輝弥

[1)] Masami SHIMAZAKI・Yoshiko SHIMAZAKI　兵庫県高砂市

図 1. ナデシコで吸蜜.
（2015/9/21 高砂市西畑高砂公園）

図 2. ポーチュラカで吸蜜.
（2015/9/21 高砂市西畑高砂公園）

図 3. アベリアで吸蜜.
（2020/10/25 高砂市荒井町浜風公園）

図 4. ヒナギキョウで吸蜜.
（2024/10/6 高砂市高砂町松波町）

図 5. カンサイタンポポで吸蜜.
（2015/10/6 加古川市西神吉町）

11) 観察日 2022 年 10 月 14 日
観察地 高砂市荒井町小松原 1ex
セイタカアワダチソウ , カタバミで吸蜜
土手斜面を転飛しながら吸蜜

12) 観察日 2023 年 3 月 16 日
観察地 高砂市曽根町日笠山 1ex
ケネザサの茂み路面に越冬個体が静止

13）観察日 2023 年 10 月 2 日
観察地 高砂市曽根町日笠山 1ex
キツネノマゴ , ノコンギクで吸蜜
傾斜地に咲く花を転飛しながら吸蜜

14) 観察日 2024 年 9 月 29 日
観察地 高砂市阿弥陀町長尾 1ex
観察者 東輝弥

15）観察日 2024 年 10 月 6 日
観察地 高砂市高砂町松波町 1ex
ヌスビトハギ , ユリオプスデイジー , ヒナギキョウ（図 4）で吸蜜
それぞれの花は約 50m 離れた位置にあり ,
本種は吸蜜しては転飛という動きを見せた .

【参考：加古川市での新規吸蜜植物】
観察日 2015 年 10 月 6 日
観察地 加古川市西神吉町中西
カンサイタンポポ（図 5）, タデで吸蜜

以上のすべての飛来記録は , 本種が行動範囲を広げるとされる秋型およびその越冬個体であるが , どこの発生地由来なのかは分かっていない . 近藤（2015）に記載されている加古川市志方町で竹内隆氏が植栽したカワラケツメイで発生した本種はその後に発生が途絶え ,

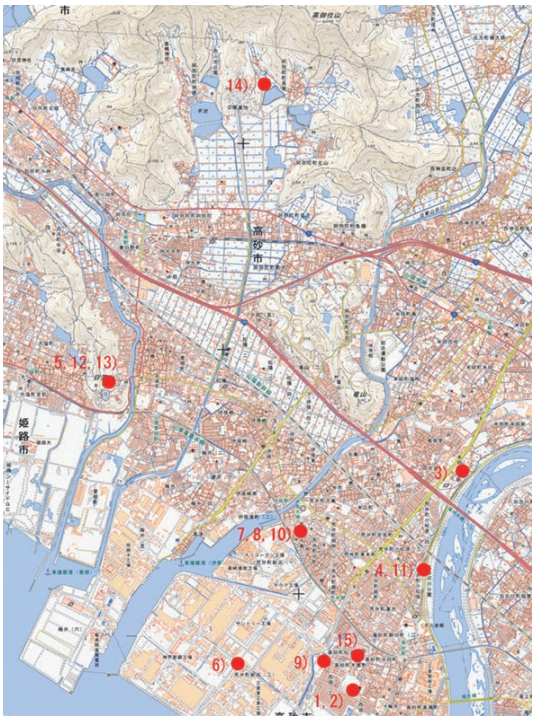


図 6. 高砂市への飛来地点.

再度の発生確認は 2020 年 9 月 20 日となっていて（竹内氏私信）, 2015 年と 2020 年の観察記録中に加古川からの飛来個体が含まれる可能性はあるが , 記録のほとんどが他地域からの飛来だと考えられる . 近隣の姫路市 , 加西市などの生息地も飛来元としての可能性はあるが確証はない . 高砂公園から約 22km の距離にある三木市の三木山森林公園内にはアレチケツメイの群落があって , 2014 年に初めての発生が確認されている（近藤 , 2015）. 筆者らはそのアレチケツメイ群落の周辺で 2022-24 年の発生を確認していて本種が継続発生をしていることは疑いないが , 本種の移動行動範囲としてこ

こから高砂市までの飛来の可能性があるのかどうかはわからない . 今回の観察地を国土地理院の地図上に示すと図 6 のようになり , 飛来目的としては吸蜜植物を求めてやってきたことがうかがえるが , 12) の例もあって越冬場所を探してやってきた可能性も考えられる .

蝶の遠距離移動に関しては , ジャコウアゲハがウマノスズクサの存在を察知して 2km 以上離れた場所から飛来して産卵した事例（1973 年高砂市：筆者らによる未発表知見）や , クロマダラソテツシジミが約 40km 離れた阪神地区（神戸市中央区相楽園と推定）から加古川市 , 高砂市のソテツの新芽を察知して飛来し , 一時的に世代をつなぐ発生をみた事例（島崎ら , 2021; 島崎ら , 2024）などがあるが , 本種の秋型の移動に関しては食草を察知しての行動とは思えない場合が多い . 具体的な実例は示されていないが , 原色日本蝶類生態図鑑（福田ら , 1982）には本種の秋型が越冬後に再び食草群落のある環境へともどる可能性が示されていて , 確認したい興味ある課題である . なお , 福田らが本種に関してはキタキチョウのように獣糞などの汚物に集まる習性は知られていないと記述して以降 , 牛糞での吸汁例が報告され（近藤 , 2000）, Web 検索でも本種が獣糞で吸汁している例がみられる .

最後に , 加古川市志方町における本種の 2017 年以降の発生状況についての情報を提供してくださった竹内隆氏 , および 2021 年以降の高砂市への飛来記録について情報を提供してくださった東輝弥氏にお礼申し上げる .

参考文献

福田晴夫・浜栄一・葛谷健・高橋昭・高橋真弓・田中蕃・田中洋・若林守男・渡辺康之 , 1982. 原色日本蝶類生態図鑑 (Ⅰ), 277pp. 保育社 , 東京

神吉正雄 , 2022. ツマグロキチョウの阪神間での確認記録 . きべりはむし , 45(2): 8-15

神吉正雄 , 2023. 阪神間におけるツマグロキチョウの記録（2023 年春季までの出現状況）. きべりはむし , 46(2): 17-24

環境省 , 2020. 環境省レッドリストの公表について . https://www.env.go.jp/press/107905.html.（ 最 終閲覧：2025 年 4 月）

近藤伸一 , 2000. 蝶類の観察記録 －訪花･吸蜜植物等－ . きべりはむし , 28(2): 22-38

近藤伸一 , 2015. 兵庫県におけるツマグロキチョウの大発生について（みんなで調べよう 2015）. きべりはむし , 38(1): 6-12

広畑政巳 , 2023. 兵庫県におけるツマグロキチョウの記録 10 数例 . きべりはむし , 46(1): 40

広畑政巳･近藤伸一 , 2007. 兵庫県の蝶 , 330pp. 岩峰社 , 東京

島﨑正美・島﨑能子 , 2021. 兵庫県高砂市におけるクロマダラソテツシジミの発生記録 . きべりはむし , 44(1): 53-57

島﨑正美・島﨑能子 , 2024. 兵庫県高砂市におけるクロマダラソテツシジミの発生記録 -2023. きべりはむし , 47(2): 46-47

獣糞での吸汁例 . http://eisenbahn.g2.xrea.com/Beast%20droppings/beast%20droppings.html（ 最終閲覧日：2024 年 12 月）

蝶と訪花植物：シルビアシジミの吸蜜植物 －第 8 報－

島﨑正美[1)]・島﨑能子[1)]

シルビアシジミ（*Zizina Emelina*, 絶滅危惧ⅠB類（環境省 , 2020）, 以下 , 本種）の兵庫県における吸蜜植物に関心を持って観察を続ける筆者たちに ,「加古川の里山・ギフチョウ・ネット」のカメラ撮影技術にすぐれた仲間が協力をしてくれるようになって , 本種の吸蜜植物は第 1-6 報（2015-2023）までの 29 種に先の第 7 報（島﨑ら , 2024）の 25 種を追加した 54 種となっている . そもそも筆者らは本種の年間発生状況を調べるついでに吸蜜個体の観察記録をとっているため植物種が限られていたが , 野外で広範囲に蝶の生態を撮影される仲間からの新規情報提供のおかげで吸蜜植物種が更新できる状況となっている .

第 7 報に付記した他県で観察記録があるニワゼキショウは発生状況調査地にも多く自生しており , 吸蜜の瞬間に期待して観察を続けているが訪花場面には出会えていない . 一方 , 本種の吸蜜植物に関心をもたれる蝶仲間の板野隆氏が , 第 7 報に報告したキツネノマゴについて鮮明な記録を氏のブログに発表され , 新規吸蜜植物 9 種の画像記録を提供してくださった . さらに , 大畑俊雄氏からも新規記録 1 種を提供いただき , 第 8 報として報告できる吸蜜植物は以下の 10 種となった . 観察日と場所（具体的な地名は非公開）および画像著作権者名を各画像の説明中に記載する .

アメリカキンゴジカ（図 1）, アレチヌスビトハギ（図 2）, イタドリ（図 3）, シナガワハギ（図 4）, サワヒヨドリ（図 5）, タウコギ（図 6）, ノアズキ（図 7）, ホソバノウナギツカミ（図 8）, ボントクタデ（図 9）, マメアサガオ（図 10）

なお , 新規吸蜜植物の画像に加えて , 第 7 報記載のキツネノマゴについて先述した板野氏による鮮明な画像記録（図 11）も示しておく .

第 7 報にまとめた花びらの色別では赤系統 21 種 , 黄系統 18 種 , 白系統 13 種 , 青系統 11 種となるが , 吸蜜対象である花芯の多くが黄色で , 蝶はその花芯の色に惹かれるという見方もあって , 花びらの色による誘引効果の考察はしないでおく . 今回は , 後述する蝶類による訪花・吸蜜植物の観察記録報告（近藤 , 2000）を参考として , 吸蜜植物の科別に整理してみた（表 1）. 新たな植物を追加した全 24 科 64 種について , 観察日と観察者（板野隆氏 , 大畑俊雄氏 , 立岩幸雄氏 , 島﨑ら , 宮下

図 1. アメリカキンゴジカで吸蜜.
（2024 年 9 月 23 日 , 神戸市 , 板野隆）

図 2. アレチヌスビトハギで吸蜜.
（2024 年 9 月 24 日 , 加古川市 , 板野隆）

図 3. イタドリで吸蜜.
（2024 年 9 月 25 日 , 加古川市 , 板野隆）

図 4. シナガワハギで吸蜜.
（2024 年 11 月 5 日 , 三木市 , 大畑俊雄）

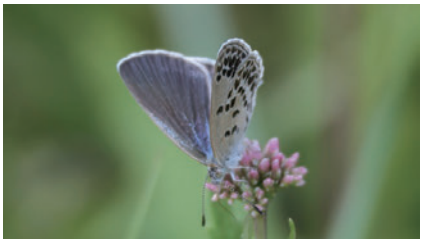


図 5. サワヒヨドリで吸蜜.
（2024 年 9 月 25 日 , 加古川市 , 板野隆）

図 6. タウコギで吸蜜.
（2024 年 9 月 25 日 , 加古川市 , 板野隆）

[1)] Masami SHIMAZAKI・Yoshiko SHIMAZAKI　兵庫県高砂市

図 7. ノアズキで吸蜜.
（2024 年 9 月 24 日 , 加古川市 , 板野隆）

図 8. ホソバノウナギツカミで吸蜜.
（2024 年 9 月 25 日 , 加古川市 , 板野隆）

図 9. ボントクタデで吸蜜.
（2024 年 9 月 25 日 , 加古川市 , 板野隆）

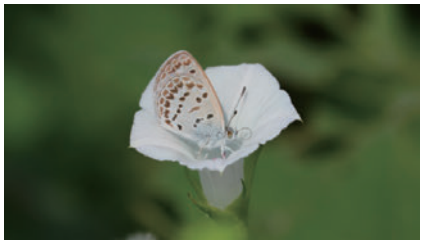


図 10. マメアサガオで吸蜜.
（2024 年 9 月 23 日 , 神戸市 , 板野隆）

図 11. キツネノマゴで吸蜜.
（2024 年 9 月 24 日 , 加古川市 , 板野隆）

表 1. これまでに確認されたシルビアシジミの吸蜜植物.

	吸蜜植物種	年	月	日	場所	観察者	
マメ科（17 種）							
1	アカツメクサ	2020	Oct.	2	高砂市	島﨑	島﨑・島﨑（2020）
2	アレチヌスビトハギ	2024	Sep.	24	加古川市	板野	（図 2）
3	カラスノエンドウ	2024	Apr.	22	三木市	大畑	島﨑・島﨑（2024）
4	コマツナギ	2020	Aug.	1	高砂市	島﨑	島﨑・島﨑（2020）
5	コメツブウマゴヤシ	2016	Apr.	24	加古川市	島﨑	島﨑（2016）
6	シナガワハギ	2024	Nov.	5	三木市	大畑	（図 4）
7	シロツメクサ	2019	July	21	高砂市	島﨑	島﨑・島﨑（2019）
8	スズメノエンドウ	2024	Apr.	22	神戸市	大畑	島﨑・島﨑（2024）
9	セイヨウミヤコグサ	2021	Apr.	18	三木市	板野	島﨑・島﨑（2024）
10	ツルマメ	2018	Sep.	11	三木市	大畑	島﨑・島﨑（2024）
11	ヌスビトハギ	2019	Oct.	1	加古川市	島﨑	島﨑・島﨑（2019）
12	ネコハギ	2022	Sep.	10	三木市	大畑	島﨑・島﨑（2024）
13	ノアズキ	2024	Sep.	24	加古川市	板野	（図 7）
14	ミヤコグサ	2015	Sep.	30	加古川市	島﨑	島﨑（2015）
15	メドハギ	2022	Sep.	24	三木市	大畑	島﨑・島﨑（2024）
16	レンゲソウ	2024	Apr.	30	三木市	大畑	島﨑・島﨑（2024）
17	ヤハズソウ	2023	Sep.	10	加古川市	板野	島﨑・島﨑（2024）
キク科（15 種）							
1	アキノキリンソウ	2018	Nov.	11	三木市	大畑	島﨑・島﨑（2024）
2	アメリカセンダングサ	2013	Oct.	30	加古川市	島﨑	島﨑（2015）
3	オニタビラコ	2024	Apr.	22	神戸市	板野	島﨑・島﨑（2024）
4	カンサイタンポポ	2016	Apr.	16	加古川市	島﨑	島﨑（2016）
5	コオニタビラコ	2024	Apr.	22	神戸市	大畑	島﨑・島﨑（2024）
6	サワヒヨドリ	2024	Sep.	25	加古川市	板野	（図 5）
7	セイタカアワダチソウ	2022	Oct.	19	三木市	大畑	島﨑・島﨑（2024）
8	タウコギ	2024	Sep.	25	加古川市	板野	（図 6）
9	タカサブロウ	2015	Sep.	5	加古川市	板野	島﨑・島﨑（2024）
10	ニガナ	2016	Apr.	23	加古川市	島﨑	島﨑（2016）
11	ヒメジョオン	2019	July	21	高砂市	島﨑	島﨑・島﨑（2019）
		2022	July	12	加古川市	島﨑	島﨑・島﨑（2022）
12	ヒヨドリバナ	2018	Nov.	4	加古川市	板野	島﨑・島﨑（2024）
13	ブタナ	2022	July	13	加古川市	島﨑	島﨑・島﨑（2023）
14	ホソバニガナ	2014	Oct.	4	加古川市	板野	島﨑・島﨑（2024）
15	ヨメナ	2013	Oct.	30	加古川市	島﨑	島﨑（2015）
タデ科（6 種）							
1	イヌタデ	2024	Apr.	30	三木市	大畑	島﨑・島﨑（2024）
2	ハナタデ	2012	Oct.	6	加東市	宮下	島﨑・島﨑（2020）
3	ボントクタデ	2024	Sep.	25	加古川市	板野	（図 9）
4	ミゾソバ	2012	Oct.	6	加東市	宮下	島﨑・島﨑（2020）
5	イタドリ	2024	Sep.	25	加古川市	板野	（図 3）
6	ホソバノウナギツカミ	2024	Sep.	25	加古川市	板野	（図 8）
オオバコ科（2 種）							
1	オオイヌノフグリ	2021	Apr.	10	加古川市	島﨑	島﨑・島﨑（2023）
2	マツバウンラン	2024	Apr.	22	神戸市	大畑	島﨑・島﨑（2024）

	吸蜜植物種	年	月	日	場所	観察者	
キキョウ科（2 種）							
1	ツリガネニンジン	2015	Sep.	30	加古川市	島﨑	島﨑（2015）
2	ヒナギキョウ	2016	Apr.	24	加古川市	島﨑	島﨑（2016）
クマツヅラ科（2 種）							
1	アレチハナガサ	2024	Oct.	17	加古川市	島﨑	島﨑・島﨑（2024）
2	ダキバアレチハナガサ	2015	Sep.	5	加古川市	板野	島﨑・島﨑（2024）
スミレ科（2 種）							
1	アリアケスミレ	2016	Apr.	16	加古川市	島﨑	島﨑（2016）
2	マスミレ	2021	Apr.	10	加古川市	島﨑	島﨑・島﨑（2022）
アオイ科							
1	アメリカキンゴジカ	2024	Sep.	23	神戸市	板野	（図 1）
アカネ科							
1	メリケンムグラ	2024	Aug.	6	神戸市	大畑	島﨑・島﨑（2024）
アカバナ科							
1	アカバナユウゲショウ	2023	July	4	加古川市	島﨑	島﨑・島﨑（2023）
カタバミ科							
1	カタバミ	2015	Sep.	30	加古川市	島﨑	島﨑（2015）
シソ科							
1	イヌコウジュ	212	Oct.	6	加東市	宮下	島﨑・島﨑（2020）
キジカクシ科							
1	ツルボ	2020	Oct.	1	高砂市	島﨑	島﨑・島﨑（2020）
キツネノマゴ科							
1	キツネノマゴ	2024	Sep.	24	加古川市	板野	（図 11）
キンポウゲ科							
1	キンポウゲ	2024	Apr.	16	加古川市	立岩	島﨑・島﨑（2024）
セリ科							
1	ヤブジラミ	2024	June	25	神戸市	大畑	島﨑・島﨑（2024）
トウダイグサ科							
1	オオニシキソウ	2023	Sep.	2	加古川市	島﨑	島﨑・島﨑（2023）
ナデシコ科							
1	ミチバタナデシコ	2019	July	21	高砂市	島﨑	島﨑・島﨑（2019）
ハエトリソウ科							
1	トキワハゼ	2024	Apr.	30	三木市	大畑	島﨑・島﨑（2024）
ヒメハギ科							
1	ヒメハギ	2016	Apr.	16	加古川市	島﨑	島﨑（2016）
ヒルガオ科							
1	マメアサガオ	2024	Sep.	23	神戸市	板野	（図 10）
フウロウソウ科							
1	アメリカフウロ	2024	Apr.	25	神戸市	板野	島﨑・島﨑（2024）
ラン科							
1	ネジバナ	2018	June	30	神戸市	大畑	島﨑・島﨑（2024）
リンドウ科							
1	ベニバナセンブリ	2024	June	25	神戸市	大畑	島﨑・島﨑（2024）

耕一氏の姓のみ）を再掲する .

板野氏によればツユクサ科のツユクサの花弁にとまる本種を観察したが , 口吻を伸ばして吸蜜する場面の確認ができなかったとのこと . 本種の生息地には , 報告済みの吸蜜植物のほかに、モンキチョウ , ウラナミシジミ , チャバネセセリなどの吸蜜を観察しているリンドウ科のリンドウとセンブリなどが自生しており , 他県で記録されたアヤメ科のニワゼキショウや上述のツユクサを含む未記録の花での吸蜜場面に注意してみる .

本種には生息地から離れて遠くまで飛ぶような習性はみられないことから , 筆者らが本種の吸蜜植物に関心を持って観察を始めた当初 , これほどまでに多様な植物種を記録できるとは考えもしなかった . これらの結果は , 兵庫県に本種の生息地が広範囲にあって , 周辺の植物環境も多様性に富んでいることを示している . これほど多くの吸蜜植物を記録できた背景として , 本種が絶滅危惧ⅠB 類の選定種であることと無関係ではないが , 先述した , 蝶類による訪花・吸蜜植物の観察記録：蝶が好む植物種の順位付けや多種類の花を訪れた蝶の種類順も示した報告（近藤 , 2000）によれば , 植物種ではアザミ類が筆頭で , 蝶種についてはモンシロチョウの訪花種が最多の 65 種（26 科）, イチモンジセセリが 48 種（21 科）, ヤマトシジミが 39 種（19 科）という順だと記載されている . 筆者らの本種の観察地では例外なくヤマトシジミが混生していて , 本種に比べてヤマトシジミの訪花性が高く , 花があればすぐに吸蜜するという印象で , ヤマトシジミの植物数が 39 種というのは少なすぎると思われた . そこで , 筆者らによる 2008-2024 年のヤマトシジミなど上位 3 種に関する観察記録を追加してみた . 下線は既報（近藤 , 2000）に追加となる科 .

モンシロチョウ 10 種

アブラナ科 : タネツケバナ ; キク科 : キバナコスモス , コスモス , ノジギク ; クマツヅラ科 : アレチハナガサ , ヤナギハナガサ ; アカバナ科 : シロチョウソウ（ガウラ）; オオバコ科 : キンギョソウ ; シソ科 : ラベンダー ; スベリヒユ科 : ポーチュラカ

イチモンジセセリ 14 種

キク科 : オミナエシ , キバナコスモス , コスモス , ダンギク ; クマツヅラ科 : アレチハナガサ , ヤナガギハナガサ ; シソ科 : ペパーミント , メドウセージ ; オミナエシ科 : オミナエシ ; ウリ科 : ゴーヤ ; キジカクシ科 : ツルボ ; ゴマノハグサ科 : ブッドレア ; スベリヒユ科 : ポーチュラカ ; ツバキ科 : サザンカ ; マメ科 : カワラケツメイ

ヤマトシジミ 33 種

キク科 : アキノノゲシ , アゲラタム , エリゲロン , キバナコスモス , コスモス , コセンダングサ , ニガナ , ノジギク , ブタナ , マリーゴールド ; マメ科 : カワラケツメイ , ヌスビトハギ , ミヤコグサ ; クマツヅラ科 : アレチハナガサ , イワダレソウ , ヤナギハナガサ ; シソ科 : アメジストセージ , バジル , ペパーミント ; キキョウ科 : ツリガネニンジン , ヒナギキョウ ; アカバナ科 : シロチョウソウ（ガウラ）; アブラナ科 : アリッサム ; オミナエシ科 : オミナエシ ; キジカクシ科 : ツルボ ; スベリヒユ科 : ポーチュラカ ; セリ科 : ヤブジラミ ; タデ科 : ヒメツルソバ ; トウダイグサ科 : オオニシキソウ ; ハエトリソウ科 : トキワハゼ ; ハマミズナ科 : マツバギク ; ヒメハギ科 : ヒメハギ ; リンドウ科 : ベニバナセンブリ

以上の記録追加で , モンシロチョウが 75 種（28 科）, ヤマトシジミが 72 種（30 科）, イチモンジセセリが 62 種（24 科）となって , 今回の本種の 64 種（24 科）は第 3 位となる . このように筆者らによる観察記録を追加しただけでもヤマトシジミにおいて本種の吸蜜植物種を超えるという結果で , 日常の観察印象と符合し , 筆者ら以外による未発表記録を考えると実際にはもっと差がつく可能性がある . こうした蝶類による訪花・吸蜜植物に多くの愛好家が関心をもてば , 既報（近藤 , 2000）を更新する新知見の追加が期待できる .

なお , 第 7 報で蝶が訪花する可能性があるのにほとんど観察できていないとしたバラ（バラ科）, キョウチクトウ（キョウチクトウ科）およびサルスベリ（ミソハギ科）について , 上記報告（近藤 , 2000）中に , バラにイチモンジセセリ , サルスベリにアゲハチョウ , ヤマトシジミ , ベニシジミ , イチモンジセセリ , そしてキョウチクトウにイチモンジセセリという訪花記録が示されていて , 今後 , 他の蝶類の訪花についても関心をもって観察をしたい .

今回の科別の整理ではマメ科とキク科植物での吸蜜が圧倒的に多いという傾向がみられるが , その理由として、これらの科の植物が蝶を誘引するなにかの成分を発散している可能性が考えられる . 春 , 秋に長旅をするアサギマダラが好んで吸蜜するフジバカマやヒヨドリバナには誘引物質のピロリジジンアルカロイド（pyrrolizidine alkaloid）が含まれていることがわかっている（本田 , 1998, 2002 ; Honda ら , 2005）. チョウ成虫について採餌行動の元となる誘引物質等の研究論文（大村 , 2006）には , キク科とマメ科植物の中にはピロリジジンアルカロイドを含むものもあるとの記載があり , 本種がこの成分に誘引される可能性が考えられるが , 論文中に本種に関する情報はない .

本種の生息地にはモンキチョウやチャバネセセリなどが好んで訪花するキク科のノアザミが多い場所もあるが , 17 種の吸蜜植物を記録されている板野氏は , ノアザミには本種が寄りつこうとしない何かがありそうだと考察されていて , 蝶が訪花を嫌う植物の存在へと視

点を変えると , 蝶類が決して花蜜を求めないと思える花類は少なくない . これまでに蝶類の訪花場面を見たことがない植物としてキンモクセイ（モクセイ科）, クチナシ（アカネ科）, ドクダミ（ドクダミ科）などがあり , これらの強い匂いを放つ植物には何らかの共通した理由があると推定できるが , この推定は上述した論文（大村 , 2006）で , キンモクセイとモンシロチョウとの関わりが立証されていて , キンモクセイが発散するγ - デカラクトン（γ -decalactone）やリナロールオキサイド（linalool oxide pyranoside, furanoside）という成分がモンシロチョウを寄せつけないとの記述がある . 実際にはモンシロチョウ以外の蝶類への忌避効果もあると考えられ , クチナシやドクダミなどの芳香成分の中にも蝶類が忌み嫌う成分があることが推察される . ノアザミに関しては上述論文（大村 , 2006）に芳香成分としてベンズアルデヒド , フェニルアセトアルデヒドなどが含まれるとの記載があって , これらの成分を好む蝶が訪花吸蜜するようだが , 本種は逆にこれらの成分を忌み嫌うのか , 興味ある研究課題である .

最後に , 第 7 報に続いて , 本報告への採用を承諾してくださった板野隆氏 , 大畑俊雄氏に深謝する .

参考文献

大村尚 , 2006, チョウ成虫の採餌行動と嗅覚情報物質 . 比較生理生化学 , 23(3): 134-142

環境省 , 2020. 環境省レッドリストの公表について . https://www.env.go.jp/press/107905.html.（ 最 終閲覧：2025 年 4 月）

近藤伸一 , 2000, 蝶類の観察記録 －訪花･吸蜜植物等－ . きべりはむし , 28(2): 22-38

島﨑正美 , 2015, 兵庫県におけるシルビアシシミの吸蜜植物 . きべりはむし , 38 (1), 4-5

島﨑正美 , 2016, 兵庫県におけるシルビアシジミの吸蜜植物－続報 . きべりはむし , 39 (1), 17-18

島﨑正美・島﨑能子 , 2019, 兵庫県におけるシルビアシジミの吸蜜植物－第 3 報 . きべりはむし , 42 (2), 15-16

島﨑正美・島﨑能子 , 2020, 兵庫県におけるシルビアシジミの吸蜜植物－第 4 報 . きべりはむし , 43 (2), 11-12

島﨑正美・ 島﨑能子 , 2022, 兵庫県におけるシルビアシジミの吸蜜植物－第 5 報 . きべりはむし , 45 (2), 34-35

島﨑正美・島﨑能子 , 2023. 兵庫県におけるシルビアシジミの吸蜜植物－第 6 報－および天敵の観察 . きべりはむし , 46 (2) : 40-41

島﨑正美・島﨑能子 , 2024. 蝶と訪花植物：シルビアシジミの吸蜜植物－第 7 報－ . きべりはむし , 47 (2) : 41-45

本田計一 , 1998, 鱗翅目昆虫とアルカロイド . 化学と生物 , 36: 359-367

本田計一 , 2002, アサギマダラとアルカロイド . 昆虫と自然 , 37(6): 12-16

Honda, K., Honda, Y., Yamamoto, S. and Omura, H, 2005, Differential utilization of pyrrolizidine alkaloid by males of danaid butterfly, Parantica sita, for the production of danaidone in the alar scent organ. J. Chem. Ecol., 31: 959-964

クズクビボソハムシの兵庫県南東部からの追加記録

吉田浩史[1)]

はじめに

クズクビボソハムシは 2016 年に東京都港区からはじめて記録された外来種である (南・上田 , 2018)．関東では東京都内で分布拡大した他，神奈川 (上田 , 2020)，埼玉 (加藤・田中 , 2023)，千葉 (長田 , 2023) の各県でも記録された．

関東以外では，兵庫県神戸市 (吉田 , 2021b) および福岡県福岡市 (上野ら , 2024) から少数の記録があるのみと思われる．

神戸市からの記録は，2021 年 9 月に神戸市東灘区の都市公園で 1 個体が採集されたもので，周辺にクズは生えておらず移動中の個体と推測された (吉田 , 2021b)．

その後，2024 年 8 月に神戸港周辺のクズ群落において 3 個体が確認され，定着・分布拡大の可能性が考えられたため，同年 8 月から 12 月にかけて兵庫県南東部のクズ群落において調査を行った．

結果

2024 年 8 月から 12 月にかけて，神戸市南部から西宮市の河川周辺や大型都市公園などにおいてクズクビボソハムシ（以下，一部を除きハムシと略記）の食草であるクズを探索した．クズ群落を発見した場合，スウィーピングによりハムシの採集を行った．

その結果，神戸市南西部の 5 ヶ所及び西宮市の 1 ヶ所でハムシの成虫が確認された．港や海の近くだけでなく，海から 1km 以上離れた内陸部でも確認された．

データ

甲虫目　ハムシ科

クズクビボソハムシ　*Lema diversipes* Pic, 1921

神戸市東灘区向洋町中 , 六甲アイランド南公園 , alt.1m, 3exs., 8. VIII. 2024; 東灘区魚崎南町 , 住吉川沿い , alt.1m, 1ex., 12. IX. 2024; 神戸市灘区千旦通 , 都賀川公園 , alt.30m, 1ex. (他 2 個体目撃), 30. X. 2024; 灘区摩耶海岸通 , 西郷川河口公園 , alt.5m, 2exs. (写真 1), 31. X. 2024; 神戸市中央区小野浜町 , みなとのもり公園 , alt.3m, 3exs., 13. XI. 2024; 西宮市羽衣町 , 夙川公園 , alt.10m, 1ex. (他 3 個体目撃，写真 1), 12. X. 2024.

採集者はすべて筆者（吉田浩史）である．

調査記録（2024 年）

・六甲アイランド南公園（写真 2）

神戸市東灘区向洋町中，標高 1m.

神戸市南東部の人工島，六甲アイランド南端の公園．周辺にクズが多く生えている．また，公園の周辺には複数のコンテナターミナルがあり，海外から持ち込まれたコンテナも多く保管されている．8 月 8 日に公園中央付近北側のクズ群落においてハムシ 3 個体が確認された．9 月 5 日，9 月 27 日にも調査を行ったが，ハムシの食痕と思われるものは見られたが追加個体は得られなかった．

・向洋西公園

神戸市東灘区向洋町中，標高 5m.

六甲アイランド内陸部の公園．園内の一部にクズが生えている．9 月 5 日に調査を行った．ハムシのものと思われる食痕を少数確認したが，生体は確認できなかった．

・住吉川沿い（写真 3）

神戸市東灘区魚崎南町，標高 1m.

住吉川沿い，河口から約 180m の地点．河川周辺の一部にクズがまとまって生えている．9 月 12 日にはクズにハムシのものと思われる食痕が多数見られたが，スウィーピングの結果ハムシ 1 個体が確認されたのみであった．10 月 11 日にも調査を行ったが，ハムシは確認されなかった．

・都賀川公園（写真 4）

神戸市灘区千旦通，標高 30m.

都賀川沿いの公園．クズは河川沿いの公園の一部でのみ繁茂している．河口から約 1.4km の地点にあるクズ群落で 10 月 30 日にハムシ 3 個体を確認した．なお，この群落からは 2020 年に外来種ムネアカオオクロテントウが記録されている (吉田 , 2021a)．

1) Hiroshi YOSHIDA　神戸市東灘区

図 1．クズ葉上のクズクビボソハムシ．（西宮市夙川公園, 10 月 12 日撮影）

図 2．六甲アイランド南公園周辺のクズ群落．（8 月 8 日撮影）

図 3．住吉川沿いのクズの食痕．（9 月 12 日撮影）

図 4．都賀川公園のクズ群落．（10 月 30 日撮影）

図 5．西郷川河口公園周辺のクズ群落．（10 月 31 日撮影）

図 6．みなとのもり公園周辺のクズ群落．（11 月 13 日撮影）

図 7．神戸空港島中央緑地のクズ群落．（11 月 15 日撮影）

図 8．須磨海岸のクズ群落．（10 月 15 日撮影）

図 9．芦屋市緑町のクズ群落．（11 月 16 日撮影）

図 10．夙川公園のクズの食痕．（10 月 12 日撮影）

・西郷川河口公園（写真 5）

神戸市灘区摩耶海岸通，標高 5m.

西郷川の河口近くにある公園．公園自体は花壇を中心によく管理されており，クズは生えていない．公園に隣接して阪神高速道路の摩耶 IC があり，一般人の立ち入りできない場所にクズが繁茂している．遠目で見るとハムシのものと思われる食痕が見られた．一部フェンス越しに公園にクズが侵入している部分があり，10 月 31 日にハムシ 2 個体が採集された．

・新神戸駅～生田川周辺

神戸市中央区葺合町布引山～国香通，標高 20 ～ 60m.

ハムシが新幹線により運ばれた可能性を考慮し，10 月 1 日に新神戸駅周辺を探索したが，クズは確認できなかった．周辺を流れる生田川沿いを南下して調査した結果，一部にクズが繁茂する箇所があったが，ハムシおよび食痕は確認されなかった．

・みなとのもり公園（写真 6）

神戸市中央区小野浜町，標高 3m.

中央区の本土側沿岸部に位置する公園．南側には人工島ポートアイランドがあり，神戸大橋で結ばれている．クズ群落は南西側にのみ存在するが，大半はフェンスの向こう側の立ち入りできない部分にある．11 月 13 日に多くの食痕とハムシ 3 個体を確認した．

・ポートアイランド中央緑地

神戸市中央区港島南町，標高 10m.

神戸市南部の人工島，ポートアイランド内陸部の公園．クズは公園の周辺に少数生えているのみ．9 月 9 日および 11 月 13 日に調査を行ったが，ハムシおよび食痕は確認されなかった．

・ポートライナー医療センター駅周辺

神戸市中央区港島南町，標高 10m.

ポートライナー医療センター駅から上記中央緑地までの通路の両脇にクズが生えている．9 月 9 日に調査を行ったが，ハムシおよび食痕は確認されなかった．11 月 13 日の調査時には，少し前に草刈りが行われたようで，通路側にはみ出したクズはほとんど見られなくなっていた．ハムシおよび食痕は確認されなかった．

・ポートアイランド西緑地

神戸市中央区港島港町，標高 5m.

ポートアイランド南西岸に位置する細長い緑地．クズは一部にのみ存在する．11 月 15 日に調査を行ったが，ハムシおよび食痕は確認されなかった．

・神戸空港島（写真 7）

神戸市中央区神戸空港，標高 1m.

ポートアイランドの南にある人工島，神戸空港島にある中央緑地（吉田 (2015) において公園とされた場所）と周辺の道路沿いにクズが生えている．空港からハムシが侵入した可能性を考え，9 月 9 日および 11 月 15 日に調査を行った．9 月にはクズは一部にまとまって生えているのみであったが、11 月にはそこから伸長して広範囲に広がっていた．ハムシおよび食痕は確認されなかった．9 月には同群落から外来種ムネアカオオクロテントウ 1 個体が確認された．

・須磨海岸（写真 8）

神戸市須磨区須磨浦通，標高 1m.

JR 須磨駅の西側，須磨浦漁港周辺にクズ群落がある．10 月 15 日に調査を行ったが，ハムシおよび食痕は確認できなかった．海が近いために塩の影響を受ける可能性がある．この群落については 2023 年以前にも何度か採集を行っていた．マルカメムシは多いが，ハムシやムネアカオオクロテントウは確認されていない．

・芦屋川沿い

芦屋市松ノ内町～緑町，標高 30 ～ 0m

芦屋市内を流れる芦屋川の河川敷および左岸側の公園．11 月 10 日に阪急芦屋川駅（松ノ内町）から阪神芦屋駅（公光町）周辺，11 月 16 日に阪神芦屋駅から芦屋川河口（緑町）周辺にかけて調査を行った．松ノ内町の芦屋川河川敷，緑町の道路沿い緑地（写真 9）の狭い範囲でのみクズ群落は見られたが，ハムシや食痕は確認されていない．

・夙川公園（写真 10）

西宮市羽衣町，標高 10m.

西宮市内を流れる夙川沿いの公園．池の周辺にクズが生えている．夙川河口からは約 1.7km 離れている．10 月 12 日に調査を行い，広範囲のクズ葉上に本種と思われる食痕が多数みられたが，確認された生体は 4 個体のみであった（写真 1）．

考察

今回調査を実施した神戸市南部および阪神間は都市部であるが，クズは河川周辺や大型の公園，埋立地などで見られる．クズは川や道路に沿って線状に生育するのではなく，局地的にまとまった群落を形成しており，そこから離れるとほとんど見られなくなる．つまり，クズ群落は広範囲に点在し，ハムシはそれを飛び石のように利用して分布を拡大している可能性がある．ハムシの移動方法については不明であるが，自力で飛行もしくは風

に乗って移動するほか，今回の範囲については都市部であるため自動車や電車による移動も考えられる．

兵庫県への侵入経路についてであるが，すでに広まっている関東地方と兵庫県の間の中部・近畿地方から記録がないこと，六甲アイランドの港周辺で確認されたことから，関東の個体群とは別ルートで海外から神戸港に侵入した可能性がある．関東から新幹線や航空機で移動した可能性も考えられるが，新幹線の新神戸駅や神戸空港周辺ではハムシは確認されておらず，それらを裏付けるデータは得られていない．住吉川や夙川の記録に見られるように，クズの葉に多くの食痕が見られてもハムシは少数しか確認されない例や，六甲アイランドや住吉川のようにすでにハムシが確認された地点でも一ヶ月後には確認されなかった例もあり，調査時には注意が必要である．これらの例は成虫が死亡したか，もしくは同一箇所にとどまらず移動分散したものと考えられるが，実際の成虫の動向については不明である．

今後は兵庫県南西部を中心に兵庫県内や隣接する大阪府などへ分布拡大の可能性があり，注目が必要と思われる．

引用文献

加藤敦史・田中 努 , 2023. 外来種クズクビボソハムシが埼玉県に侵入 . 寄せ蛾記 , (187): 30-32.

南 雅之・上田衛門 , 2018. 日本初記録の外来種クズクビボソハムシ (新称) における知見 . 月刊むし , (568): 23-25.

長田庸平 , 2023. 千葉県市川市でクズクビボソハムシを採集 . 月刊むし , (631): 45.

上田衛門 , 2020. 川崎市多摩川河川敷にてクズクビボソハムシを採集 . 神奈川虫報 , (203): 13.

上野高敏・上野義人・上野信人 , 2024. 外来種クズクビボソハムシ *Lema diversipes* Pic, 1921 を福岡市から多数確認 . Pulex, (103): 1077-1079.

吉田浩史 , 2015. 神戸空港島の昆虫相 , きべりはむし , 37(2): 37-48.

吉田浩史 , 2021a. 神戸市内からのムネアカオオクロテントウの記録 . きべりはむし , 44(1): 101-102.

吉田浩史 , 2021b. 神戸市内から記録されたハムシ科移入種 2 種 . きべりはむし , 44(2): 60-61.

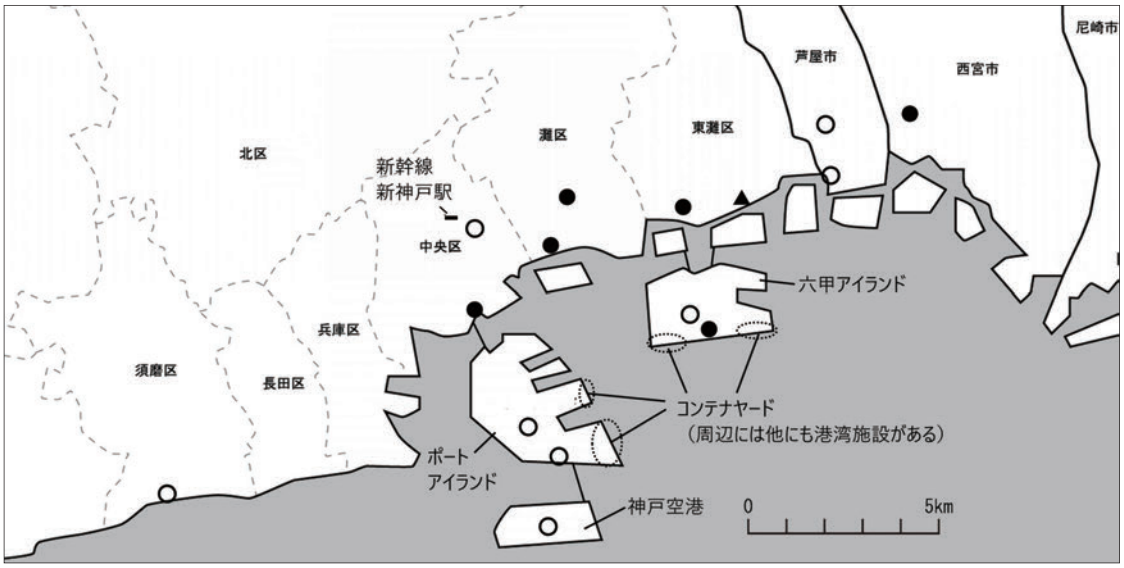


図 11　クズとクズクビボソハムシの確認地点
●：クズとハムシが確認された地点（2024 年）
○：クズはあるがハムシは確認されなかった地点
▲：クズはないがハムシは確認された地点（2021 年）

ベニトンボ *Trithemis aurora* (Burmeiter,1839) 羽化個体観察

東 輝弥[1)]

1．はじめに

2024 年 9 月 28 日にナニワトンボ確認のために赤穂郡上郡町岩木の船谷池に行った (写真 1)．すると見慣れないトンボの未熟個体が静止していたので写真を撮っておいた (写真 2)．帰宅してから図鑑で確認するとベニトンボであった．なお当日確認した個体数は 5 ♂ 2 ♀で内 2 ♂を採集した．30 日にまだ移動せずにいるかもしれないと思い観察に出かけたら，新たに今日羽化したばかりの 2 ♂ 1 ♀個体を発見した．またこの日には，成熟 1 ♂が池に張り出した木の枝に縄張り飛翔のためにいるのを目撃し写真撮影をした (写真 3)．成熟個体の記録は多くありますが羽化直後の成虫の記録はあまり無いように思うので参考になればと思い報告します．

2．船谷池におけるベニトンボの羽化状況

2024 年 9 月 28 日に 5 ♂ 2 ♀を確認したそのうち 1 ♂は羽化して大分時間が経っている居るようで体色の変化が進んでいた．また 1 ♀は羽化して初飛翔してきたばかりの体色が薄い個体が居た．他の個体は数時間経っている模様で体色の変化が見られた．

9 月 30 日には羽化して数時間経っている 2 ♂ 1 ♀個体を確認した，そして成熟した 1 ♂が縄張り飛翔しているのを確認した．

10 月 5 日にもまだ羽化している個体があるのではないかと思い観察に出かけたところ，羽化後数時間経っている個体 3 ♂ 4 ♀と成熟個体 1 ♂の計 8 個体を確認することが出来た．成熟個体は 9 月 30 日に確認した個体がそのまま移動せずにいたと思われた．観察した個体は 1 ♂を除いて当日羽化した個体ばかりで数日経っている個体を見つけることは出来なかった．また，10 月 9 日にも 1 ♂ 1 ♀を確認したが，成熟♂は見つからなかった．

この船谷池で確認できた個体数は計 10 ♂ 8 ♀で，観察に行っていない日にも羽化はしていると思われるので，全体としては相当な数の個体が羽化したと思われる．なお，念のために 10 月 17 日にも観察に行ったが見つける事は出来なかった．

当池で羽化した個体は帰ってくるのか，池から離れた個体はそのまま他の地域移動してしまうのか不明である．

姫路市飾東町の新池では，2022 年 9 月 24 日から 10 月 5 日まで本種が飛来していたが，2023 年は飛来が無かった．しかし，2024 年は 10 月 9 日から 10 月 12 日まで成熟♂が飛来し，10 月 25 日には羽化したてのＩ♂を発見し採集をした (写真 4)．

3．ベニトンボについて

本種は南方系の種であって近年棲息域を拡大中の種である．当県でも棲息地が増えてきているが，生態に関しては不明な点がある．

図鑑等の解説によると卵期は 1 ～ 2 週間で幼虫期間は 3 ～ 8 ヶ月程度で年間発生回数は 1 ～多世代となっている．当地では水温の関係で幼虫越冬は無理と思われるが卵越冬ならば可能かもしれない．卵越冬したとして 4 月に孵化して 9 月に羽化したとすれば，幼虫期間は 5 ヶ月であるから可能性はある．5 月から 6 月に飛来し産卵している可能性もあるが、当地の気温と幼虫期間を考慮すると、少し無理があるように思われる。

未熟個体は棲息水域近くの草むら，林縁等にいるように書かれている．当池においても草むらにいて，特に背の低い藺草等の先に止まっていた（写真 5-6）．9 月 30 日に成熟個体が現れたのは当池から発生した個体でなく，他の地域で発生した個体が飛来したと思われる．

近隣府県では大阪府・和歌山県・奈良県・滋賀県からの報告が有り，また岡山県からも報告が有る．特に大阪府・和歌山県の棲息状況の詳しい記録が Gracile 78,79 にて報告されている（山本・西浦，2018；西浦，2019）．また，奈良県におけるベニトンボの記録と生態観察の詳しい観察記録が Gracile 81,82 及び関西トンボ談話会の連絡誌 2024-2 において報告されている（片谷・片谷，2021；片谷・片谷，2023；片谷，2024）．

1) Teruya AZUMA　兵庫県高砂市


写真 1．船谷池.


写真 2．未熟個体.


写真 3．成熟♂.


写真 4．羽化したての個体.


写真 5．羽化したての個体が止まっていた場所.


写真 6．羽化したての個体.

4．考察

ベニトンボは播磨地域でも定着の可能性が高まってきたが羽化した個体が発生した池に帰って来ていない，そのまま他の地域に移動してしまうのか現在のところ不明である．移動の時期も，未熟期か成熟してからか不明である．羽化してから成熟するまでの期間が不明なので観察を続ける必要がある．

5．参考文献

東 輝弥・三浦喜太郎・糸数幸高，2022．兵庫県播磨地域の 4 ヶ所でベニトンボ確認．きべりはむし，45(2)：59-60.

石田真哉・石田哲哉，2019．姫路市初記録となるベニトンボ採集．きべりはむし，42(2)：63-64.

稲畑憲昭，2017．淡路初記録となるベニトンボを採集．きべりはむし，40(1)：40~41.

尾園暁・川島逸郎・二橋 亮，2012．ネイチャーガイド日本のトンボ．文一総合出版.

片谷直治・片谷俊彦，2021．奈良県におけるベニトンボの記録．Gracile，81：1-9.

片谷直樹・片谷俊彦，2023．2021 年の奈良県におけるベニトンボの記録．Grsacile，82：26-41.

片谷直治, 2024．ベニトンボのマーキング調査(奈良県)．関西トンボ談話会の連絡誌，2024-2.：2-4.

杉村光俊・石田昇三・小島圭三・石田勝義・青木典司，1999．日本トンボ幼虫・成虫大図鑑．北海道大学図書刊行会.

杉村光俊・小坂一章・吉田一夫・大浜祥治，2008．中国・四国のトンボ図鑑．いかだ社.

杉村光俊・吉田一夫・山本哲央・大浜祥治，2023．四国・中国・近畿のトンボで解る快適環境．いかだ社.

西浦信明, 2019　大阪府と和歌山市のベニトンボ．続報.

Gracile，79：1-4.
浜田康・井上清，1985．日本産トンボ大図鑑　Ⅱ解説編．講談社.
三浦喜太郎，2019．ベニトンボ加西市で撮影．きべりはむし，42(2)：64.
村木明雄・落合修一，2024．滋賀県初記録のベニトンボ．Gracile，83：1-4.
村重 隆，2018．神戸市でベニトンボを採集．Gracile，78：23.
山本哲央・西浦信明，2018．大阪府でベニトンボ確認．Gracile，78：19-22.

たんぽう

兵庫県北部でワタナベカレハを採集

髙橋輝男

2023 年 6 月 24 日に養父市丹戸の鉢伏高原（標高 1,050m）でライトトラップを行ったところ，22 時頃に一頭のワタナベカレハ *Gastropacha watanabei*（Fig.1）が飛来した．開張は 67.0 mmであった．養父市丹戸では同年 8 月 19 日にも一頭確認している．また，2023 年 8 月 24 日には美方郡香美町大笹の東鉢伏高原（標高 1,000m）でもライトトラップに飛来した一頭を確認している．

本県における本種の記録は見出せなかったが（宇野，2024；宇野ら，2024），隣接する鳥取県では多産することが報告されている（松井ら，2018）．本県で現在まで報告がなかったのは，十分に調べられていなかったことに原因があると思われる．

【採集記録】兵庫県養父市丹戸（鉢伏高原），24. Ⅵ .2023. 19. Ⅷ .2023.
兵庫県美方郡香美町大笹（東鉢伏高原），24. Ⅷ .2023.

Fig.1　ワタナベカレハ（開張 67.0mm）.

○引用文献

宇野宏樹，2024．兵庫県産蛾類の外観について - 兵庫県産蛾類分布記録データベースの作成にあたって -．きべりはむし，47(2)：12-27.
宇野宏樹・池田 大・阪上洸多，2024．兵庫県産蛾類分布記録データベース．https://www.konchukan.net/moths/moths_of_hyogo.html（最終閲覧：2025 年 1 月）
松井悠樹・山岸瑞樹・中秀司，2018．ワタナベカレハは鳥取県東部産地で多産する．ゆらぎあ，36：12-13.

（Teruo TAKAHASHI　兵庫県神崎郡福崎町）

兵庫県のシタキドクガについて

髙橋輝男

筆者はシタキドクガ *Calliteara taiwana aurifera* を市川町と香美町で確認しているのでここに報告する．

市川町のシタキドクガはいずれも播但連絡道路市川サービスエリアの上下線を繋ぐ地下トンネルの中で 2015 年 9 月 2 日 22 時 30 分頃に 1 ♂を（Fig.1），2016 年 5 月 24 日 21 時 15 分頃に 1 ♀を見つけた．香美町の個体は，2021 年 9 月 11 日と 30 日に同町大笹でライトトラップを行ったところ，それぞれ 19 時 45 分頃と 21 時半過ぎに各 1 ♀が飛来した（Fig.2）．

幼虫の食草はブナ科コナラ属のアベマキ，クヌギ，アカガシである．本種はこれまでに兵庫県で報告がなく（宇野，2024；宇野ら，2024）初記録となる．

【採集記録】兵庫県神崎郡市川町屋形, 2. Ⅸ . 2015. 1 ♂, 24. Ⅴ . 2016. 1 ♀.
兵庫県美方郡香美町大笹（東鉢伏高原），11. Ⅸ . 2021. 1 ♀，30. Ⅸ . 2021. 1 ♀.

Fig.1　市川町産シタキドクガ♂（前翅長約 23mm）.

Fig.2　香美町産シタキドクガ♀（開張 76.0mm）.

○引用文献

宇野宏樹，2024．兵庫県産蛾類の外観について - 兵庫県産蛾類分布記録データベースの作成にあたって -．きべりはむし，47(2)：12-27.
宇野宏樹・池田 大・阪上洸多，2024．兵庫県産蛾類分布記録データベース．https://www.konchukan.net/moths/moths_of_hyogo.html（最終閲覧：2025 年 1 月）

（Teruo TAKAHASHI　兵庫県神崎郡福崎町）

南方系の蛾 2 種，シロテンアカマダラヒメハマキとハラゲエダシャクの上郡町からの記録

大貝秀雄

シロテンアカマダラヒメハマキ

Gatesclarkeana idia Diakonoff, 1973

上郡町八保丙；1 ♀ , 10. X .2024（図 1）.

国内では四国，九州，屋久島，奄美大島，沖縄本島，石垣島，西表島に，また台湾，中国，東南アジア，マルク諸島に分布するとされ，亜熱帯から熱帯に適応した種であると思われる．Web 情報等によれば，この種は近年になって本州の各地で急速に分布を拡大しつつあることが知られる．例えば 2006 年に岐阜県山県市で（岐阜聖徳学園大学・川上研究室，2025），2019 年に大阪府大東市で撮影されており（pearl, 2025），愛知県では既に優占種となっているといわれ（みんなで作る日本産蛾類図鑑；新蛾像掲示板，2025），関東地方にまで分布を広げている（斉藤，2021；田中ほか，2021）．兵庫県においても既に相生市からの報告があり（高橋，2023；宇野ら，2024），このたび上郡町でも確認された．

本種は今後ますます広汎にみられる種になるものと思われる．

図 1：シロテンアカマダラヒメハマキ♀，公衆トイレの外壁に静止．

図 2：ハラゲエダシャク♀．

ハラゲエダシャク

Diplurodes vestita fuscovestita Inoue, 1976

上郡町八保丙；1 ♀ , 7.VIII.2024（図 2）.

岸田（2011）によれば国内では四国（高知県），九州，屋久島の記録があるとされる．

名義タイプ亜種はベトナム，タイ，マレー半島，ネパール，インド北部に分布し，日本と台湾のものは亜種 *fuscovestita* とされている．*fuscovestita* は名義タイプ亜種に比べ，内横線と外横線の間が濃色となり，後翅の中横線が後方で強いなどの特徴で区別された（Inoue, 1976）．今回上郡町で得た個体を，図鑑で見ることのできる屋久島産の標本と比べると中横線は同程度に後方で強いが前後翅の中央部が明らかに淡色であり，印象が異なっている．しかし上郡産と同様の特徴をもつと思われる個体は九州本土部でも多く見られるという（岸田，2011）．

本種の分布域として岸田（2011）は本州をあげていないが，千葉県では 1998 年以前の採集例があり，千葉市内と梅ヶ瀬渓谷の少なくとも 2 地点で記録されている（岩阪，1999）．兵庫県でも 2001 年に神戸市の諏訪山公園で得られており（山口，2003），また上郡町に隣接する相生市でも 2022 年から確認されている（高橋，2023）．

このように本種が近年になって本州から記録されはじめたことは，南方系種の北上の結果かとも考えられるが，上記シロテンアカマダラヒメハマキをはじめとする他の北上傾向が強い種でみられるような爆発的な分布拡大は今のところ認められていないので，古くから本州の低山地で局地的に土着していた可能性も否定しきれず，今後の調査が待たれる．もし，このまま本種の分布が拡大せず，かつ，従来の記録地での発生が継続するのであれば，古くから局地的に土着していたものと認めて良いのかもしれない．

○引用文献

岐阜聖徳学園大学・川上研究室，2025．新・理科教材データベース　進化する昆虫図鑑．http://www.ha.shotoku.ac.jp/~kawa/KYO/SEIBUTSU/DOUBUTSU/06chou/ga/hamakigaka/shirotena/01.html (参照 2025 年 1 月 24 日)

Inoue, H.，1976．Descriptions and records of some Japanese Geometridae (V)．TINEA，10(2)：7-37.

岩阪佳和，1999.「梅ヶ瀬渓谷自然環境保全区域」北部地域の蛾類調査報告．房総の昆虫，(22)：1-44.

岸田泰則, 2011．日本産蛾類標準図鑑 I．学研教育出版，東京．352pp.

みんなで作る日本産蛾類図鑑；新蛾像掲示板，2025．画像タイトル：1729857202431.jpg-(118880 B). http://www.jpmoth.org/fbbsw/index.html (参　照

2025 年 1 月 24 日)
那須義次・広渡俊哉・岸田泰則編集，2013．日本産蛾類標準図鑑 IV．学研教育出版，東京．552pp.
pearl，2025．北河内昆虫記．シロテンアカマダラヒメハマキ．https://osaka-insecta.sakura.ne.jp/moth/d-shirotenakamadarahimehamaki.html (参照 2025 年 1 月 24 日)
斉藤修，2021．千葉県木更津市で採集したキモントガリバヒメハマキとシロテンアカマダラヒメハマキ．誘蛾燈，(245)：130.
髙橋弘樹，2023．相生市「羅漢の里」公園で確認された蛾類の記録（3）- 相生市三濃山麓の蛾 2020-2023．きべりはむし，46(2)：1-16.
田中淑喬・沼田和洋・斎藤秀昭・鳥海清一，2023．シロテンアカマダラヒメハマキを神奈川県平塚市で採集．誘蛾燈，(243)：53.
Tsukuji, Takuro, 2025. シロテンアカマダラヒメハマキ．虫ナビ．https://mushinavi.com/navi-insect/data-ga_himehamaki_sirotenakamadara.htm (参照 2025 年 1 月 24 日)
宇野宏樹・池田 大・阪上洸多，2024．兵庫県産蛾類分布記録データベース．https://www.konchukan.net/moths/moths_of_hyogo.html#anchor_Tortricidae. (参照 2025 年 1 月 24 日)
山口福男，2003．諏訪山公園の蛾（続報）．きべりはむし，31(1)：80.

（Hideo OGAI　兵庫県上郡町）

兵庫県相生市におけるケブカアメイロアリの記録

菅藤康平

ケブカアメイロアリ *Nylanderia amiga* (Florel, 1913) は体長約 2.5 - 3 mm ほどの褐色から黒褐色をしたアリであり，東南アジア原産の放浪種である（寺山ら，2014）．国内において，かつては小笠原諸島や南西諸島でのみ見られたが，2010 年代以降西日本の各地及び東日本の大都市を中心に分布が確認されている（久末・辻，2020）．

筆者は，2024 年 12 月 2 日に JR 相生駅で採集した個体を iNaturalist に投稿したところ，ケブカアメイロアリであるとご教授いただいた．文献調査を行った結果，相生市での記録は見当たらなかったことから，ここに報告する．

2. XII. 2024. 兵庫県相生市 JR 相生駅　筆者採集 (写真 1・2).

写真 1.

写真 2.

○引用文献
久末 遊・辻 雄介，2020．ケブカアメイロアリ *Nylanderia amia* の四国における記録と近年の分布拡大について．Ari 蟻，（41）：18-36.
寺山 守・久保田 敏・江口克之，2014．日本産アリ類図鑑．278pp.，朝倉書店，東京.

（Kohei KANTO　兵庫県立大学附属高等学校）

ムクゲカメムシ類の角亀川流域における生息状況

菅藤康平

角亀川 (図 1) は，兵庫県たつの市新宮町二柏野地域を流れるやや小さい川である．この川では，兵庫県立大学附属高等学校自然科学部生物班員によるファウナ調査が実施されており，筆者自身もその調査を行ってきた．

ムクゲカメムシは，体長 0.5 ～ 3.0mm の世界最小級のカメムシの仲間で，世界に約 430 種，日本に 9 種が知られているが，微小で地味で目立たないため採集例が少なく，都道府県レベルで取りまとめた報文は少ない．本校自然科学部生物班においても，これまでムクゲカメムシ類のファウナ調査は調査されておらず，角亀川におけるムクゲカメムシ相は長らく不明のままであった．

筆者は，2024 年 6 月から 2024 年 9 月まで当地で調査した結果，2 種のムクゲカメムシ類の生息を確認することができたため報告する．

調査で得られたムクゲカメムシ類の 2 種を以下に示す．採集地は全て兵庫県たつの市新宮町二柏野角亀川流域であり，記録者も全て筆者であるため省略した．

1．カワラムクゲカメムシ

Pachycoleus japonicus (Miyamoto, 1964)　図 2

【採集記録】川岸の石の下：26. VI. 2024, 5. VII. 2024.

2．トビイロムクゲカメムシ

Alpagut masakazui Yamada & Hayashi, 2020　図 3

【採集記録】川岸の石の下：5. VII. 2024, 10. IX. 2024.

今回の調査では，2 種類のムクゲカメムシ類の生息状況が明らかになった．しかし，調査期間が短かったこと，調査区域が狭い範囲だったことから，角亀川のムクゲカメムシ相の生息状況が全て明らかになったとは言えない．今後も本校自然科学部生物班で調査を継続していく方針である．

末筆であるが，同定等にご協力いただいた山田量崇氏に厚くお礼申し上げる．

（Kohei KANTO　兵庫県立大学附属高等学校）

図 1.

図 2.

図 3.

芦屋市におけるヒトエグモ *Plator nipponicus* の写真記録

西 隆広

ヒトエグモは兵庫県版レッドリスト 2017（哺乳類・爬虫類・両生類・魚類・クモ類）1) で A ランクである（兵庫県，2017）．本種について芦屋市内で次の写真記録を得たので報告する．この個体は，住宅のコンクリート塀に静止していた．筆者はクモ類について不案内であるが，所有の図鑑（八木沼，1960）により同定した．

ところで本種の県内での観察場所に関する兵庫県レッドリストの記述は，『豊岡市では大工小屋の木材の隙間，川西市では人家の室内，姫路市内の寺院の漆喰の壁でそれぞれ見つかっている．いずれも人家と関係が深い場所で，日本における従来の発見例と類似したパターンである』となっている（兵庫県，2017）．所有の図鑑では，本種の観察例は建物や石碑などの隙間に多いとのことであるが（八木沼，1960），この個体は隙間ではなく道路に面した宅地のコンクリート塀の道路側で，前面

写真 1.

には遮蔽物がない開けた場所に静止していた．道路は車の通行も人通りも極めて少ない．本種の静止していた塀の面は当時日陰だった．当時の天候は晴れ，当日は前々日の大雨で気温がやや低かったと野帳に記述している．

本種を撮影した地域は，城山（鷹尾山）南麓に位置し，現在は住宅街が広がっている．かつて当地域周辺を含む一帯は，芦屋川の流下水を利用した水車群が江戸から昭和初期まで存在していた（芦屋市教育委員会，2007）．そして需要に応じ絞油（菜種油絞り），精米（酒米），製粉（素麺原料）をおこなっていたが，大正時代以降モーター動力の普及で衰退し，昭和初期，精道村（芦屋市の前身）による芦屋川上流から導水する水道事業の過程で，昭和 6 年（1931 年）に水車稼働の水利権が解消され多くが廃業した．当地域どのような経過をたどって現在の土地利用に至ったかについては不明であるが，大規模な土地改変を伴う宅地開発は行われず現在に至っていると推定される．

芦屋市山芦屋町 . 16. Ⅶ . 2020（写真 1）

○引用文献

芦屋市教育委員会，2007．芦屋川水車場跡地発掘調査報告書―城山古墳群第 120 号墳と芦屋川水車場跡地の発掘調査成果．芦屋市文化財調査報告，71．

兵庫県，2017．兵庫県版レッドリスト 2017（哺乳類・爬虫類・両生類・魚類・クモ類）．https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/application/files/7015/0581/4456/9a76965632b8fac42519cbcbcbf79eb2.pdf （最終閲覧：2025 年 1 月）

八木沼健夫, 1960．原色日本蜘蛛類大図鑑．保育社, 大阪．186pp.

（Takahiro NISHI　兵庫県芦屋市）

養父市でコガタノゲンゴロウを初記録

泉山真寛

2024 年 12 月に兵庫県養父市でコガタノゲンゴロウ *Cybister tripunctatus lateralis* が初めて確認されたので報告する．なお，希少な昆虫につき，調査地の詳細は明らかにしないことをお断りしておく．12 月 21 日及び 25 日に調査を実施し，計 2 個体が採集された．

養父市産コガタノゲンゴロウ .

本種は全国的にも個体数が減少し，環境省のレッドデータカテゴリでは，絶滅危惧Ⅱ類（VU) に指定されている．また，兵庫県内では，絶滅危惧Ⅰ類（A ランク）に指定されている（兵庫県版レッドリスト 2022（昆虫類））．近年では，一度は兵庫県但馬地域では絶滅したと考えられていたが、雌成虫 1 個体が兵庫県豊岡市の溜池で発見された（杉浦，2021）．また，2024 年には，兵庫県美方郡新温泉町にて，初めて本種の生息が確認された（泉山，2024）．

今回発見された場所は，これまで筆者が定期的に水生生物の調査を実施している水域である．2024 年 10 月 12 日および 11 月 10 日に調査を実施していたが，その際は発見されなかった．コガタノゲンゴロウは飛翔性向が強く，分散距離も数㎞と推定されており（國本，2005；國本，2006），近隣の個体が飛翔してきた可能性がある．

○引用文献

泉山真寛，2024．美方郡新温泉町でコガタノゲンゴロウを初記録．きべりはむし，47（2）：69．

國本洸紀，2005．コガタノゲンゴロウの生態 (その 1)- 越冬場所と繁殖地 -．ゆらぎあ，23：1-7.

國本洸紀，2006．コガタノゲンゴロウの生態 (その 2)- 繁殖地と越冬地間の移動 -．ゆらぎあ，24：1-6.

杉浦真治，2021．兵庫県北部におけるコガタノゲン

ゴロウの再発見．ホシザキグリーン財団研究報告，24：95-96.
兵庫県版レッドリスト 2022（昆虫類）． https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/jp/environment/leg_240/leg_289/2022，（最終閲覧：2025 年 3 月）．

（Masahiro IZUMIYAMA　兵庫県養父市）

兵庫県丹波篠山市でカノコマルハキバガを撮影

宇野宏樹

カノコマルハキバガ *Callimodes zelleri* (Christoph, 1882) は国内では本州・四国・九州に分布することが知られているマルハキバガの 1 種である（広渡ほか，2013）．兵庫県における本種の記録は，宝塚市（シニア自然大学校，2019）と相生市（髙橋，2023）の計 2 例が知られている（宇野ほか，2024）．筆者は，記録がないと思われる丹波篠山市で本種を撮影したので，報告しておきたい．

1ex.（図・撮影のみ）, 兵庫県丹波篠山市草野付近 . 5. V. 2025. 筆者撮影 .

植物体についていた個体を撮影した．やや見苦しい写真であるが，撮影した写真を図に示しておきたい．

○引用文献

広渡俊哉・那須義次・坂巻祥孝・岸田泰則（編），2013. 日本産蛾類標準図鑑 III, 360pp. 学研教育出版. 東京.
シニア自然大学校，2019．武田尾（宝塚市・西宮市）の昆虫相調査目録（2019 年 1 月～ 12 月 ）．http://www.shizen-daigaku.jp/web_users/musi2020/2019takedao.pdf（2025 年 5 月閲覧）．
髙橋弘樹，2023．相生市「羅漢の里」公園で確認された蛾類の記録（2）- 相生市三濃山麓の蛾 2020 - 2023 -．きべりはむし，46 (1)：1-12.
宇野宏樹・池田 大・阪上洸多，2024．兵庫県産蛾類分布記録データベース．https://www.konchukan.net/moths/moths_of_hyogo.html（2025 年 5 月閲覧）．

（Hiroki UNO 大阪府池田市）

図 . 兵庫県丹波篠山市で撮影されたカノコマルハキバガ .

[書評（7）]

『カタツムリから見た世界』 トム・ヴァン・ドゥーレン著　西尾義人訳　青土社　297pp.　2024

竹田真木生

遺伝学，進化生物学も色々な紆余曲折をへて近年エピジェネテックスまでをとりこんで，きわめて重要な生物科学の１分野になっている．トムとジュリアンの両ハックスリー，J・B・S ホールデン，ジョン・メイナード＝スミス，ビル･ハミルトンに，最近ではリチャード･ドーキンスとオックスフォード大学の錚々たる綺羅星が多くの貢献をした．それらの名前の間に，EB フォードという名前が見つかる．フォードは Ecological Genetics という古典的な教科書を出した．そこによく取り上げられていた材料が *Cepaea nemoralis* というカタツムリであった．この種は殻口から後ろに回って殻口の上に巻き上がってくる１番下の管に３列の紫色の筋が現れる座があって，縞が発現する上，中，下の筋に対応して 100，010，001 などとバーコードで多型が識別出来る．このバーコードの便利ゆえにこれが遺伝的な解析に使われたのだ．これらのバー以外にも斜めに体全体を黒っぽく染める，黒岩型というパターンもあり，斑紋の多型も見ていて楽しい．従ってアマチュアのコレクターもいるくらいだ．例えば正木進三先生．さて，この本はハワイの陸棲マイマイの絶滅と保全の話であるが，ハワイのような島（すべて火山島）の年代記がたどれる島嶼における種分化の話は，ショウジョウバエやコオロギでもなじみ深い．カタツムリについては種分化について語る前に，ハワイの生息圏そのものの人間活動による攪乱があまりにもものすごい勢いで起こっていて，総崩れになるのをどうやって食い止めるかというフェーズに進んでしまっているところからストーリーは始まる．シイノミマイマイ科 Amastridae については，かつては，325 種！が知られていた．しかし，現在はわずか 23 種まで減っている！しかもこの 325 種というのは記載種の数であり未記載種を含めれば全科で 3000-5100 を超える種が絶滅してしまったと推定されている．現在の大絶滅は，白亜紀末やペルム紀のものも入れて６回目の大絶滅と考えられているが，そのスピードはこれまでのものに比べてはるかに速い．最初のマオイ族の植民を含め様々な人間的開発に加え，軍隊の火器を伴う演習，乾燥化，温暖化，農業活動，天敵ヤマヒタチオビの導入（アフリカマイマイの駆除のためにアメリカ農務省指導下で導入された），病原微生物，道路，ジャクソン・カメレオンなど様々な攪乱要因が一気に襲い掛かっている．何か，沖縄の状況を思い起こさせもする．しかし，皮肉なことにハワイはアメリカ国内法が適用されるので，種の多様性保護について「何これは軍が守る」という法的拘束があるが，沖縄では地位協定というものがあって何をやってもよいし，調べられない．米軍様はハワイと沖縄で２重基準を適用するのだ．かわいそうな沖縄のカタツムリは誰が守ってくれるのだろうか？

ハワイの場合，彼らを保護しようとして活動しているのは州政府や連邦政府の支援のもと SEPP（カタツムリ絶滅防止委員会），ハワイ大学，ビショップ博物館を中心に，シェルと軟体部，DNA サンプル（粘液だけでよい），生体サンプルを採集し保全する（トリアージ分類学と呼ばれ，絶滅ランクを考慮してサンプリング・処理を進める）．生態系そのものを保全するために囲い込み（enclosure ではなくて exclosure）という形で捕食者･感染生物のみを排除する）が作られた．電気バリアーを備えた施設が１２施設作られ，さらに４施設が計画中である．隔離を一段進めて Lab とよばれる実験室へ収納するかどうかは状況によって判断される．石灯籠に残る外殻だけをみても佐用の昆虫館周辺も他の地区と比べはるかに高い多様性があるが，乃至はあったが，標本収集管理もされていないのと比べはるかに先に進んでいる．SEPP のプロジェクトは，タイミング的には確かに応急手当的ではあるが，多くの関心を集めたものになっているし，生物的な文献だけではなくマオリの神話や，民謡，いわゆるナラティブ＝「物語」の再構築の進展もあわせ，非常に有用な蓄積を成し遂げつつある．習って日本政府も陸棲貝の保全をすぐにスタートすべきだ．水俣病被害者のヒアリング中にマイクを強制終了にしたり環境省は不可解な行動をとっているが．

（Makio TAKEDA　ムシの恵み社）

[書評（8）]

『寿命遺伝子：なぜ老いるのか 何が長寿を導くのか (ブルーバックス)』 森望著　講談社　270pp.　2021

竹田真木生

我々が生きているのは３次元の物理空間で，時間軸にそって４次元の世界に存在し続ける．世界の認識も３次元世界が太陽系の成立からどのような変化をたどって来たかというかたちで再構築される．しかし時間軸の変化は視覚的認識が難しい．それゆえ，学問的な歴史も遅れてスタートした．1960 年にニューヨーク郊外のコールドスプリングハーバーの研究所で行われたシンポジウムから 57 年たって 2017 年にようやく３人の研究者がショウジョウバエの時間を刻む機構（概日振動）の解明でノーベル賞を受けた．この機構は，シアノバクテリウム（藍藻類）以外，調べられたすべての分類群で，共通の遺伝子と，保存されたその挙動で，生物が地球で生存

する様式に共通の制禦機構の存在を示唆した．さらに，いろいろな機能がこの時計の制御化にあることが分かってきた．

そこで，今回のトピックは寿命である．細胞系譜は，受精卵の形成から始まる．受精に引き続き，細胞はいわゆる細胞周期と呼ばれる DNA の倍加，休止期，細胞分裂，休止期をへて再び DNA の倍加に戻るが，そのサイクルの間に，細胞は何になるかというコミットメントを行う．この過程が分化である．そうして様々な器官が構築され (gustrulation)，それらは連携して様々な生理機能を担っていく．一度分化したものはもう元に戻らない．と思われていた．それを突き崩したのが山中伸弥さんで，分化の主体は初期化される能力を保持していることが分かった．細胞周期は暴走しないように制御されるが，この機構が突破されると癌がおこる．癌の制御のために細胞周期の研究が重要視された．一方，細胞は皿の上で増殖したり分化したりすることが出来る．しかし培養細胞は少なくとも一定回数を皿上で分裂を繰り返すともうそれ以上分裂することが出来なくなる．これを，見つけた研究者の名前をとってヘイフリック限界と呼ぶ．細胞の寿命はこのようにして研究されうる．一方こうして皿の上で培養した細胞を使って，一つの大事な発見があった．DNA は増殖するたびに短い RNA を頭に張り付けてそれを伸ばすが，そのたびに染色体の端（テロメアという）が短縮されてしまう．つまり，テロメアは分裂すればするほど短くなってしまう．個体の究極寿命はヒトでは現在１２０歳くらいと予想されるが，これが何によって決まっているかがこの本の主題である．特にここで関心されているのは，どのような生活をすればこの寿命の延長につながるかという点である．ヒトのゲノムが解明されたのでこのような生活と表現型（＝寿命）の関連性を解明する用意は整った．遺伝学では，表現型の変異から特別な遺伝子の関与を見つけるフォワード・ジェネティックスと呼ばれる伝統的なアプローチの他，遺伝子配列の積み重ねから特定の遺伝子の欠損をおこし表現型を明らかにするリバース・ジェネティックスというアプローチが可能になった．それから配列情報が蓄積してくると，配列だけで，関連遺伝子の予測を立てる，in silico クローニングというやり方が普通にできるようになって，分類群の境界を越えた予想が容易にできるようになった．はじめに，インスリン様増殖因子 IGF の関与が，線虫 C.elegans のダウアー幼虫の誘導から出てきた．この線虫は低栄養，高温，過密などにさらされると 3 齢幼虫でダウアー幼虫という休眠幼虫のようなものに脱皮する．コナダニではヒポプスと呼ばれる縮んだような個体が現れる．このような表現型の可塑性を促進するのが daf2 と daf16 の変異で，daf2 は IGF2 のオーソログ，daf16 は FOXO1 という転写因子であった．Daf2 をノックアウトすると線虫の寿命は大幅に長くなる．FOXO1 を通じて標的遺伝子の発現が変えられる．これに対応する系が，ネズミでも人でも，ハエでも見つかった．IGF および IGF 受容体（IGFR）は，線虫を加え 4 つの実験系で等しく関与が認められた．

活性酸素が，塩基の修飾などで生理機能を妨げる．活性酸素は間違いなく寿命を短くする．ゲノムが読まれた生物で，生理機能の発現にかかわる２つの状態のサンプルから発現レベルを比べることで，その遺伝子の機能が推定できる．これをヒートマップを描くという．例えば子供と老人のそれを比較することで，パーキンソンやアルツハイマーにかかわる因子を捜すことが出来る．このようにして７０歳を境にして高発現する遺伝子が見つかった．これは，レストと呼ばれる．人は７０になると抗酸化機構の発現が急速に高まるが，この転写を制御する転写因子がこれである．これをノックアウトすると老人の神経細胞は酸化ストレス下で細胞死を起こす．

様ざまな周期現象があって，それらに共役する遺伝子がある．例えば，細胞周期と概日振動というように．寿命と概日振動に共役する遺伝子は Clock- 1 がある．ヒトの場合複数のパラログがあり，Clk-1 のみが，寿命にかかわる．昆虫生理学の聖典のように使われる Wigglesworth” The Principle of Insect Physiology” に古い文献ながら，甲虫の１種の中腸上皮は４８時間に一度剥奪されて脱皮後に新しく再生されるという記載を学生の時に見つけて，興奮した記憶があるが，腹時計があって，これは細胞周期を制御している！　Clk- 1 はミトコンドリアの電子伝達系の複合体 II のコエンザイム Q の一種で，ROS（reactive oxygen species）の生成にかかわる．

飽食と飢餓が寿命に拘るというのは，直感的にも分かり易いが，よりドラマチックには占領下のオランダでナチスの行った食糧封鎖によって明らかになった．オランダの医療チームはこの記録を使って，食糧封鎖による健康への影響が次世代，次々世代に引き継がれることを白日の下にさらした．一見ラマルクの要不要説のように見える現象は，リチャード・ゴールドスミットやアート・シャピロによって蝶々の斑紋が，ヒートショックなどにさらされたときに現れる表現型模写（phenocopy）でよく知られていた．ショウジョウバエではこのような刺激を繰り返すとこの表現型は固定される（遺伝的同化）だけでなく，刺激をやめると元の表現型が回復されることがコンラド・ワディントンによって示されていた．その説明に提案されていたエピジェネティック・ランドスケープの考え方は注目されながら放置されていたが，このゴーストが再び引っ張り出された．このような例は発育ステージの離れた現象間の相関など，昆虫にはいくらでも探せる．例えばカイコで言えば，卵の休眠の決定は

親世代のかなり離れた時期になされ，休眠の実行ステージとは隔たった時間的展開を見せるなど，エピジェネティックな介在があるに違いない．さて，栄養学も独自に大変重要な展開を見せてきた．特に TOR（target of rapamycin）を挟むリン酸化系列は，２つのコンプレックス C 1 と C2 で外界条件に生物が対応する，細胞現象のほとんど（細胞増殖，細胞死，タンパク質合成，抗酸化作用，分解，免疫，寿命制御・・・）にかかわることが明らかになってきた．TOR は rapamycin という制癌剤の受容体である．細胞膜にある，あるいは細胞質のセンサー（アミノ酸，AMP, IGFR など）から入力したシグナルは TOR へのリン酸化の経路で上記の出力への動員が起こる．栄養欠乏になると細胞周期をとめてオートファジーが起こされ，それによって（＝自分を食べて）栄養供給はなされる．従ってこの辺の道案内には促進の制御と，抑制の制御が含まれる．マウスではラパマイシンを与えると寿命が 9-14% ほど伸びた．ショウジョウバエで TOR が寿命に関連すると見破ったのは period を見つけたシーモア・ベンザーである．炯眼みたりだ．ベンザ―は TOR の他にもう一つ寿命に拘る遺伝子を見つけている．これは 969 歳まで生きたといわれるユダヤの長老メトセラの名前をもらった．これは GPCR（G- タンパク質共役型受容体）で，その結合を促進するペプチド因子（R8-12）と抑制する因子（スタント）も見つかった．後者は普段はミトコンドリアにある ATP アーゼのサブユニットであるが，何らかの事情でサブユニットを離れメトセラに結合するのであある．

重要な役者で最後に姿を見せたのは，酵母や線虫，ショウジョウバエから出てきた Sir-2 である．これは，Silent information regulator の略でこの遺伝子を欠損すると短命化する．daf やメトセラは，ない又は変異すると長寿化したが，sir は変異すると短命に，増えると長寿化する．Sir はテロメア活性を抑制し，リボゾーマル DNA の組み換えを抑制する作用をする．Sir はマウスでは Sirty と呼ばれる．７つのパラログがあって，まとめて Sir2-related protein(Sertuin) と呼ばれる．こうしてみてみると寿命というものもいろいろな側面があるので，もちろんそれは単一遺伝子で決まることはないし，いろんな環境条件で変わる．重要なのは，ジョージ・ビードルの頃いわれていたような一遺伝子＝１酵素説の様なパラダイムは昔の話で遺伝子の社会学のような形で生物学が積み残してきたような課題が俎上に上るようになってきたということは新しい時代になったものだと思わせる．

（Makio TAKEDA　ムシの恵み社）

[書評（9）]

①『脳は眠りで大進化する（文春新書）』 上田泰己著　文藝春秋　254pp.　2024

②『睡眠の起源（講談社現代新書）』 金谷啓之著　講談社　188pp.　2024

竹田真木生

睡眠というのはヒトの場合はっきり認識することができるが，昆虫も眠る．さて，ヒトの睡眠と昆虫の睡眠を同じ土俵で論じることが出来るのかという問いにはなかなか明確に答えることが出来ない側面もある．そもそも，ヒトですら，何で眠るのか，なぜ睡眠が必要なのかということにもわからないところが多い．ただ，ヒトの場合には脳波が簡単に測定できるという強みがある．波長の頻度から，α波とか，ß波とか，γ波とかに分類される．一方，その時に夢を見ていたか，眼球運動とかはどうかなどとの比較から，徐波睡眠，REM（rapid-eye movement）睡眠，NON-REM 睡眠などが区別される．睡眠は脳の機能だから，色々な動物がいて，大型のものとか小型のもの，恒温動物もいるし変温動物もいる．ナマケモノのように一日中木にぶら下がっているものから，アネハヅルのようにヒマラヤを越えて飛んで行くもの，鯨のように泳ぎ続けるものもいる．このようなものは左右の脳半球が交互に眠る．しかし，簡単な脳もあるといっても脳だから神経細胞の数はゴマンとある．シナプスの数は膨大で，新しくネットワークを作りもするし，死滅もする．遺伝子のオン･オフだけにしてしまうとヒートマップに単純化することは一応できるが，ダイナミックな解析のために著者らは新しい方法を開発した．転写活性は，プロモーターの後ろに蛍光タンパク質などのレポーターを繋ぐと，レポーターの強度で測ることが出来る．これを全脳でやろうとすると，組織を透明化することでそれが可能になる．また，遺伝子機能の解析には組み換えを使えば可能になる．ノーベル賞の技術で CRPR-Cas9 という技術があるが，同時に３つの組み換えを行う方法（トリプル・クリスパー法）を用いた．これらの新技術で，総括的で，迅速な測定が可能になった．

睡眠という現象は，３つの構成的なレベルがある．１つは概日時計につながっている．２つ目は外敵に襲われなくするための感覚的なレベル．３つ目はホメオスタシスを保つため断眠の後に余計眠って睡眠不足を補うことができる．それぞれはプロセス C, E および S と呼ばれている．それぞれのレベルを異なる方法で集約することと，大規模なコンピューターシミュレーションで，原理的な神経細胞の働きを比較的単純化された，例えば４つのカルシウム依存素子を変えていくことで，カルシウムも睡眠の制御機構に大事な関与をすることがわかった．神経は活動するとき細胞内にカルシウムが流入するが細

胞内の濃度が高くなったときに眠気が起こる．このサイクルの中で，シナプスが誘導されたり刈り取られたりするという表裏の関係が明らかになった．このような出来事が夢の誘起にも関係するらしい．カルシウムの動態は，シングルセルでボルテージクランプを行うホジキンとハックスレイの用いたような複雑な電気生理的な測定を行わなくてもカルシウム感受性の色素が利用できるようになってずいぶん簡便になっている．まだまだ具体的な睡眠セラピーは実用的ではないが，ずいぶん一昔に比べれば睡眠については理解が進んだ感じがする．眠りの深さを血糖などの機能と同時測定できる，腕時計型の装置も市販されているようだ．昆虫の脳波なども調べる方法ができれば比較研究が可能になるがまだ少し時間が必要のようだ．

第１と２の書は，同じ研究室のメンバーで，第２の方は第一の方（指導教員）の博士課程の学生である．こちらの方の焦点は脳のないヒドラに眠りがあるかということであるが，ヒドラという動物がどういう代物であるかということを知る期待は，この本ではあまり満たされなかった．生物時計の研究の中から，光や温度などの Zeitgeber によって entrain される振動体以外に栄養条件に強い異存をしめす系が注目を集めている．消化管はヒドラに似て無頭であり，網目状の神経をもつものであるが，進化的には脳より古く，脳に発現する遺伝子を発現する．そこで，ヒドラの６時間断眠させ眠りのピークに発現するｍ RNA をハエのマイクロアレイにハイブリダイズさせたら，212 個の遺伝子候補が認識された．その中には Shaker や Prkg1 などがあった．前者は K+ イオンチャンネルである．K+ イオンチャンネルといえば有名な遮断薬 TEA があるから，薬理学的なテストをしてほしかった．面白い事象というと，断眠させると頭が沢山出現する．

（Makio TAKEDA　ムシの恵み社）

[新刊・既刊紹介]

『環境動物昆虫学のすゝめ―生物多様性保全の科学』
石井実ら編著　大阪公立大学出版会　2025
『応用昆虫学の基礎』　後藤哲雄・上遠野富士夫編著
農山漁村文化協会　2019

前藤 薫

昆虫学は楽しくて面白い学問だが，実社会との関わり合いも深い．本稿では昆虫学の守備範囲の広さと社会的な重要性について分かりやすく紹介した２冊を，とくに虫好きの少年少女にすすめたい．

一冊目は出版されたばかりの新刊である．「環境動物昆虫学」はまだ新しい学問領域なのであまり聞きなれないが，「昆虫を主な対象とする生物多様性保全の科学」であり，「自然と共生する社会の実現を指向する学問」なのだと編者らは宣言している．本書はその実践的な入門書である．

序章「環境動物昆虫学がめざすもの」では，この学問が必要とされることになった社会的背景，生態系における昆虫の役割や人間生活との関わり，日本の生物多様性がおかれている危機，保全研究の目的や進め方が，くわしく説明されている．

第１章「地域の生物群集を調べる」では，生物多様性保全の基盤となる地域レベルの調査・研究について，水田生物の多様性を調べるための新技術や“三草山ゼフィルスの森”における長期継続観察など，具体的な事例が紹介されている．コウノトリの復活に伴って希少種アカマダラハナムグリが再発見された経緯も興味ぶかい．

第２章「生物の生活史戦略を調べる」では，希少な昆虫や両生類の生活史や種間関係を明らかにするための多地点調査や野外・室内実験の重要性が説かれている．

第３章「昆虫類の多様性を調べる」を読むと，森林の微生物と密やかな関係をもつ甲虫類や原始的な小蛾類，熱帯のカメムシ類など，多くの昆虫が知られることなく絶滅へと追い込まれようとしていることが分かる．

第４章「分子情報を利用した解析」では，希少種の同定や集団構造の解明に DNA 分析を応用した研究成果が紹介されている．例えば，メダカ類はペットとして流通しているため野生集団の遺伝子攪乱（汚染）が進みつつあるが，農業用のため池や水田では在来の遺伝子型が比較的よく保存されていることが分かり，農地生態系を保全する重要性が再確認できる．

第５章「人間社会との関係を考える」には，人間の活動と昆虫を含む自然環境との関わり合いあるいは緊張関係が鮮やかに描かれる．例えば，ニホンジカの増加と農林業被害について現状をくわしく紹介したうえで，その増加がギフチョウをはじめとするチョウ類の衰退にも深く関わっていることを市民参加による長期調査にもとづいて明らかにしている．そして北米からは，オオカバマダラの生態調査と保護活動が市民科学者とボランティアによって支えられている様子が紹介されている．

本書の執筆者 28 名の多くは，大阪公立大学（旧大阪府立大学）の昆虫学研究室の卒業生であり，自然史・環境系の博物館や専門会社，NPO，教育機関等で活躍されていることを書き添えたい．

もう一冊は，栽培植物の保護を主な目的とする昆虫学の入門書である．「応用昆虫学」の教科書には堅苦しくて解説者がいないと取つきにくいものが多いが，本書は文章が平易なばかりでなく，カラー写真やイラストがふんだんに配されていて初心者にも読みやすい．

昆虫・ダニ・線虫の形態・分類から始めて，生理・生態・遺伝様式等をひととおり説明したうえで，実際の害虫防除について具体的に解説している．ひとくちに殺虫剤と言っても作用の仕方は多種多様であること，それらの安全性はどのように確かめられているのか，そして防除の現場で大問題となる薬剤抵抗性の出現を防ぐために天敵生物や性フェロモン，光，音などを利用した新しい防除法が次々と開発されていることなどが詳らかにされる．

技術的な解説にとどまらず，農業害虫の発生を予測する「予察事業」や外来害虫の侵入・分布拡大を防ぐための「植物検疫」など，栽培植物を守るために働く人々の現場について紹介されているのも本書の特色である．

また，害虫防除だけでなく，昆虫の仕組みを製品開発に応用する昆虫ミメティクス，昆虫食の歴史と将来性，植物栽培の現場で普及しつつある受粉昆虫の利用など，昆虫機能の活用についても先端の知見が盛り込まれている．とくにミツバチ類とマルハナバチ類の生態と利用，導入種の野生化の問題について詳しい．

いずれも大学生を主な読者として想定しているが，虫好きな高校生であれば，どちらも楽しく読み進めることができるだろう．ただ難点は，充実した内容と贅沢なカラー図版を考えれば無理もないのだが，いずれも定価５千円程度とかなり高価なことである．プロの虫屋を意識し始めた若者が手軽に手にとれるように，博物館や昆虫館，高校の図書室に置かれていればよいと思う．

（Kaoru MAETO　兵庫県宝塚市）

きべりはむし 投稿案内

1. 内容

「きべりはむし」は，老若男女を問わず，昆虫に関心のある読者を対象とし，兵庫県ならびに地域の昆虫相，昆虫の採集・観察・飼育の記録や方法，昆虫学の解説，昆虫を題材とした教育や地域づくりに関する記録や方法などの，未発表の報文を掲載します．

2. 編集・発行

「きべりはむし」は，兵庫昆虫同好会の機関誌ではなく，独立した雑誌とし，「きべりはむし編集委員会」が編集し，「NPO 法人こどもとむしの会」が発行します．巻号は，兵庫昆虫同好会発行の「きべりはむし」の継続とします．

3. 著作権

掲載報文の著作権は，「NPO 法人こどもとむしの会」に帰属するものとします．

4. 体裁・媒体

本誌の判型は A4 判とし，横書き 2 段組とします．本誌は，Adobe PDF 形式による電子ファイルとして出版し，データは「NPO 法人こどもとむしの会」の web サイト (http://www.konchukan.net/kiberihamushi) からダウンロードできるものとします．また，紙媒体による印刷物を別途製作し，希望者に時価で頒布します．

5. 投稿者

「きべりはむし」には，NPO 法人こどもとむしの会正会員および賛助会員，学生（小学生、中学生、高校生、大学生および大学院生）ならびにきべりはむし会員のいずれかが著者に含まれる原稿を投稿することが出来ます．なお，きべりはむし会員が 1 年間に投稿できるのは，報文 2 報・短報 2 報までとなります．

6. 原稿提出時のお願い

原稿は，原則としてデジタルデータでお願いします．以下を参考に，文字部分と，図や表の部分は別々のファイルとして提出ください．従来通りの紙原稿でも受付しますので，ふるって投稿ください．

1) 文字部分

図表以外の部分と図表のキャプションは，1 つのファイルとして，リッチテキスト形式 (.rtf) もしくは MS ワード形式 (.docx) で保存してください．ゴシック体，イタリック体などの書体も指定ください．原稿は，一般に，表題，著者，要旨，本文，謝辞，文献で構成します．本文が数ページに及ぶ報文の場合は，本文の前に 400 字以内程度の要旨をつけることも可能です．文献，ホームページの引用は，一般的な学術雑誌の例にならってください．

2) 図表

それぞれの図表ごとに別々のファイルとして作成し，.jpeg，.psd，.pdf などの形式で保存してください．また画像データにつきましては可能な限り，高解像度での保存をお願いします．図表の幅は，1 段または 2 段分となります．原則として，単純な拡大縮小以外は行わず，そのまま印刷に供しますので，図表中の文字サイズは，刷り上がりの大きさを考えて適切に設定してください．また，写真のトリミングは，適切にトリミングしたものを提出してください．著者以外が作成した地図や，人物が写っている写真を用いる場合は，事前に，著作権者や本人の承諾を得ておいてください．

3) 引用文献

文献を引用する場合、雑誌や単行本は「著者名 (年号)」または「(著者名 , 年号)」、ウェブサイトは「サイト作成者名（年号)」、「(サイト作成者名 , 年号)」または「(ウェブサイト名)」と、本文の引用箇所に書き、文末に引用文献をまとめて記載してください。引用文献の記載方法は、以下の例を参考にしてください。

・雑誌を引用する場合

（例 1） 福岡誠行・黒崎史平・高橋晃 , 2000. 兵庫県産維管束植物 2. 人と自然 , 11: 85 - 104.

（例 2） 石原誠一 , 1959a. トビイロスズメの生活史（I）. 新昆虫 , 12 (2)：36 - 39.

（例 3） 石原誠一 , 1959b. トビイロスズメの生活史（II）. 新昆虫 , 12 (7&8)：37 - 39.

（例 4） Hardy, D. E., and M. Takahashi. 1960. Revision of the Japanese Bibionidae (Diptera, Namatocera). Pacific Insects, 2(4): 383-449.

・単行本を引用する場合

（例 5） 安永智秀・高井幹夫・中谷至伸 , 2001. 日本原色カメムシ図鑑－陸生カメムシ類 Terrestrial Heteropterans －第 2 巻（安永智秀・高井幹夫・川澤哲夫　編）. 全国農村教育協会 , 東京 .　350pp.

・ウェブサイトを引用する場合

（例 6） 神戸市 , 2015. 神戸の希少な野生動植物 －神戸版レッドデータ 2015 － , (http://www.city.kobe.lg.jp/life/recycle/biodiversity/rd/img/rdb2015.pdf).

（例 7） Web 東奥（東奥日報）, 2020 年 8 月 25 日 , 青森県初確認？ 深浦町にアカギカメムシ , https://www.toonippo.co.jp/articles/-/399599（参照 2020 年 11 月 26 日）.

7. 原稿送付先

きべりはむし編集委員会　kiberihamushi@konchukan.net

8. 原稿の修正，採否等

編集委員会は，内容や文言の修正を著者に求めることがあります．また趣旨に合わない原稿は掲載をお断りすることがあります.

9. 投稿者，原稿内容に関する問い合わせ

個人情報保護の観点から，投稿者個人の連絡先は明記しておりません．お問い合わせ等につきましては

きべりはむし編集委員会メールアドレス　kiberihamushi@konchukan.net　までお願いいたします.

10.ISSN について

きべりはむしは第 32 巻第 2 号からオンラインジャーナルの PDF 版が正式版となりました．これに伴い，ISSN(国際標準逐次刊行物番号 :International Standard Serial Number) を取得しました．ISSN とは，雑誌などの逐次刊行物の情報を識別するための国際的なコード番号です.

・参考 web サイト

ISSN 日本センター：http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/issn.html

きべりはむし　第 48 巻　第 1 号

2025 年 6 月 25 日　発行

編　集　　きべりはむし編集委員会

発　行　　NPO 法人こどもとむしの会

事務局　　NPO 法人こどもとむしの会
　　きべりはむし編集委員会　kiberihamushi@konchukan.net

きべりはむし web サイト：http://www.konchukan.net/kiberihamushi/index.html

きべりはむし　第48巻　第1号　目次

【報　文】

【短　報】

【書評】